

# 恵那市地域福祉・人権に関する アンケート調査

【調査結果報告書】

令和4年3月

恵 那 市

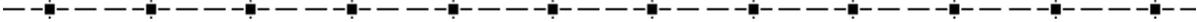


## 目 次

I	調査の概要 .....	1
1	調査の目的.....	2
2	調査の種類.....	2
3	調査設計・回収結果 .....	3
4	報告書の見方 .....	3
II	地域福祉に関する調査の結果.....	5
1	回答者について.....	6
2	地域との関わりについて .....	11
3	地域の福祉について .....	32
4	ボランティア活動について .....	58
5	社会福祉協議会、福祉(協力)委員について .....	71
6	福祉のまちづくりについて .....	81
7	災害時について.....	93
8	生活困窮について .....	99
9	再犯防止について .....	105
10	新型コロナウイルス感染症について.....	107
11	高齢者の就労について .....	109
12	恵那市の地域福祉の評価・検証について .....	113
III	自由意見〔地域福祉〕 .....	131
IV	人権施策に関する調査の結果.....	142
V	自由意見〔人権施策〕 .....	186



# I 調査の概要



# 1 調査の目的

---

恵那市では、平成30年度から5年間を計画期間とする「第3次恵那市地域福祉計画」を策定し、住民自治のまちづくりを推進し、住み慣れた地域で安心して自立した生活が送れるよう、地域課題の解決に取り組んできました。ついで、計画の期間満了に伴い、市民の皆様が地域福祉に関する意識や地域活動の現状などを把握し、計画全体の評価、並びに次期計画策定の基礎資料としました。

また、同時期において「第3次恵那市人権施策推進指針」を策定し、人権教育・啓発に関する総合的な施策の推進を図ってきました。人権は誰しもが生まれながらにして持っている“人が人として幸せに生きるための権利”であり、その重要性や市民の理解について把握するため、地域福祉と合わせて市民を対象にアンケート調査を実施いたしました。

# 2 調査の種類

---

「第4次恵那市地域福祉計画」並びに「第4次恵那市人権施策推進指針」の基礎調査として、調査票をまとめ実施しました。

## (1) 地域福祉に関するアンケート

地域福祉に関する活動の状況やボランティア活動への意向、災害時対策など、本市を取り巻く地域福祉の状況や取り組みの評価・検証を行うことを目的としています。

## (2) 人権に関するアンケート

女性、子ども、高齢者、障がい者などの人権に関する問題について、市民の理解や認識のほか、必要な対策などを把握することを目的としています。

## 3 調査設計・回収結果

調査客体	市内 18 歳以上の一般市民より無作為抽出
調査票の配布・回収	郵送配布、郵送回収、または WEB 回答・回収
調査基準日	令和 3 年 12 月 1 日
調査期間	令和 3 年 12 月 13 日～12 月 26 日

配布数 (A)	2,000 件
回収件数 (B)	760 件 (郵送回収 646 件、WEB 回収 114 件)
回収率 (B/A)	38.0%
有効回答件数 (C)	760 件
有効回答率 (C/A)	38.0%

## 4 報告書の見方

### ●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果とクロス集計結果を記載しています。

### ●「n」について

グラフや表中の「n」とは、number of cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表しています。したがって、各選択肢の％に「n」を乗じることで、その選択肢の回答者数が算出できます。

### ●「％」について

グラフ中の「％」は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、単数回答（1 つだけに○）の設問であっても、合計が 100.0％にならない場合があります。

また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。そのため、合計が 100.0％となりません。

### ●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。

なお、過去の調査結果の選択肢は、今回の令和 3 年度調査と多少異なる表現がありますが、内容に大差がなければ令和 3 年度調査の表現を用いています。内容に違いがある場合等のみ、※印により注釈を加えています。

●「不明・無回答」について

図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

●クロス集計について

クロス集計結果の表側において、性別等基本属性の不明・無回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数(n)の合計と全体の回答者総数は合致しません。

また、「不明・無回答」を除き、回答割合の高い項目の**第1位**と**第2位**に網掛けをしていますが、第1位が複数の場合、第2位の網掛けは省略しています。

●結果の読取文について

集計対象者総数(n)が10未満の場合は順位づけを省略し、読取文の対象外としています。

また、クロス集計や経年比較については、明確な変化(10ポイント程度を超える差)がみられる場合や経年増減が明確な場合のみ、読取文の対象としています。

●経年比較分析について

本調査の調査対象者は、令和4年4月1日における民法の成年年齢の引き下げを見越し、調査基準日において18歳以上の方を対象としました。

本調査結果において、今回の全体結果は「**R3調査**」と表記しており、経年比較分析において使用した報告書の概要は、次のとおりです。

本報告書中の表記	調査概要			
H24 調査	恵那市民の地域福祉及び人権に関するアンケート調査報告書 (平成25年3月、恵那市)			
	対象者	配布数	有効回収数	回収率
	20歳以上市民	2,000件	772件	38.6%
H28 調査	恵那市民の地域福祉及び人権に関するアンケート調査報告書 (平成29年3月、恵那市)			
	対象者	配布数	有効回収数	回収率
	20歳以上市民	2,000件	1,040件	52.0%

## Ⅱ 地域福祉に関する調査の結果

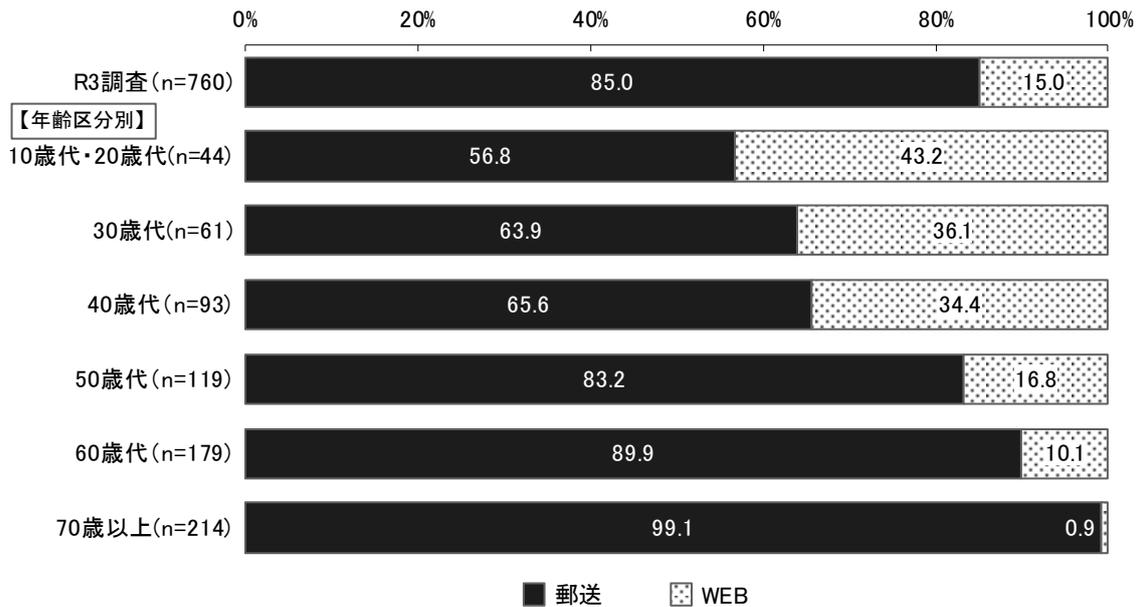
---

# 1 回答者について

## (1) 回答方法

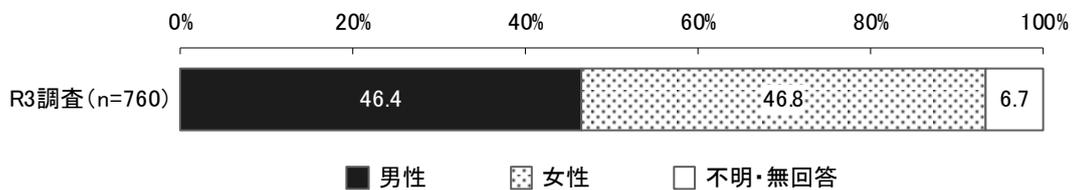
回答方法は、「郵送」が85.0%、「WEB」が15.0%となっています。

年齢区分別では、40歳代以下で「WEB」回答が3割を超えて高くなっているものの、50歳代以上においても一定数みられます。



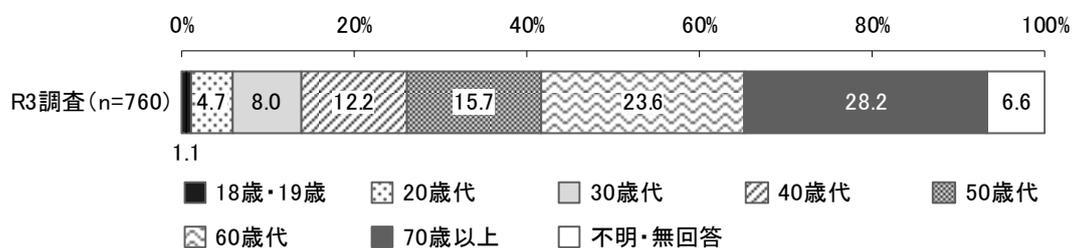
## (2) 性別 (単数回答)

性別は、「男性」が46.4%、「女性」が46.8%となっています。

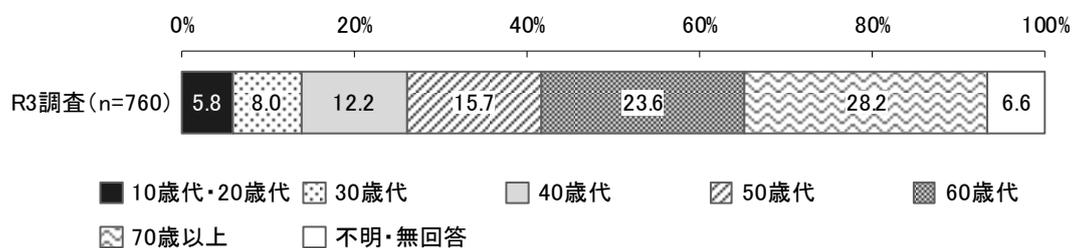


### (3) 年齢（令和3年12月1日現在）（数量回答）

年齢は、「70歳以上」が28.2%と最も高く、次いで「60歳代」が23.6%となっています。

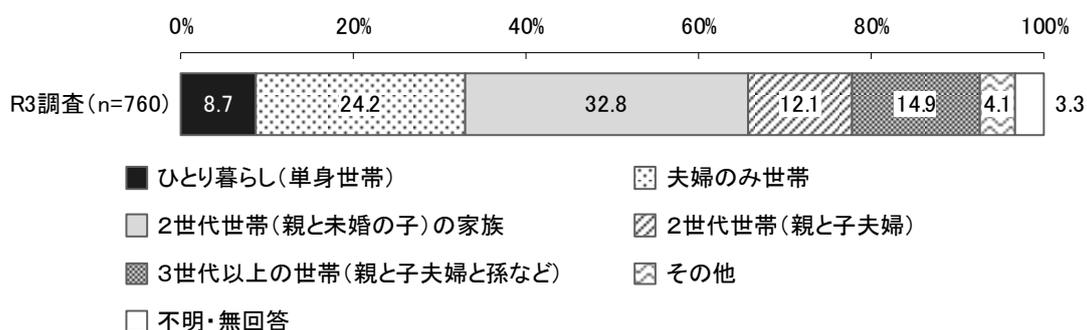


#### 参考



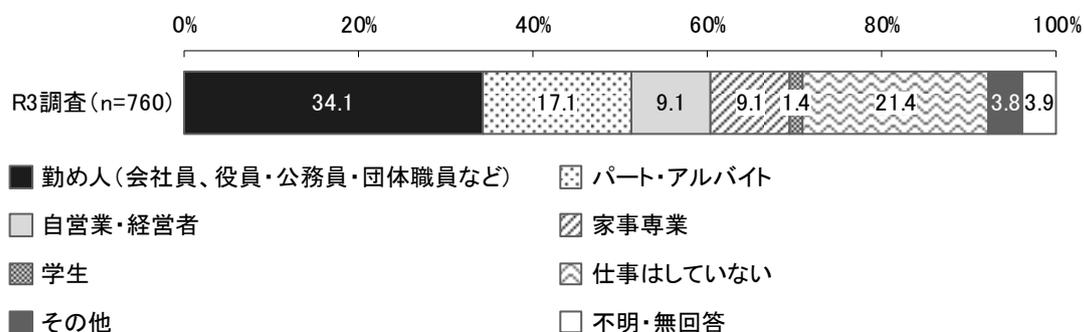
### (4) 家族構成（単数回答）

世帯は、「2世代世帯（親と未婚の子）の家族」が32.8%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」が24.2%となっています。



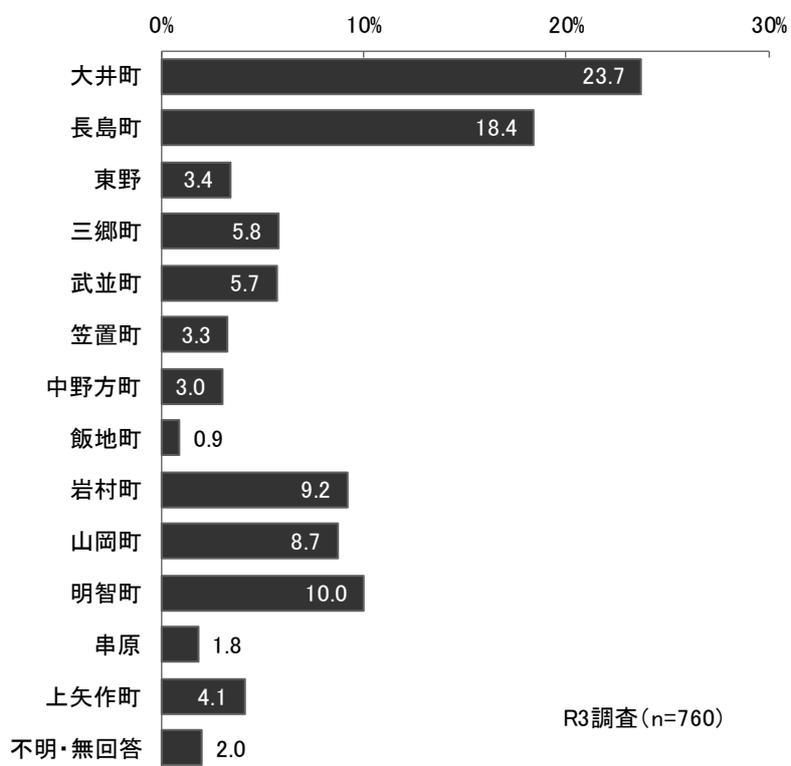
### (5) 職業 (単数回答)

職業は、「勤め人(会社員、役員・公務員・団体職員など)」が34.1%と最も高く、次いで「仕事はしていない」が21.4%となっています。



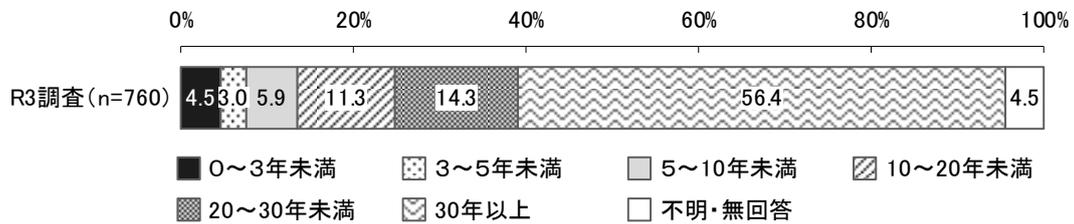
### (6) 居住地区 (単数回答)

居住地区は、「大井町」が23.7%と最も高く、次いで「長島町」が18.4%となっています。

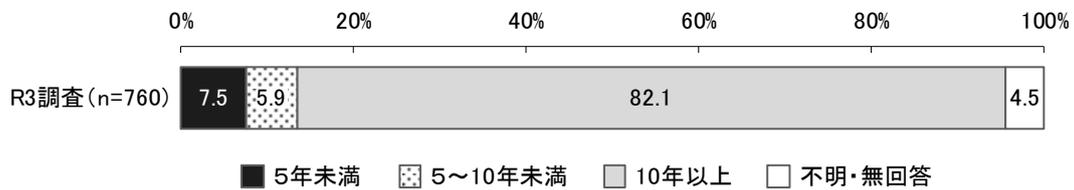


### (7) 居住年数 (単数回答)

居住年数は、「30年以上」が56.4%と最も高く、次いで「20～30年未満」が14.3%となっており、「10年以上」の居住者が82.1%となっています。



参考

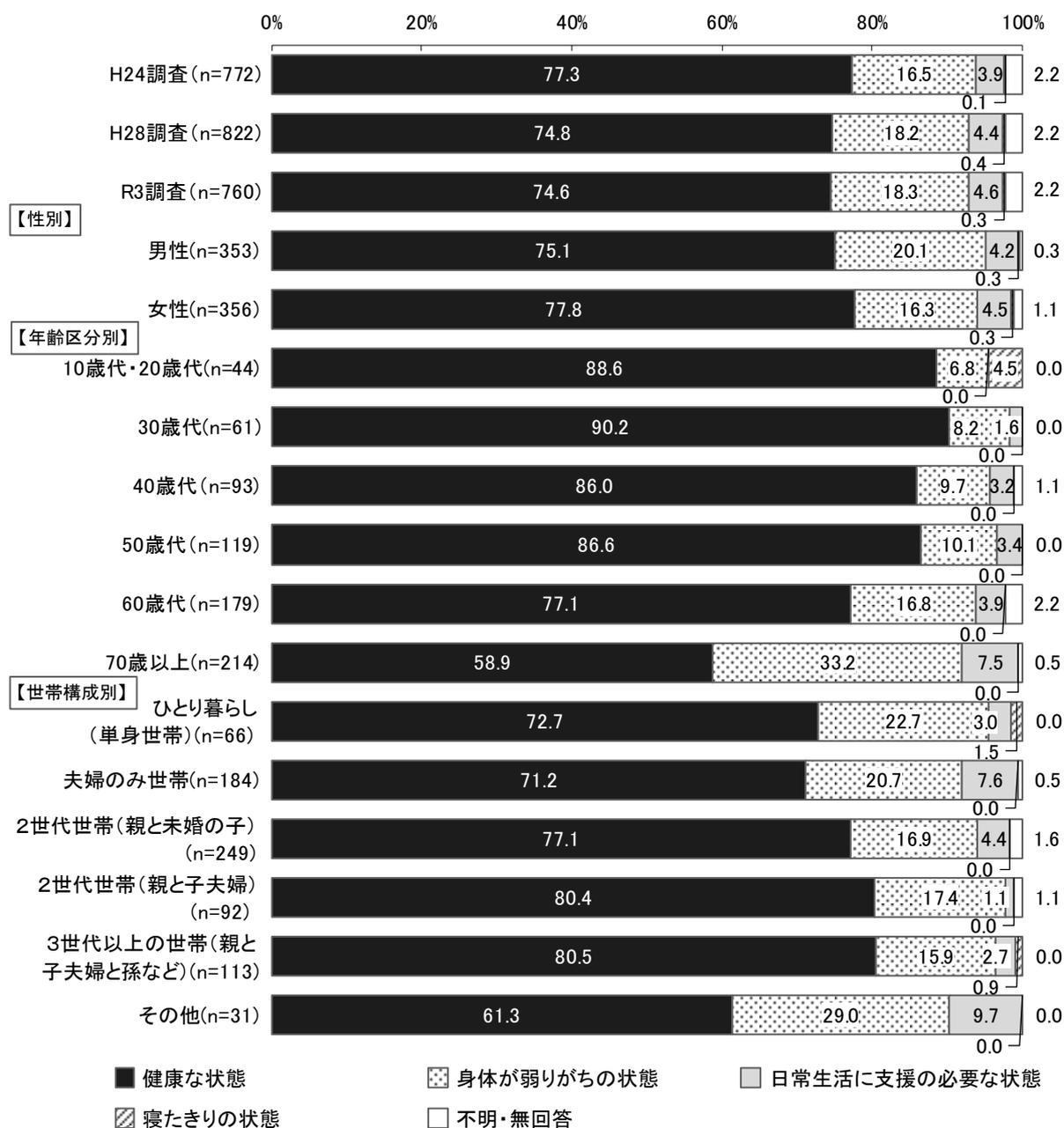


## 問1 あなたのお身体の状態はいかがですか。(単数回答)

身体の状態は、R3調査で「健康な状態」が74.6%と最も高くなっています。

年齢区分別では、70歳以上で「身体が弱りがちの状態」が33.2%となっており、年齢が上がるにつれて「健康な状態」が低くなる傾向にあります。

世帯構成別では、2世代世帯以上の多世代世帯で「健康な状態」が8割前後と、他の世帯と比べて高くなっています。



## 2 地域との関わりについて

---

### 問2 日頃、近所の人とどの程度おつきあいをしていますか。(単数回答)

---

日頃の近所とおつきあいの程度は、R3 調査で「外で会うと立ち話をする程度」が 37.2%と最も高く、次いで「あいさつをする程度」が 26.8%となっています。経年比較すると、「お互いに困ったときに助け合える程度」「互いに家に行き来して話をする程度」がいずれも減少傾向となっています。

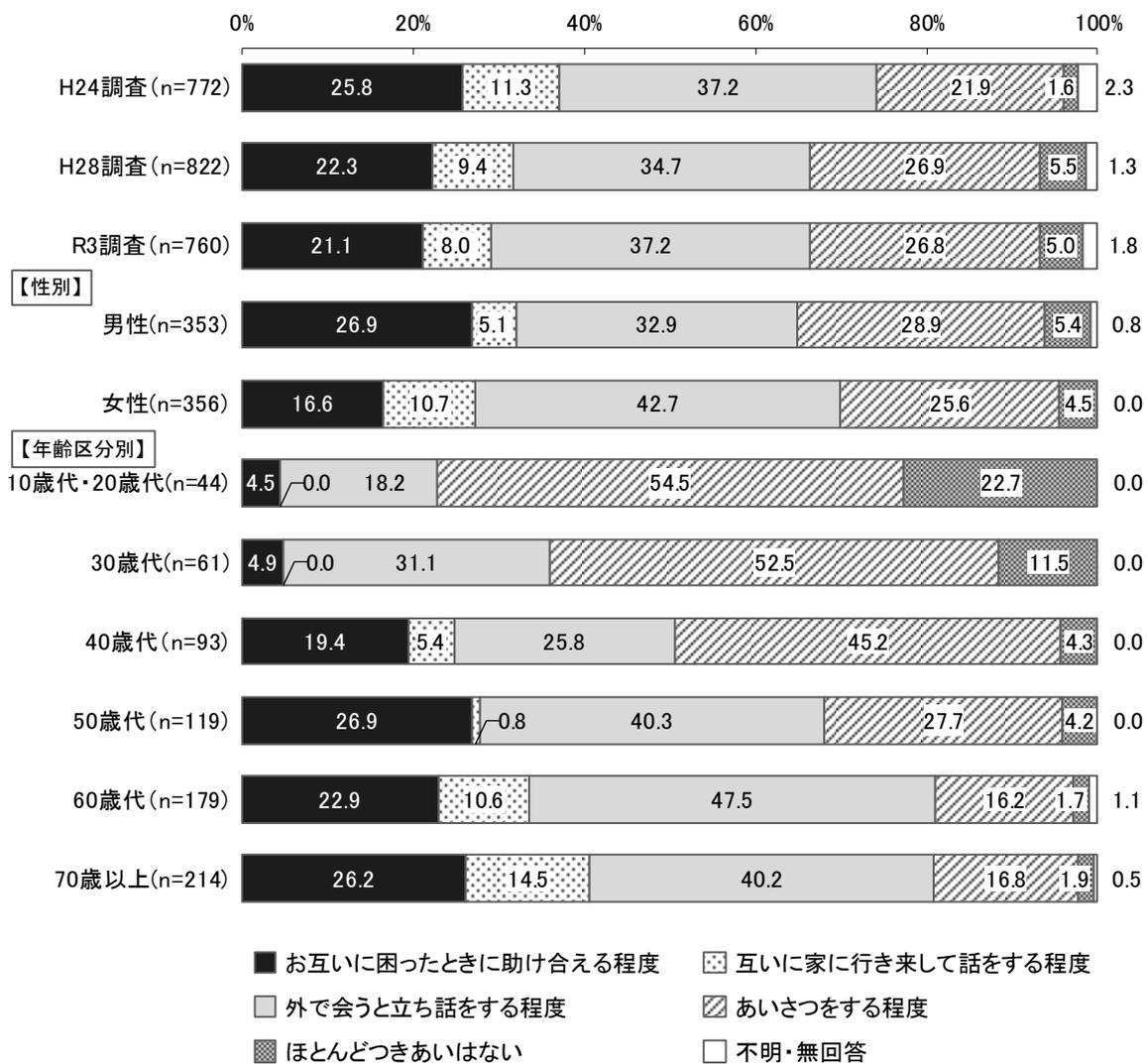
性別では、男性で「お互いに困ったときに助け合える程度」が 10.3 ポイント、女性で「外で会うと立ち話をする程度」が 9.8 ポイント、それぞれ高くなっています。

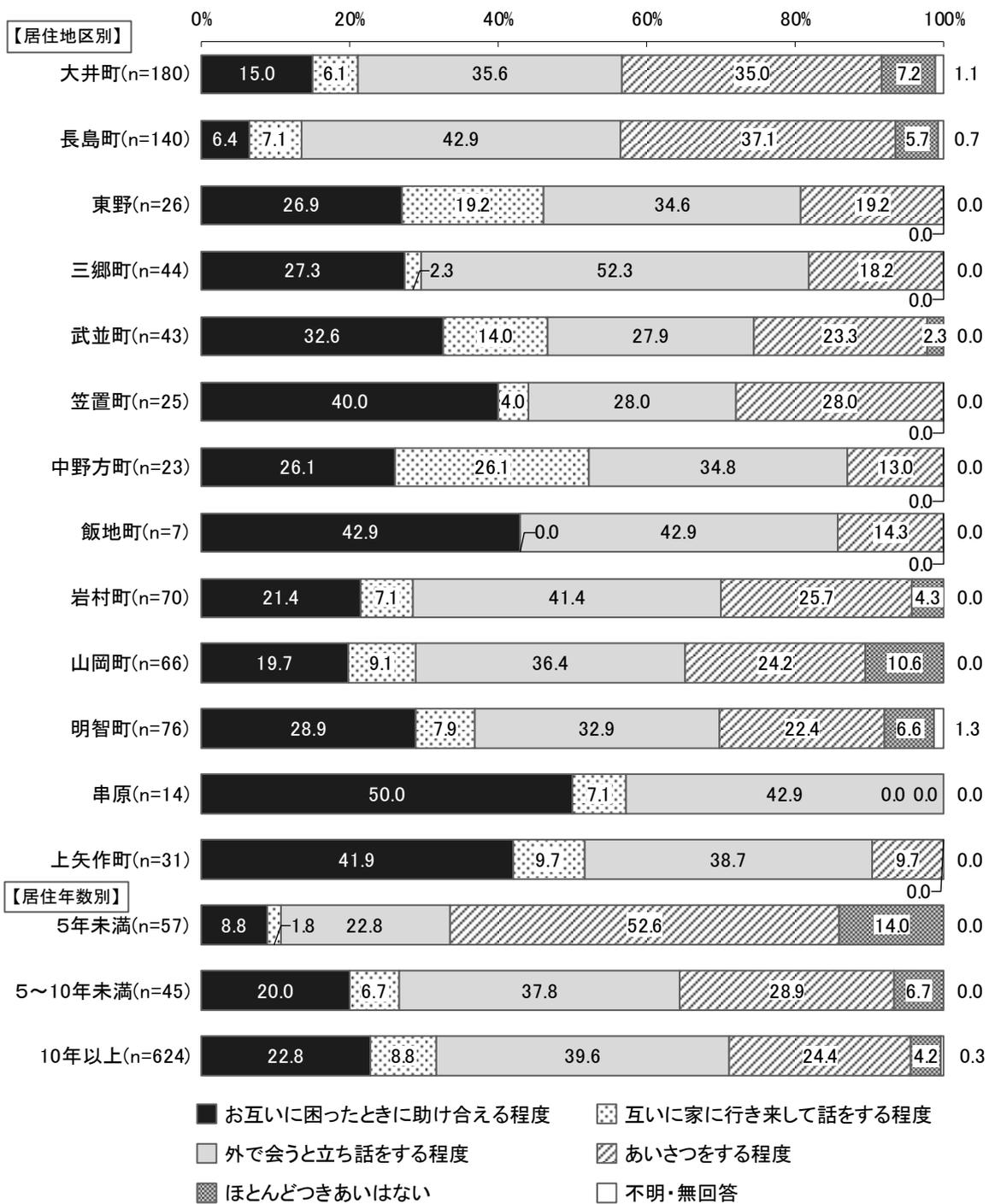
年齢区分別では、50 歳代以上で「お互いに困ったときに助け合える程度」が 25%前後と、他の年代と比べて高くなっています。なお、10 歳代・20 歳代で「ほとんどつきあいはない」が 22.7%と高くなっています。

居住地区別では、笠置町、串原及び上矢作町で「お互いに困ったときに助け合える程度」が 4 割以上と、他の居住地区と比べて高くなっています。なお、大井町、山岡町及び明智町で「ほとんどつきあいはない」がそれぞれ約 1 割となっています。

居住年数別では、5 年未満では「あいさつをする程度」「ほとんどつきあいはない」の割合が高いものの、5 年以上で「お互いに困ったときに助け合える程度」「互いに家に行き来して話をする程度」の割合が高くなっています。

---



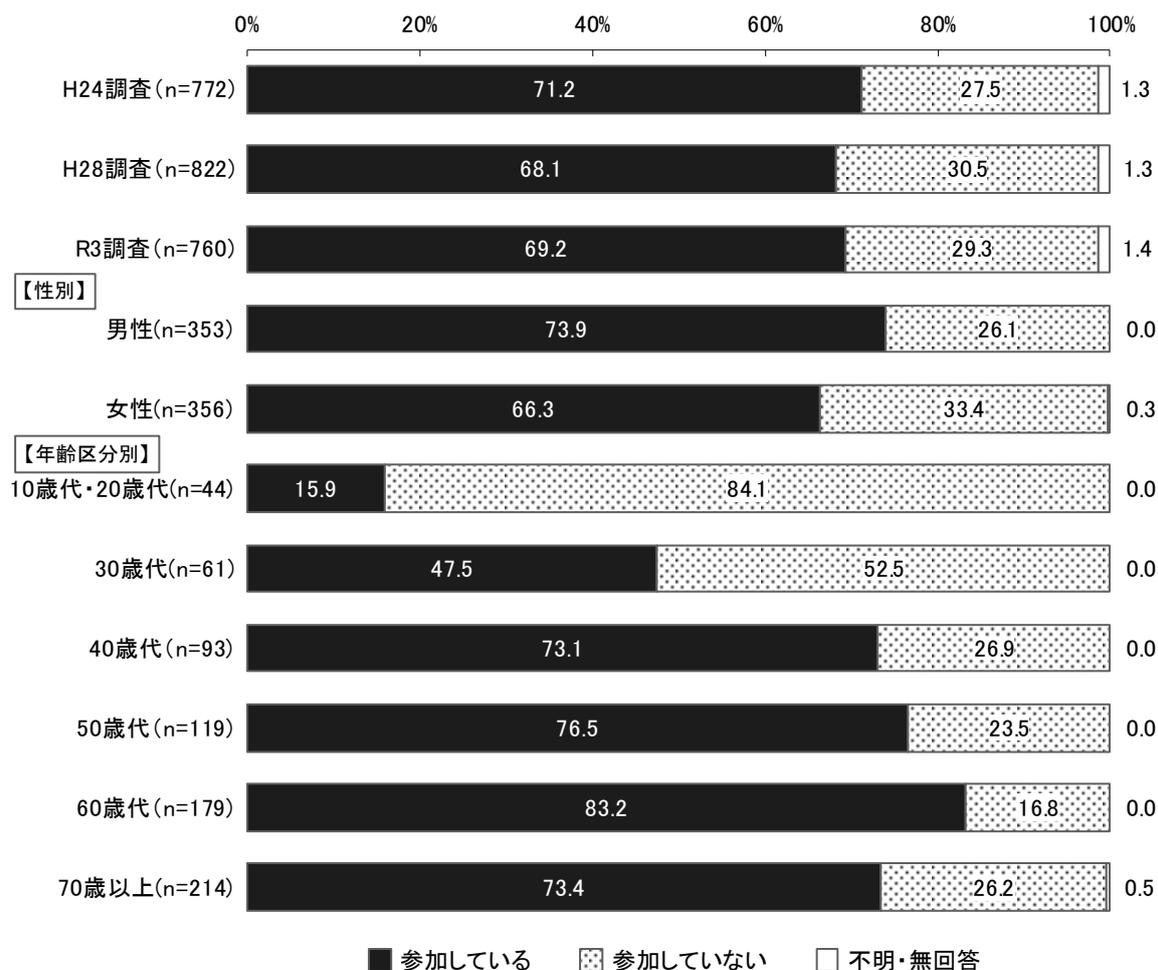


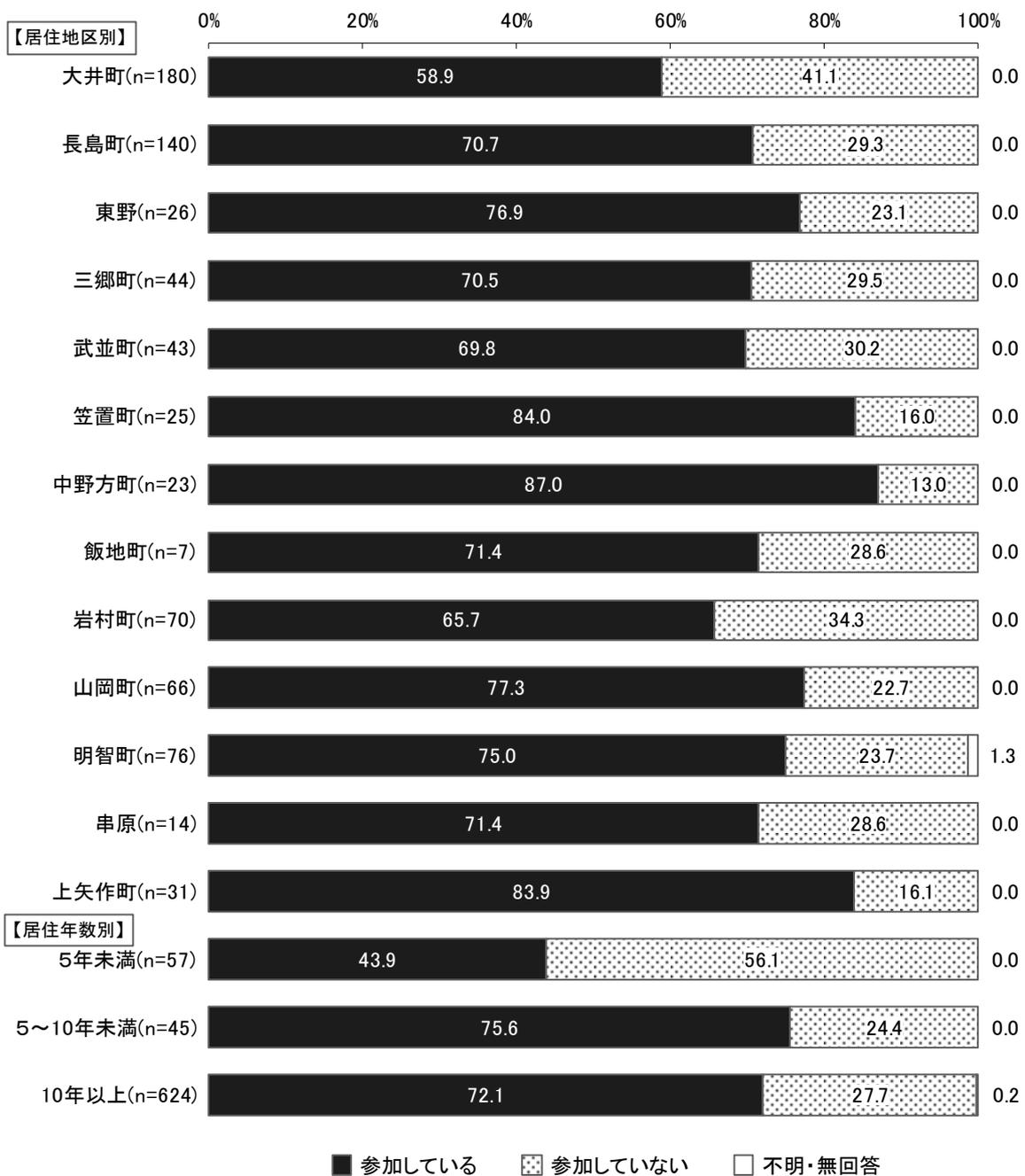
### 問3 現在、地域の活動に参加していますか。(単数回答)

現在、地域の活動に参加しているかは、R3調査で「参加している」が69.2%、「参加していない」が29.3%となっています。

年齢区分別では、40歳代以上で「参加している」が7割を超えていますが、10歳代・20歳代では15.9%にとどまっています。

居住地区別では、笠置町、中野方町及び上矢作町で「参加している」が8割を超えています。居住年数別では、5年以上で「参加している」が7割を超えています。





### 問3-1 どのような活動をされていますか。(複数回答)

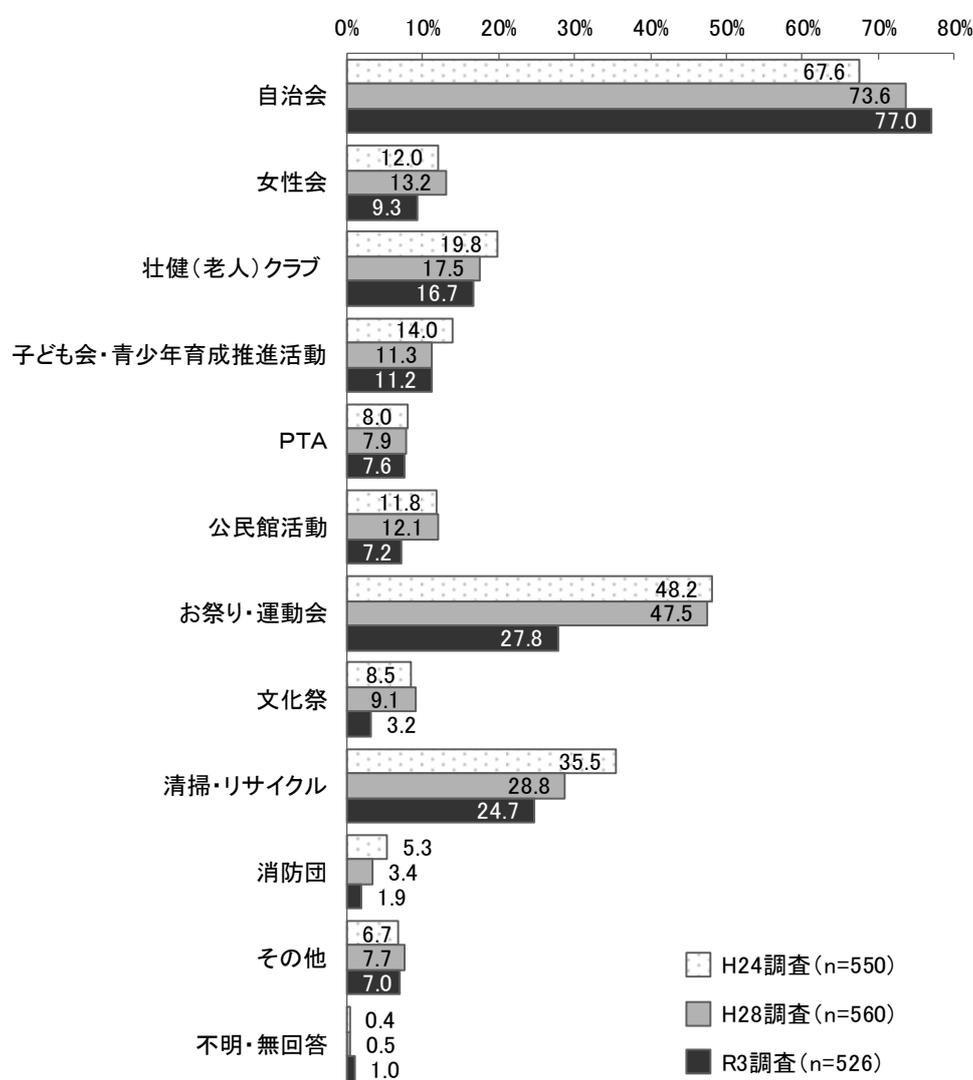
\*問3で「1 参加している」と答えた方のみへの質問

どのような活動をしているかは、R3 調査で「自治会」が 77.0%と最も高く、次いで「お祭り・運動会」が 27.8%となっています。経年比較すると、コロナ禍の状況もあり、「お祭り・運動会」が H24 調査及び H28 調査からそれぞれ約 20 ポイント低くなっています。また、「清掃・リサイクル」も減少傾向にあります。

性別では、男性で「自治会」が 87.7%と、女性と比べて 22.0 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、40 歳代～60 歳代で「自治会」が約 8～9 割となっています。

居住地区別では、7 地区で「自治会」が 8 割を、7 地区で「お祭り・運動会」が 4 割を、それぞれ超えています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	自治会	女性会	ブ 壮健(老人)クラ	子ども会・青少年 育成推進活動	PTA	公民館活動	お祭り・運動会	文化祭	清掃・リサイクル	消防団	その他	不明・無回答
【性別】													
男性	261	87.7	0.4	14.6	8.0	6.9	5.0	32.6	2.7	25.7	3.8	8.8	0.4
女性	236	65.7	19.5	16.9	15.7	9.3	10.2	23.7	3.8	23.7	0.0	5.1	1.7
【年齢区分別】													
10歳代・20歳代	7	71.4	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	57.1	0.0	0.0	0.0
30歳代	29	55.2	0.0	0.0	44.8	27.6	0.0	34.5	0.0	24.1	20.7	6.9	0.0
40歳代	68	76.5	1.5	0.0	47.1	38.2	4.4	33.8	4.4	25.0	4.4	1.5	1.5
50歳代	91	90.1	12.1	2.2	6.6	4.4	2.2	36.3	1.1	28.6	1.1	1.1	1.1
60歳代	149	84.6	10.1	14.8	2.0	1.3	8.7	26.8	3.4	25.5	0.0	10.7	0.7
70歳以上	157	66.9	13.4	36.9	1.9	0.0	10.8	22.3	4.5	20.4	0.0	9.6	1.3
【居住地区別】													
大井町	106	81.1	5.7	6.6	12.3	5.7	5.7	13.2	0.0	22.6	0.0	8.5	0.0
長島町	99	87.9	4.0	6.1	13.1	6.1	1.0	14.1	0.0	16.2	1.0	4.0	0.0
東野	20	100.0	15.0	10.0	15.0	10.0	5.0	45.0	5.0	25.0	0.0	5.0	0.0
三郷町	31	58.1	12.9	12.9	9.7	9.7	9.7	41.9	6.5	35.5	0.0	3.2	6.5
武並町	30	96.7	3.3	3.3	16.7	13.3	6.7	56.7	6.7	30.0	10.0	10.0	0.0
笠置町	21	81.0	9.5	28.6	9.5	4.8	28.6	52.4	0.0	38.1	9.5	9.5	0.0
中野方町	20	70.0	10.0	30.0	15.0	15.0	15.0	40.0	0.0	50.0	5.0	10.0	0.0
飯地町	5	60.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0
岩村町	46	80.4	6.5	10.9	10.9	8.7	6.5	23.9	2.2	30.4	2.2	8.7	2.2
山岡町	51	62.7	27.5	39.2	9.8	9.8	3.9	29.4	5.9	19.6	3.9	2.0	0.0
明智町	57	61.4	10.5	21.1	8.8	3.5	12.3	21.1	8.8	14.0	0.0	12.3	1.8
串原	10	90.0	0.0	40.0	10.0	20.0	0.0	80.0	10.0	50.0	0.0	10.0	0.0
上矢作町	26	57.7	15.4	50.0	0.0	0.0	11.5	46.2	3.8	34.6	0.0	7.7	0.0
【居住年数別】													
5年未満	25	72.0	0.0	0.0	24.0	12.0	0.0	24.0	0.0	24.0	12.0	8.0	0.0
5～10年未満	34	70.6	2.9	5.9	41.2	17.6	8.8	29.4	2.9	26.5	5.9	8.8	0.0
10年以上	450	78.4	10.4	18.0	8.7	6.9	7.8	28.2	3.3	24.9	1.1	7.1	0.9

### 問3-2 日頃、地域活動をされていてどのような課題がありますか。(複数回答)

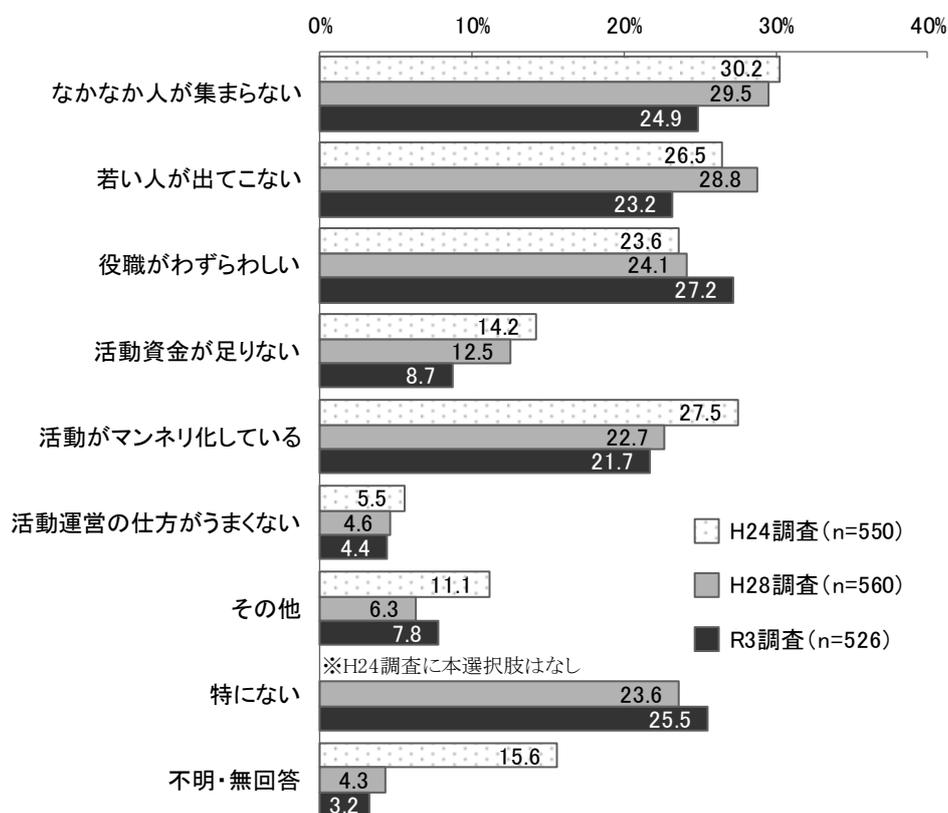
\*問3で「1 参加している」と答えた方のみへの質問

地域活動の課題は、R3 調査で「役職がわずらわしい」が 27.2%と最も高く、次いで「特にない」が 25.5%となっており、コロナ禍での地域活動自体が様変わりし、それに伴う課題も変化していると考えられます。経年比較すると、「なかなか人が集まらない」「若い人が出てこない」はH28 調査までと比べて低くなっており、コロナ禍による外出自粛の影響が考えられます。

年齢区分別では、30 歳代～60 歳代で「役職がわずらわしい」が、40 歳代及び 70 歳以上で「若い人が出てこない」が、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

居住地区別では、笠置町で「なかなか人が集まらない」「若い人が出てこない」「役職がわずらわしい」が、いずれも 4 割を超えて高くなっています。

居住年数別では、10 年以上で「なかなか人が集まらない」が 26.2%と、10 年未満と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	なかなか人が集まらない	若い人が出てこない	役職がわずらわしい	活動資金が足りない	活動がマンネリ化している	活動運営の仕方がうまくない	その他	特にない	不明・無回答
【性別】										
男性	261	25.7	26.4	30.3	11.9	21.8	5.0	8.0	24.1	2.7
女性	236	22.0	18.6	25.4	4.7	22.5	4.2	8.1	26.7	3.8
【年齢区分別】										
10歳代・20歳代	7	14.3	28.6	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
30歳代	29	27.6	10.3	44.8	6.9	20.7	3.4	13.8	20.7	0.0
40歳代	68	23.5	30.9	33.8	10.3	16.2	7.4	5.9	30.9	1.5
50歳代	91	15.4	19.8	35.2	13.2	22.0	2.2	5.5	30.8	1.1
60歳代	149	27.5	18.1	29.5	7.4	28.2	5.4	10.1	21.5	3.4
70歳以上	157	27.4	28.7	14.6	6.4	20.4	4.5	7.6	25.5	3.8
【居住地区別】										
大井町	106	19.8	20.8	22.6	3.8	21.7	6.6	9.4	28.3	3.8
長島町	99	14.1	18.2	36.4	4.0	23.2	0.0	9.1	26.3	2.0
東野	20	25.0	30.0	35.0	5.0	35.0	0.0	10.0	20.0	5.0
三郷町	31	32.3	16.1	29.0	9.7	19.4	6.5	9.7	25.8	3.2
武並町	30	20.0	36.7	30.0	6.7	13.3	13.3	0.0	36.7	0.0
笠置町	21	47.6	42.9	47.6	19.0	9.5	4.8	0.0	14.3	0.0
中野方町	20	0.0	5.0	25.0	10.0	15.0	5.0	20.0	35.0	10.0
飯地町	5	60.0	60.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0
岩村町	46	32.6	26.1	23.9	10.9	15.2	4.3	4.3	26.1	2.2
山岡町	51	43.1	13.7	27.5	3.9	29.4	3.9	5.9	23.5	5.9
明智町	57	26.3	26.3	14.0	17.5	31.6	7.0	8.8	24.6	3.5
串原	10	30.0	10.0	20.0	30.0	30.0	0.0	10.0	20.0	0.0
上矢作町	26	23.1	38.5	19.2	15.4	3.8	0.0	3.8	11.5	3.8
【居住年数別】										
5年未満	25	12.0	16.0	32.0	4.0	16.0	0.0	8.0	40.0	0.0
5~10年未満	34	14.7	20.6	26.5	8.8	11.8	8.8	8.8	38.2	2.9
10年以上	450	26.2	23.8	26.7	9.1	22.7	4.4	7.3	24.2	3.3

### 問3-3 地域活動をされていないのはどのような理由からですか。(複数回答)

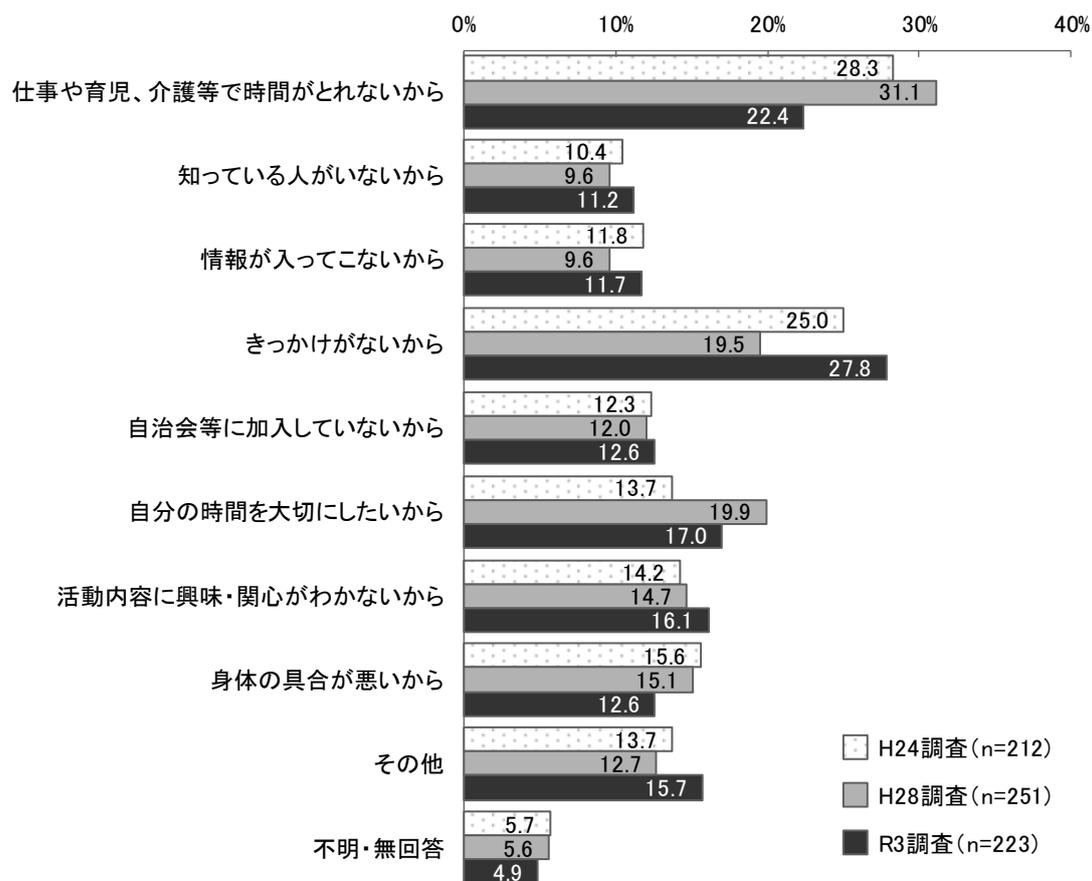
\*問3で「2 参加していない」と答えた方のみへの質問

地域活動をしていない理由は、R3 調査で「きっかけがないから」が 27.8%と最も高く、次いで「仕事や育児、介護等で時間がとれないから」が 22.4%となっています。経年比較すると、H28 調査と比べて「仕事や育児、介護等で時間がとれないから」は 8.7 ポイント低く、「きっかけがないから」は 8.3 ポイント高くなっています。

性別では、男性で「活動内容に興味・関心がわからないから」が 11.9 ポイント、「知っている人がいないから」が 9.8 ポイント、「自治会等に参加していないから」が 9.0 ポイント、それぞれ女性と比べて高くなっています。

年齢区分別では、10 歳代・20 歳代で「情報が入ってこないから」「きっかけがないから」が高い一方で、「自分の時間を大切にしたいから」が他の年代と比べて高くなっています。また、40 歳代では、「自治会等に参加していないから」が 24.0%と、他の年代と比べて高くなっています。

居住年数別では、5 年未満で「情報が入ってこないから」が 34.4%、10 年未満で「自治会等に参加していないから」が 3 割前後と、それぞれ高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	仕事や育児、介護等で時間がとれないから	知っている人がいないから	情報が入ってこないから	きつかけがないから	自治会等に参加していないから	自分の時間を大切にしたいから	活動内容に興味・関心がわかないから	身体の具合が悪いから	その他	不明・無回答
【性別】											
男性	92	20.7	17.4	13.0	28.3	17.4	19.6	22.8	13.0	12.0	4.3
女性	119	24.4	7.6	10.9	26.9	8.4	15.1	10.9	11.8	18.5	5.0
【年齢区分別】											
10歳代・20歳代	37	27.0	18.9	32.4	37.8	5.4	29.7	13.5	5.4	10.8	0.0
30歳代	32	18.8	6.3	9.4	21.9	15.6	15.6	18.8	3.1	31.3	3.1
40歳代	25	44.0	28.0	8.0	20.0	24.0	16.0	20.0	8.0	8.0	0.0
50歳代	28	28.6	14.3	7.1	32.1	14.3	14.3	17.9	7.1	17.9	10.7
60歳代	30	20.0	6.7	3.3	26.7	13.3	10.0	16.7	16.7	13.3	6.7
70歳以上	56	10.7	5.4	5.4	25.0	8.9	16.1	16.1	25.0	10.7	7.1
【居住地区別】											
大井町	74	18.9	13.5	14.9	31.1	17.6	21.6	12.2	10.8	16.2	4.1
長島町	41	22.0	17.1	7.3	22.0	7.3	14.6	19.5	12.2	26.8	7.3
東野	6	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0
三郷町	13	23.1	7.7	30.8	30.8	15.4	7.7	23.1	0.0	7.7	7.7
武並町	13	7.7	0.0	7.7	30.8	0.0	0.0	15.4	0.0	30.8	15.4
笠置町	4	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
中野方町	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
飯地町	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
岩村町	24	33.3	4.2	4.2	33.3	20.8	12.5	16.7	12.5	8.3	4.2
山岡町	15	13.3	20.0	13.3	20.0	13.3	20.0	40.0	13.3	20.0	0.0
明智町	18	11.1	11.1	11.1	22.2	11.1	16.7	5.6	33.3	5.6	5.6
串原	4	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
上矢作町	5	60.0	20.0	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【居住年数別】											
5年未満	32	28.1	25.0	34.4	31.3	31.3	18.8	9.4	6.3	18.8	0.0
5～10年未満	11	45.5	36.4	9.1	27.3	27.3	9.1	18.2	0.0	18.2	9.1
10年以上	173	19.7	7.5	8.1	27.7	8.1	17.9	17.3	13.9	15.0	5.8

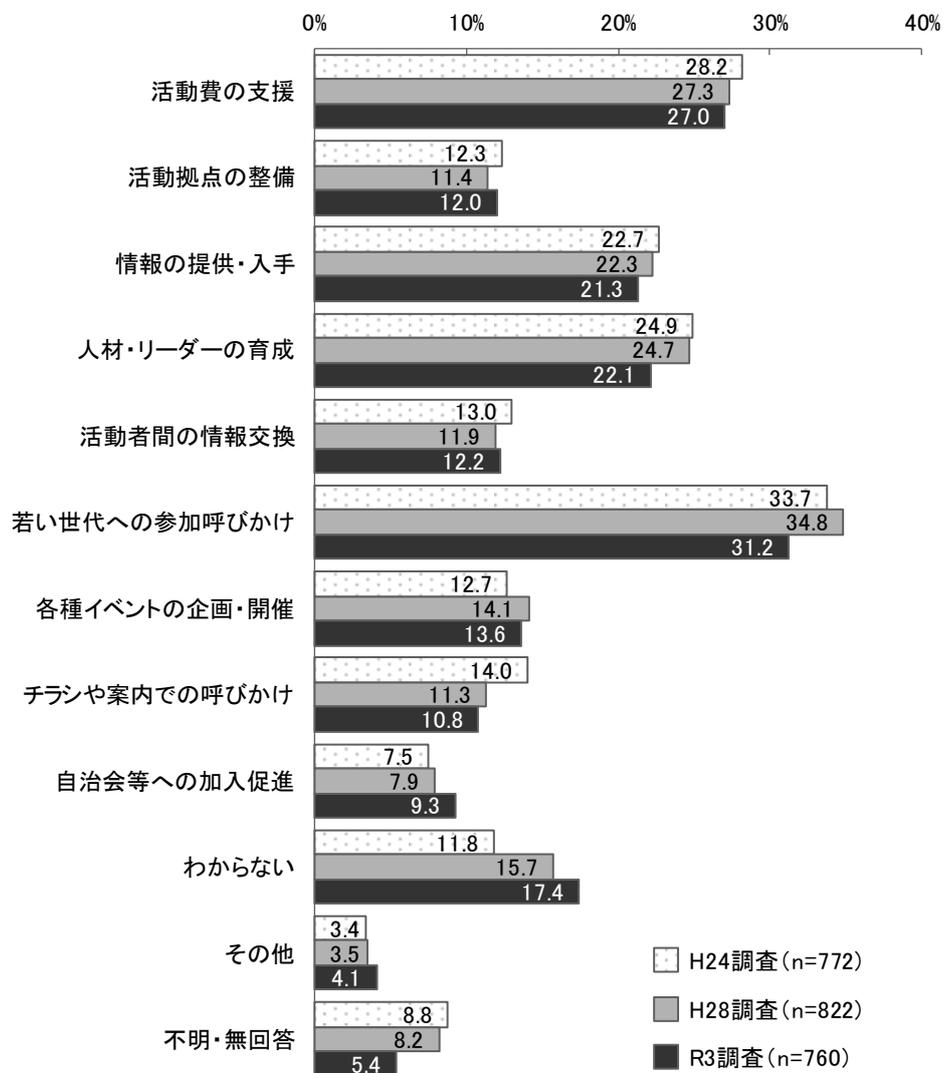
問4 今後地域活動の輪を広げていくために、どのようなことが必要だと思いますか。  
(複数回答)

今後地域活動の輪を広げていくために必要と思うことは、R3調査で「若い世代への参加呼びかけ」が31.2%と最も高く、次いで「活動費の支援」が27.0%となっています。経年比較すると、「自治会等への加入促進」が増加傾向となっています。

年齢区分別では、10歳代・20歳代で「情報の提供・入手」「各種イベントの企画・開催」がそれぞれ約3割と、他の年代と比べて高くなっています。

居住地区別では、武並町で「情報の提供・入手」が46.5%と、他の居住地区と比べて高くなっています。

居住年数別では、5年未満で「情報の提供・入手」が、5～10年未満で「活動費の支援」が、10年以上で「若い世代への参加呼びかけ」が、それぞれ最も高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	活動費の支援	活動拠点の整備	情報の提供・入手	育成 人材・リーダーの	交換 活動者間の情報	呼びかけ 若い世代への参加	画・開催 各種イベントの企	呼びかけ チラシや案内での	促進 自治会等への加入	わからない	その他	不明・無回答
【年齢区分別】													
10歳代・20歳代	44	20.5	15.9	29.5	6.8	11.4	36.4	29.5	11.4	2.3	15.9	4.5	2.3
30歳代	61	21.3	8.2	19.7	11.5	6.6	31.1	14.8	9.8	4.9	34.4	13.1	0.0
40歳代	93	30.1	10.8	21.5	18.3	19.4	29.0	16.1	11.8	6.5	12.9	3.2	4.3
50歳代	119	29.4	11.8	24.4	17.6	10.9	26.9	12.6	10.1	11.8	21.8	2.5	3.4
60歳代	179	30.7	12.8	21.2	29.1	16.8	26.3	14.0	10.1	12.3	16.8	5.0	0.6
70歳以上	214	26.6	12.6	17.8	27.1	10.7	39.3	10.7	11.2	10.3	13.1	2.3	7.5
【居住地区別】													
大井町	180	21.1	13.3	24.4	19.4	8.3	30.0	14.4	11.1	12.8	20.6	5.0	5.0
長島町	140	28.6	12.9	22.9	16.4	17.1	27.1	17.1	11.4	5.0	20.0	2.1	3.6
東野	26	26.9	19.2	15.4	23.1	0.0	46.2	0.0	7.7	7.7	15.4	7.7	3.8
三郷町	44	20.5	2.3	15.9	34.1	18.2	43.2	13.6	6.8	11.4	15.9	2.3	4.5
武並町	43	14.0	9.3	46.5	23.3	18.6	30.2	20.9	16.3	2.3	14.0	2.3	4.7
笠置町	25	32.0	24.0	20.0	28.0	8.0	44.0	8.0	8.0	0.0	20.0	4.0	4.0
中野方町	23	34.8	13.0	0.0	13.0	13.0	34.8	4.3	4.3	0.0	26.1	8.7	8.7
飯地町	7	14.3	28.6	28.6	28.6	0.0	42.9	28.6	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0
岩村町	70	28.6	10.0	20.0	24.3	10.0	34.3	10.0	10.0	22.9	10.0	4.3	5.7
山岡町	66	28.8	12.1	15.2	22.7	15.2	28.8	15.2	12.1	9.1	15.2	7.6	1.5
明智町	76	35.5	9.2	22.4	27.6	15.8	31.6	11.8	9.2	9.2	15.8	2.6	2.6
串原	14	35.7	7.1	7.1	28.6	7.1	21.4	14.3	7.1	7.1	21.4	7.1	0.0
上矢作町	31	48.4	12.9	12.9	32.3	9.7	25.8	12.9	16.1	6.5	16.1	3.2	3.2
【居住年数別】													
5年未満	57	28.1	15.8	31.6	10.5	7.0	22.8	19.3	15.8	5.3	21.1	7.0	1.8
5～10年未満	45	26.7	11.1	22.2	17.8	15.6	20.0	20.0	15.6	8.9	17.8	6.7	8.9
10年以上	624	27.6	11.7	20.5	24.2	12.8	33.5	13.1	10.4	10.1	17.0	3.4	4.2

問5 あなたは、現在お住まいの地域の雰囲気について、日頃どのように感じていますか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『思う』 … 「思う」と「やや思う」の合算  
 『思わない』 … 「あまり思わない」と「思わない」の合算

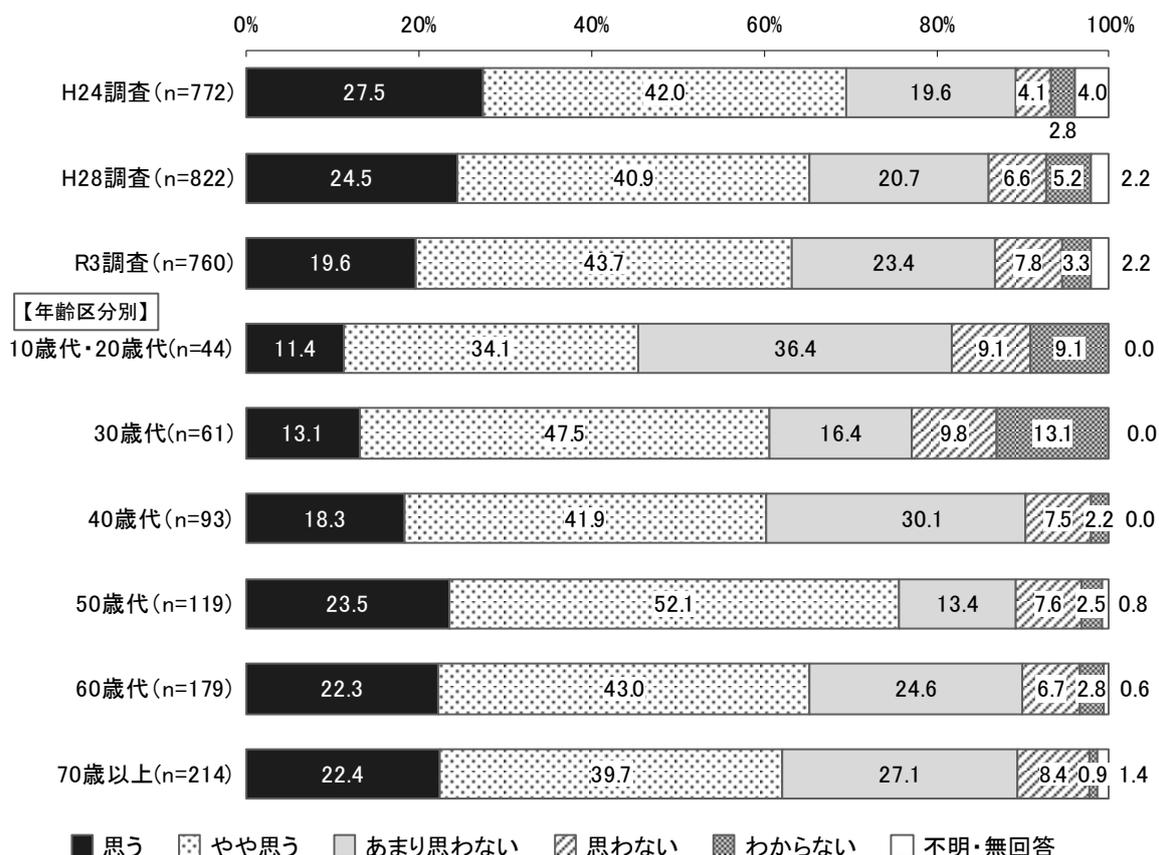
問5① 住民同士のつながりが強い地域だと思いますか。(単数回答)

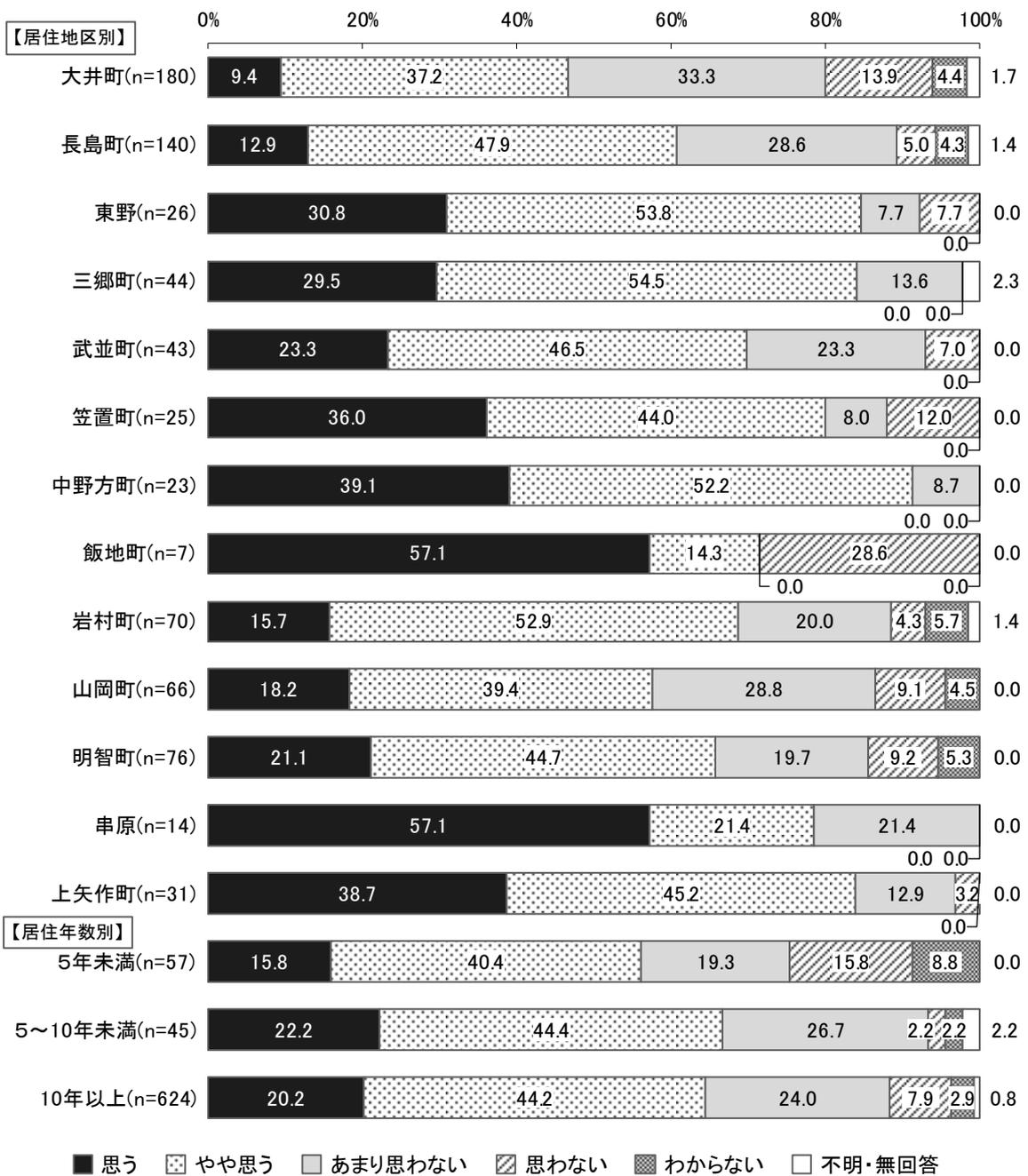
住民同士つながりが強い地域だと思うかは、R3調査で『思う』が63.3%、『思わない』が31.2%、「わからない」が3.3%となっています。経年比較すると、『思う』が減少傾向となっています。

年齢区分別では、50歳代で『思う』が75.6%と他の年代と比べて高く、30歳代以上で6割を超えています。

居住地区別では、東野、三郷町、笠置町、中野方町及び上矢作町で『思う』が8割を超えています。

居住年数別では、『思う』が5年未満で56.2%、5年以上で6割を超えています。





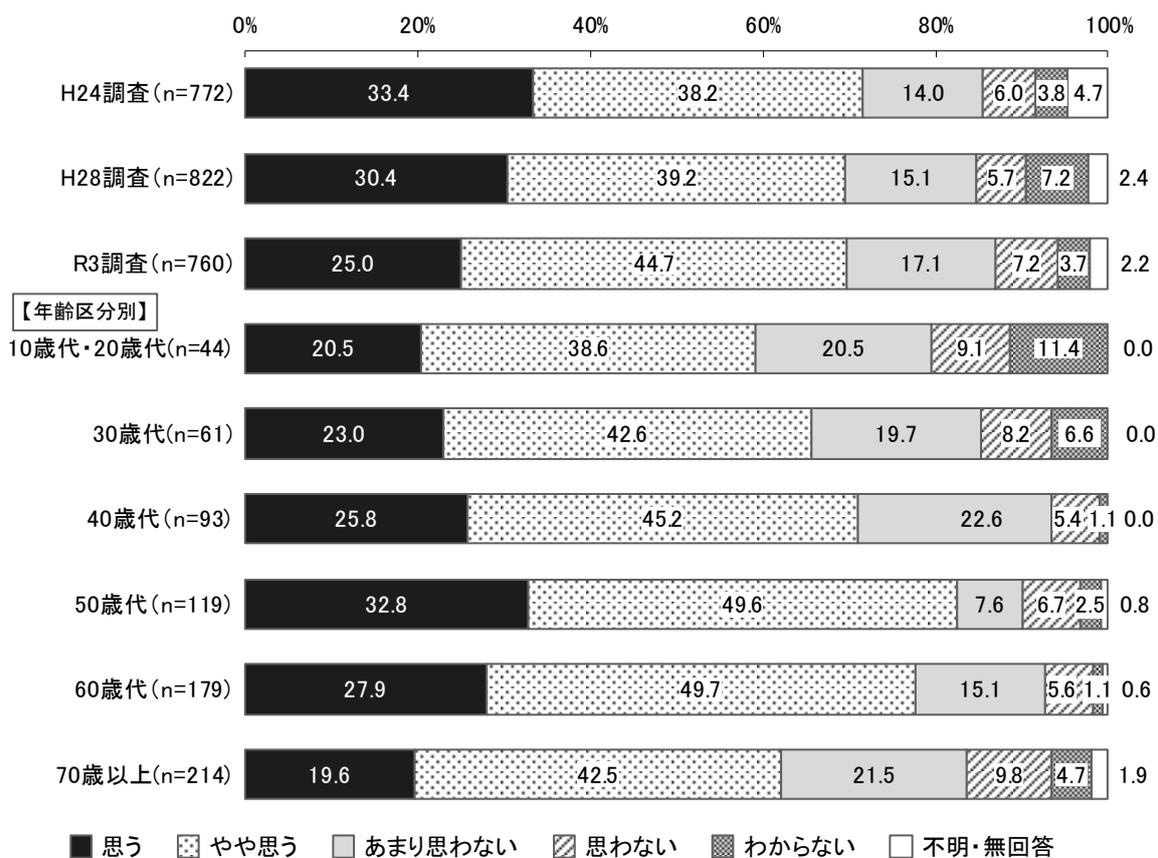
## 問5② 昔からの習慣や考え方を大切にしている地域だと思いますか。(単数回答)

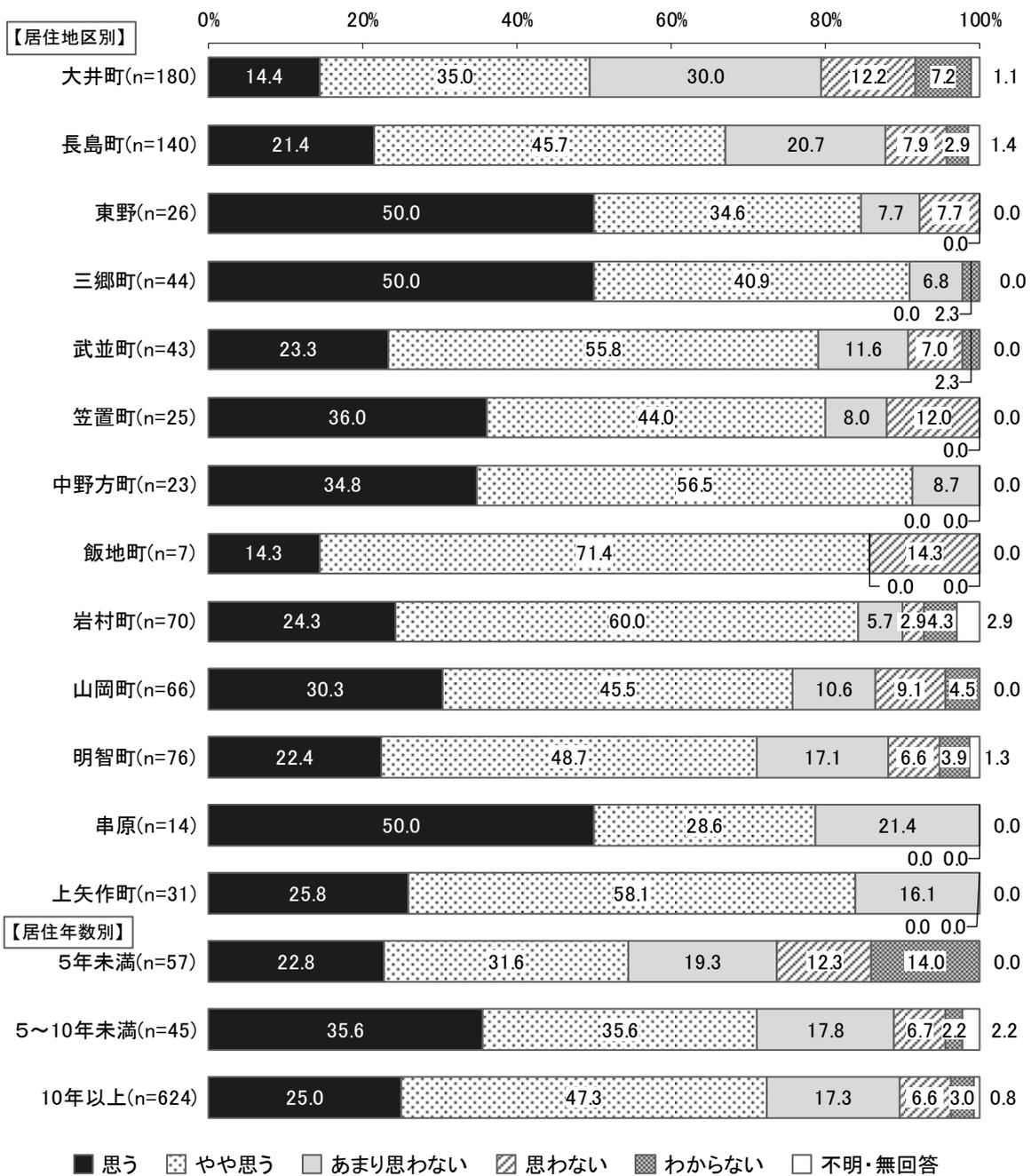
昔からの習慣や考え方を大切にしている地域だと思うかは、R3調査で『思う』が69.7%、『思わない』が24.3%、「わからない」が3.7%となっています。

年齢区分別では、50歳代で『思う』が82.4%と他の年代と比べて高く、40歳代～60歳代で7割を超えています。

居住地区別では、東野、三郷町、笠置町、中野方町、岩村町及び上矢作町で『思う』が8割を超えています。

居住年数別では、『思う』が5年未満で54.4%、5年以上で7割を超えています。





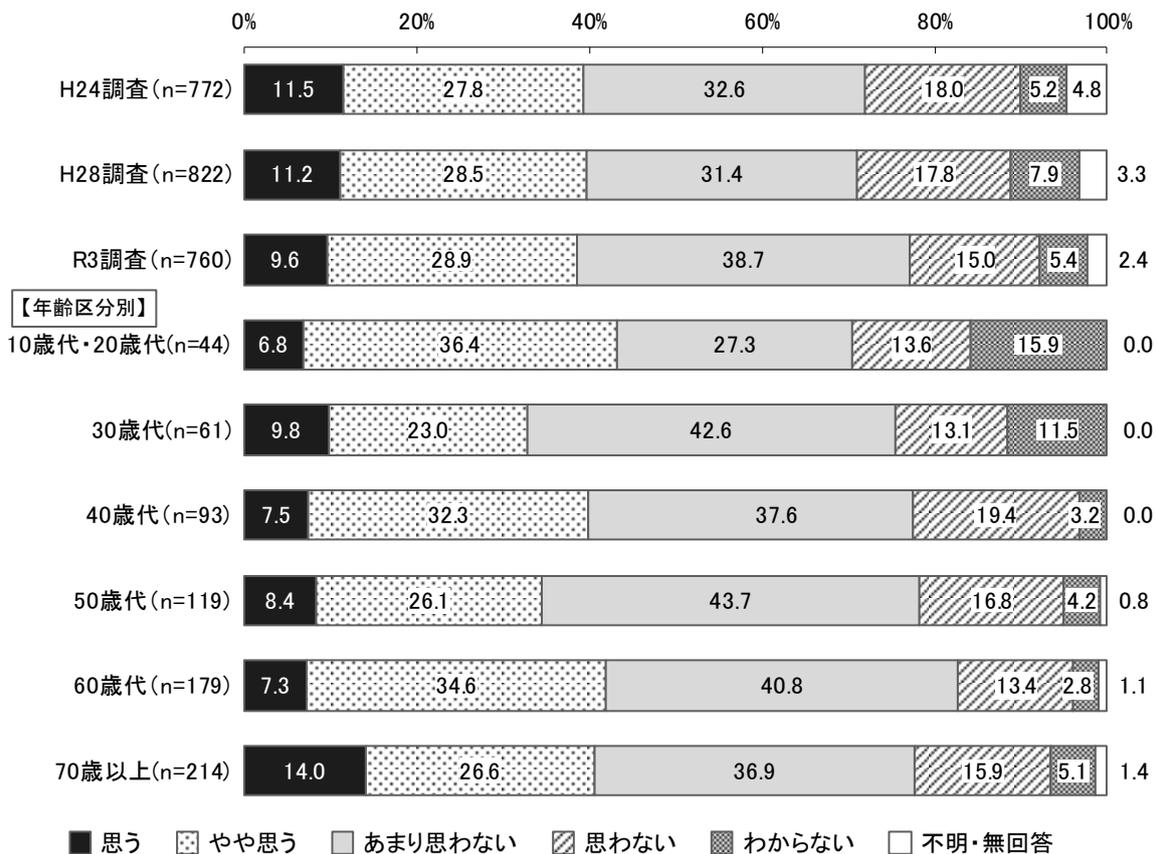
### 問5③ 新しいことや人を積極的に受け入れる地域だと思いますか。(単数回答)

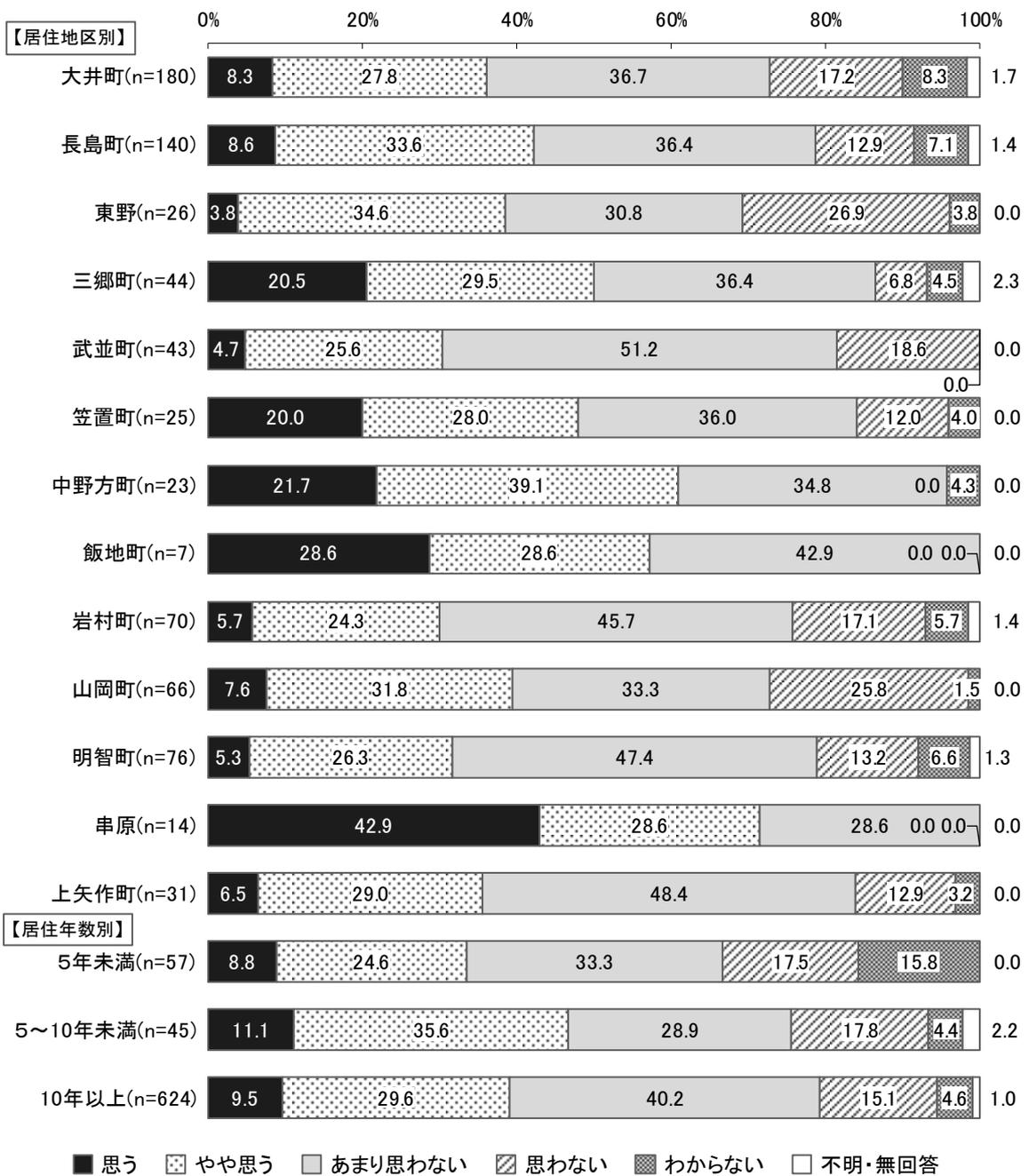
新しいことや人を積極的に受け入れる地域だと思うかは、R3調査で『思う』が38.5%、『思わない』が53.7%、「わからない」が5.4%となっています。

年齢区分別では、いずれの年代でも『思う』が4割前後となっています。

居住地区別では、中野方町及び串原で『思う』が6割を超えています。

居住年数別では、『思う』が5年未満で33.4%、5年以上で4割前後となっています。





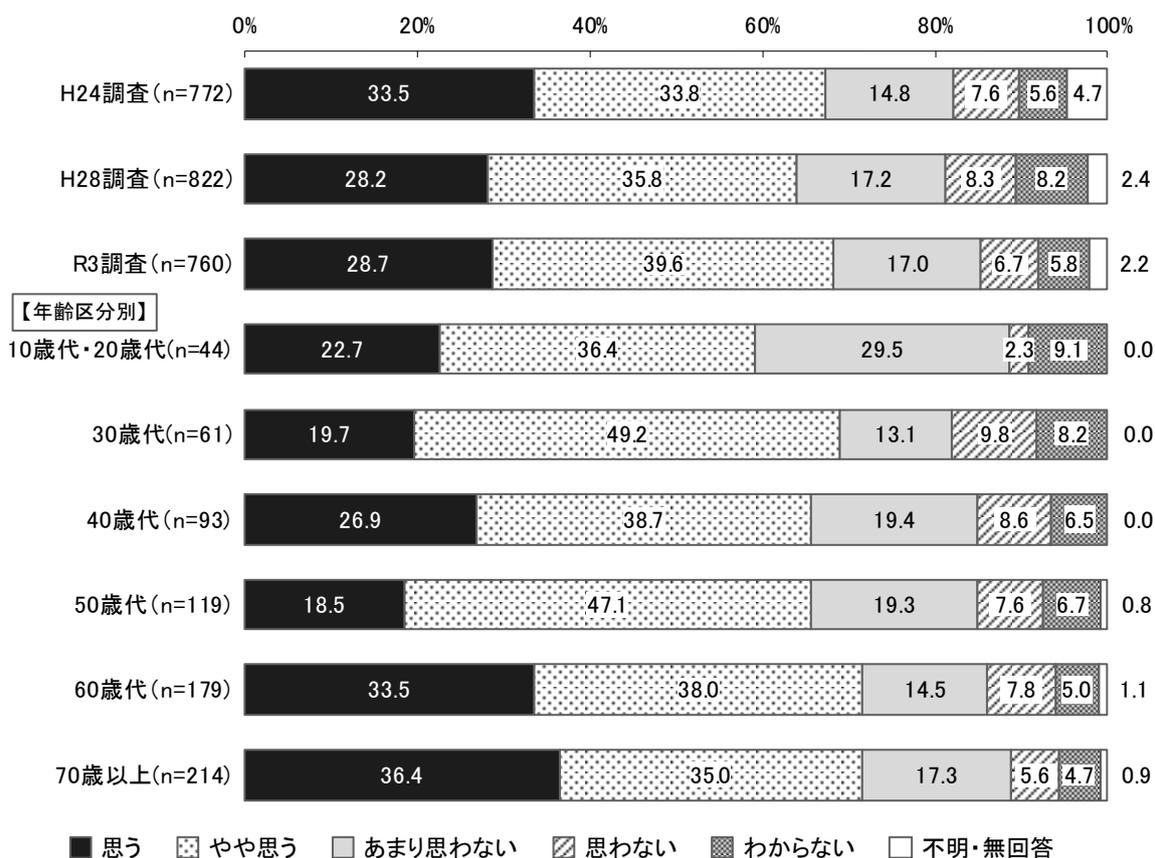
#### 問5④ 愛着があり、長く住み続けたい地域だと思いませんか。(単数回答)

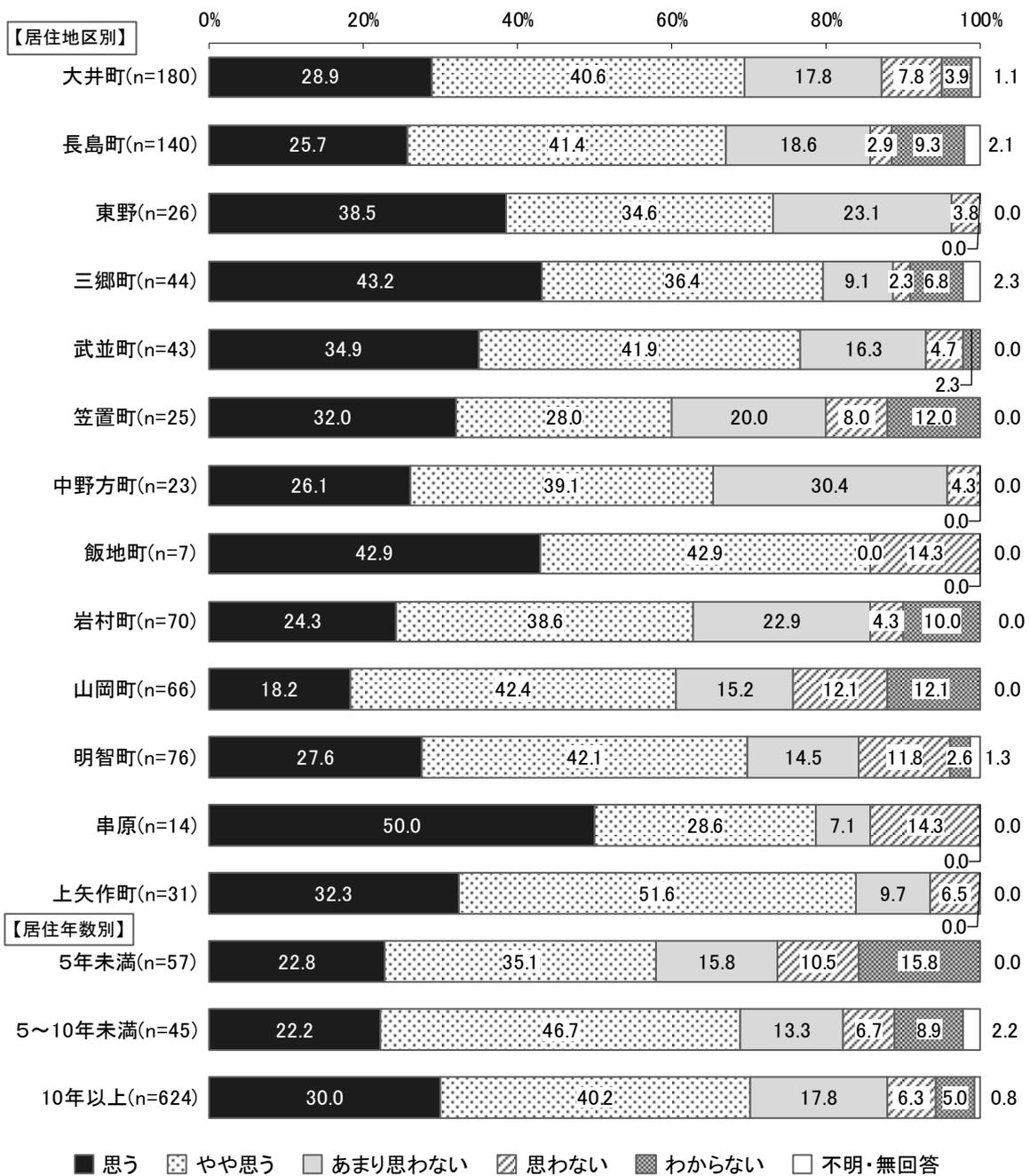
愛着があり、長く住み続けたい地域だと思うかは、R3調査で『思う』が68.3%、『思わない』が23.7%、「わからない」が5.8%となっています。

年齢区分別では、30歳代以上で『思う』が6割を超えています。

居住地区別では、上矢作町で『思う』が83.9%となっています。

居住年数別では、『思う』が5年未満で57.9%、5年以上で7割前後となっています。





### 3 地域の福祉について

#### 問6 あなたは、お住まいの地域の福祉について関心がありますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

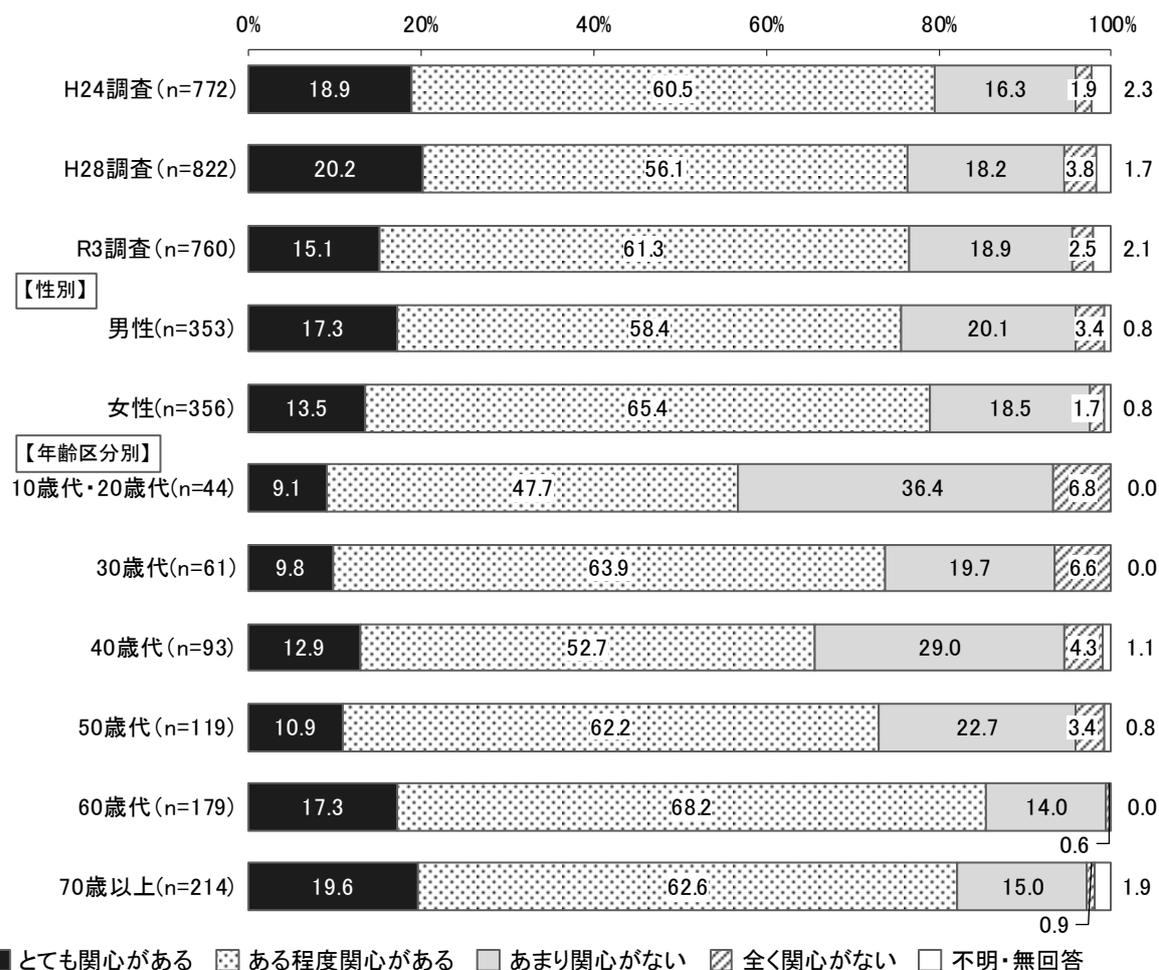
- 『関心がある』 … 「とても関心がある」と「ある程度関心がある」の合算
- 『関心がない』 … 「あまり関心がない」と「全く関心がない」の合算

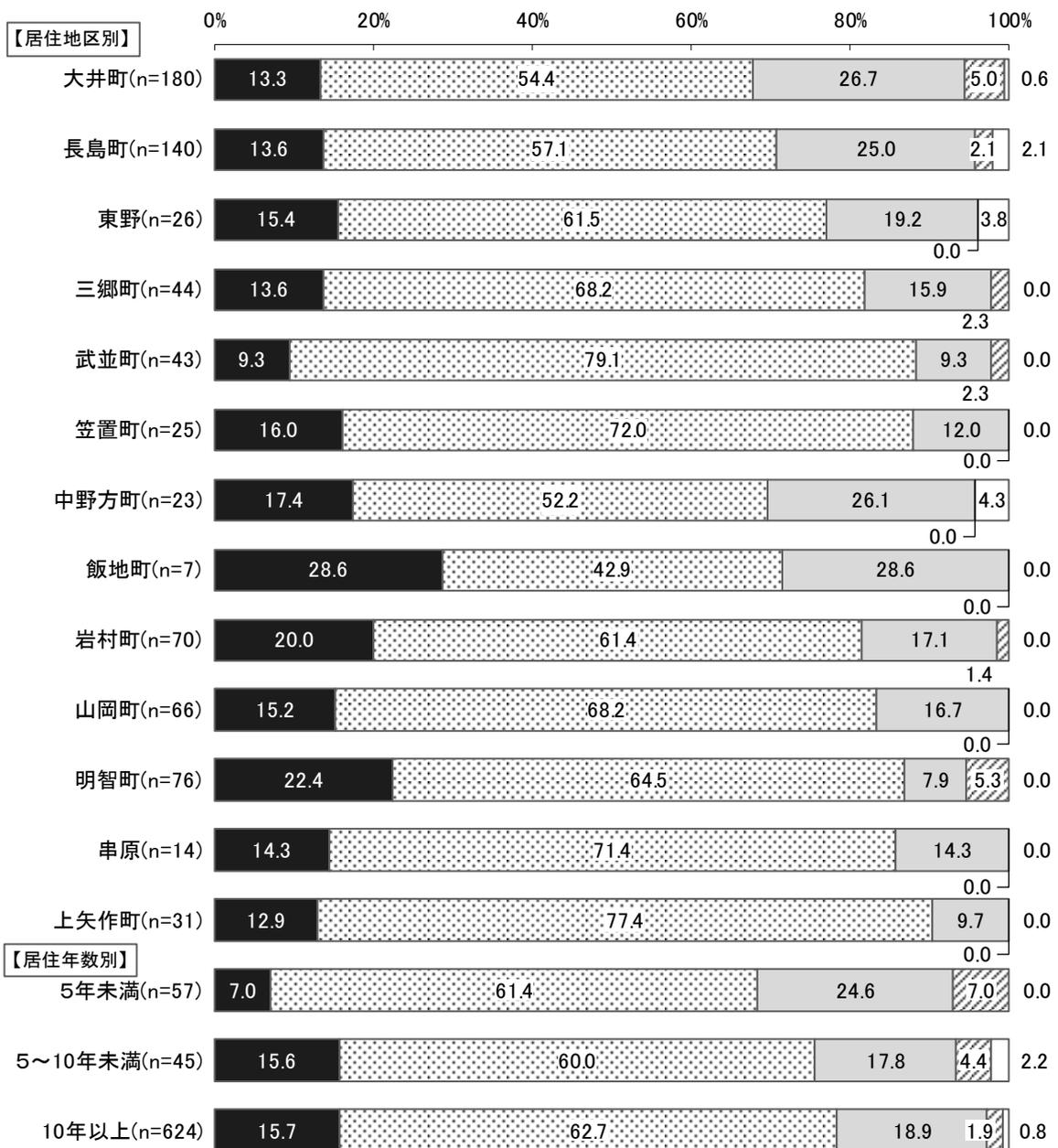
住んでいる地域の福祉に関心があるかは、R3 調査で『関心がある』が 76.4%、『関心がない』が 21.4%となっています。

年齢区分別では、30 歳代及び 50 歳代以上で『関心がある』が 7 割を超えています。

居住地区別では、三郷町、武並町、笠置町、岩村町、山岡町、明智町、串原及び上矢作町で『関心がある』が 8 割を超えています。なお、大井町で『関心がない』が 31.7%と、他の居住地区と比べて高くなっています。

居住年数別では、居住年数が増えるにつれて『関心がある』が高くなっています。





■ とても関心がある  
 ▨ ある程度関心がある  
 □ あまり関心がない  
 ▩ 全く関心がない  
 □ 不明・無回答

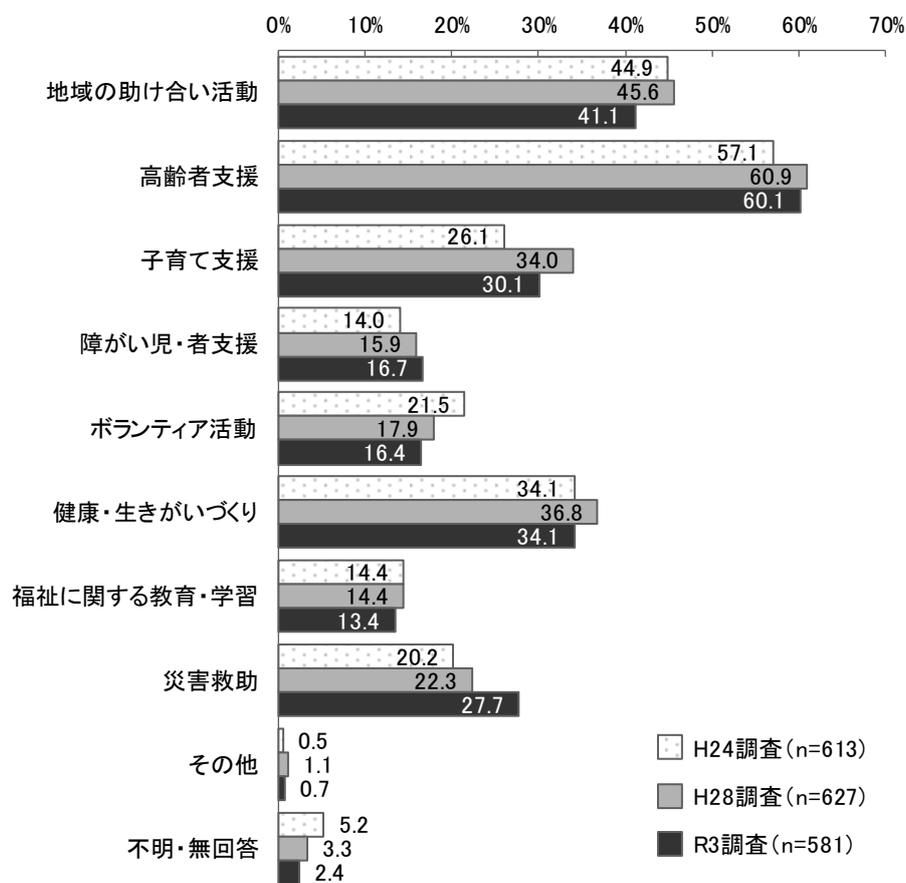
## 問6-1 関心があるのはどのようなことについてですか。(複数回答)

\*問6で「1 とても関心がある」「2 ある程度関心がある」と答えた方のみへの質問

関心があることは、R3 調査で「高齢者支援」が 60.1%と最も高く、次いで「地域の助け合い活動」が 41.1%となっています。経年比較すると、「障がい児・者支援」「災害救助」が増加傾向となっています。

年齢区分別では、50 歳代以下で「災害救助」が3割を超えています。また、60 歳代以上で「地域の助け合い活動」が5割前後と高くなっています。

居住地区別では、中野方町及び串原で「地域の助け合い活動」が6割前後と高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	活動地域の助け合い	高齢者支援	子育て支援	障がい児・者支援	ボランティア活動	健康・生きがいづくり	福祉に関する教育・学習	災害救助	その他	不明・無回答
【年齢区分別】											
10歳代・20歳代	25	16.0	52.0	60.0	32.0	4.0	16.0	28.0	40.0	0.0	4.0
30歳代	45	20.0	44.4	75.6	20.0	2.2	17.8	13.3	37.8	0.0	2.2
40歳代	61	29.5	59.0	50.8	16.4	19.7	24.6	23.0	36.1	0.0	1.6
50歳代	87	32.2	66.7	32.2	13.8	10.3	33.3	6.9	32.2	0.0	2.3
60歳代	153	47.7	66.0	20.9	19.0	14.4	36.6	14.4	24.2	1.3	2.0
70歳以上	176	52.3	59.1	14.8	13.1	26.7	41.5	10.8	21.6	1.1	2.8
【居住地区別】											
大井町	122	40.2	59.8	32.8	21.3	16.4	31.1	14.8	31.1	0.8	1.6
長島町	99	38.4	61.6	37.4	18.2	14.1	34.3	13.1	30.3	0.0	2.0
東野	20	40.0	55.0	25.0	15.0	15.0	20.0	10.0	30.0	0.0	5.0
三郷町	36	47.2	63.9	33.3	13.9	13.9	41.7	13.9	16.7	0.0	0.0
武並町	38	39.5	60.5	42.1	18.4	18.4	36.8	13.2	23.7	0.0	0.0
笠置町	22	45.5	54.5	50.0	9.1	18.2	36.4	13.6	31.8	0.0	9.1
中野方町	16	62.5	68.8	18.8	6.3	25.0	25.0	12.5	37.5	0.0	0.0
飯地町	5	40.0	80.0	0.0	20.0	40.0	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0
岩村町	57	40.4	52.6	26.3	12.3	12.3	33.3	3.5	24.6	3.5	1.8
山岡町	55	40.0	60.0	20.0	21.8	14.5	32.7	16.4	27.3	0.0	1.8
明智町	66	33.3	62.1	21.2	15.2	25.8	31.8	15.2	30.3	1.5	1.5
串原	12	58.3	58.3	33.3	0.0	16.7	50.0	16.7	8.3	0.0	0.0
上矢作町	28	50.0	67.9	21.4	14.3	7.1	46.4	14.3	28.6	0.0	7.1
【居住年数別】											
5年未満	39	30.8	35.9	71.8	23.1	10.3	15.4	20.5	33.3	0.0	0.0
5～10年未満	34	29.4	47.1	58.8	20.6	8.8	32.4	20.6	23.5	0.0	0.0
10年以上	489	42.5	62.6	24.7	15.5	17.4	36.0	11.9	28.0	0.8	2.7

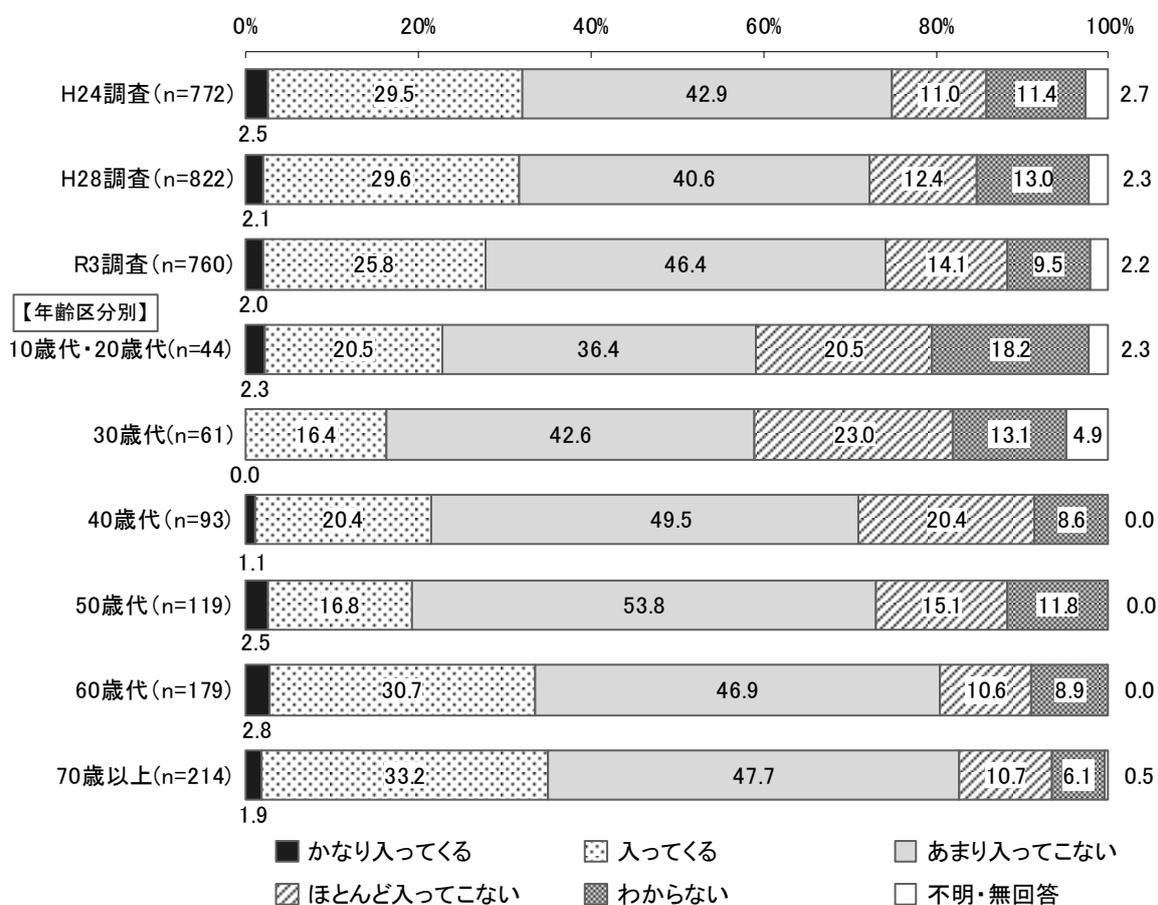
## 問7 福祉についての情報は入ってきますか。(単数回答)

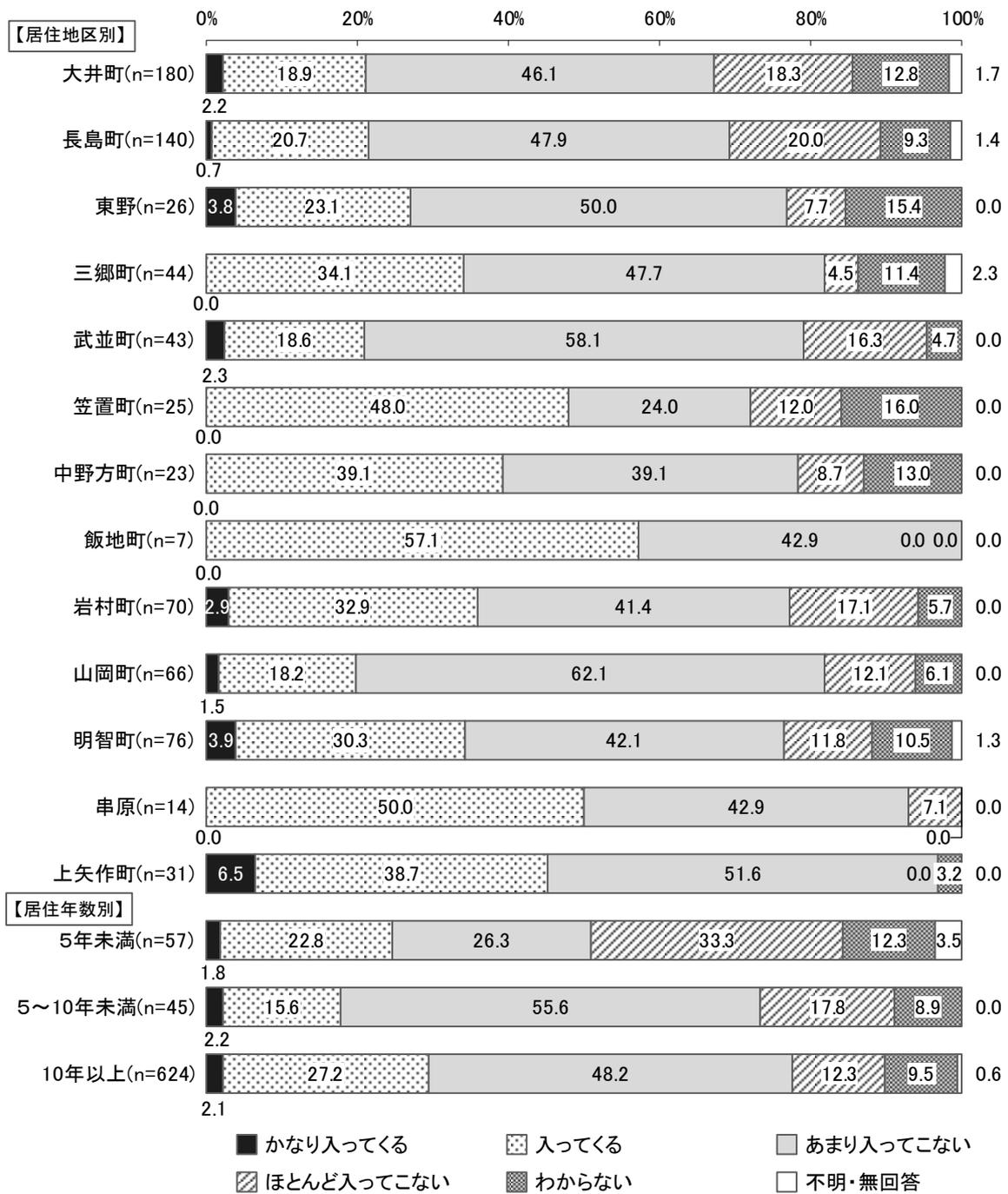
本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『入ってくる』 … 「かなり入ってくる」と「入ってくる」の合算

『入ってこない』 … 「あまり入ってこない」と「ほとんど入ってこない」の合算

福祉の情報は、R3調査で『入ってくる』が27.8%、『入ってこない』が60.5%、「わからない」が9.5%となっています。経年比較すると、『入ってくる』が減少傾向にあります。年齢区分別では、30歳代～50歳代で『入ってこない』が約7割と高くなっています。居住地区別では、武並町及び山岡町で『入ってこない』が7割強と高くなっています。居住年数別では、5～10年未満で『入ってこない』が73.4%と高くなっています。





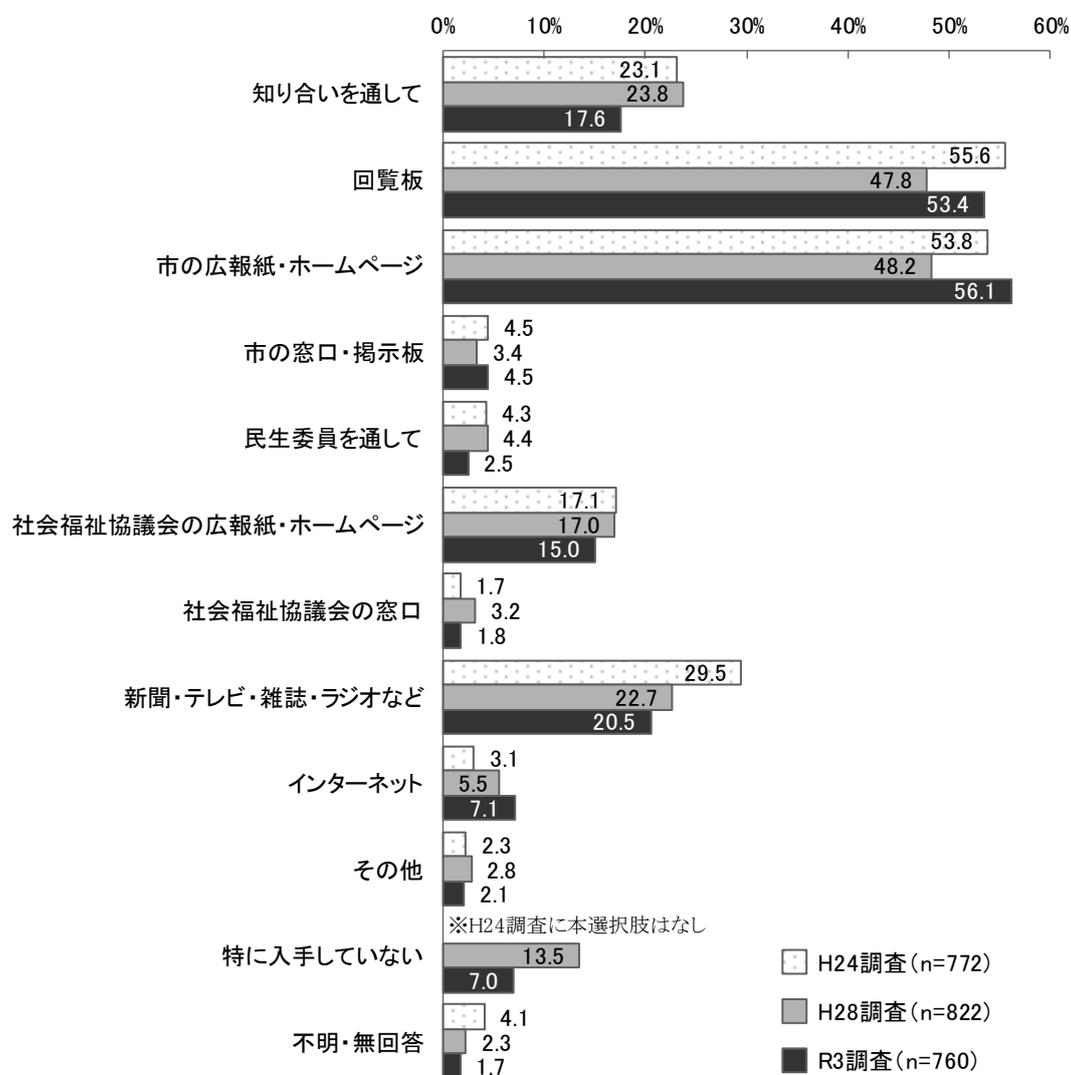
## 問8 福祉についての情報や知識は主にどのようにして得ていますか。(複数回答)

福祉についての情報や知識の入手方法は、R3 調査で「市の広報紙・ホームページ」が 56.1% と最も高く、次いで「回覧板」が 53.4% となっています。経年比較すると、「回覧板」「市の広報紙・ホームページ」は H28 調査と比べて高くなっており、H24 調査と同程度もしくは上回っています。

年齢区分別では、いずれの年代も「市の広報紙・ホームページ」「回覧板」で入手している割合が高くなっています。なお、10 歳代・20 歳代では「特に入手していない」が 22.7% と高くなっています。

居住地区別では、笠置町及び上矢作町で「社会福祉協議会の広報紙・ホームページ」が 3 割前後と高くなっています。

居住年数別では、居住年数が増えるにつれて「回覧板」の割合が高くなっています。



■クロス集計

(単位:%)

区分	n=	知り合いを通して	回覧板	市の広報紙・ホームページ	市の窓口・掲示板	民生委員を通して	ホームページ	社会福祉協議会の広報紙・ホームページ	社会福祉協議会の窓口	新聞・テレビ・雑誌・ラジオなど	インターネット	その他	特に入手していない	不明・無回答
<b>【年齢区分別】</b>														
10歳代・20歳代	44	15.9	31.8	38.6	6.8	0.0	4.5	2.3	9.1	15.9	2.3	22.7	0.0	
30歳代	61	19.7	37.7	42.6	1.6	1.6	8.2	0.0	4.9	14.8	3.3	16.4	0.0	
40歳代	93	16.1	49.5	53.8	0.0	0.0	7.5	2.2	4.3	10.8	1.1	11.8	1.1	
50歳代	119	17.6	50.4	59.7	6.7	0.8	10.9	4.2	17.6	9.2	1.7	6.7	0.0	
60歳代	179	17.3	63.1	67.6	6.1	3.4	19.0	1.7	18.4	6.7	1.1	2.8	1.7	
70歳以上	214	17.8	58.9	53.7	4.7	3.7	22.0	1.4	34.6	1.9	2.8	3.7	2.8	
<b>【居住地区別】</b>														
大井町	180	15.0	52.8	50.6	5.0	1.1	11.7	1.7	20.0	7.8	1.1	8.9	0.6	
長島町	140	16.4	57.1	60.0	5.0	1.4	7.1	2.9	18.6	5.7	2.9	7.9	1.4	
東野	26	30.8	46.2	57.7	0.0	3.8	15.4	0.0	11.5	7.7	0.0	3.8	3.8	
三郷町	44	18.2	50.0	56.8	4.5	2.3	25.0	2.3	20.5	2.3	0.0	9.1	4.5	
武並町	43	20.9	51.2	69.8	9.3	2.3	7.0	0.0	20.9	4.7	2.3	9.3	2.3	
笠置町	25	8.0	56.0	56.0	0.0	8.0	28.0	0.0	32.0	12.0	4.0	4.0	4.0	
中野方町	23	30.4	69.6	52.2	8.7	0.0	8.7	0.0	13.0	4.3	0.0	8.7	0.0	
飯地町	7	28.6	71.4	42.9	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	
岩村町	70	12.9	57.1	47.1	2.9	4.3	18.6	5.7	24.3	8.6	2.9	7.1	0.0	
山岡町	66	28.8	36.4	48.5	1.5	1.5	15.2	0.0	24.2	7.6	3.0	6.1	1.5	
明智町	76	17.1	61.8	57.9	3.9	5.3	19.7	2.6	9.2	10.5	1.3	2.6	1.3	
串原	14	7.1	35.7	71.4	14.3	0.0	7.1	0.0	28.6	7.1	7.1	14.3	0.0	
上矢作町	31	6.5	51.6	74.2	6.5	3.2	38.7	0.0	29.0	3.2	6.5	3.2	0.0	
<b>【居住年数別】</b>														
5年未満	57	21.1	36.8	40.4	1.8	0.0	8.8	1.8	5.3	21.1	3.5	21.1	0.0	
5～10年未満	45	17.8	48.9	57.8	6.7	2.2	6.7	0.0	8.9	8.9	2.2	6.7	0.0	
10年以上	624	17.6	55.9	57.1	4.5	2.6	16.3	2.1	22.1	5.6	1.9	5.9	1.6	

## 問9 あなたは、生活のことで日頃不安に思っていることはありますか。(単数回答)

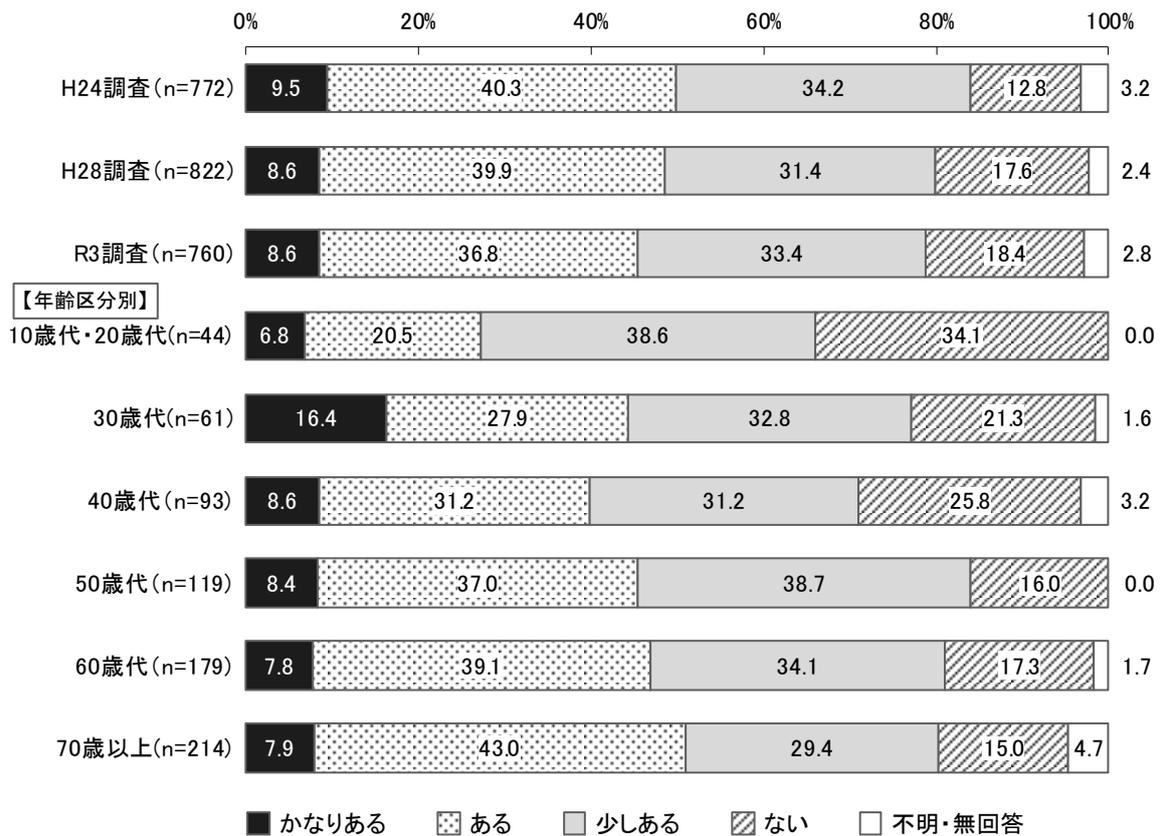
本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

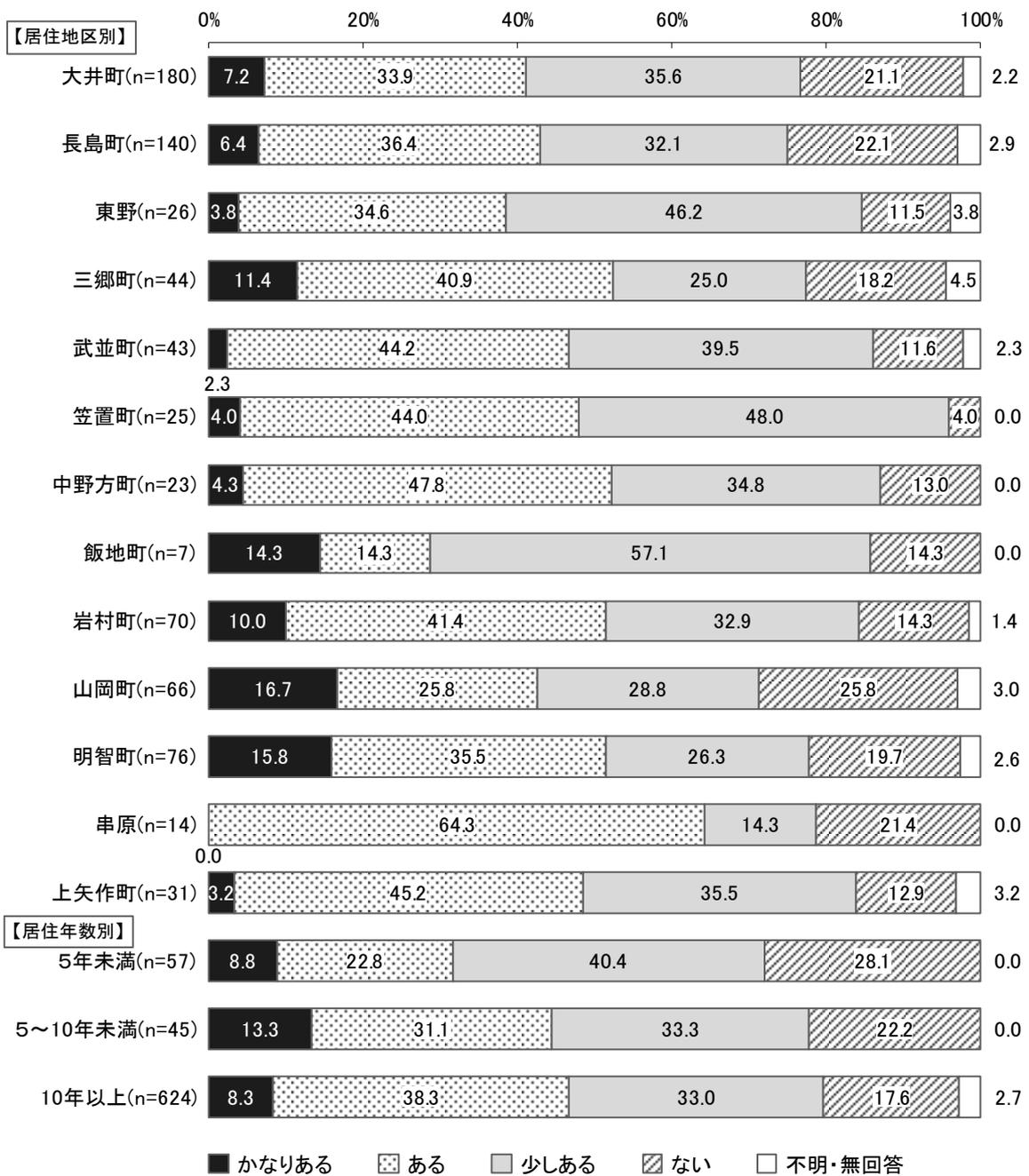
『ある』 … 「かなりある」と「ある」の合算

生活のことで日頃不安に思っていることは、R3調査で『ある』が45.4%、「少しある」が33.4%、「ない」が18.4%になっています。

年齢区分別では、30歳代以上で『ある』が約4～5割となっています。

居住地区別では、串原で『ある』が64.3%と高くなっています。





## 問9-1 それはどのようなことですか。(複数回答)

\*問9で「1 かなりある」「2 ある」と答えた方のみへの質問

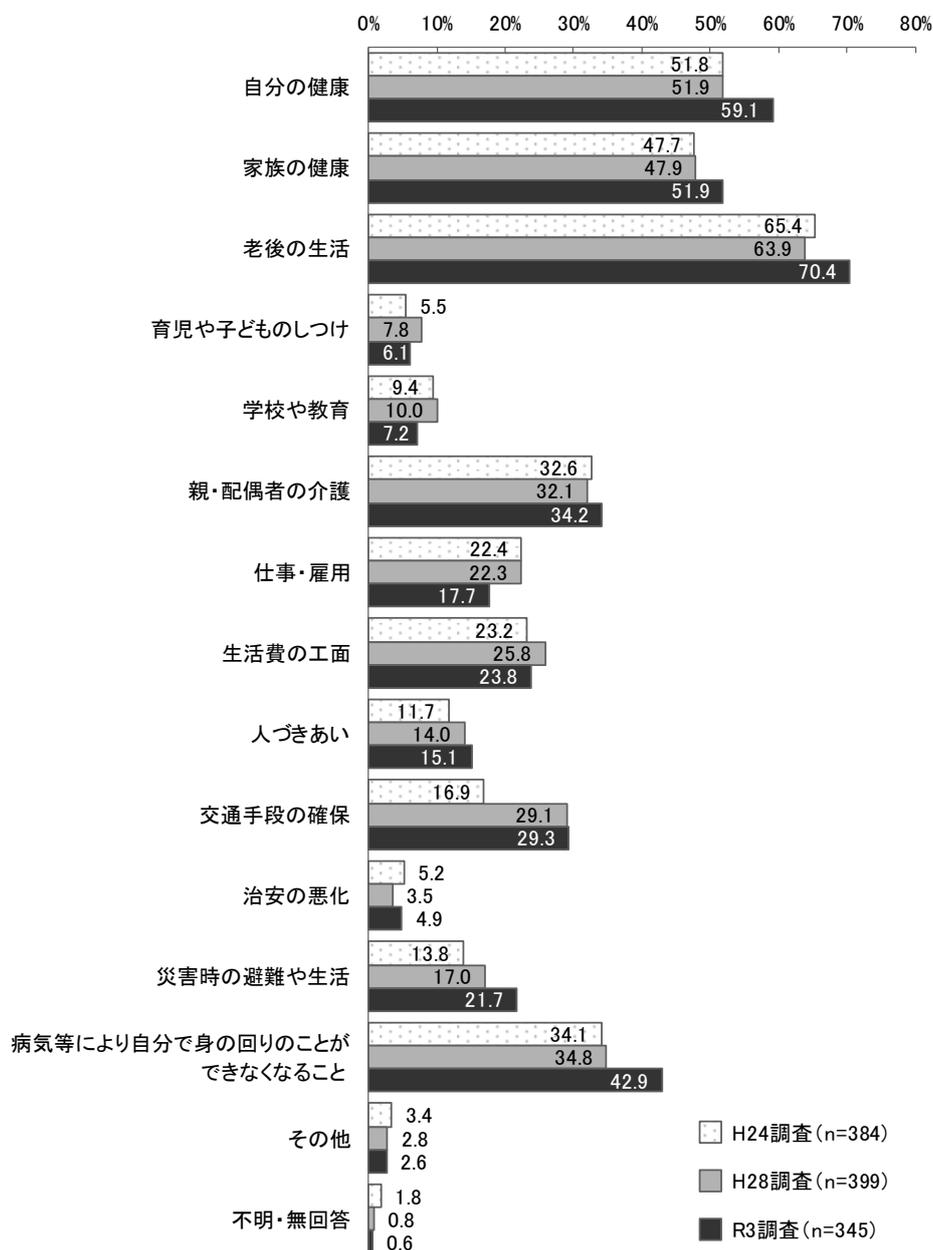
日頃、不安に思っていることは、R3調査で「老後の生活」が70.4%と最も高く、次いで「自分の健康」が59.1%となっています。経年比較すると、「自分の健康」「病気等により自分で身の回りのことができなくなること」が高くなっています。

年齢区分別では、30歳代で「仕事・雇用」「生活費の工面」が高くなっています。また、40歳代～60歳代で「老後の生活」が8割前後と高くなっています。

世帯構成別では、2世代世帯以上の多世代世帯で「親・配偶者の介護」が4割を超えています。

居住地区別では、中野方町及び上矢作町で「交通手段の確保」がそれぞれ50.0%、46.7%となっています。

居住年数別では、5年未満で「仕事・雇用」「生活費の工面」「災害時の避難や生活」が、5年以上と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	自分の健康	家族の健康	老後の生活	育児や子どものしつけ	学校や教育	親・配偶者の介護	仕事・雇用	生活費の工面	人づきあい	交通手段の確保	治安の悪化
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	12	25.0	25.0	25.0	16.7	8.3	33.3	16.7	16.7	0.0	8.3	0.0
30歳代	27	44.4	44.4	55.6	33.3	29.6	33.3	55.6	44.4	33.3	33.3	7.4
40歳代	37	45.9	54.1	75.7	16.2	21.6	45.9	27.0	27.0	18.9	21.6	2.7
50歳代	54	63.0	50.0	79.6	3.7	3.7	53.7	27.8	29.6	25.9	16.7	3.7
60歳代	84	63.1	64.3	81.0	1.2	3.6	39.3	15.5	25.0	13.1	29.8	7.1
70歳以上	109	69.7	46.8	65.1	0.9	1.8	17.4	1.8	14.7	8.3	41.3	4.6
【世帯構成別】												
ひとり暮らし(単身世帯)	29	62.1	13.8	65.5	3.4	6.9	6.9	13.8	27.6	20.7	27.6	10.3
夫婦のみ世帯	94	56.4	53.2	72.3	3.2	4.3	25.5	3.2	19.1	9.6	34.0	6.4
2世代世帯(親と未婚の子)	111	60.4	54.1	71.2	8.1	9.9	41.4	28.8	33.3	23.4	28.8	6.3
2世代世帯(親と子夫婦)	40	52.5	55.0	75.0	0.0	5.0	42.5	15.0	17.5	7.5	35.0	0.0
3世代以上の世帯(親と子夫婦と孫など)	48	64.6	60.4	66.7	10.4	8.3	43.8	27.1	14.6	10.4	29.2	0.0
その他	15	60.0	66.7	66.7	13.3	13.3	26.7	20.0	13.3	20.0	6.7	6.7
【居住地区別】												
大井町	74	60.8	40.5	70.3	8.1	8.1	27.0	13.5	27.0	13.5	25.7	4.1
長島町	60	53.3	55.0	75.0	8.3	8.3	38.3	18.3	23.3	15.0	25.0	8.3
東野	10	60.0	70.0	90.0	10.0	10.0	50.0	40.0	40.0	20.0	40.0	10.0
三郷町	23	47.8	43.5	56.5	0.0	4.3	21.7	17.4	17.4	8.7	17.4	8.7
武並町	20	70.0	65.0	75.0	10.0	10.0	30.0	30.0	25.0	20.0	20.0	5.0
笠置町	12	66.7	50.0	50.0	8.3	8.3	33.3	16.7	8.3	33.3	25.0	0.0
中野方町	12	50.0	66.7	58.3	8.3	0.0	25.0	16.7	16.7	0.0	50.0	0.0
飯地町	2	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
岩村町	36	77.8	52.8	75.0	2.8	0.0	38.9	8.3	27.8	19.4	22.2	2.8
山岡町	28	50.0	57.1	82.1	3.6	10.7	28.6	21.4	32.1	28.6	39.3	7.1
明智町	39	61.5	51.3	59.0	5.1	7.7	48.7	23.1	23.1	12.8	38.5	5.1
串原	9	22.2	11.1	55.6	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	22.2	0.0
上矢作町	15	53.3	73.3	80.0	0.0	6.7	46.7	20.0	13.3	0.0	46.7	0.0
【居住年数別】												
5年未満	18	55.6	50.0	44.4	22.2	27.8	38.9	27.8	55.6	33.3	38.9	11.1
5~10年未満	20	35.0	30.0	60.0	25.0	25.0	30.0	20.0	15.0	5.0	20.0	0.0
10年以上	291	60.5	53.6	72.5	4.1	5.2	35.1	17.2	22.3	14.4	29.6	5.2

■クロス集計(続)

(単位:%)

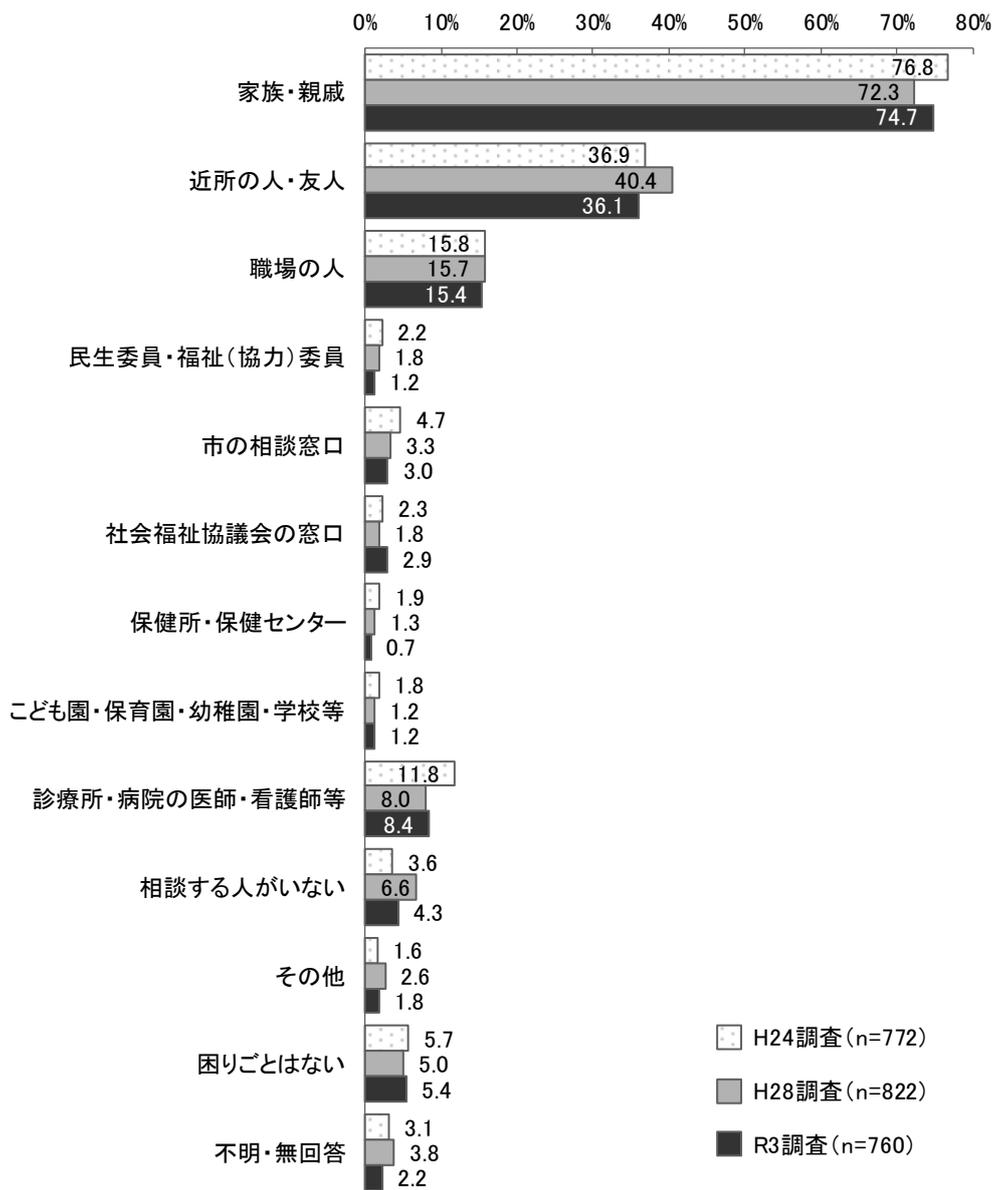
区分	n=	災害時の避難や生活	病気等により自分で身の回りのことができなくなる事	その他	不明・無回答
【年齢区分別】					
10歳代・20歳代	12	16.7	0.0	0.0	8.3
30歳代	27	25.9	25.9	7.4	0.0
40歳代	37	32.4	32.4	2.7	0.0
50歳代	54	24.1	38.9	3.7	1.9
60歳代	84	20.2	51.2	3.6	0.0
70歳以上	109	17.4	51.4	0.9	0.0
【世帯構成別】					
ひとり暮らし(単身世帯)	29	13.8	51.7	3.4	0.0
夫婦のみ世帯	94	26.6	42.6	0.0	0.0
2世代世帯(親と未婚の子)	111	21.6	39.6	3.6	0.0
2世代世帯(親と子夫婦)	40	20.0	40.0	7.5	0.0
3世代以上の世帯(親と子夫婦と孫など)	48	16.7	50.0	0.0	2.1
その他	15	33.3	40.0	6.7	0.0
【居住地区別】					
大井町	74	21.6	40.5	1.4	0.0
長島町	60	15.0	41.7	1.7	1.7
東野	10	60.0	50.0	0.0	0.0
三郷町	23	21.7	30.4	0.0	0.0
武並町	20	10.0	45.0	0.0	0.0
笠置町	12	25.0	50.0	8.3	0.0
中野方町	12	25.0	66.7	0.0	0.0
飯地町	2	50.0	100.0	0.0	0.0
岩村町	36	16.7	47.2	2.8	0.0
山岡町	28	17.9	60.7	0.0	0.0
明智町	39	30.8	33.3	7.7	0.0
串原	9	11.1	22.2	11.1	0.0
上矢作町	15	26.7	26.7	6.7	6.7
【居住年数別】					
5年未満	18	38.9	22.2	5.6	0.0
5~10年未満	20	15.0	25.0	5.0	5.0
10年以上	291	20.6	45.4	1.7	0.3

問 10 あなたは、日常生活での困りごとについて、誰に相談していますか。(複数回答)

日常生活での困りごとの相談相手は、R3 調査で「家族・親戚」が 74.7%と最も高く、次いで「近所の人・友人」が 36.1%となっています。

世帯構成別では、ひとり暮らし（単身世帯）で「相談する人がいない」が 13.6%と、他の世帯構成と比べて高くなっています。

居住地区別では、東野及び上矢作町で「近所の人・友人」が5割を超えています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	家族・親戚	近所の人・友人	職場の人	民生委員・福祉(協力)委員	市の相談窓口	社会福祉協議会の窓口	保健所・保健センター	学校等 こども園・保育園・幼稚園・	診療所・病院の医師・看護 師等	相談する人がいない	その他
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	79.5	34.1	22.7	0.0	2.3	2.3	0.0	0.0	4.5	2.3	0.0
30歳代	61	83.6	39.3	27.9	0.0	0.0	3.3	1.6	3.3	3.3	4.9	1.6
40歳代	93	76.3	33.3	30.1	1.1	1.1	2.2	0.0	4.3	3.2	5.4	0.0
50歳代	119	74.8	35.3	27.7	1.7	2.5	2.5	1.7	0.8	6.7	5.9	3.4
60歳代	179	78.8	38.5	8.4	1.1	4.5	2.8	0.6	0.6	8.4	2.2	2.8
70歳以上	214	69.6	34.6	4.2	1.4	3.7	3.3	0.0	0.5	13.6	5.6	1.9
【世帯構成別】												
ひとり暮らし (単身世帯)	66	45.5	39.4	13.6	3.0	3.0	4.5	3.0	1.5	9.1	13.6	3.0
夫婦のみ世帯	184	82.1	38.6	10.3	1.1	1.1	2.2	1.1	0.0	10.3	2.7	1.1
2世代世帯(親 と未婚の子)	249	72.7	32.5	16.1	0.8	3.6	3.2	0.0	1.6	4.0	5.6	2.0
2世代世帯 (親と子夫婦)	92	78.3	41.3	18.5	0.0	2.2	2.2	0.0	1.1	12.0	0.0	1.1
3世代以上の 世帯(親と子夫 婦と孫など)	113	81.4	31.0	21.2	0.9	1.8	2.7	0.9	0.9	8.8	3.5	1.8
その他	31	80.6	41.9	16.1	6.5	16.1	3.2	0.0	3.2	9.7	0.0	6.5
【居住地区別】												
大井町	180	71.1	32.8	14.4	1.1	1.7	2.8	0.6	1.1	7.2	6.1	2.2
長島町	140	72.1	35.0	13.6	0.0	2.9	3.6	0.7	0.7	7.9	5.7	2.1
東野	26	84.6	61.5	11.5	0.0	3.8	3.8	0.0	3.8	3.8	0.0	0.0
三郷町	44	77.3	31.8	11.4	0.0	6.8	2.3	0.0	0.0	4.5	2.3	0.0
武並町	43	90.7	27.9	18.6	0.0	7.0	0.0	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0
笠置町	25	76.0	48.0	16.0	4.0	0.0	0.0	4.0	0.0	8.0	0.0	8.0
中野方町	23	91.3	30.4	13.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	13.0	4.3	0.0
飯地町	7	100.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
岩村町	70	70.0	34.3	12.9	0.0	5.7	5.7	0.0	1.4	10.0	5.7	2.9
山岡町	66	78.8	40.9	24.2	1.5	4.5	3.0	0.0	1.5	6.1	3.0	1.5
明智町	76	65.8	35.5	14.5	3.9	2.6	3.9	0.0	2.6	14.5	6.6	2.6
串原	14	78.6	35.7	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0
上矢作町	31	77.4	51.6	22.6	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0
【居住年数別】												
5年未満	57	78.9	40.4	31.6	0.0	1.8	1.8	0.0	1.8	3.5	5.3	0.0
5~10年未満	45	77.8	42.2	28.9	0.0	2.2	0.0	0.0	4.4	0.0	4.4	2.2
10年以上	624	74.2	35.6	13.3	1.1	3.0	3.2	0.8	1.0	9.0	4.3	2.1

■クロス集計(続)

(単位:%)

区分	n=	困り ことはない	不明・ 無回答
<b>【年齢区分別】</b>			
10歳代・20歳代	44	11.4	0.0
30歳代	61	1.6	0.0
40歳代	93	4.3	1.1
50歳代	119	3.4	0.8
60歳代	179	5.0	1.7
70歳以上	214	7.0	2.8
<b>【世帯構成別】</b>			
ひとり暮らし (単身世帯)	66	10.6	4.5
夫婦のみ世帯	184	6.0	1.6
2世代世帯(親 と未婚の子)	249	5.2	0.8
2世代世帯 (親と子夫婦)	92	6.5	1.1
3世代以上の 世帯(親と子夫 婦と孫など)	113	2.7	1.8
その他	31	0.0	3.2
<b>【居住地区別】</b>			
大井町	180	8.3	1.7
長島町	140	3.6	2.1
東野	26	0.0	3.8
三郷町	44	2.3	6.8
武並町	43	4.7	2.3
笠置町	25	4.0	0.0
中野方町	23	0.0	0.0
飯地町	7	0.0	0.0
岩村町	70	7.1	1.4
山岡町	66	3.0	1.5
明智町	76	6.6	1.3
串原	14	7.1	0.0
上矢作町	31	9.7	0.0
<b>【居住年数別】</b>			
5年未満	57	3.5	1.8
5～10年未満	45	0.0	4.4
10年以上	624	5.9	1.6

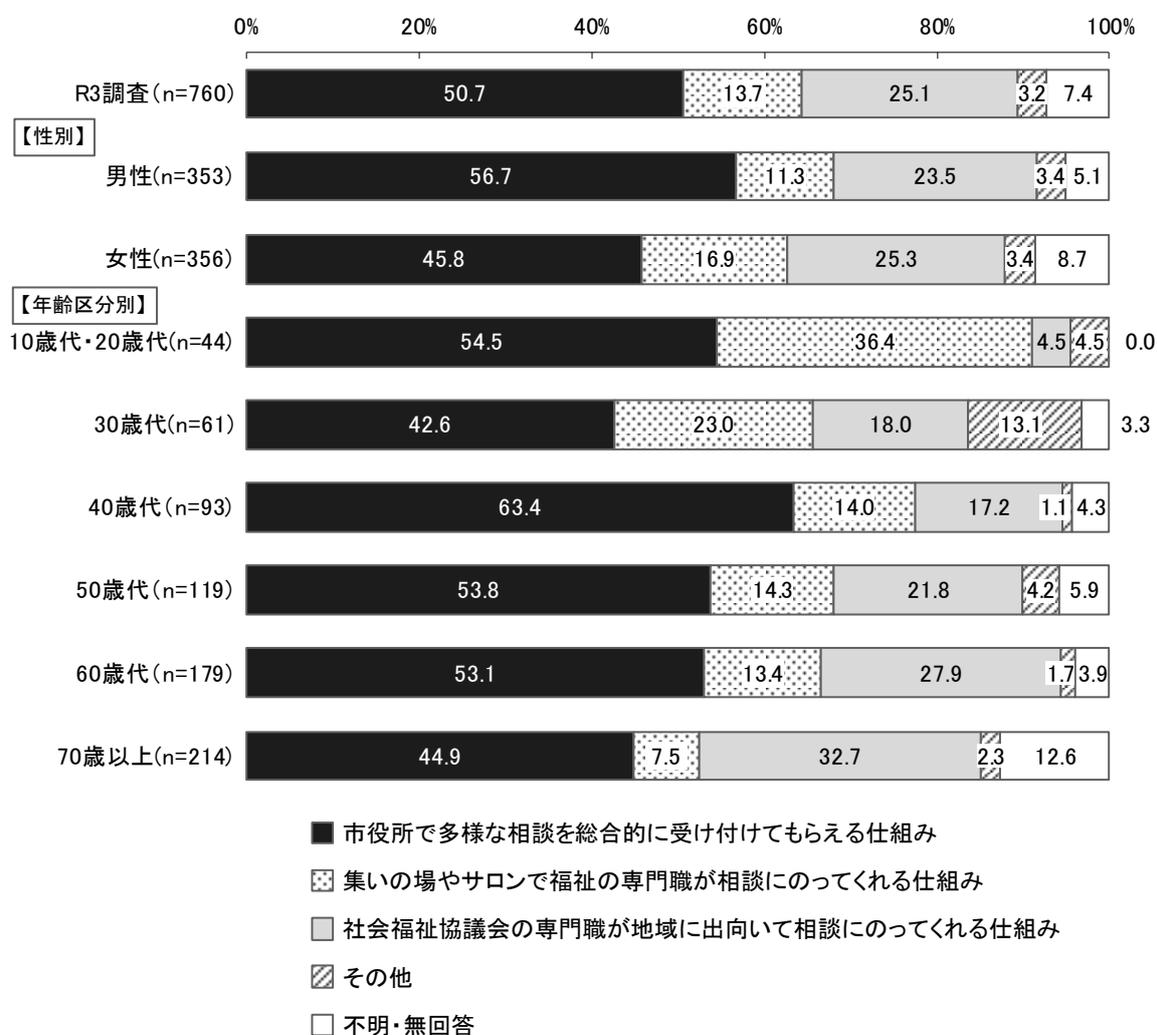
問 11 日常生活に困りごとがあったときや、気がかりな人に気づいたとき、どのような仕組みがあると解決に向けて行動ができますか。（単数回答）

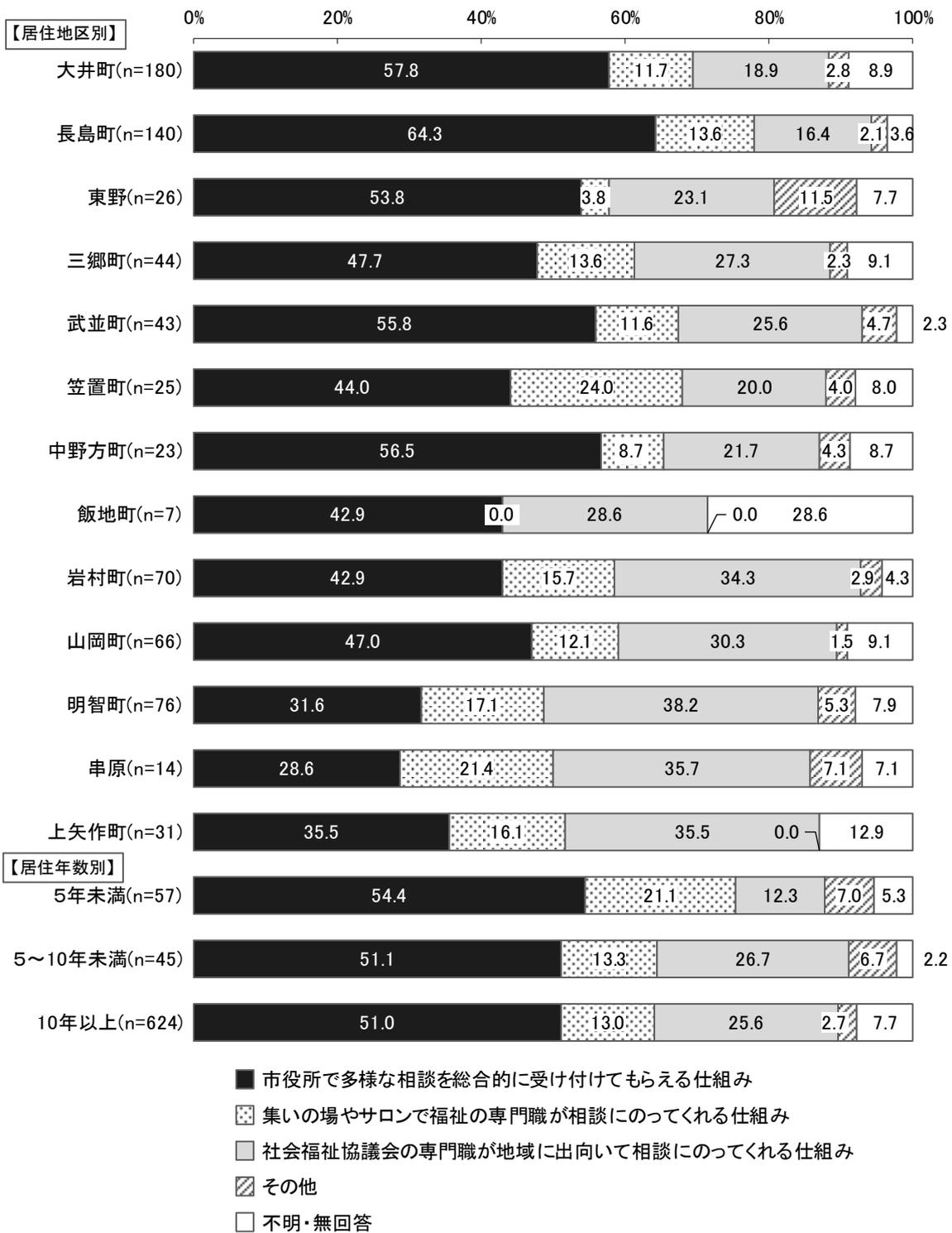
日常生活での困りごとや気がかりな人に気づいたときにどのような仕組みがあると解決に向けた行動ができると思うかは、「市役所で多様な相談を総合的に受け付けてもらえる仕組み」が50.7%と最も高く、次いで「社会福祉協議会の専門職が地域に出向いて相談にのってくれる仕組み」が25.1%となっています。

性別では、男性で「市役所で多様な相談を総合的に受け付けてもらえる仕組み」が56.7%と、女性と比べて10.9ポイント高くなっています。

年齢区分別では、10歳代・20歳代で「集いの場やサロンで福祉の専門職が相談にのってくれる仕組み」が36.4%と、他の年代と比べて高くなっています。

居住地区別では、笠置町及び串原で「集いの場やサロンで福祉の専門職が相談にのってくれる仕組み」が2割を超えています。また、岩村町、山岡町、明智町、串原及び上矢作町で「社会福祉協議会の専門職が地域に出向いて相談にのってくれる仕組み」が3割を超えています。



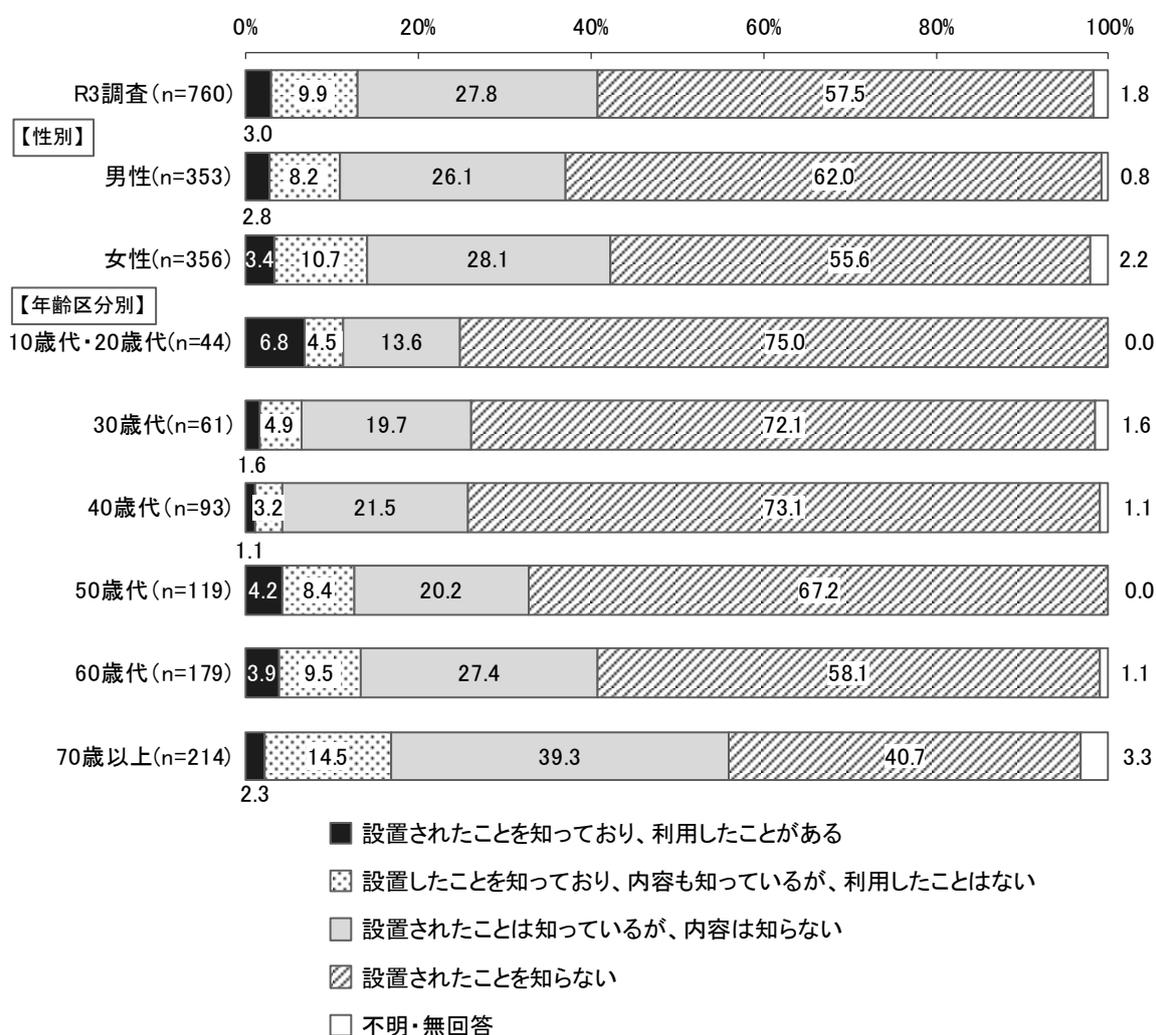


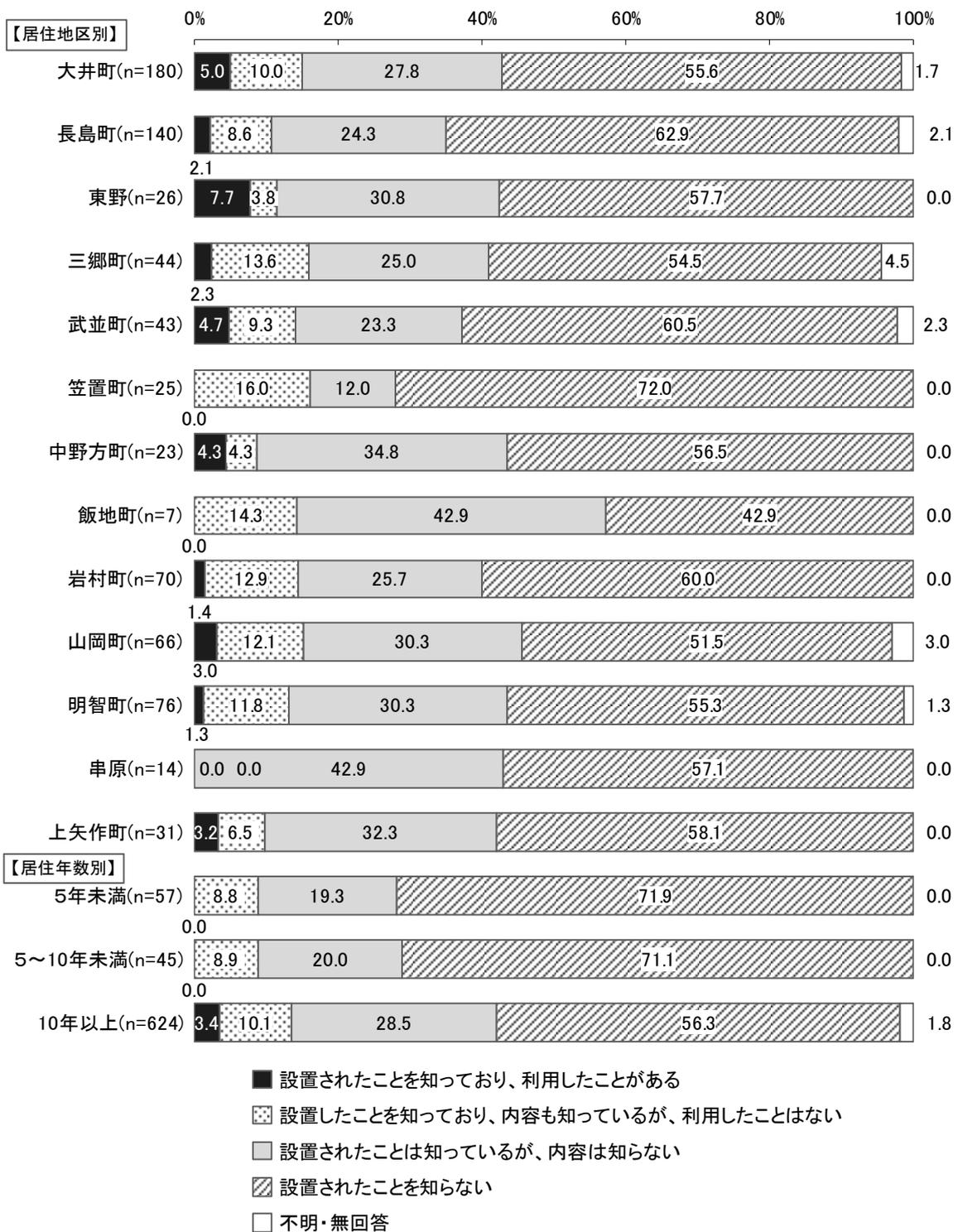
## 問 12 あなたは、「恵那市福祉総合相談窓口」を知っていますか。(単数回答)

「恵那市福祉総合相談窓口」を知っているかは、「設置されたことを知らない」が 57.5%と最も高く、次いで「設置されたことは知っているが、内容は知らない」が 27.8%となっています。なお、設置されたことを知っている人は、約 4 割となっています。

年齢区分別では、10 歳代・20 歳代で「設置されたことを知っており、利用したことがある」が 6.8%と、他の年代と比べて高くなっています。なお、40 歳代以下で「設置されたことを知らない」が 7 割を超えています。

居住地区別では、「設置されたことを知っており、利用したことがある」が最も高い地区で東野の 7.7%となっています。なお、笠置町で「設置されたことを知らない」が 72.0%と、他の居住地区と比べて高くなっています。

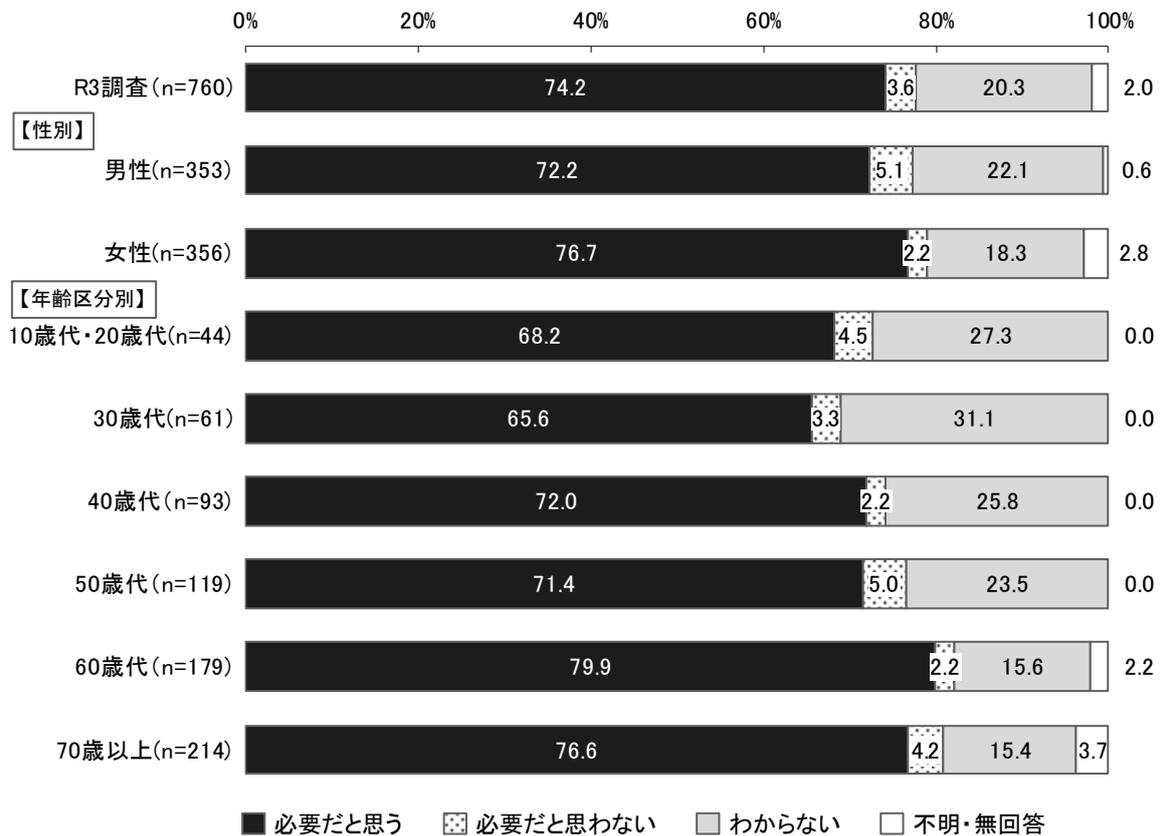




問 13 「恵那市福祉総合相談窓口」のような行政や社会福祉協議会がより身近な地域に出していく施策が必要だと思いますか。(単数回答)

行政や社協がより身近な地域に出していく施策が必要だと思うかは、「必要だと思う」が74.2%、「必要だと思わない」が3.6%、「わからない」が20.3%となっています。

年齢区分別では、40歳代以上で「必要だと思う」が7割を超えています。



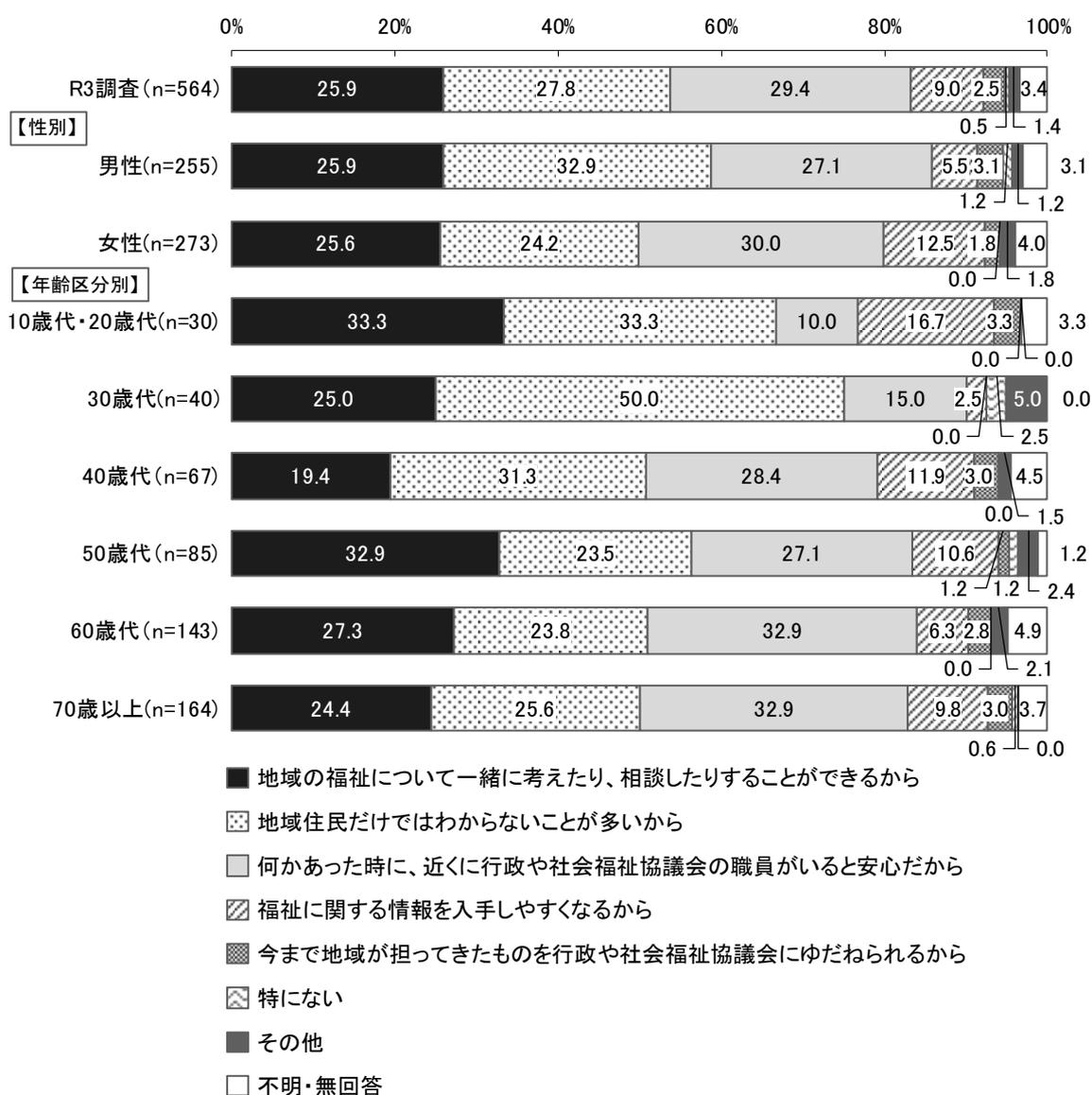
## 問 13-1 問 13 の回答を選んだ理由は何ですか。(単数回答)

\*問 13 で「1 必要だと思う」と答えた方のみへの質問

行政や社協がより身近な地域に出ていく施策が必要だと思う理由は、「何かあった時に、近くに行政や社会福祉協議会の職員がいると安心だから」が 29.4%と最も高く、次いで「地域住民だけではわからないことが多いから」が 27.8%となっています。

性別では、男性で「地域住民だけではわからないことが多いから」が 32.9%と、女性と比べて 8.7 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、30 歳代で「地域住民だけではわからないことが多いから」が 50.0%と、他の年代と比べて高くなっています。また、60 歳代以上で「何かあった時に、近くに行政や社会福祉協議会の職員がいると安心だから」が 3 割強となっています。



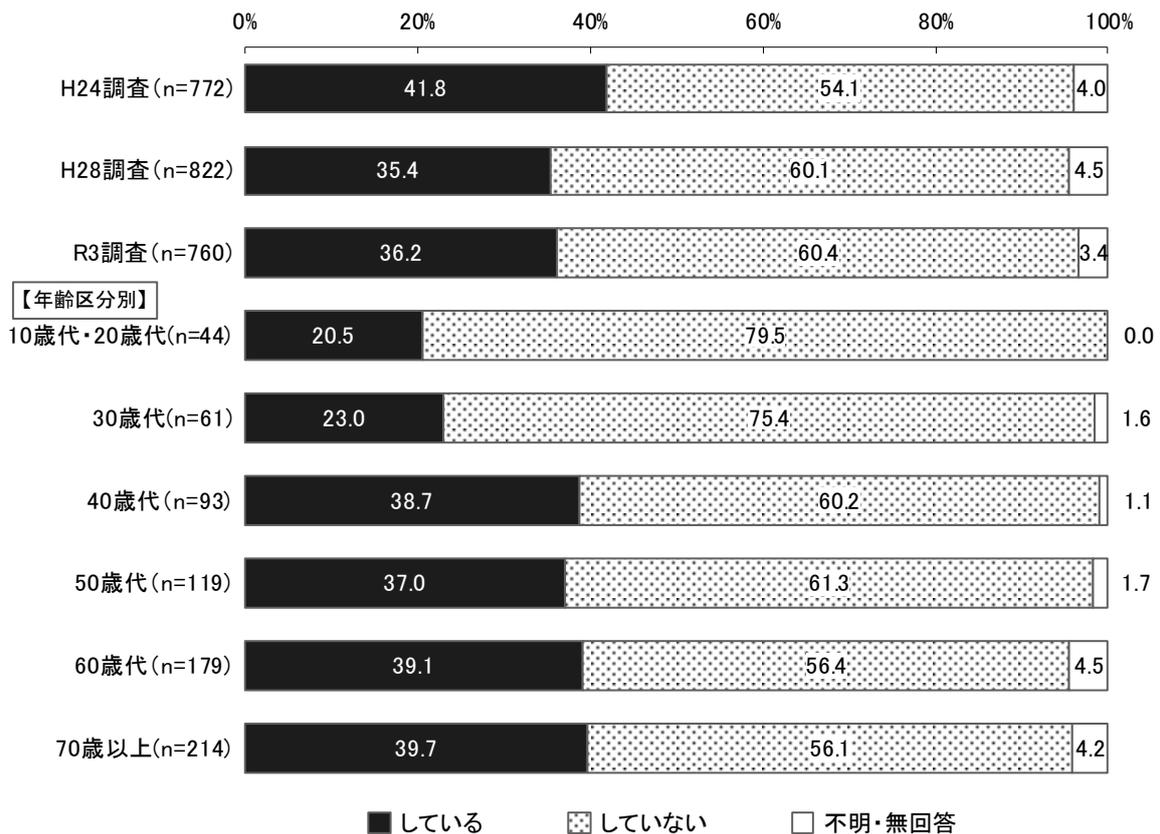
## 問 14 日頃、お住まいの地域で助け合いをされていますか。(単数回答)

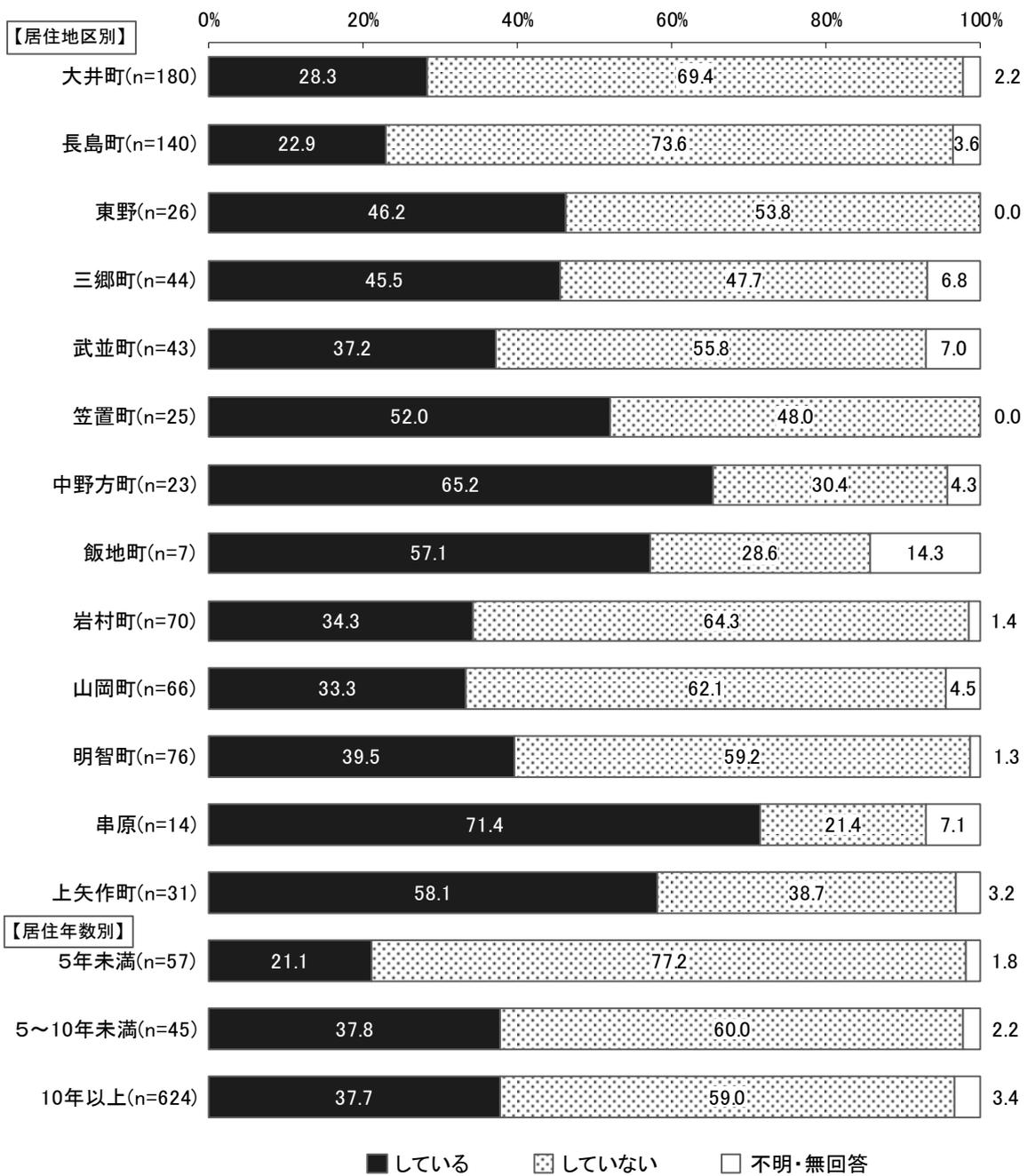
住んでいる地域で助け合いをしているかは、R3 調査で「している」が 36.2%、「していない」が 60.4%となっています。

年齢区分別では、40 歳代以上で「している」が約 4 割となっています。

居住地区別では、中野方町及び串原で「している」が 6 割を超えています。

居住年数別では、5 年以上で「している」が約 4 割となっています。





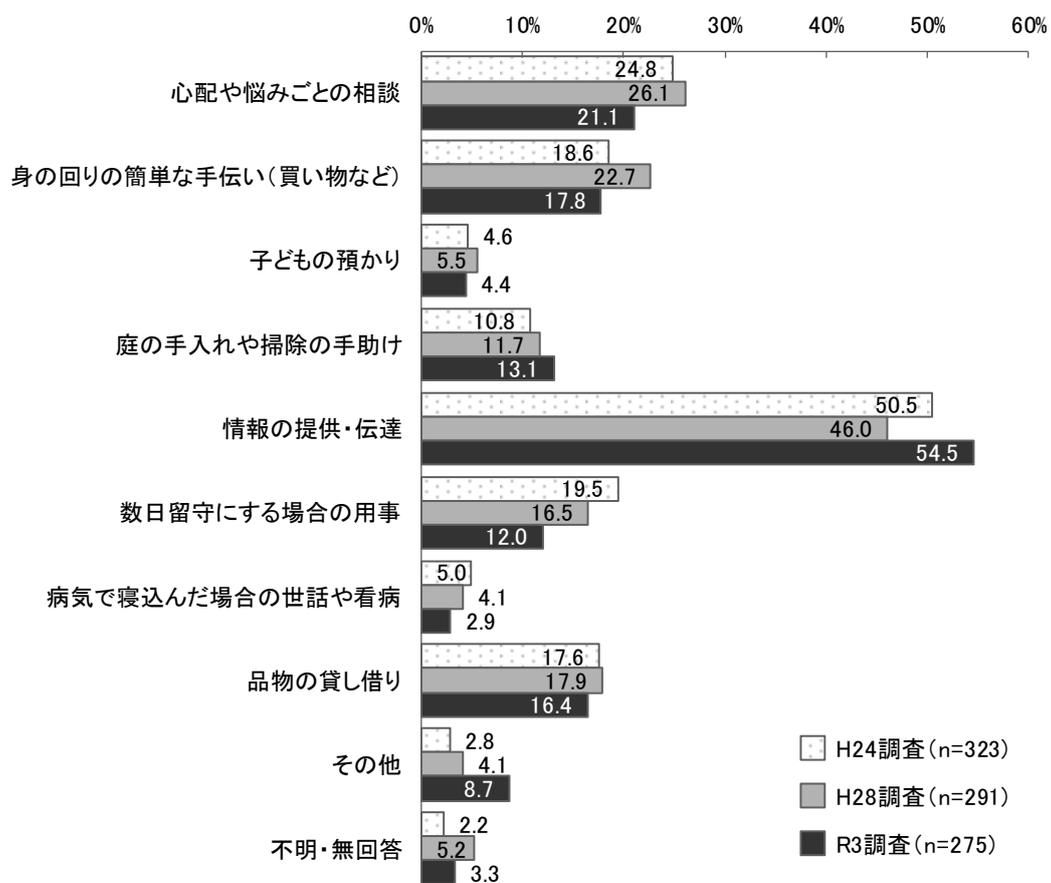
## 問 14-1 どのようなことをされていますか。(複数回答)

\*問 14で「1 している」と答えた方のみへの質問

地域での助け合いの内容は、R3 調査で「情報の提供・伝達」が 54.5%と最も高く、次いで「心配や悩みごとの相談」が 21.1%となっています。経年比較すると、「情報の提供・伝達」が H28 調査と比べて 8.5 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、40 歳代以上で「情報の提供・伝達」が 5 割以上と高くなっています。

居住地区別では、山岡町で「身の回りの簡単な手伝い（買い物など）」が 36.4%と、他の居住地区と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	心配や悩みごとの相談	身の回りの簡単な手伝い (買い物など)	子どもの預かり	庭の手入れや掃除の手助け	情報の提供・伝達	数日留守にする場合の用事	病気で寝込んだ場合の世話や看病	品物の貸し借り	その他	不明・無回答
【年齢区分別】											
10歳代・20歳代	9	22.2	0.0	0.0	22.2	77.8	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
30歳代	14	35.7	0.0	7.1	21.4	21.4	7.1	0.0	28.6	14.3	0.0
40歳代	36	13.9	13.9	13.9	11.1	52.8	5.6	0.0	11.1	5.6	2.8
50歳代	44	15.9	15.9	6.8	13.6	61.4	18.2	4.5	18.2	9.1	4.5
60歳代	70	18.6	18.6	1.4	12.9	57.1	12.9	2.9	12.9	7.1	2.9
70歳以上	85	27.1	24.7	2.4	12.9	51.8	12.9	3.5	17.6	12.9	3.5
【居住地区別】											
大井町	51	17.6	17.6	3.9	13.7	52.9	15.7	2.0	5.9	11.8	5.9
長島町	32	15.6	15.6	0.0	21.9	50.0	9.4	3.1	9.4	9.4	3.1
東野	12	25.0	16.7	8.3	0.0	66.7	33.3	0.0	16.7	8.3	0.0
三郷町	20	25.0	15.0	5.0	10.0	65.0	10.0	5.0	25.0	0.0	0.0
武並町	16	12.5	0.0	6.3	25.0	43.8	0.0	0.0	25.0	12.5	0.0
笠置町	13	7.7	23.1	15.4	0.0	53.8	23.1	0.0	23.1	7.7	0.0
中野方町	15	26.7	26.7	6.7	6.7	46.7	0.0	6.7	33.3	0.0	6.7
飯地町	4	50.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0
岩村町	24	29.2	20.8	12.5	4.2	62.5	8.3	4.2	12.5	12.5	0.0
山岡町	22	27.3	36.4	0.0	18.2	45.5	9.1	4.5	18.2	13.6	0.0
明智町	30	33.3	10.0	0.0	13.3	53.3	10.0	3.3	20.0	3.3	3.3
串原	10	0.0	20.0	0.0	10.0	50.0	0.0	0.0	40.0	30.0	0.0
上矢作町	18	11.1	22.2	5.6	22.2	61.1	33.3	5.6	11.1	5.6	5.6
【居住年数別】											
5年未満	12	41.7	8.3	8.3	33.3	33.3	8.3	0.0	41.7	0.0	0.0
5～10年未満	17	29.4	17.6	11.8	0.0	35.3	11.8	5.9	11.8	5.9	11.8
10年以上	235	19.6	18.7	3.4	13.6	56.6	11.9	3.0	15.3	9.4	2.6

## 4 ボランティア活動について

### 問 15 この1年間にボランティア活動をしたことがありますか。(単数回答)

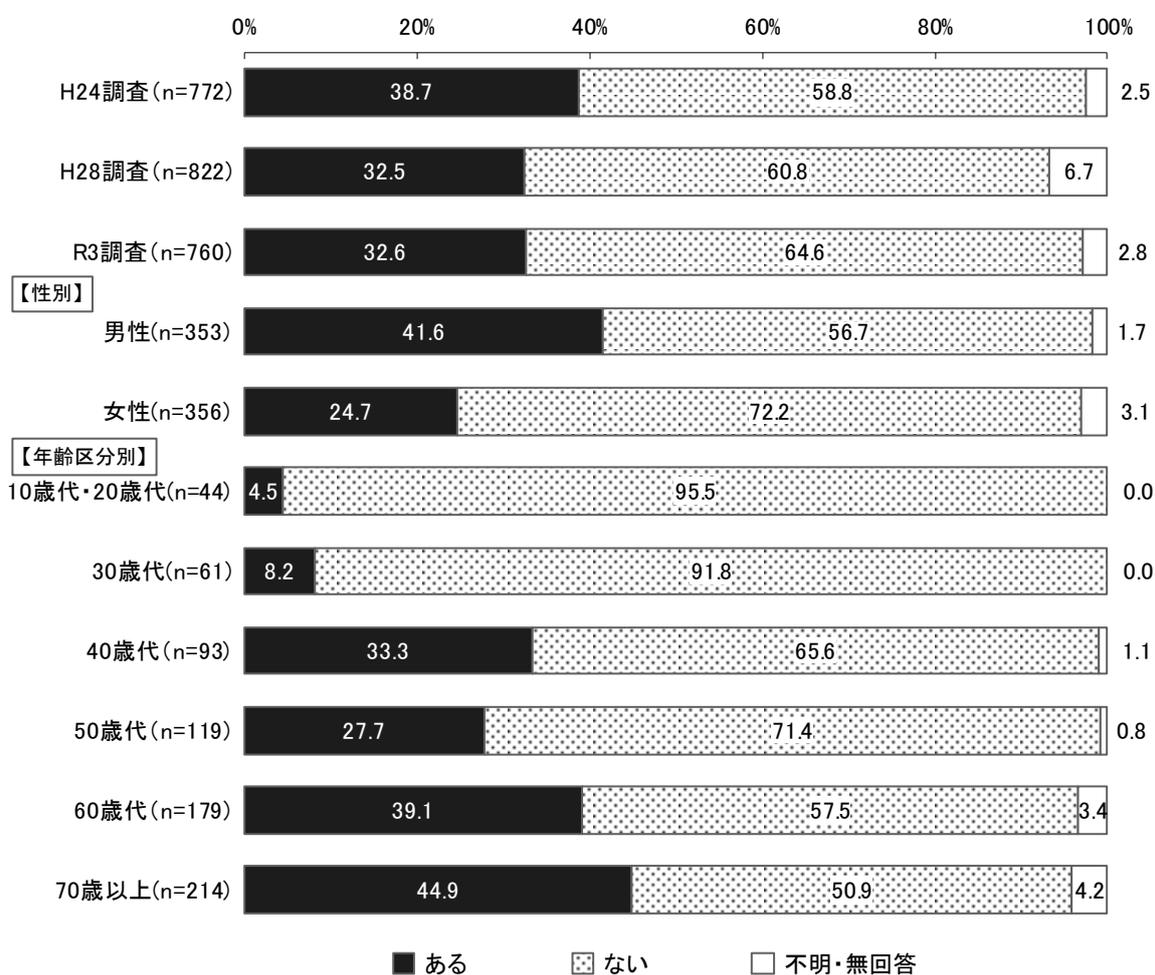
この1年間でボランティア活動の経験は、R3調査で「ある」が32.6%、「ない」が64.6%となっています。

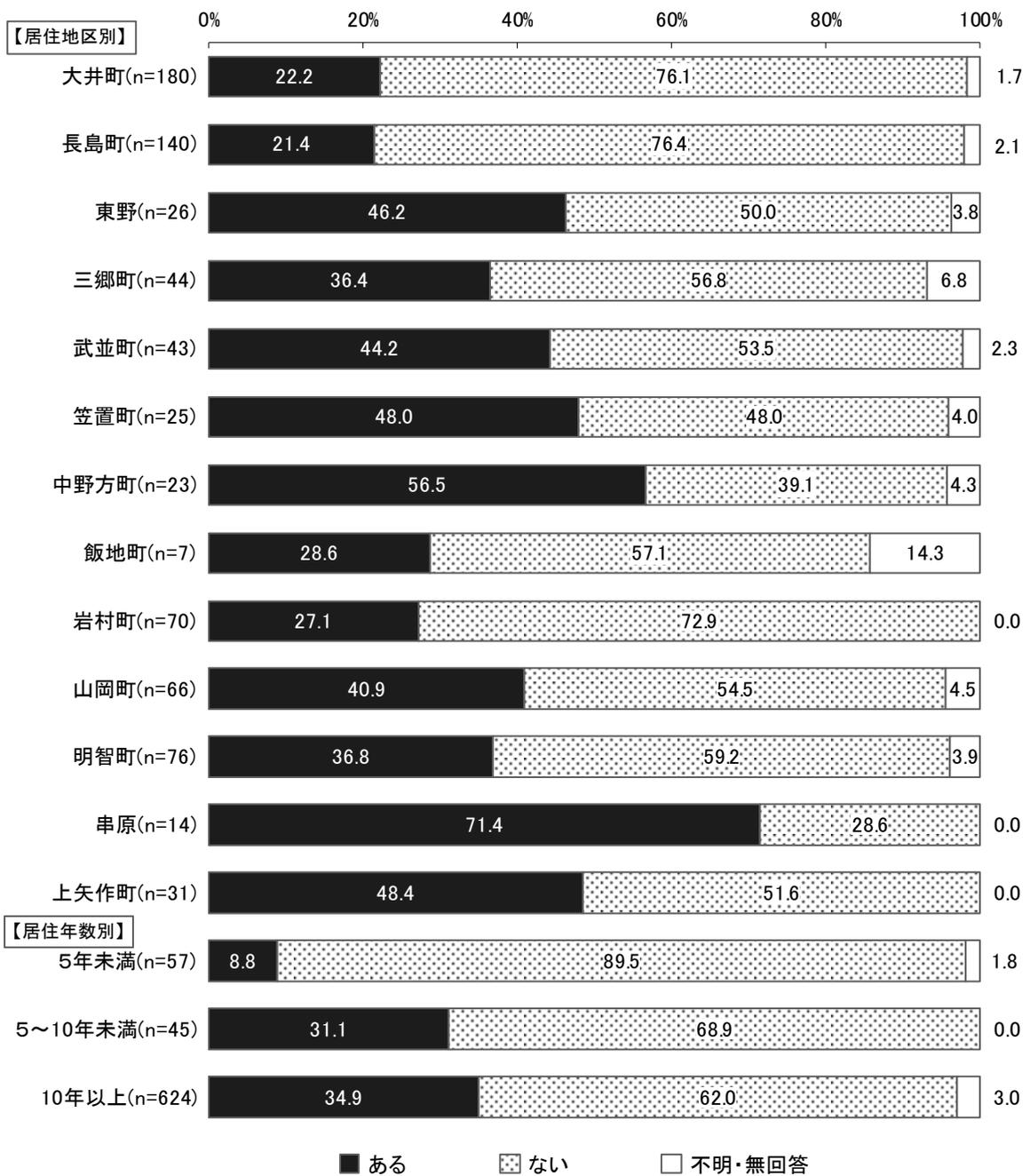
性別では、男性で「ある」が41.6%と、女性と比べて16.9ポイント高くなっています。

年齢区分別では、40歳代及び60歳代以上で「ある」が3割を超えています。

居住地区別では、串原で「ある」が71.4%と高くなっています。

居住年数別では、居住年数が増えるにつれて「ある」が高くなっています。





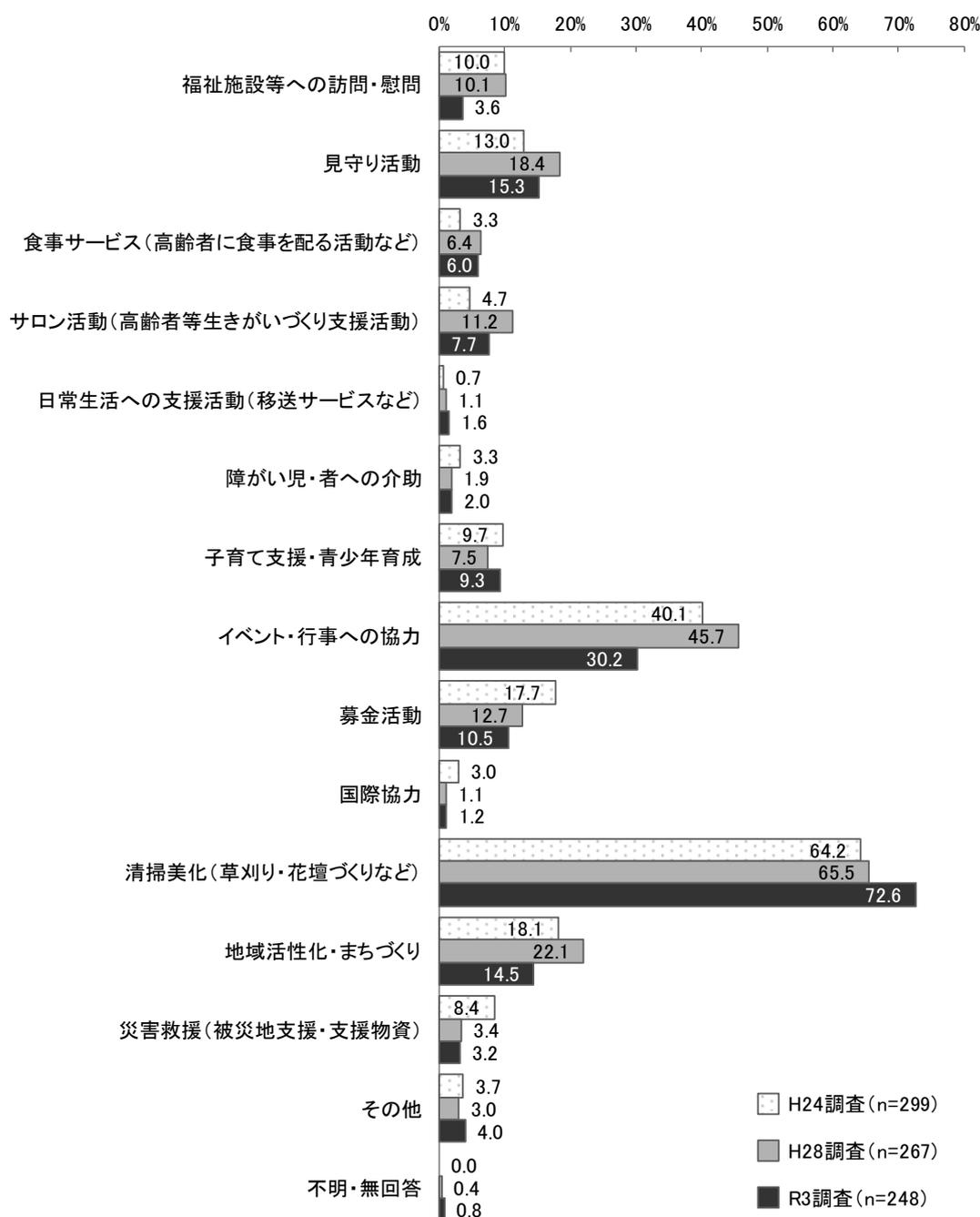
## 問 15-1 どのようなボランティア活動をされましたか。(複数回答)

\*問 15 で「1 ある」と答えた方のみへの質問

ボランティア活動の内容は、R3 調査で「清掃美化（草刈り・花壇づくりなど）」が 72.6%と最も高く、次いで「イベント・行事への協力」が 30.2%となっています。経年比較すると、コロナ禍の影響も大きく、「イベント・行事への協力」が H28 調査と比べて 15.5 ポイント低くなっています。

性別では、男性で「清掃美化（草刈り・花壇づくりなど）」が 81.0%と、女性と比べて 23.0 ポイント高くなっています。なお、「食事サービス（高齢者に食事を配る活動など）」「サロン活動（高齢者等生きがいがづくり支援活動）」の割合は、女性が 10 ポイント以上の差で高くなっています。

居住地区別では、笠置町で「イベント・行事への協力」が 58.3%と高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	福祉施設等への訪問・慰問	見守り活動	食事サービス(高齢者に食事を配る活動など)	サロン活動(高齢者等生きがいづくり支援活動)	日常生活への支援活動(移送サービスなど)	障がい児・者への介助	子育て支援・青少年育成	イベント・行事への協力	募金活動	国際協力	清掃美化(草刈り・花壇づくりなど)
【性別】												
男性	147	2.7	13.6	1.4	2.7	0.7	1.4	8.2	31.3	9.5	1.4	81.0
女性	88	5.7	17.0	12.5	15.9	2.3	3.4	10.2	28.4	11.4	1.1	58.0
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0
40歳代	31	0.0	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	32.3	32.3	6.5	0.0	64.5
50歳代	33	0.0	12.1	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	24.2	9.1	0.0	78.8
60歳代	70	8.6	17.1	5.7	7.1	2.9	2.9	5.7	35.7	11.4	1.4	71.4
70歳以上	96	3.1	17.7	9.4	14.6	2.1	0.0	5.2	28.1	10.4	2.1	76.0
【居住地区別】												
大井町	40	2.5	17.5	2.5	7.5	2.5	2.5	12.5	30.0	10.0	2.5	57.5
長島町	30	6.7	13.3	0.0	3.3	0.0	0.0	10.0	26.7	6.7	0.0	73.3
東野	12	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7	16.7	16.7	8.3	83.3
三郷町	16	0.0	18.8	6.3	6.3	0.0	6.3	25.0	18.8	18.8	0.0	75.0
武並町	19	0.0	21.1	10.5	5.3	0.0	0.0	10.5	21.1	5.3	5.3	73.7
笠置町	12	0.0	33.3	8.3	16.7	8.3	0.0	0.0	58.3	0.0	0.0	100.0
中野方町	13	0.0	23.1	23.1	7.7	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	69.2
飯地町	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
岩村町	19	5.3	21.1	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	31.6	21.1	0.0	84.2
山岡町	27	7.4	11.1	11.1	14.8	0.0	0.0	7.4	29.6	7.4	0.0	74.1
明智町	28	10.7	7.1	0.0	14.3	0.0	10.7	7.1	39.3	3.6	0.0	60.7
串原	10	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	10.0	0.0	100.0
上矢作町	15	0.0	13.3	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	66.7
【居住年数別】												
5年未満	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	80.0
5~10年未満	14	7.1	14.3	0.0	7.1	0.0	7.1	21.4	21.4	14.3	0.0	64.3
10年以上	218	3.7	16.1	6.4	8.3	1.8	0.9	8.7	30.3	10.1	1.4	72.9

■クロス集計(続)

(単位: %)

区分	n=	地域活性化・まちづくり	災害救援(被災地支援・支援物資)	その他	不明・無回答
【性別】					
男性	147	16.3	4.1	4.8	0.7
女性	88	11.4	1.1	3.4	1.1
【年齢区分別】					
10歳代・20歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	5	20.0	20.0	0.0	0.0
40歳代	31	16.1	6.5	3.2	0.0
50歳代	33	24.2	0.0	0.0	6.1
60歳代	70	11.4	0.0	5.7	0.0
70歳以上	96	11.5	4.2	5.2	0.0
【居住地区別】					
大井町	40	17.5	5.0	7.5	2.5
長島町	30	10.0	3.3	3.3	0.0
東野	12	8.3	0.0	8.3	0.0
三郷町	16	12.5	0.0	0.0	0.0
武並町	19	15.8	10.5	0.0	0.0
笠置町	12	33.3	0.0	0.0	0.0
中野方町	13	15.4	0.0	7.7	0.0
飯地町	2	0.0	0.0	0.0	0.0
岩村町	19	21.1	10.5	0.0	0.0
山岡町	27	7.4	3.7	0.0	3.7
明智町	28	14.3	0.0	7.1	0.0
串原	10	20.0	0.0	0.0	0.0
上矢作町	15	6.7	0.0	13.3	0.0
【居住年数別】					
5年未満	5	0.0	0.0	0.0	0.0
5~10年未満	14	14.3	0.0	7.1	7.1
10年以上	218	15.1	3.7	3.7	0.5

## 問 15-2 ボランティア活動をした（している）動機はどのようなことですか。（複数回答）

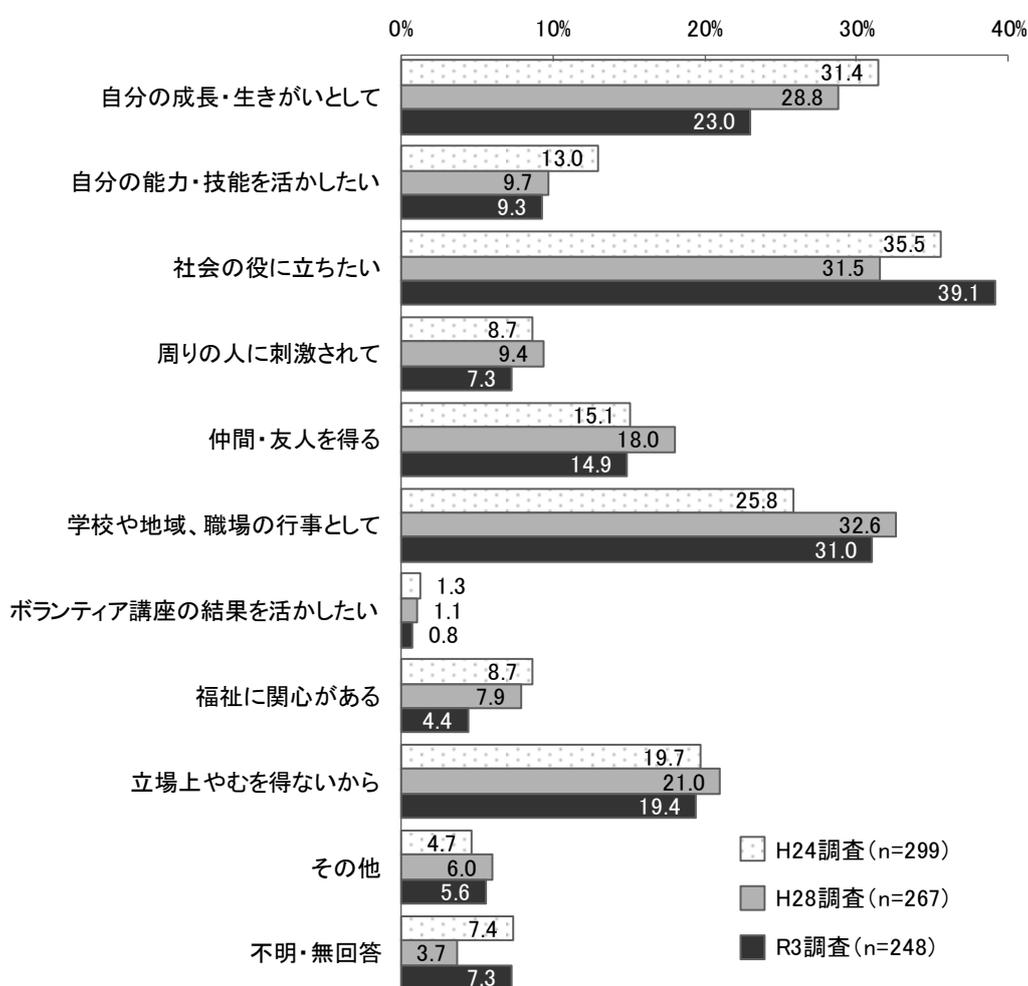
\*問 15 で「1 ある」と答えた方のみへの質問

ボランティア活動の動機は、R3 調査で「社会の役に立ちたい」が 39.1%と最も高く、次いで「学校や地域、職場の行事として」が 31.0%となっています。経年比較すると、「社会の役に立ちたい」が H24 調査及び H28 調査と比べて最も高くなっています。

性別では、女性で「自分の成長・生きがいとして」「仲間・友人を得る」が、男性と比べて 10 ポイント以上高くなっています。

年齢区分別では、40 歳代及び 50 歳代は「立场上やむを得ないから」が約 3 割となっています。

居住地区別では、三郷町、笠置町、明智町及び串原で「社会の役に立ちたい」が 50.0%以上となっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	自分の成長・生きがいとして	自分の能力・技能を活かしたい	社会の役に立ちたい	周りの人に刺激されて	仲間・友人を得る	学校や地域、職場の行事として	ボランティア講座の結果を活かしたい	福祉に関心がある	立场上やむを得ないから	その他	不明・無回答
【性別】												
男性	147	19.0	10.9	41.5	4.1	10.9	30.6	0.0	4.1	21.1	6.1	7.5
女性	88	30.7	6.8	34.1	13.6	21.6	34.1	2.3	5.7	15.9	5.7	4.5
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	2	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	5	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0
40歳代	31	22.6	9.7	35.5	6.5	6.5	48.4	0.0	0.0	25.8	6.5	3.2
50歳代	33	6.1	0.0	36.4	6.1	0.0	39.4	0.0	0.0	30.3	9.1	3.0
60歳代	70	21.4	8.6	40.0	10.0	10.0	31.4	1.4	7.1	20.0	4.3	7.1
70歳以上	96	31.3	13.5	40.6	6.3	26.0	22.9	1.0	6.3	13.5	6.3	8.3
【居住地区別】												
大井町	40	27.5	5.0	40.0	7.5	5.0	30.0	0.0	7.5	15.0	12.5	7.5
長島町	30	20.0	13.3	23.3	10.0	10.0	30.0	0.0	0.0	30.0	3.3	16.7
東野	12	16.7	0.0	25.0	0.0	25.0	8.3	0.0	8.3	25.0	16.7	8.3
三郷町	16	31.3	0.0	50.0	0.0	0.0	56.3	0.0	0.0	18.8	0.0	0.0
武並町	19	21.1	10.5	26.3	10.5	10.5	26.3	0.0	0.0	26.3	5.3	5.3
笠置町	12	25.0	16.7	58.3	0.0	25.0	25.0	0.0	8.3	25.0	0.0	8.3
中野方町	13	23.1	0.0	38.5	7.7	30.8	38.5	0.0	7.7	15.4	0.0	7.7
飯地町	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
岩村町	19	21.1	10.5	36.8	10.5	10.5	26.3	0.0	0.0	36.8	5.3	5.3
山岡町	27	18.5	3.7	25.9	0.0	14.8	40.7	0.0	7.4	18.5	7.4	7.4
明智町	28	28.6	14.3	57.1	14.3	25.0	21.4	3.6	10.7	10.7	0.0	7.1
串原	10	10.0	0.0	50.0	0.0	10.0	50.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0
上矢作町	15	26.7	33.3	40.0	20.0	33.3	33.3	6.7	0.0	6.7	6.7	0.0
【居住年数別】												
5年未満	5	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
5～10年未満	14	14.3	7.1	57.1	0.0	0.0	42.9	0.0	7.1	21.4	0.0	7.1
10年以上	218	24.3	9.2	36.7	8.3	16.5	31.2	0.9	4.1	20.2	6.0	7.3

## 問 16 今後ボランティア活動をしたい（続けたい）と思いますか。（単数回答）

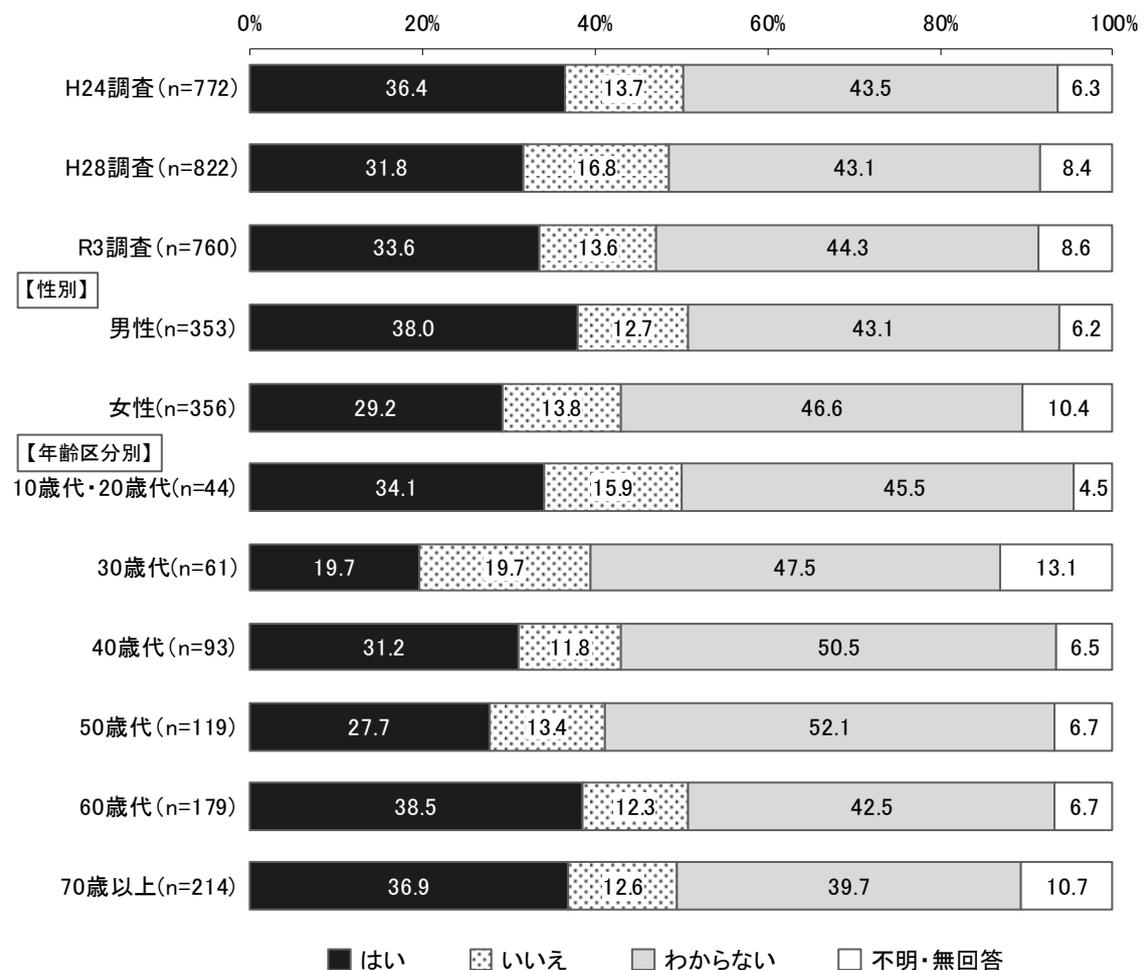
今後ボランティア活動をしたいかは、R3 調査で「はい」が 33.6%、「いいえ」が 13.6%、「わからない」が 44.3%となっています。

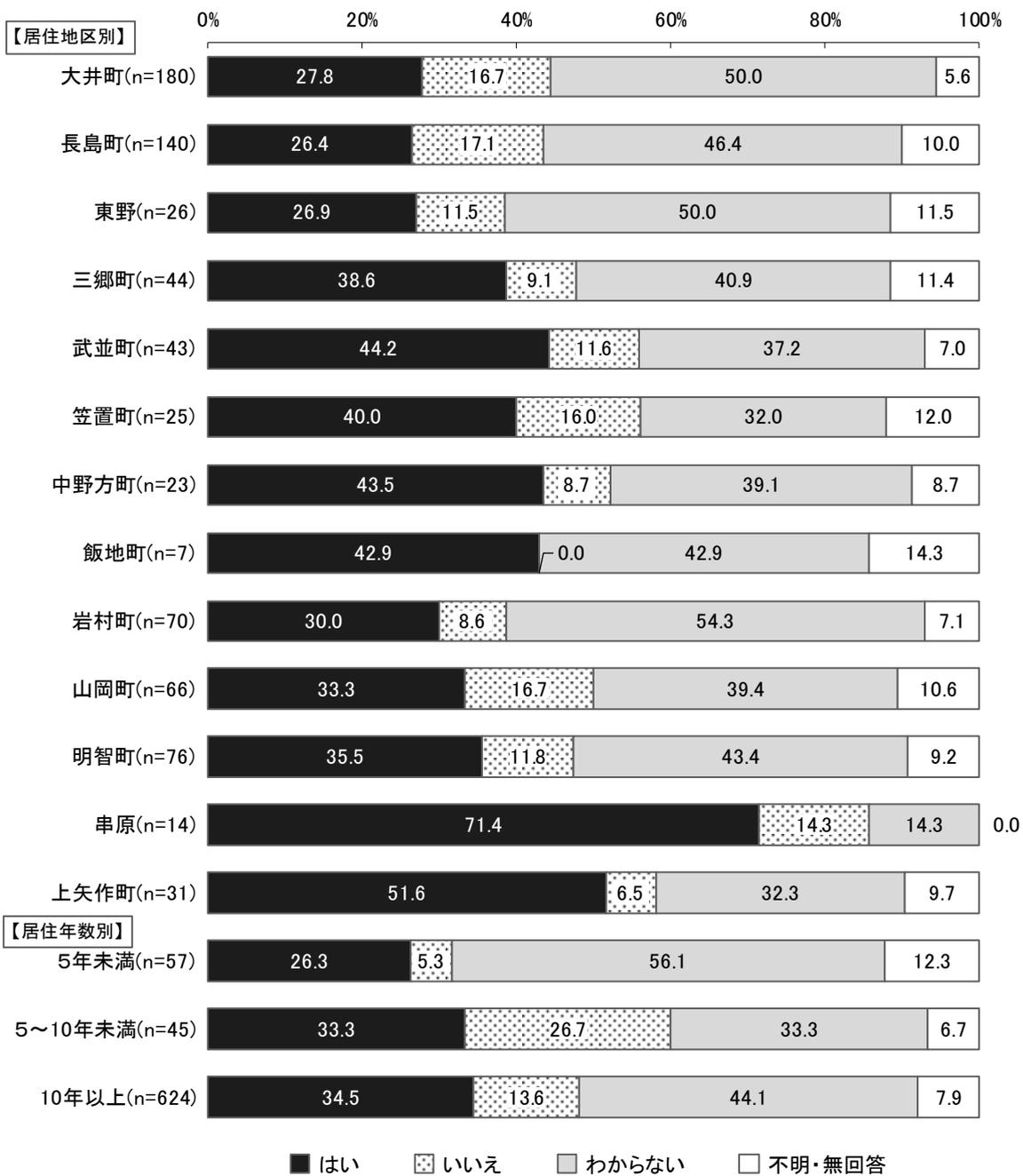
性別では、男性で「はい」が 38.0%と、女性と比べて 8.8 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、10 歳代・20 歳代及び 60 歳代以上で「はい」が 3 割を超えています。

居住地区別では、串原で「はい」が 71.4%と高くなっています。

居住年数別では、5～10 年未満で「いいえ」が 26.7%と、他の居住年数と比べて高くなっています。





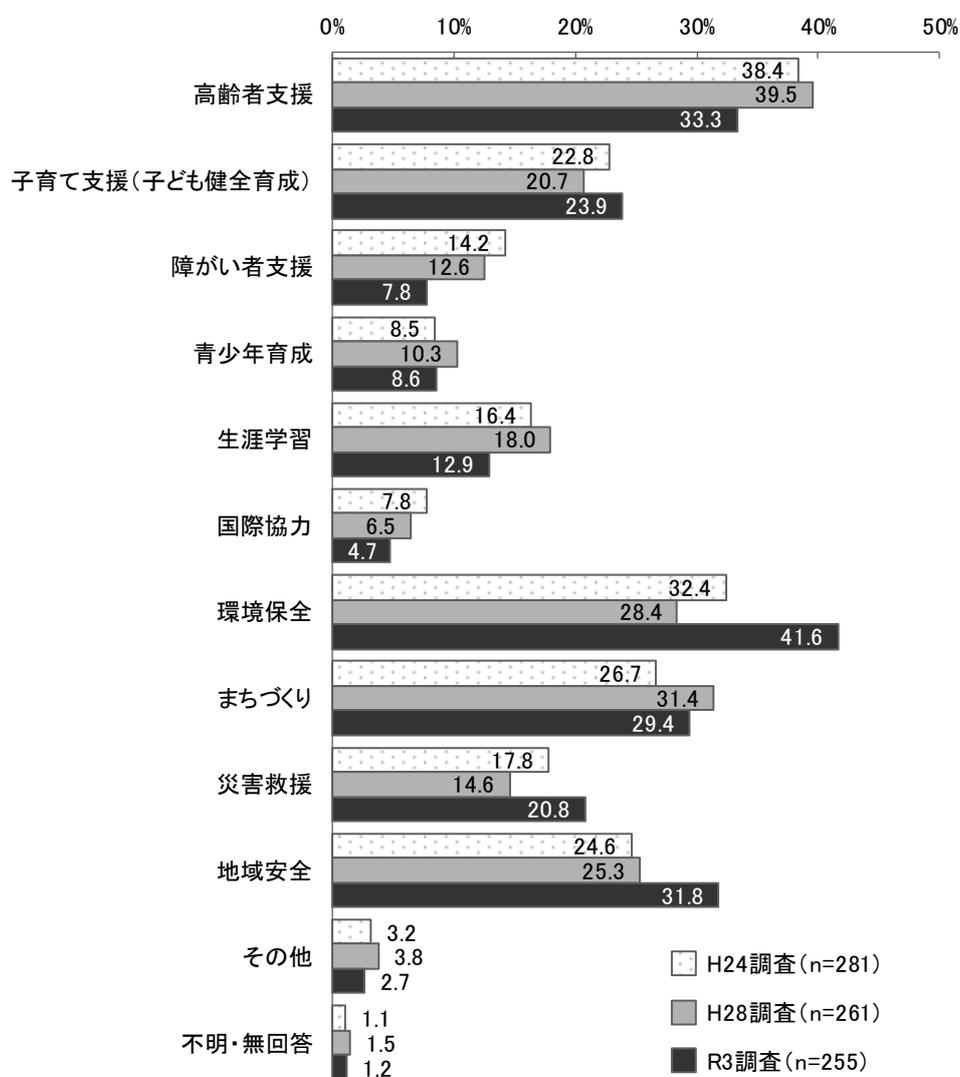
## 問 16-1 どのようなボランティア活動をしてみたい(続けたい)ですか。(複数回答)

\*問 16]で「1 はい」と答えた方のみへの質問

してみたい(続けたい)ボランティア活動は、R3 調査で「環境保全」が 41.6%と最も高く、次いで「高齢者支援」が 33.3%となっています。経年比較すると、「環境保全」が H28 調査と比べて 13.2 ポイント高くなっています。

性別では、男性で「環境保全」「まちづくり」「災害救援」「地域安全」が、女性と比べて 10 ポイント以上高く、特に「地域安全」は 31.5 ポイント、「環境保全」は 23.8 ポイントと、それぞれ高くなっています。また、女性では、「高齢者支援」「子育て支援(子ども健全育成)」「生涯学習」が男性と比べて 10 ポイント以上高く、特に「子育て支援(子ども健全育成)」は 22.3 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、50 歳代及び 60 歳代で「地域安全」が 4 割前後と、他の年代と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	高齢者支援	子育て支援(子ども健全育成)	障がい者支援	青少年育成	生涯学習	国際協力	環境保全	まちづくり	災害救援	地域安全	その他	不明・無回答
【性別】													
男性	134	25.4	14.2	3.7	9.7	9.0	3.0	50.7	33.6	26.1	44.0	3.0	0.7
女性	104	43.3	36.5	13.5	8.7	20.2	7.7	26.9	23.1	11.5	12.5	2.9	1.9
【年齢区分別】													
10歳代・20歳代	15	26.7	53.3	6.7	0.0	0.0	13.3	40.0	40.0	33.3	6.7	0.0	0.0
30歳代	12	8.3	58.3	25.0	16.7	16.7	25.0	25.0	16.7	25.0	8.3	0.0	0.0
40歳代	29	31.0	41.4	6.9	24.1	10.3	6.9	44.8	34.5	24.1	27.6	0.0	3.4
50歳代	33	18.2	18.2	0.0	6.1	9.1	6.1	51.5	27.3	36.4	36.4	6.1	0.0
60歳代	69	37.7	15.9	11.6	13.0	20.3	2.9	36.2	33.3	15.9	40.6	1.4	1.4
70歳以上	79	40.5	16.5	7.6	2.5	13.9	1.3	41.8	25.3	11.4	27.8	5.1	1.3
【居住地区別】													
大井町	50	28.0	32.0	6.0	8.0	12.0	6.0	26.0	34.0	18.0	26.0	6.0	2.0
長島町	37	37.8	24.3	5.4	10.8	10.8	8.1	40.5	32.4	27.0	29.7	5.4	0.0
東野	7	42.9	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	57.1	14.3	14.3	42.9	0.0	0.0
三郷町	17	64.7	29.4	5.9	11.8	11.8	5.9	35.3	11.8	0.0	29.4	0.0	0.0
武並町	19	10.5	15.8	10.5	10.5	5.3	5.3	26.3	31.6	21.1	47.4	5.3	5.3
笠置町	10	50.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	60.0	40.0	30.0	70.0	0.0	0.0
中野方町	10	10.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	60.0	10.0	30.0	20.0	0.0	0.0
飯地町	3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
岩村町	21	28.6	28.6	9.5	14.3	14.3	4.8	47.6	19.0	33.3	47.6	0.0	0.0
山岡町	22	45.5	27.3	9.1	9.1	22.7	0.0	45.5	18.2	22.7	22.7	4.5	0.0
明智町	27	33.3	22.2	14.8	11.1	18.5	7.4	37.0	44.4	11.1	14.8	0.0	0.0
串原	10	10.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	60.0	30.0	30.0	60.0	0.0	0.0
上矢作町	16	43.8	12.5	6.3	0.0	18.8	0.0	50.0	37.5	18.8	18.8	0.0	6.3
【居住年数別】													
5年未満	15	26.7	53.3	20.0	6.7	6.7	6.7	26.7	26.7	33.3	13.3	6.7	0.0
5~10年未満	15	46.7	60.0	26.7	6.7	6.7	0.0	33.3	26.7	6.7	26.7	0.0	0.0
10年以上	215	33.5	19.5	6.0	9.3	14.4	5.1	41.9	30.2	20.5	32.6	2.8	1.4

## 問16-2 ボランティア活動をされないのはどのような理由からですか。(複数回答)

\*問16で「2 いいえ」「3 わからない」と答えた方のみへの質問

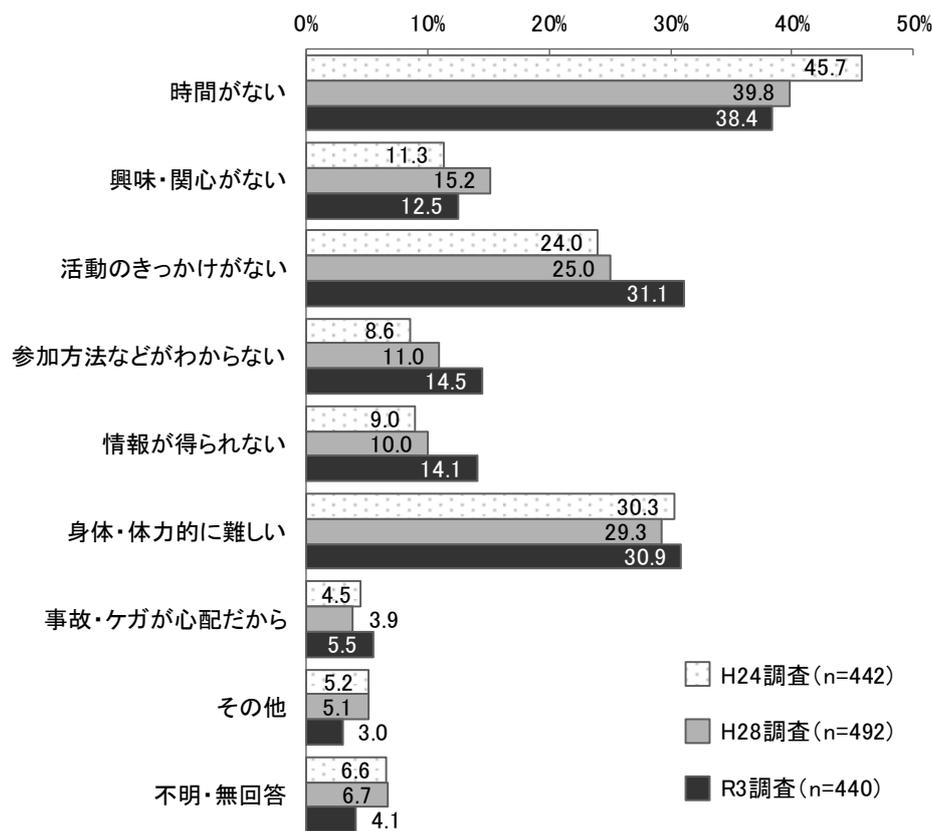
ボランティア活動しない理由は、R3調査で「時間がない」が38.4%と最も高く、次いで「活動のきっかけがない」が31.1%となっています。経年比較すると、「活動のきっかけがない」「参加方法などがわからない」「情報が得られない」が増加傾向にあります。

性別では、男性で「興味・関心がない」が19.3%と女性と比べて11.9ポイント、女性で「活動のきっかけがない」が37.2%と男性と比べて11.8ポイント、それぞれ高くなっています。

年齢区分別では、10歳代・20歳代で「興味・関心がない」が33.3%と、他の年代と比べて高くなっています。また、いずれの年代も「活動のきっかけがない」が3割前後となっています。

居住地区別では、東野、武並町、中野方町及び岩村町で「活動のきっかけがない」が4割を超えています。

居住年数別では、5年未満で「参加方法などがわからない」が17.1%となっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	時間がない	興味・関心がない	活動のきっかけがない	参加方法などがわからない	情報が得られない	身体・体力的に難しい	事故・ケガが心配だから	その他	不明・無回答
【性別】										
男性	197	38.6	19.3	25.4	11.2	12.7	31.5	8.1	3.0	2.0
女性	215	39.5	7.4	37.2	17.7	14.9	28.8	3.3	3.3	5.6
【年齢区分別】										
10歳代・20歳代	27	70.4	33.3	33.3	11.1	18.5	7.4	0.0	0.0	0.0
30歳代	41	61.0	17.1	29.3	12.2	12.2	9.8	2.4	4.9	7.3
40歳代	58	58.6	13.8	29.3	15.5	15.5	13.8	6.9	3.4	0.0
50歳代	78	42.3	12.8	37.2	15.4	11.5	21.8	2.6	5.1	3.8
60歳代	98	34.7	15.3	34.7	13.3	15.3	32.7	10.2	4.1	4.1
70歳以上	112	13.4	4.5	25.9	16.1	12.5	56.3	5.4	0.9	6.3
【居住地区別】										
大井町	120	40.8	14.2	32.5	19.2	15.0	30.0	3.3	3.3	1.7
長島町	89	40.4	12.4	28.1	13.5	18.0	29.2	6.7	2.2	7.9
東野	16	31.3	12.5	43.8	12.5	18.8	18.8	0.0	6.3	0.0
三郷町	22	40.9	13.6	22.7	4.5	9.1	22.7	4.5	0.0	9.1
武並町	21	28.6	14.3	47.6	23.8	9.5	23.8	9.5	4.8	0.0
笠置町	12	50.0	8.3	8.3	16.7	8.3	50.0	8.3	8.3	0.0
中野方町	11	18.2	18.2	45.5	27.3	18.2	18.2	9.1	0.0	0.0
飯地町	3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3
岩村町	44	25.0	9.1	40.9	18.2	11.4	40.9	6.8	4.5	2.3
山岡町	37	48.6	16.2	24.3	8.1	10.8	32.4	8.1	2.7	2.7
明智町	42	42.9	9.5	35.7	4.8	14.3	28.6	4.8	2.4	4.8
串原	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0
上矢作町	12	25.0	16.7	8.3	16.7	8.3	50.0	8.3	0.0	8.3
【居住年数別】										
5年未満	35	65.7	11.4	31.4	17.1	17.1	8.6	2.9	5.7	5.7
5～10年未満	27	59.3	0.0	29.6	7.4	18.5	18.5	0.0	3.7	3.7
10年以上	360	35.0	13.1	31.1	14.7	13.6	33.6	6.1	2.8	4.2

## 5 社会福祉協議会、福祉(協力)委員について

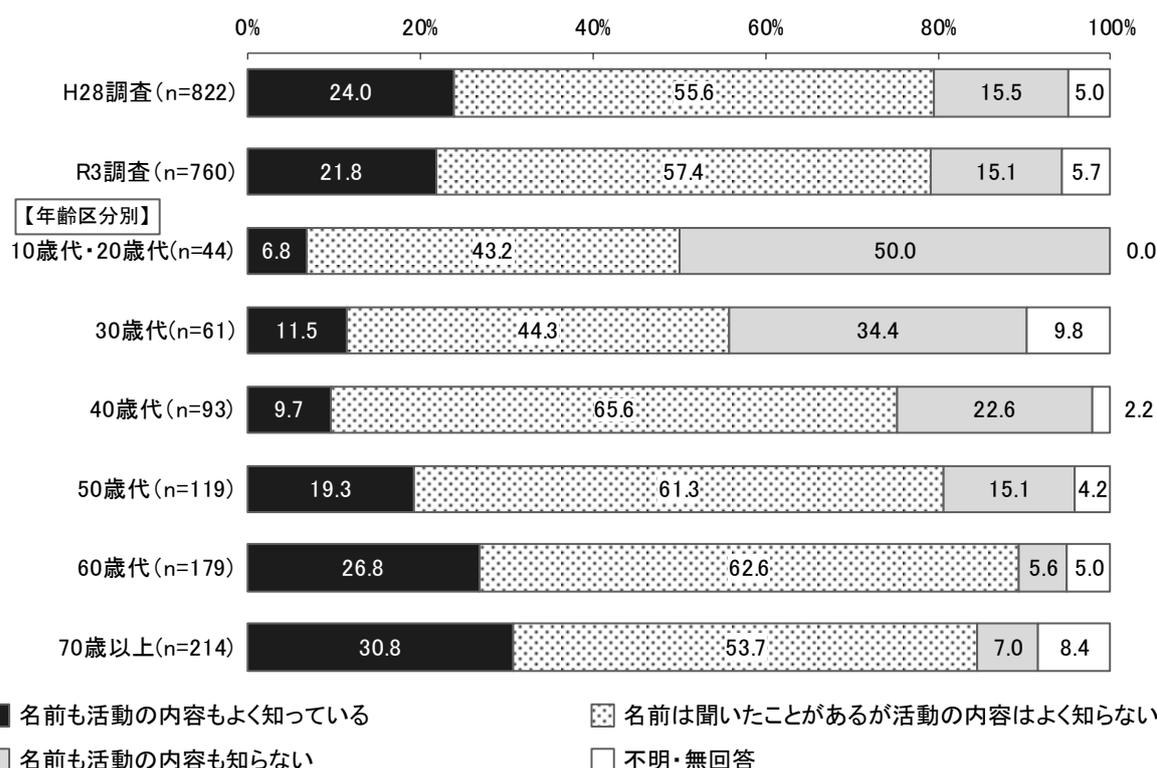
### 問 17① あなたは、社会福祉協議会を知っていますか。(単数回答)

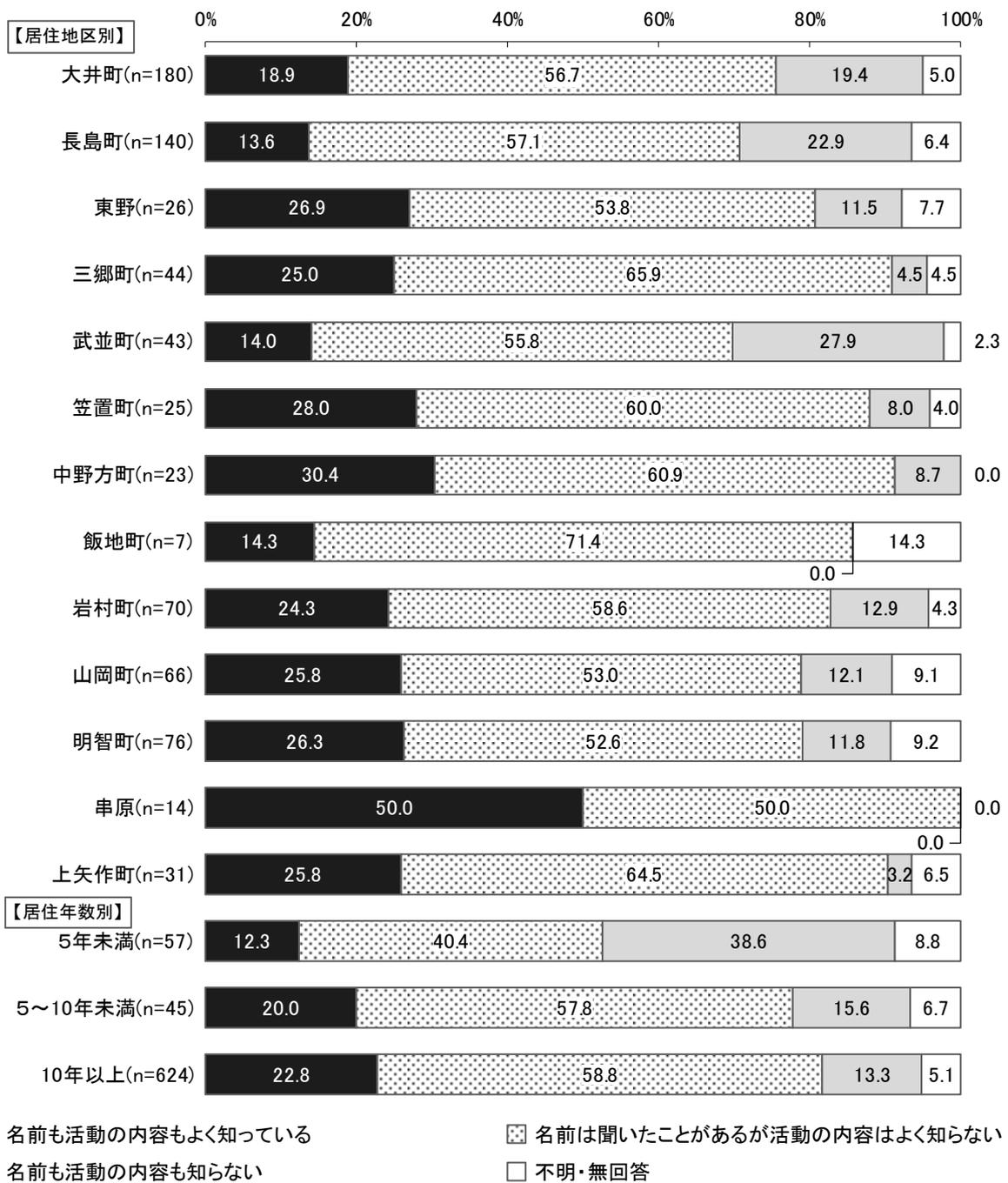
社会福祉協議会を知っているかは、R3 調査で「名前も活動の内容もよく知っている」が 21.8%、「名前は聞いたことがあるが活動の内容はよく知らない」が 57.4%、「名前も活動の内容も知らない」が 15.1%となっています。

年齢区分別では、年齢が上がるにつれて「名前も活動の内容もよく知っている」が高くなっています。なお、「名前も活動の内容も知らない」が 10 歳代・20 歳代で 50.0%、30 歳代で 34.4%と高くなっています。

居住地区別では、「名前も活動の内容もよく知っている」が串原で 50.0%であるものの、長島町及び武並町を除いた地区では約 2～3 割となっています。

居住年数別では、居住年数が増えるにつれて「名前も活動の内容もよく知っている」が高くなっているものの、約 2 割にとどまっています。





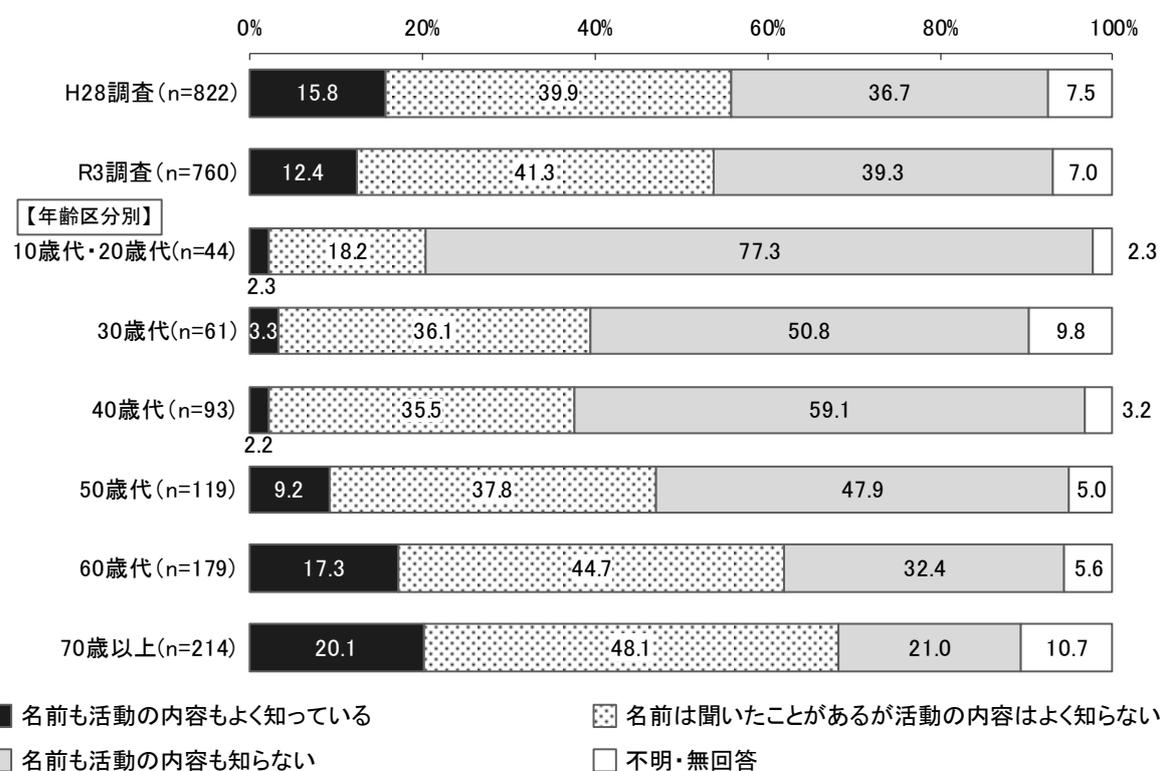
## 問 17② あなたは、支部社会福祉協議会を知っていますか。(単数回答)

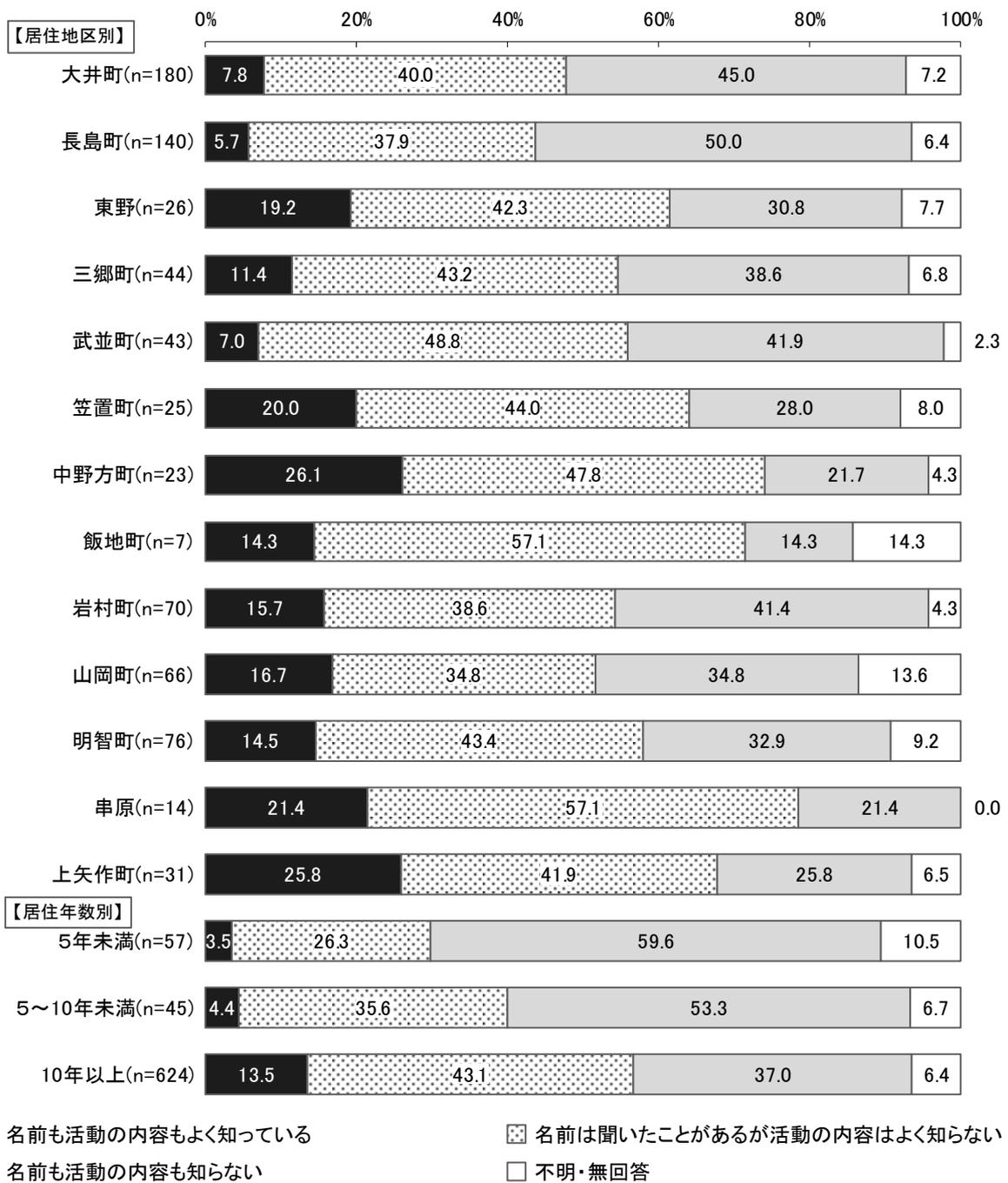
支部社会福祉協議会を知っているかは、R3 調査で「名前も活動の内容もよく知っている」が 12.4%、「名前は聞いたことがあるが活動の内容はよく知らない」が 41.3%、「名前も活動の内容も知らない」が 39.3%となっています。

年齢区分別では、概ね年齢が上がるにつれて「名前も活動の内容もよく知っている」が高くなっています。なお、「名前も活動の内容も知らない」が 10 歳代・20 歳代で 77.3%、40 歳代で 59.1%と高くなっています。

居住地区別では、中野方町及び上矢作町で「名前も活動の内容もよく知っている」が高くなっているものの、3割弱となっています。

居住年数別では、居住年数が増えるにつれて「名前も活動の内容もよく知っている」が高くなっているものの、10年以上でも 13.5%にとどまっています。





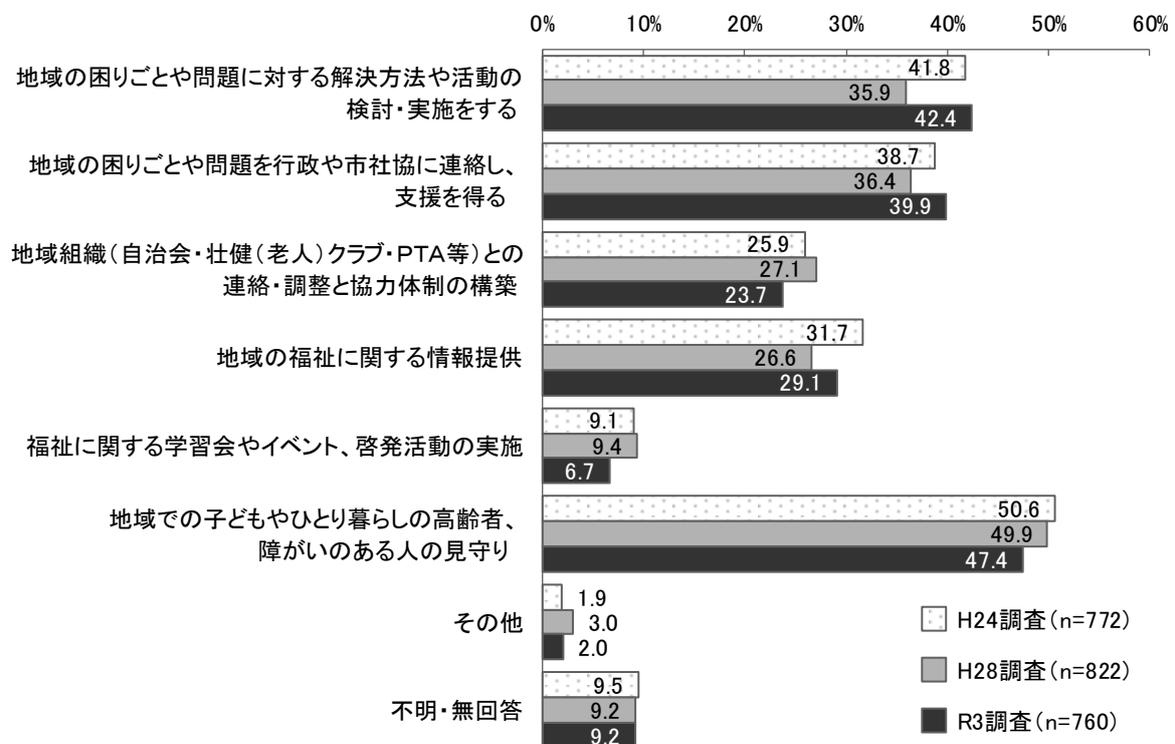
問 18 支部社会福祉協議会の活動として、どのようなことを期待しますか。(複数回答)

支部社会福祉協議会の活動に期待することは、R3 調査で「地域での子どもやひとり暮らしの高齢者、障がいのある人の見守り」が 47.4%と最も高く、次いで「地域の困りごとや問題に対する解決方法や活動の検討・実施をする」が 42.4%となっています。

年齢区分別では、10 歳代・20 歳代、40 歳代及び 50 歳代で「地域の困りごとや問題に対する解決方法や活動の検討・実施をする」が 5 割を超えて高くなっています。

居住地区別では、三郷町及び上矢作町で「地域の困りごとや問題に対する解決方法や活動の検討・実施をする」がそれぞれ 5 割強と高くなっています。また、8 地区で「地域での子どもやひとり暮らしの高齢者、障がいのある人の見守り」が 50.0%以上となっています。

居住年数別では、10 年以上で「地域の困りごとや問題を行政や市社協に連絡し、支援を得る」が 41.2%と高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	地域の困りごとや問題に対する解決方法や活動の検討・実施をする	地域の困りごとや問題に対して行政や市社協に連絡し、支援を得る	地域組織(自治会・壮健(老人)クラブ・PTA等)との連絡・調整と協力体制の構築	地域の福祉に関する情報提供	福祉に関する学習会やイベント、啓発活動の実施	地域での子どもやひとり暮らしの高齢者、障がいのある人の見守り	その他	不明・無回答
【年齢区分別】									
10歳代・20歳代	44	59.1	38.6	15.9	20.5	6.8	45.5	2.3	2.3
30歳代	61	45.9	34.4	26.2	23.0	4.9	47.5	4.9	9.8
40歳代	93	54.8	38.7	22.6	21.5	4.3	43.0	2.2	7.5
50歳代	119	54.6	34.5	16.0	35.3	8.4	48.7	1.7	6.7
60歳代	179	39.1	48.0	25.7	28.5	7.8	49.2	2.8	5.0
70歳以上	214	33.2	39.3	29.0	31.3	5.1	48.6	0.5	15.4
【居住地区別】									
大井町	180	41.1	40.6	18.9	27.2	7.8	41.7	1.7	10.6
長島町	140	45.0	43.6	16.4	30.7	7.9	47.1	2.1	8.6
東野	26	42.3	26.9	19.2	26.9	0.0	57.7	7.7	15.4
三郷町	44	56.8	29.5	34.1	38.6	9.1	54.5	2.3	2.3
武並町	43	44.2	39.5	25.6	25.6	11.6	51.2	0.0	9.3
笠置町	25	36.0	56.0	36.0	28.0	0.0	56.0	0.0	4.0
中野方町	23	39.1	43.5	30.4	26.1	4.3	56.5	0.0	4.3
飯地町	7	42.9	14.3	28.6	28.6	0.0	42.9	0.0	28.6
岩村町	70	42.9	31.4	22.9	25.7	5.7	48.6	1.4	8.6
山岡町	66	40.9	37.9	24.2	34.8	9.1	36.4	4.5	10.6
明智町	76	35.5	51.3	27.6	19.7	6.6	51.3	0.0	11.8
串原	14	21.4	35.7	35.7	35.7	0.0	50.0	0.0	14.3
上矢作町	31	54.8	35.5	41.9	35.5	0.0	54.8	0.0	6.5
【居住年数別】									
5年未満	57	40.4	28.1	22.8	21.1	8.8	45.6	3.5	8.8
5~10年未満	45	51.1	28.9	37.8	28.9	4.4	42.2	0.0	13.3
10年以上	624	42.5	41.2	22.3	29.6	6.6	48.1	1.9	9.0

## 問 19 地域に福祉（協力）委員がいることを知っていますか。（単数回答）

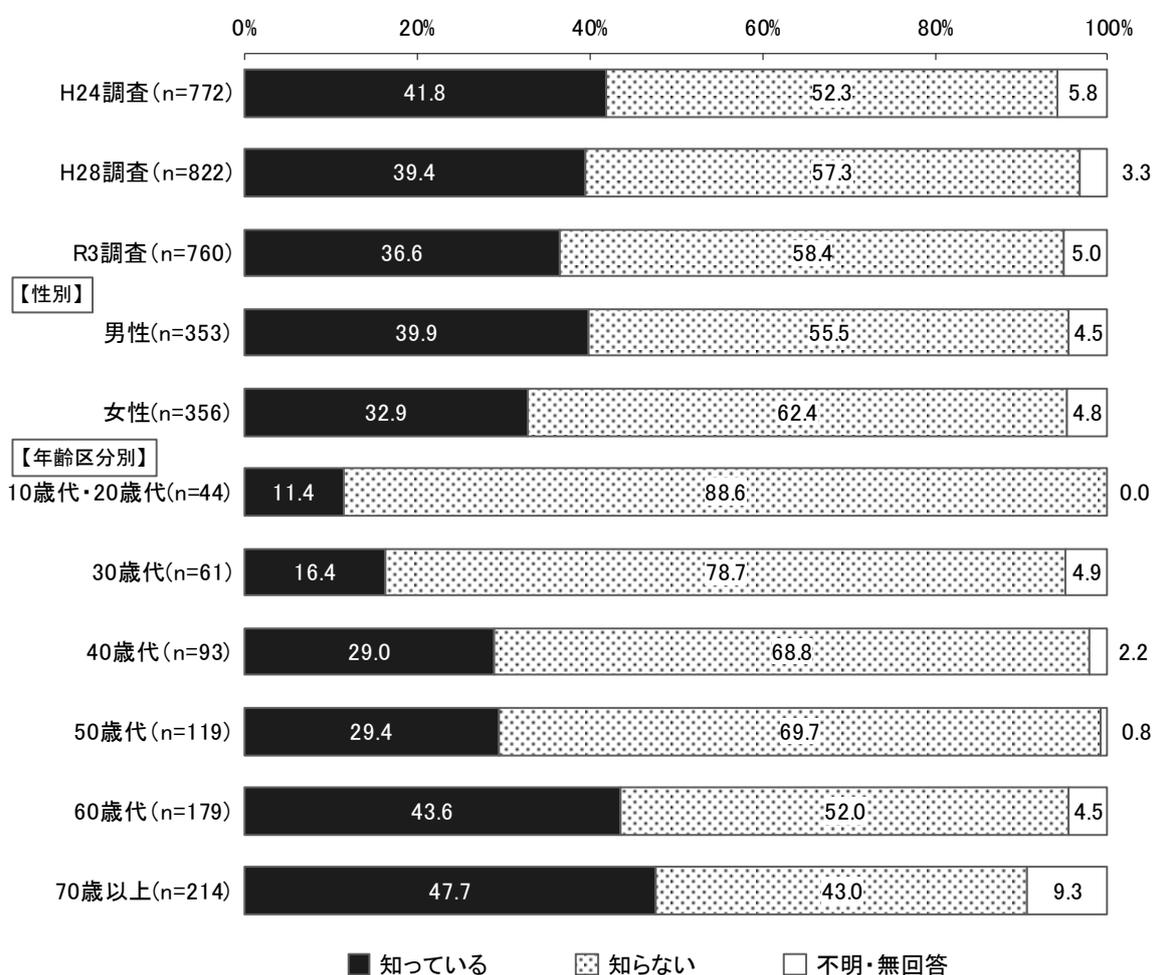
地域に福祉（協力）委員がいることを知っているかは、R3調査で「知っている」が36.6%、「知らない」が58.4%となっています。経年比較すると、「知っている」が減少傾向にあります。

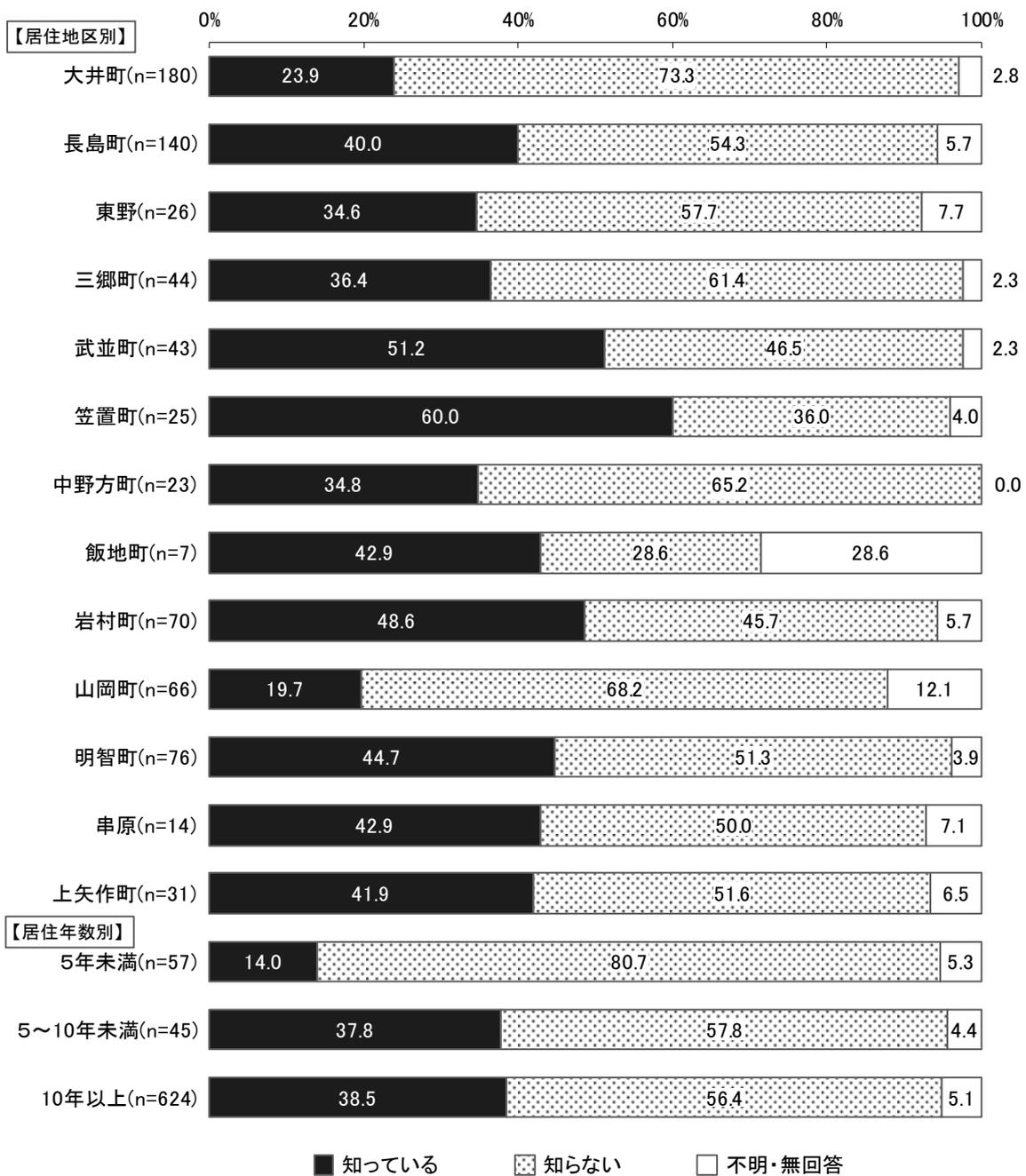
性別では、「知っている」が男性で39.9%、女性で32.9%となっています。

年齢区分別では、年齢が上がるにつれて「知っている」が高くなっていますが、10歳代・20歳代では「知らない」が88.6%と高くなっています。

居住地区別では、笠置町で「知っている」が60.0%と高くなっていますが、大井町では「知らない」が73.3%と高くなっています。

居住年数別では、5年以上で「知っている」が4割弱となっていますが、5年未満では「知らない」が80.7%となっています。





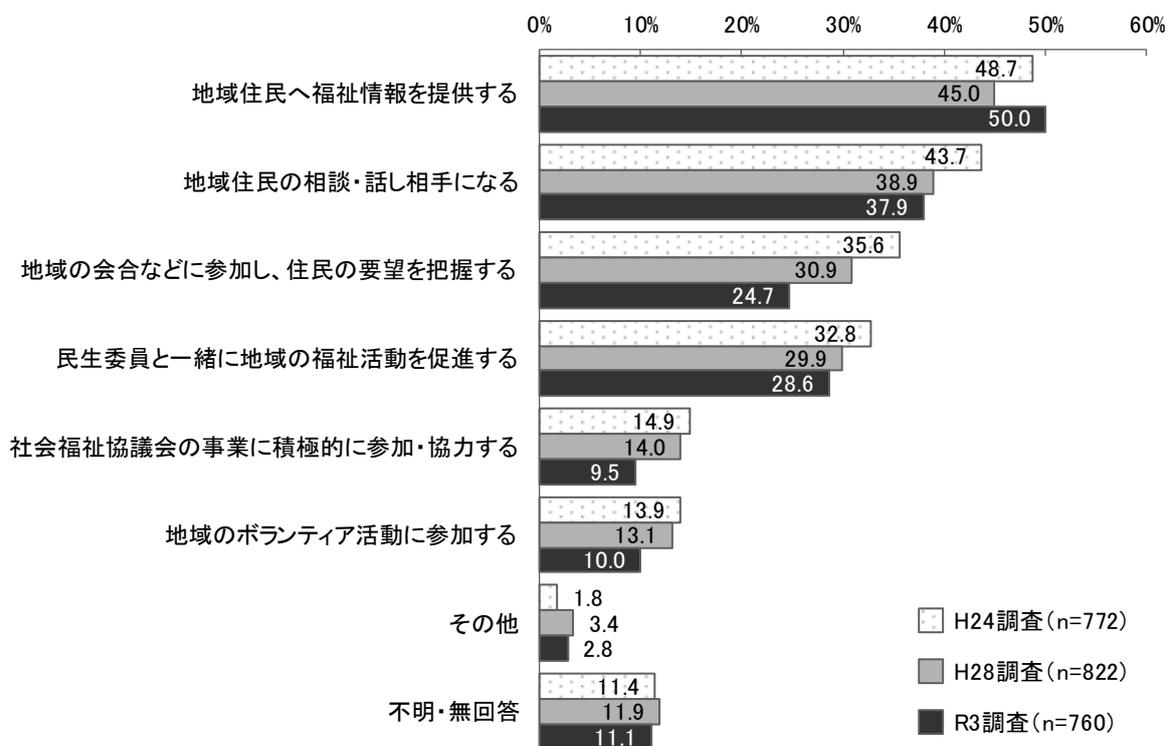
問 20 地域の福祉（協力）委員に対し、今後どのような役割を期待しますか。（複数回答）

地域の福祉（協力）委員に今後期待する役割は、R3 調査で「地域住民へ福祉情報を提供する」が 50.0%と最も高く、次いで「地域住民の相談・話し相手になる」が 37.9%となっています。経年比較すると、「地域住民へ福祉情報を提供する」のみ H28 調査と比べて高くなっています。

年齢区分別では、10 歳代・20 歳代で「地域住民へ福祉情報を提供する」が 61.4%、30 歳代及び 40 歳代で「地域住民の相談・話し相手になる」がそれぞれ 4 割を超えており、他の年代と比べて高くなっています。

居住地区別では、中野方町、串原及び上矢作町で「地域住民の相談・話し相手になる」がそれぞれ 50.0%以上と高くなっています。

居住年数別では、10 年以上で「民生委員と一緒に地域の福祉活動を促進する」が 30.6%と、10 年未満と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	地域住民へ福祉情報を提供する	地域住民の相談・話し相手になる	地域の会合などに参加し、住民の要望を把握する	民生委員と一緒に地域の福祉活動を促進する	社会福祉協議会の事業に積極的に参加・協力する	地域のボランティア活動に参加する	その他	不明・無回答
【年齢区分別】									
10歳代・20歳代	44	61.4	36.4	31.8	20.5	20.5	18.2	4.5	0.0
30歳代	61	37.7	42.6	24.6	16.4	8.2	8.2	4.9	11.5
40歳代	93	50.5	41.9	21.5	22.6	6.5	9.7	1.1	8.6
50歳代	119	52.9	35.3	25.2	29.4	8.4	10.1	3.4	7.6
60歳代	179	53.6	35.8	24.0	36.9	8.9	6.7	3.4	7.8
70歳以上	214	45.8	39.3	25.2	31.8	8.9	10.7	2.3	18.2
【居住地区別】									
大井町	180	51.1	35.0	27.8	24.4	6.7	7.2	3.3	12.2
長島町	140	57.1	33.6	24.3	27.9	9.3	8.6	2.9	9.3
東野	26	46.2	23.1	7.7	38.5	15.4	7.7	3.8	11.5
三郷町	44	43.2	36.4	13.6	31.8	13.6	6.8	2.3	6.8
武並町	43	58.1	37.2	23.3	27.9	9.3	14.0	0.0	9.3
笠置町	25	48.0	32.0	40.0	40.0	8.0	16.0	0.0	8.0
中野方町	23	56.5	52.2	26.1	34.8	4.3	13.0	4.3	0.0
飯地町	7	14.3	28.6	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	42.9
岩村町	70	44.3	42.9	15.7	30.0	7.1	10.0	1.4	11.4
山岡町	66	50.0	37.9	21.2	24.2	12.1	9.1	4.5	13.6
明智町	76	47.4	42.1	27.6	34.2	11.8	11.8	3.9	11.8
串原	14	42.9	50.0	35.7	21.4	7.1	7.1	0.0	14.3
上矢作町	31	41.9	51.6	32.3	32.3	16.1	19.4	0.0	16.1
【居住年数別】									
5年未満	57	45.6	31.6	29.8	15.8	7.0	12.3	3.5	12.3
5～10年未満	45	44.4	44.4	22.2	15.6	13.3	4.4	0.0	13.3
10年以上	624	50.8	37.7	24.5	30.6	9.0	9.9	3.0	10.9

## 6 福祉のまちづくりについて

---

問 21 誰もが暮らしやすいまちをつくるために、どのようなサービスが必要だと思われますか。(複数回答)

---

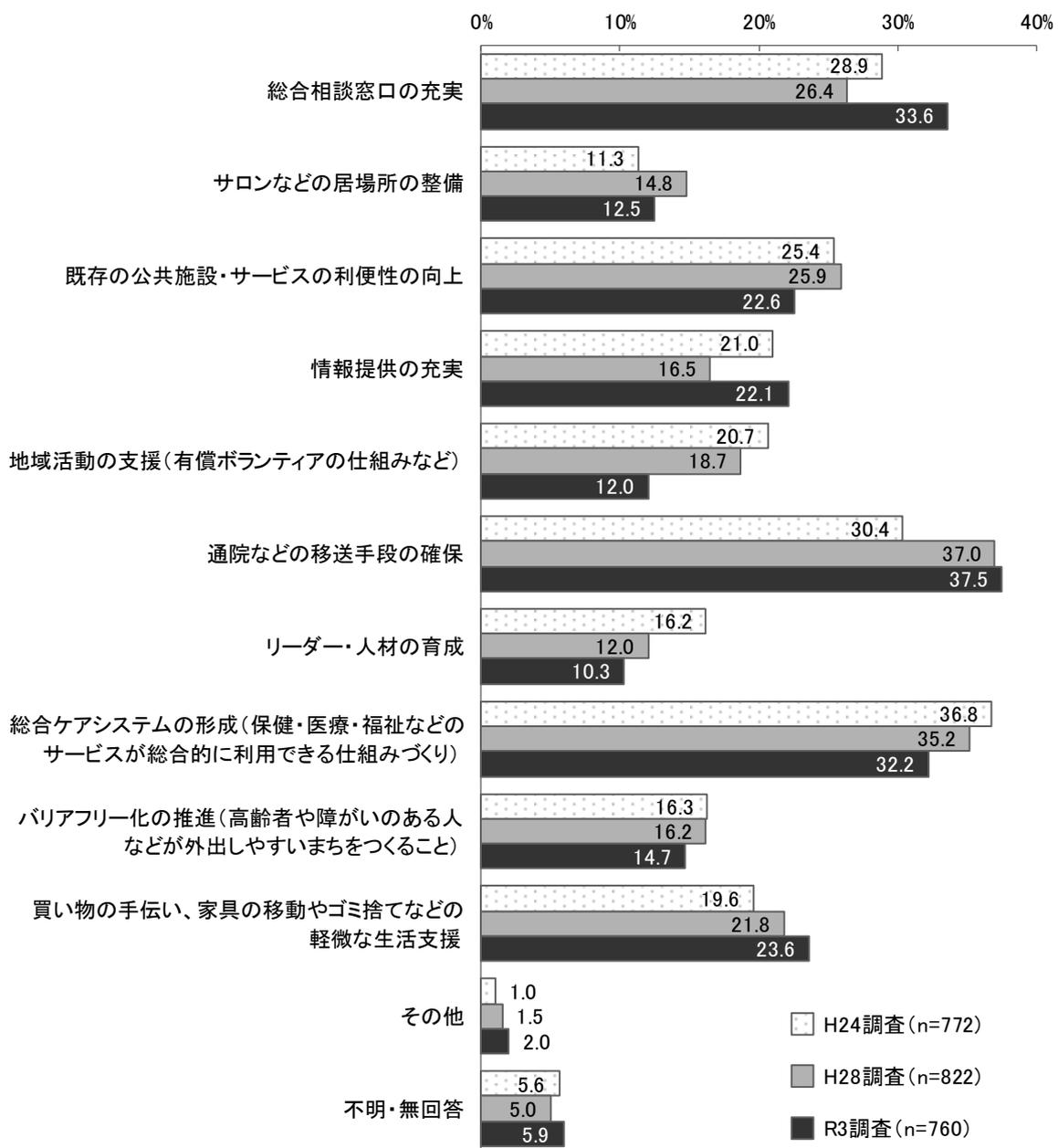
誰もが暮らしやすいまちをつくるために必要だと思うサービスは、R3 調査で「通院などの移送手段の確保」が 37.5%と最も高く、次いで「総合相談窓口の充実」が 33.6%となっています。経年比較すると、「通院などの移送手段の確保」「買い物の手伝い、家具の移動やゴミ捨てなどの軽微な生活支援」が増加傾向となっています。

年齢区分別では、40 歳代及び 60 歳代以上で「通院などの移送手段の確保」が 4 割前後と高くなっています。

居住地区別では、笠置町、串原及び上矢作町で「通院などの移送手段の確保」が 50.0%以上と、他の居住地区と比べて高くなっています。

居住年数別では、5 年未満で「情報提供の充実」が 35.1%と、5 年以上と比べて高くなっています。

---



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	総合相談窓口の充実	サロンなどの居場所の整備	既存の公共施設・サービスの利便性の向上	情報提供の充実	地域活動の支援(有償ボランティアの仕組みなど)	通院などの移送手段の確保	リーダー・人材の育成	総合ケアシステムの形成(保健・医療・福祉などのサービスが総合的に利用できる仕組みづくり)	などが外出しやすいまちをつくること	買い物の手伝い、家具の移動やゴミ捨てなどの軽微な生活支援	その他	不明・無回答
【年齢区分別】													
10歳代・20歳代	44	40.9	22.7	27.3	22.7	4.5	25.0	4.5	34.1	20.5	25.0	0.0	0.0
30歳代	61	31.1	13.1	21.3	18.0	14.8	27.9	8.2	27.9	21.3	19.7	6.6	9.8
40歳代	93	36.6	15.1	26.9	23.7	14.0	37.6	4.3	25.8	14.0	26.9	1.1	3.2
50歳代	119	37.8	13.4	21.0	18.5	13.4	35.3	10.1	34.5	17.6	20.2	1.7	3.4
60歳代	179	34.1	11.7	24.6	24.0	15.1	39.1	11.7	36.3	10.1	23.5	2.8	4.5
70歳以上	214	28.5	11.2	21.5	20.1	9.3	43.9	11.7	31.8	15.0	25.2	0.9	8.9
【居住地区別】													
大井町	180	38.3	10.6	16.7	25.0	12.8	30.0	11.1	27.2	15.0	26.1	2.8	6.1
長島町	140	42.9	14.3	23.6	27.9	12.9	30.0	10.0	35.0	16.4	18.6	1.4	5.7
東野	26	34.6	11.5	26.9	11.5	11.5	38.5	7.7	26.9	15.4	26.9	7.7	7.7
三郷町	44	34.1	4.5	25.0	34.1	13.6	43.2	13.6	38.6	9.1	13.6	0.0	0.0
武並町	43	25.6	16.3	18.6	11.6	11.6	46.5	7.0	30.2	27.9	20.9	2.3	2.3
笠置町	25	36.0	20.0	12.0	20.0	12.0	52.0	12.0	28.0	4.0	40.0	0.0	4.0
中野方町	23	26.1	17.4	17.4	8.7	13.0	43.5	17.4	43.5	17.4	43.5	4.3	0.0
飯地町	7	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0	28.6	28.6	28.6	0.0	57.1	0.0	28.6
岩村町	70	31.4	7.1	41.4	20.0	8.6	28.6	4.3	40.0	20.0	14.3	1.4	8.6
山岡町	66	31.8	10.6	19.7	19.7	10.6	40.9	7.6	30.3	10.6	18.2	4.5	9.1
明智町	76	23.7	21.1	27.6	21.1	13.2	46.1	10.5	31.6	10.5	25.0	0.0	6.6
串原	14	7.1	14.3	35.7	21.4	21.4	50.0	7.1	14.3	14.3	28.6	0.0	7.1
上矢作町	31	25.8	12.9	12.9	6.5	12.9	54.8	16.1	38.7	12.9	35.5	0.0	3.2
【居住年数別】													
5年未満	57	29.8	15.8	19.3	35.1	12.3	28.1	7.0	26.3	19.3	24.6	3.5	7.0
5～10年未満	45	42.2	13.3	24.4	22.2	20.0	37.8	4.4	24.4	11.1	13.3	2.2	8.9
10年以上	624	33.0	12.3	23.2	21.0	11.2	38.0	11.1	33.5	14.1	24.4	1.9	5.4

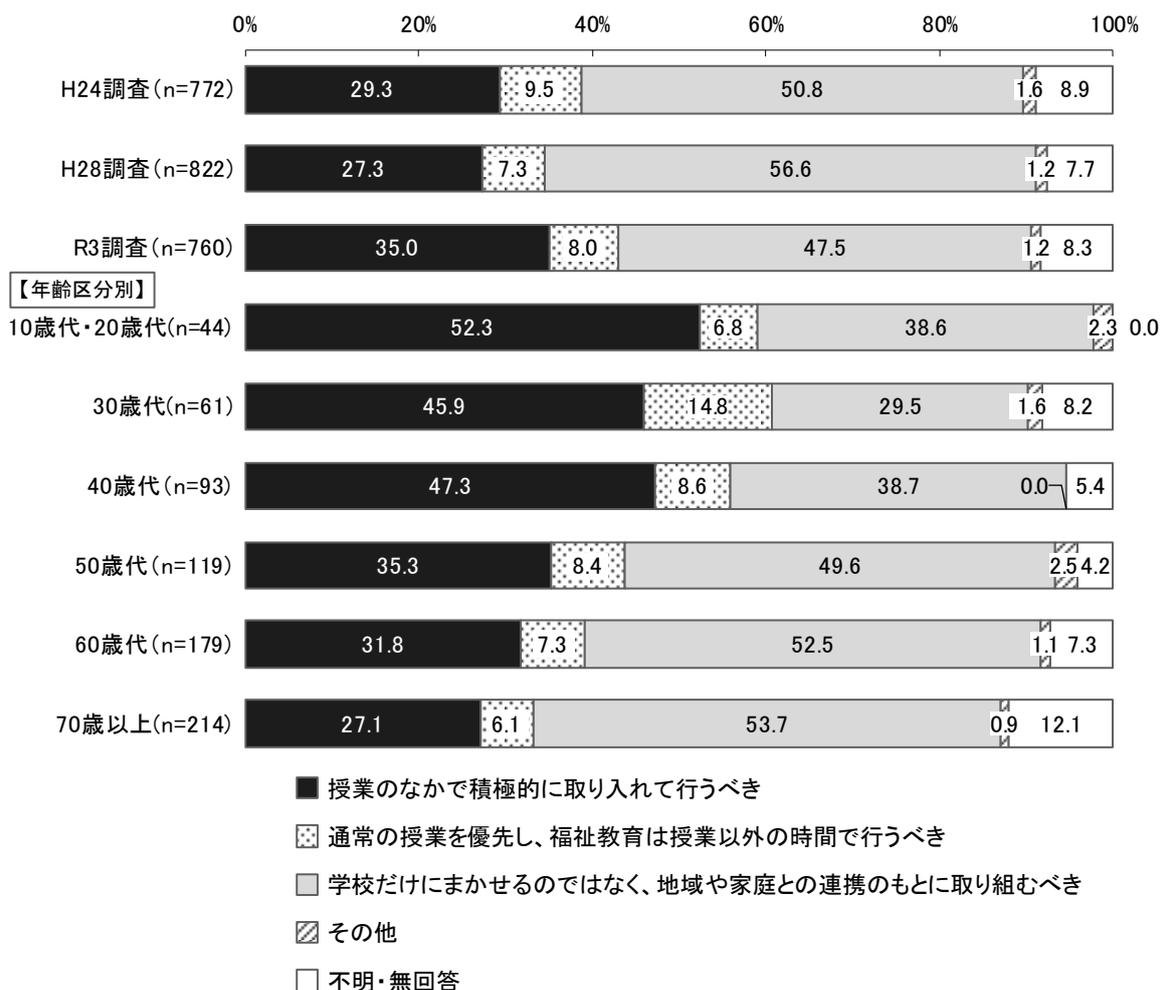
問 22 学校教育のなかでの社会福祉への理解・関心や参加を促すための教育（福祉教育）について、どのようにお考えですか。（単数回答）。

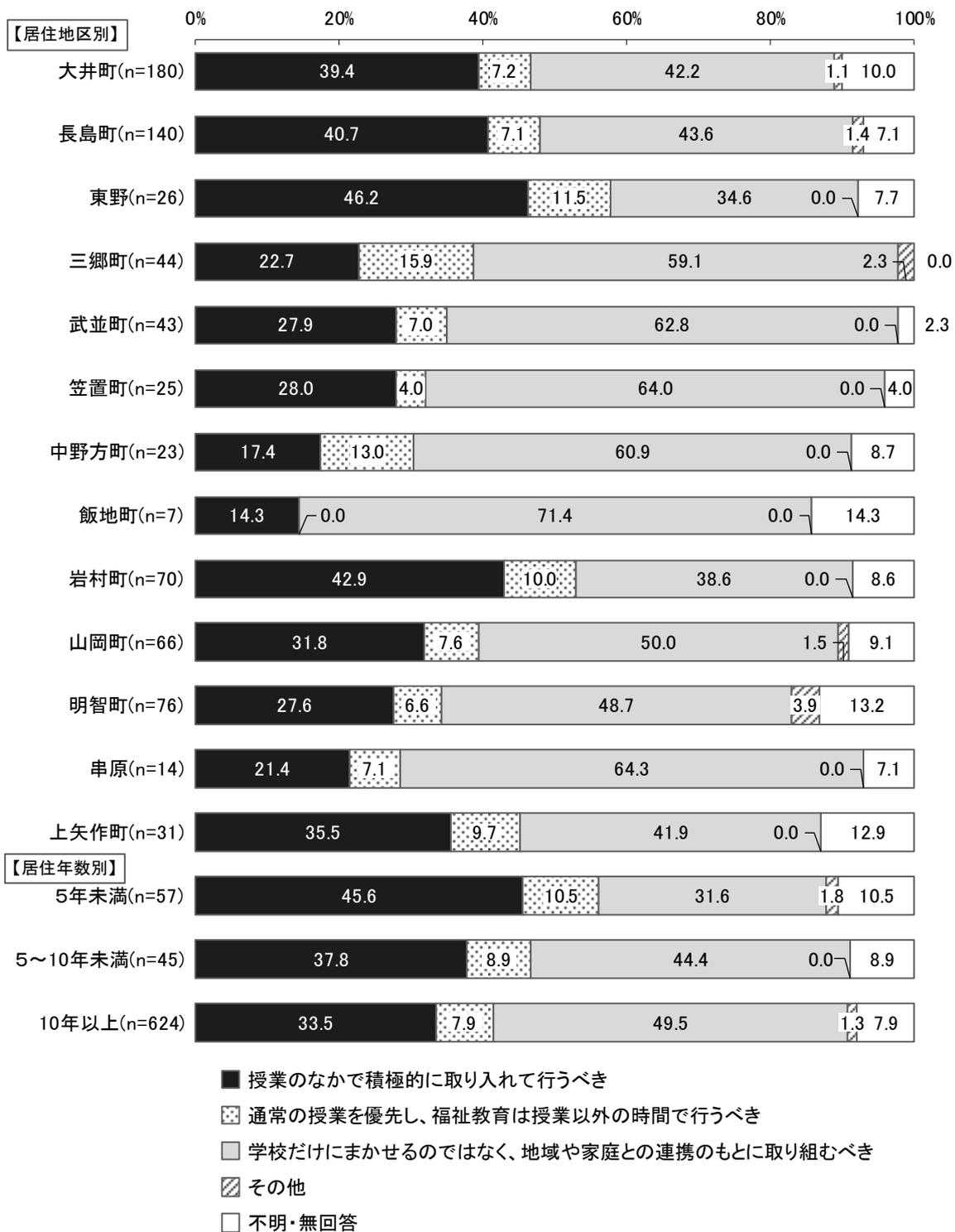
学校教育において社会福祉への理解等を促す福祉教育への考えは、R3 調査で「学校だけにまかせるのではなく、地域や家庭との連携のもとに取り組むべき」が 47.5%と最も高く、次いで「授業のなかで積極的に取り入れて行うべき」が 35.0%となっています。経年比較すると、「学校だけにまかせるのではなく、地域や家庭との連携のもとに取り組むべき」が H28 調査と比べて 9.1 ポイント低くなっています。

年齢区分別では、40 歳代以下で「授業のなかで積極的に取り入れて行うべき」が、50 歳代以上で「学校だけにまかせるのではなく、地域や家庭との連携のもとに取り組むべき」が、それぞれ 5 割前後と高くなっています。なお、30 歳代で「通常の授業を優先し、福祉教育は授業以外の時間で行うべき」が 14.8%と、他の年齢区分と比べて高くなっています。

居住地区別では、武並町、笠置町、中野方町及び串原で「学校だけにまかせるのではなく、地域や家庭との連携のもとに取り組むべき」が 6 割を超えて高くなっています。

居住年数別では、居住年数が増えるにつれて「学校だけにまかせるのではなく、地域や家庭との連携のもとに取り組むべき」が高くなっています。



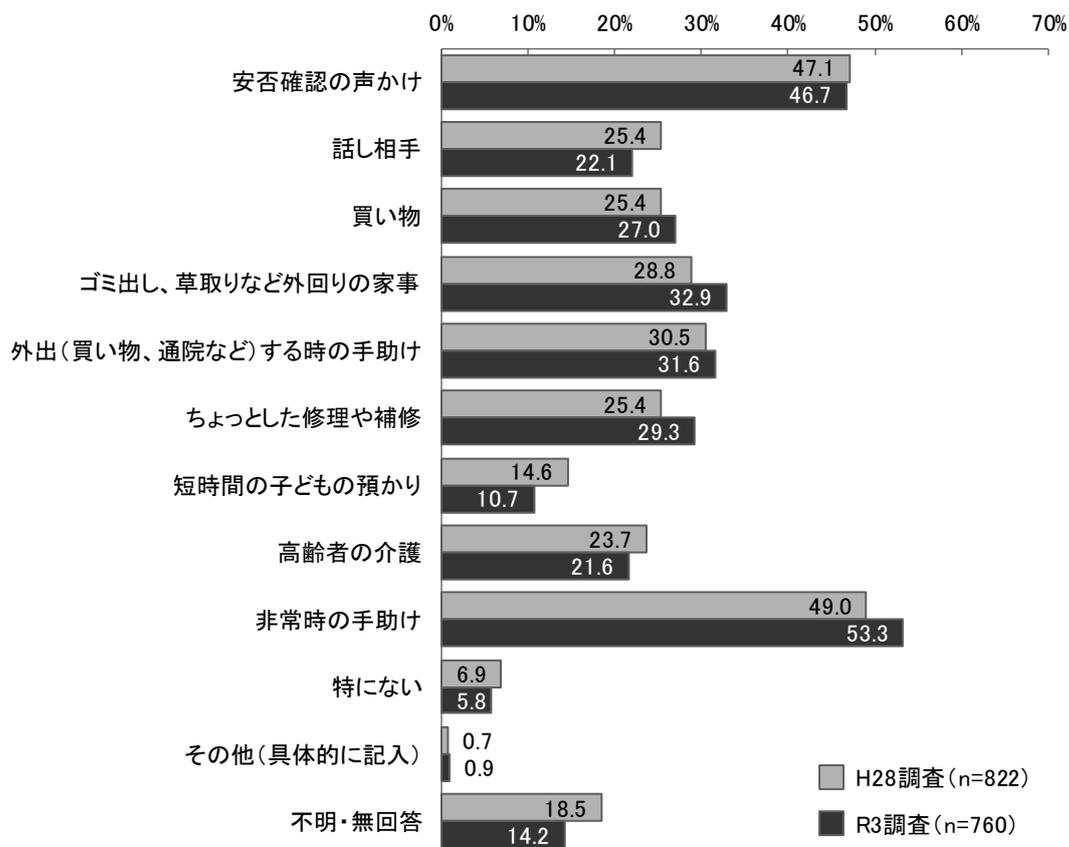


問 23① あなたやご家族が、高齢や病気、もしくは子育てなどで日常生活が不自由になったとき、地域の人にどのような手助けをしてほしいですか。(複数回答)

地域の人に手助けしてほしいことは、R3 調査で「非常時の手助け」が 53.3%と最も高く、次いで「安否確認の声かけ」が 46.7%となっています。

年齢区分別では、30 歳代以下で「短時間の子どもの預かり」「非常時の手助け」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。

居住地区別では、上矢作町で「外出（買い物、通院など）する時の手助け」が 54.8%と、他の居住地区と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

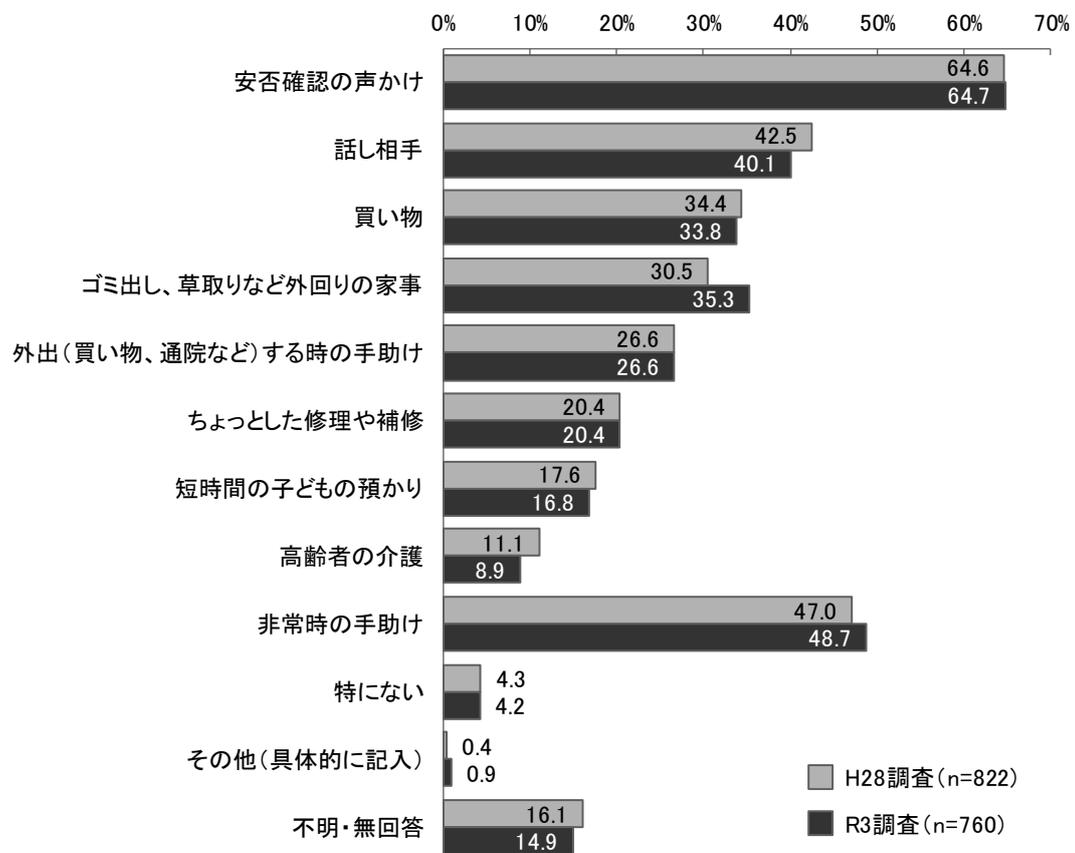
区分	n=	安否確認の声かけ	話し相手	買い物	ゴミ出し、草取りなど外回りの家事	外出(買い物、通院など)する時の手助け	ちよっとした修理や補修	短時間の子ども預かり	高齢者の介護	非常時の手助け	特にない	その他	不明・無回答
【年齢区分別】													
10歳代・20歳代	44	47.7	40.9	29.5	36.4	38.6	40.9	43.2	40.9	68.2	2.3	2.3	0.0
30歳代	61	55.7	19.7	36.1	34.4	27.9	29.5	34.4	23.0	65.6	4.9	3.3	11.5
40歳代	93	49.5	21.5	25.8	24.7	30.1	25.8	19.4	20.4	49.5	8.6	2.2	9.7
50歳代	119	51.3	24.4	29.4	38.7	37.8	31.9	7.6	28.6	58.8	6.7	0.0	7.6
60歳代	179	44.7	22.3	25.1	33.0	32.4	27.4	2.2	22.9	57.0	6.7	0.0	13.4
70歳以上	214	47.2	20.1	26.6	36.0	29.9	31.3	3.7	15.4	48.1	4.2	0.0	20.6
【居住地区別】													
大井町	180	47.2	24.4	28.3	36.1	31.1	33.9	12.2	23.3	52.2	6.7	0.6	12.2
長島町	140	52.9	22.9	27.9	30.0	30.0	27.9	15.0	19.3	58.6	9.3	1.4	11.4
東野	26	42.3	34.6	26.9	30.8	38.5	23.1	7.7	19.2	53.8	0.0	0.0	19.2
三郷町	44	43.2	15.9	15.9	36.4	34.1	31.8	9.1	20.5	47.7	4.5	0.0	11.4
武並町	43	51.2	23.3	27.9	46.5	25.6	39.5	11.6	25.6	55.8	9.3	4.7	16.3
笠置町	25	44.0	16.0	32.0	32.0	40.0	32.0	12.0	12.0	52.0	8.0	0.0	4.0
中野方町	23	47.8	26.1	30.4	34.8	30.4	26.1	8.7	21.7	56.5	0.0	0.0	13.0
飯地町	7	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9
岩村町	70	50.0	17.1	24.3	28.6	28.6	27.1	12.9	27.1	54.3	5.7	1.4	15.7
山岡町	66	43.9	16.7	30.3	31.8	28.8	33.3	7.6	19.7	51.5	6.1	0.0	13.6
明智町	76	38.2	26.3	28.9	32.9	35.5	26.3	3.9	28.9	55.3	3.9	0.0	19.7
串原	14	57.1	21.4	14.3	28.6	14.3	7.1	7.1	7.1	42.9	0.0	0.0	21.4
上矢作町	31	45.2	19.4	32.3	25.8	54.8	19.4	9.7	16.1	54.8	0.0	0.0	9.7

問 23② 隣近所で、問 23①と同様の理由等で困っている家庭があったら、どのような手助けができると思いますか。(複数回答)

手助けできると思うことは、R3 調査で「安否確認の声かけ」が 64.7%と最も高く、次いで「非常時の手助け」が 48.7%となっています。

年齢区分別では、10 歳代・20 歳代で「話し相手」「非常時の手助け」が、他の年齢区分と比べて高くなっています。

居住地区別では、武並町及び中野方町で「安否確認の声かけ」が 8 割前後、上矢作町で「買い物」が 58.1%、「外出（買い物、通院など）する時の手助け」が 48.4%、東野で「非常時の手助け」が 65.4%と、それぞれ他の居住地区と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

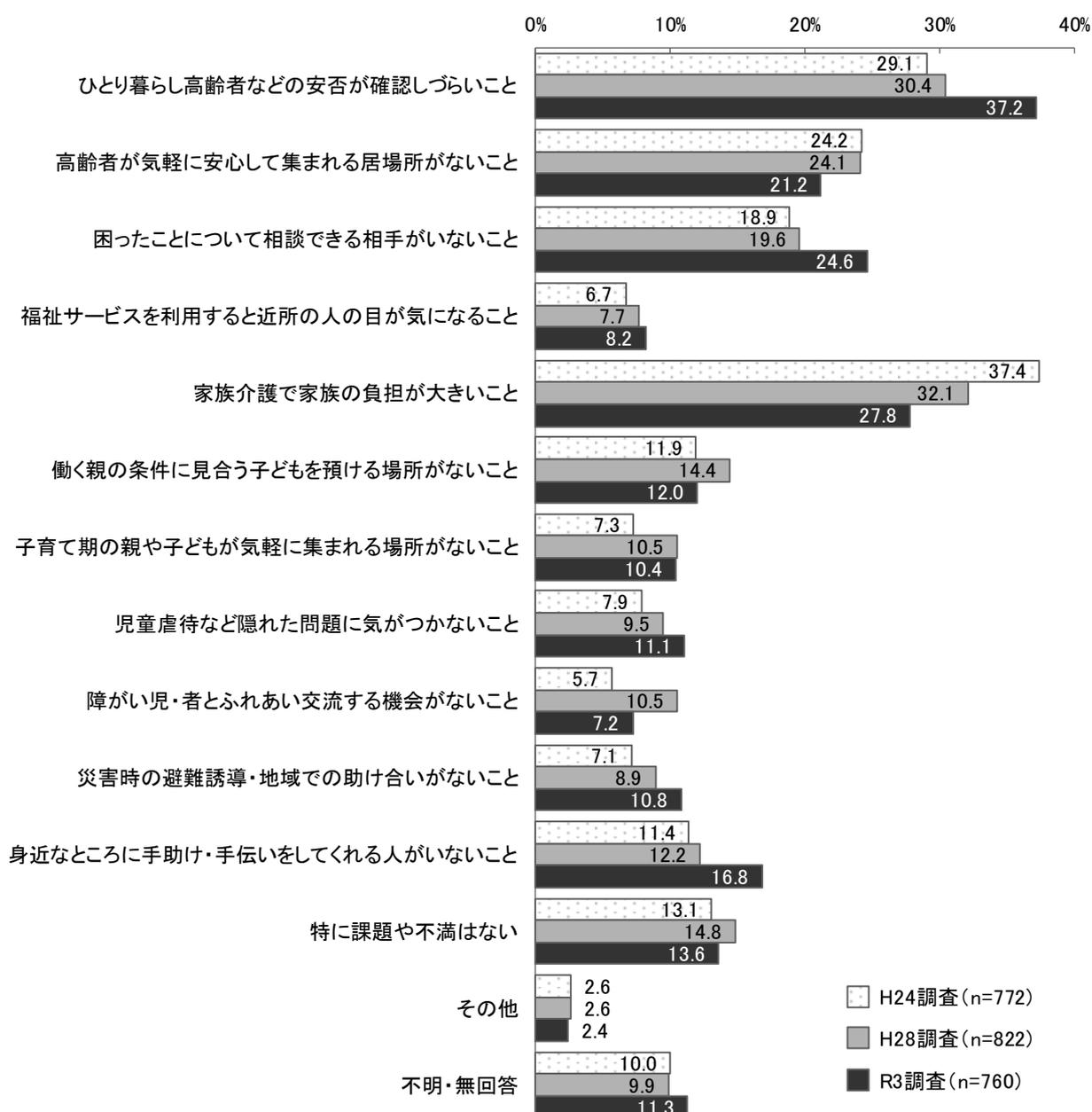
区分	n=	安否確認の声かけ	話し相手	買い物	ゴミ出し、草取りなど外回りの家事	外出(買い物、通院など)する時の手助け	ちよっとした修理や補修	短時間の子ども預かり	高齢者の介護	非常時の手助け	特にない	その他	不明・無回答
【年齢区分別】													
10歳代・20歳代	44	59.1	54.5	27.3	36.4	22.7	22.7	20.5	11.4	63.6	2.3	4.5	4.5
30歳代	61	63.9	37.7	45.9	36.1	31.1	26.2	27.9	11.5	57.4	4.9	1.6	16.4
40歳代	93	65.6	30.1	33.3	26.9	25.8	18.3	23.7	7.5	48.4	6.5	2.2	9.7
50歳代	119	75.6	34.5	34.5	34.5	26.9	19.3	21.8	10.9	56.3	4.2	0.8	7.6
60歳代	179	67.0	46.4	35.8	43.0	34.1	25.1	16.8	11.7	54.2	5.6	0.0	10.6
70歳以上	214	58.9	42.1	31.3	34.6	22.9	16.4	8.9	5.6	37.4	2.8	0.5	22.4
【居住地区別】													
大井町	180	65.0	42.2	32.2	34.4	25.0	23.9	22.2	9.4	50.6	5.0	1.1	13.3
長島町	140	60.7	35.0	34.3	34.3	24.3	19.3	15.0	10.0	49.3	7.1	1.4	12.9
東野	26	61.5	50.0	19.2	30.8	23.1	11.5	7.7	0.0	65.4	0.0	0.0	7.7
三郷町	44	70.5	34.1	27.3	36.4	31.8	13.6	15.9	9.1	47.7	2.3	2.3	18.2
武並町	43	79.1	53.5	41.9	44.2	23.3	18.6	20.9	11.6	48.8	2.3	2.3	7.0
笠置町	25	64.0	40.0	24.0	40.0	28.0	36.0	16.0	4.0	56.0	0.0	0.0	12.0
中野方町	23	82.6	47.8	34.8	34.8	43.5	21.7	4.3	0.0	47.8	0.0	0.0	8.7
飯地町	7	42.9	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6
岩村町	70	70.0	40.0	30.0	32.9	15.7	17.1	17.1	7.1	50.0	4.3	0.0	18.6
山岡町	66	62.1	37.9	28.8	30.3	22.7	12.1	15.2	13.6	43.9	7.6	0.0	18.2
明智町	76	57.9	44.7	43.4	39.5	28.9	22.4	15.8	10.5	44.7	3.9	1.3	23.7
串原	14	42.9	21.4	35.7	35.7	42.9	21.4	28.6	7.1	28.6	0.0	0.0	14.3
上矢作町	31	64.5	35.5	58.1	45.2	48.4	29.0	12.9	6.5	45.2	0.0	0.0	6.5

問 24 お住まいの地域のなかで、福祉に関するどのような課題がありますか。(複数回答)

居住地域にある福祉に関する課題は、R3 調査で「ひとり暮らし高齢者などの安否が確認しづらいこと」が 37.2%と最も高く、次いで「家族介護で家族の負担が大きいこと」が 27.8%となっています。経年比較すると、「ひとり暮らし高齢者などの安否が確認しづらいこと」「困ったことについて相談できる相手がないこと」「身近なところに手助け・手伝いをしてくれる人がいないこと」は増加傾向となっています。

年齢区分別では、30 歳代で「家族介護で家族の負担が大きいこと」が 39.3%と他の年齢区分と比べて高く、60 歳代以下でそれぞれ約 3 割となっています。

居住地区別では、三郷町で「ひとり暮らし高齢者などの安否が確認しづらいこと」が 50.0%、東野及び串原で「家族介護で家族の負担が大きいこと」がそれぞれ 4 割を超えており、他の居住地区と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	ひとり暮らし高齢者などの安否が確認しづらいこと	高齢者が気軽に安心して集まれる居場所がないこと	困ったことについて相談できる相手がないこと	福祉サービスを利用すると近所の人の目が気になること	家族介護で家族の負担が大きいこと	働く親の条件に見合う子どもを預ける場所がないこと	子育て期の親や子どもが気軽に集まれる場所がないこと	児童虐待など隠れた問題に気がつかないこと	障がい児・者とふれあい交流する機会がないこと	災害時の避難誘導・地域での助け合いがないこと	身近なところに手助け・手伝いをしてくれる人がいないこと
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	43.2	13.6	18.2	9.1	29.5	18.2	13.6	18.2	9.1	18.2	13.6
30歳代	61	42.6	9.8	19.7	9.8	39.3	19.7	19.7	18.0	13.1	13.1	11.5
40歳代	93	41.9	12.9	29.0	10.8	31.2	18.3	11.8	9.7	3.2	6.5	14.0
50歳代	119	33.6	16.8	26.1	11.8	33.6	10.1	8.4	12.6	7.6	10.9	16.0
60歳代	179	32.4	24.0	25.1	7.8	30.7	11.2	8.9	12.3	8.9	8.9	16.8
70歳以上	214	38.8	30.4	24.8	5.6	19.2	7.0	8.4	6.1	5.1	13.6	20.6
【居住地区別】												
大井町	180	42.2	23.3	27.8	9.4	24.4	15.6	11.1	17.8	7.8	15.0	16.7
長島町	140	36.4	16.4	27.9	10.7	30.7	13.6	10.0	14.3	7.1	10.0	19.3
東野	26	30.8	19.2	26.9	7.7	46.2	19.2	11.5	19.2	11.5	7.7	15.4
三郷町	44	50.0	20.5	25.0	4.5	27.3	11.4	13.6	11.4	9.1	6.8	13.6
武並町	43	34.9	30.2	18.6	7.0	27.9	11.6	9.3	9.3	7.0	14.0	11.6
笠置町	25	28.0	24.0	12.0	8.0	28.0	12.0	8.0	8.0	8.0	8.0	4.0
中野方町	23	13.0	21.7	13.0	26.1	26.1	8.7	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3
飯地町	7	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3
岩村町	70	44.3	22.9	32.9	4.3	31.4	12.9	12.9	5.7	7.1	14.3	22.9
山岡町	66	33.3	22.7	22.7	10.6	27.3	7.6	9.1	6.1	9.1	12.1	25.8
明智町	76	34.2	18.4	22.4	6.6	25.0	7.9	7.9	7.9	3.9	6.6	18.4
串原	14	42.9	14.3	21.4	0.0	42.9	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	7.1
上矢作町	31	25.8	32.3	12.9	0.0	22.6	3.2	12.9	0.0	3.2	9.7	9.7

■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	特に課題や不満はない	その他	不明・無回答
<b>【年齢区分別】</b>				
10歳代・20歳代	44	20.5	2.3	2.3
30歳代	61	11.5	4.9	8.2
40歳代	93	14.0	3.2	6.5
50歳代	119	15.1	1.7	13.4
60歳代	179	14.0	2.8	9.5
70歳以上	214	12.1	1.4	14.0
<b>【居住地区別】</b>				
大井町	180	13.9	2.2	7.8
長島町	140	14.3	2.1	10.0
東野	26	7.7	3.8	7.7
三郷町	44	4.5	2.3	11.4
武並町	43	14.0	0.0	9.3
笠置町	25	28.0	4.0	12.0
中野方町	23	17.4	0.0	30.4
飯地町	7	0.0	0.0	42.9
岩村町	70	7.1	0.0	8.6
山岡町	66	16.7	1.5	12.1
明智町	76	17.1	5.3	14.5
串原	14	14.3	0.0	7.1
上矢作町	31	12.9	6.5	12.9

## 7 災害時について

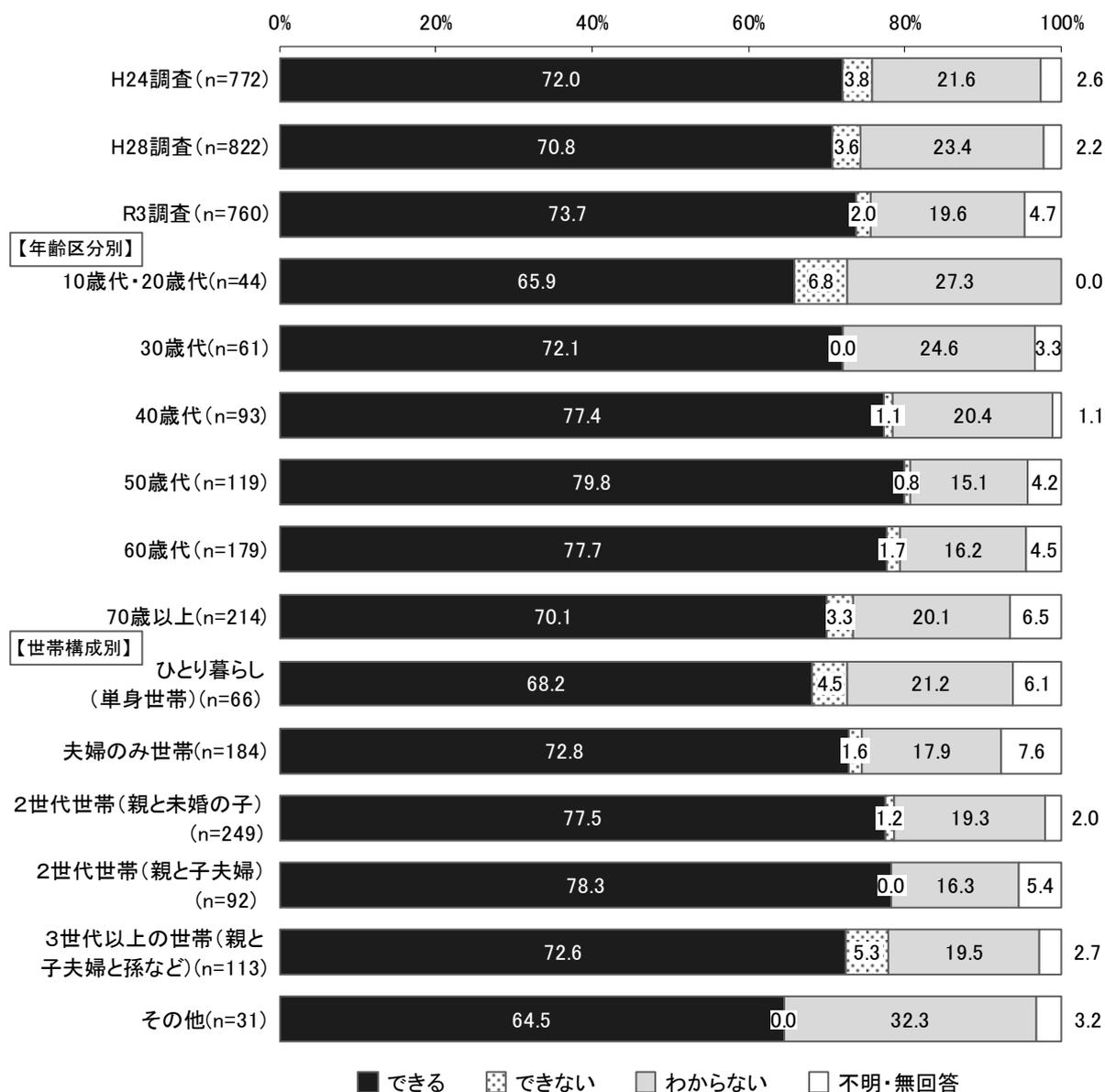
問 25 あなたは、地震などの災害発生時に、自力で避難することができますか。(単数回答)

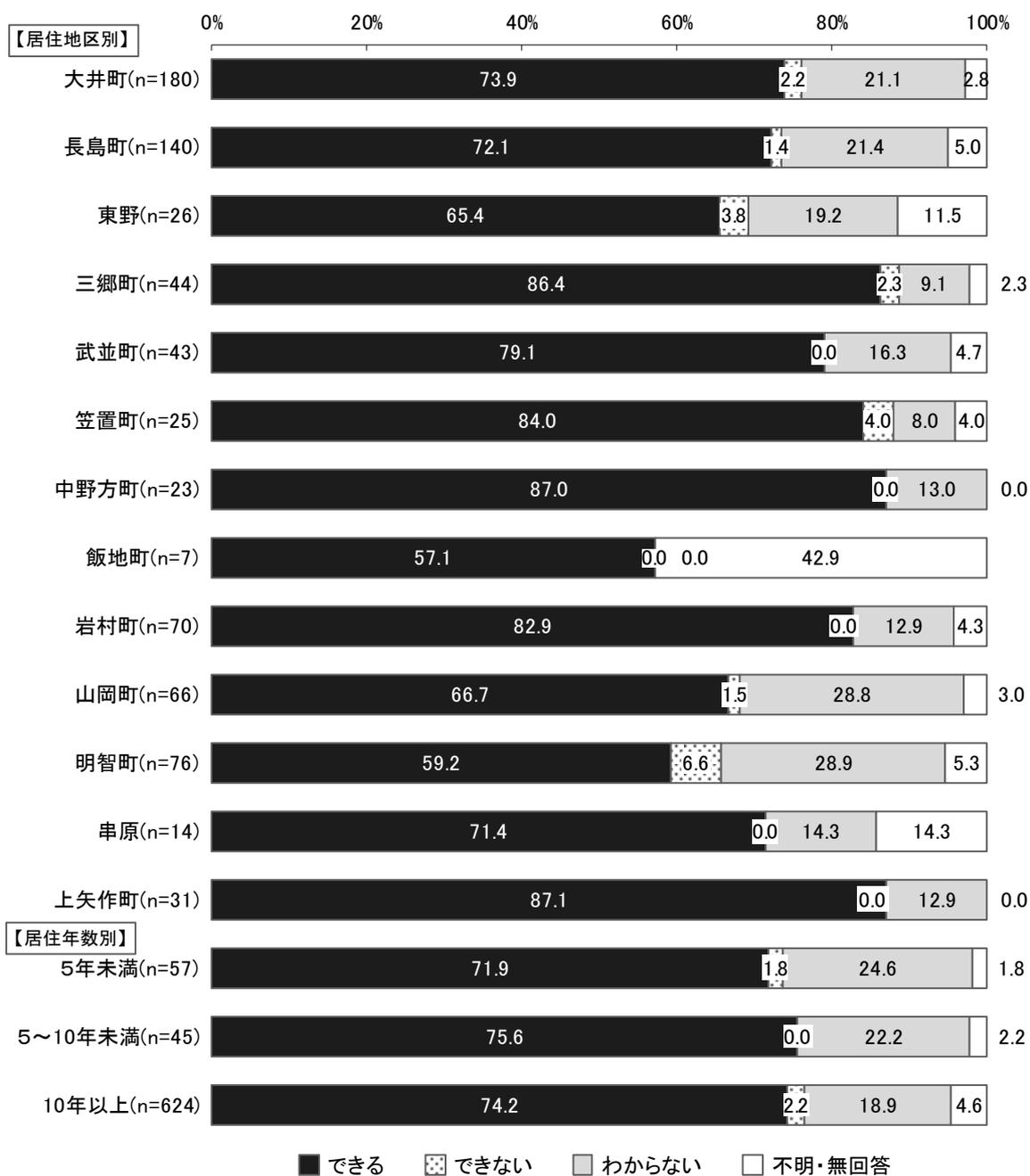
災害発生時に自力で避難できるかは、R3調査で「できる」が73.7%、「できない」が2.0%、「わからない」が19.6%となっています。

年齢区分別では、10歳代・20歳代で「できない」が6.8%と、他の年代と比べて高くなっています。

世帯構成別では、ひとり暮らし（単身世帯）及び3世代以上の世帯（親と子夫婦と孫など）で「できない」がそれぞれ5%前後となっています。

居住地区では、明智町で「できない」が6.6%となっています。



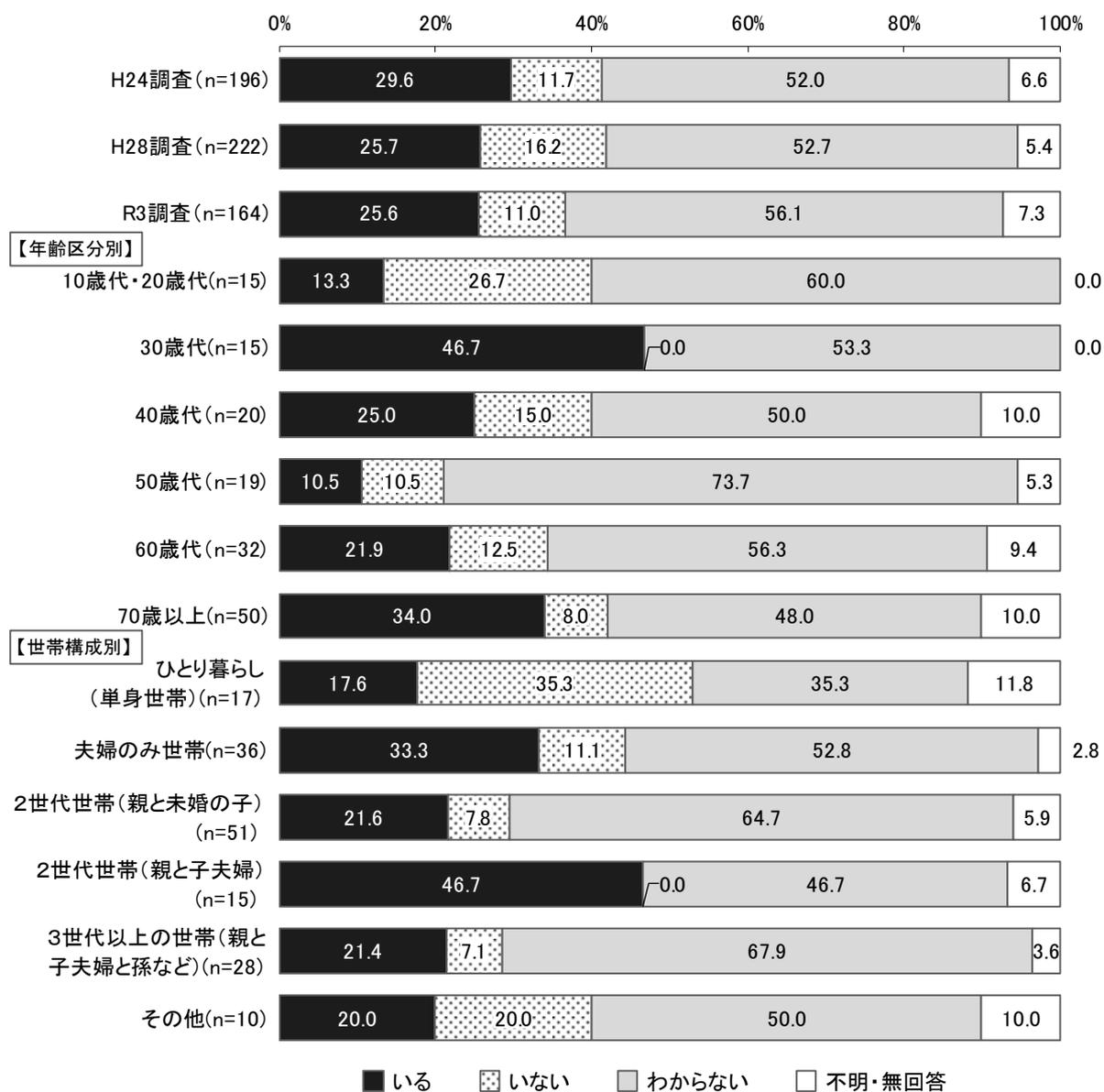


問 25-1 あなたは、地震など災害発生時に助けてもらえる人がいますか。いる人は誰が助けてくれるかについてもお答えください。(単数回答)

\*問 25 で「2 できない」「3 わからない」と答えた方のみへの質問

災害発生時に助けてもらえる人がいるかは、R3 調査で「いる」が 25.6%、「いない」が 11.0%、「わからない」が 56.1%となっています。

年齢区分別で、10 歳代・20 歳代及び 50 歳代で「いない」「わからない」が 8 割強と高くなっています。



## ◆助けてくれる人

\*問 25-1 で「1 いる」と答えた方のみへの質問

災害発生時に助けてくれる人が「いる」方 42 件のうち、助けてくれる人は、家族が 19 件と最も多く、次いで「夫」「子ども」の家族となっています。

### ■助けてくれる人

助けてくれる人	件数
家族	19
夫	8
子ども	6
近所の人	4
配偶者	3
親	3
息子	3
兄弟姉妹	3
夫、子ども	2

助けてくれる人	件数
自治会	2
地域の消防団	2
同居の長男家族	1
息子夫婦	1
夫とその親戚	1
妻	1
親族	1
家族、近所の人	1
施設職員	1

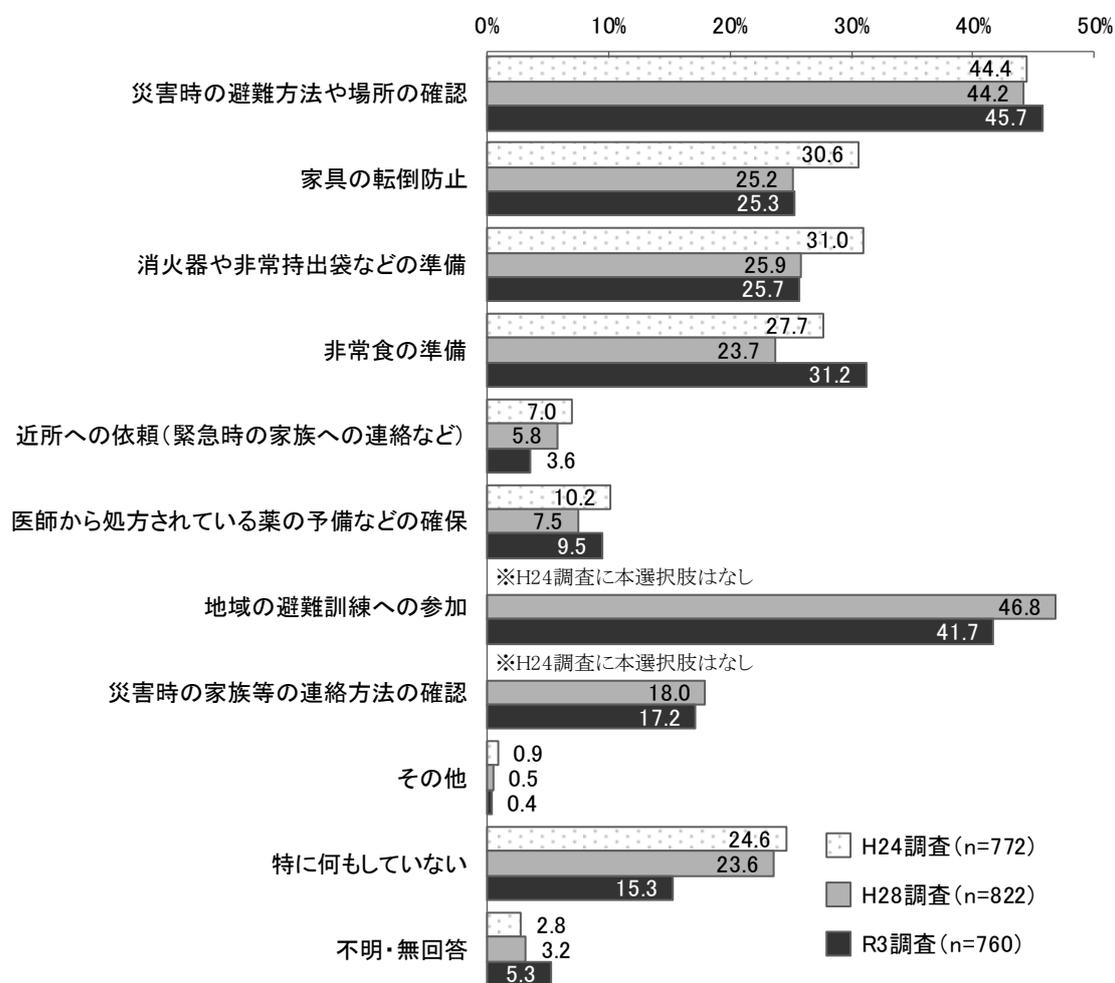
## 問 26 あなたは、普段から災害に備えてどのような対応をしていますか。(複数回答)

普段から災害に備えてとっている対応は、R3 調査で「災害時の避難方法や場所の確認」が 45.7%と最も高く、次いで「地域の避難訓練への参加」が 41.7%となっています。経年比較すると、「特に何もしていない」が H24 調査及び H28 調査と比べてそれぞれ約 9 ポイント低くなっています。

年齢区分別では、30 歳代及び 40 歳代で「非常食の準備」が 4 割前後、他の年代では 3 割前後となっています。また、「地域の避難訓練への参加」は年代が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

居住地区別では、武並町で「非常食の準備」が 18.6%と他の居住地区と比べて低く、山岡町で「特に何もしていない」が 27.3%と他の居住地区と比べて高くなっています。

居住年数別では、5 年未満で「地域の避難訓練への参加」が 10.5%と、5 年以上と比べて低くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	災害時の避難方法や場所の確認	家具の転倒防止	消火器や非常持出袋などの準備	非常食の準備	近所への依頼(緊急時の家族への連絡など)	医師から処方されている薬の予備などの確保	地域の避難訓練への参加	災害時の家族等の連絡方法の確認	その他	特に何もしていない	不明・無回答
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	52.3	20.5	15.9	34.1	2.3	6.8	20.5	15.9	2.3	18.2	0.0
30歳代	61	34.4	21.3	23.0	41.0	3.3	8.2	23.0	11.5	1.6	19.7	3.3
40歳代	93	52.7	26.9	21.5	38.7	3.2	4.3	41.9	18.3	0.0	14.0	2.2
50歳代	119	43.7	27.7	28.6	31.9	2.5	3.4	38.7	24.4	0.0	14.3	5.0
60歳代	179	52.0	27.4	31.8	27.9	3.4	11.2	49.2	17.3	0.6	12.8	5.0
70歳以上	214	41.1	22.9	22.9	28.5	5.1	14.0	48.1	15.9	0.0	15.9	7.0
【居住地区別】												
大井町	180	46.7	26.7	18.3	36.7	1.1	8.3	33.3	16.1	0.0	16.1	3.3
長島町	140	50.0	28.6	26.4	36.4	5.0	10.0	40.0	19.3	0.0	16.4	6.4
東野	26	57.7	34.6	30.8	38.5	7.7	11.5	38.5	26.9	3.8	3.8	7.7
三郷町	44	50.0	27.3	27.3	31.8	4.5	6.8	47.7	22.7	0.0	13.6	2.3
武並町	43	46.5	20.9	20.9	18.6	0.0	14.0	44.2	16.3	0.0	16.3	7.0
笠置町	25	56.0	16.0	40.0	32.0	0.0	12.0	52.0	24.0	0.0	4.0	4.0
中野方町	23	39.1	26.1	43.5	34.8	0.0	4.3	73.9	8.7	0.0	4.3	0.0
飯地町	7	28.6	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	42.9
岩村町	70	38.6	30.0	30.0	27.1	5.7	10.0	51.4	21.4	0.0	14.3	2.9
山岡町	66	37.9	18.2	19.7	22.7	3.0	9.1	27.3	13.6	1.5	27.3	6.1
明智町	76	42.1	21.1	21.1	21.1	5.3	7.9	40.8	9.2	1.3	19.7	6.6
串原	14	57.1	21.4	14.3	28.6	0.0	7.1	57.1	21.4	0.0	7.1	7.1
上矢作町	31	45.2	19.4	58.1	38.7	12.9	19.4	64.5	12.9	0.0	6.5	0.0
【居住年数別】												
5年未満	57	43.9	21.1	26.3	47.4	1.8	8.8	10.5	17.5	0.0	19.3	1.8
5~10年未満	45	60.0	26.7	24.4	42.2	4.4	8.9	46.7	20.0	0.0	8.9	4.4
10年以上	624	45.4	25.3	25.8	29.5	3.8	9.8	44.9	17.1	0.5	15.2	5.1

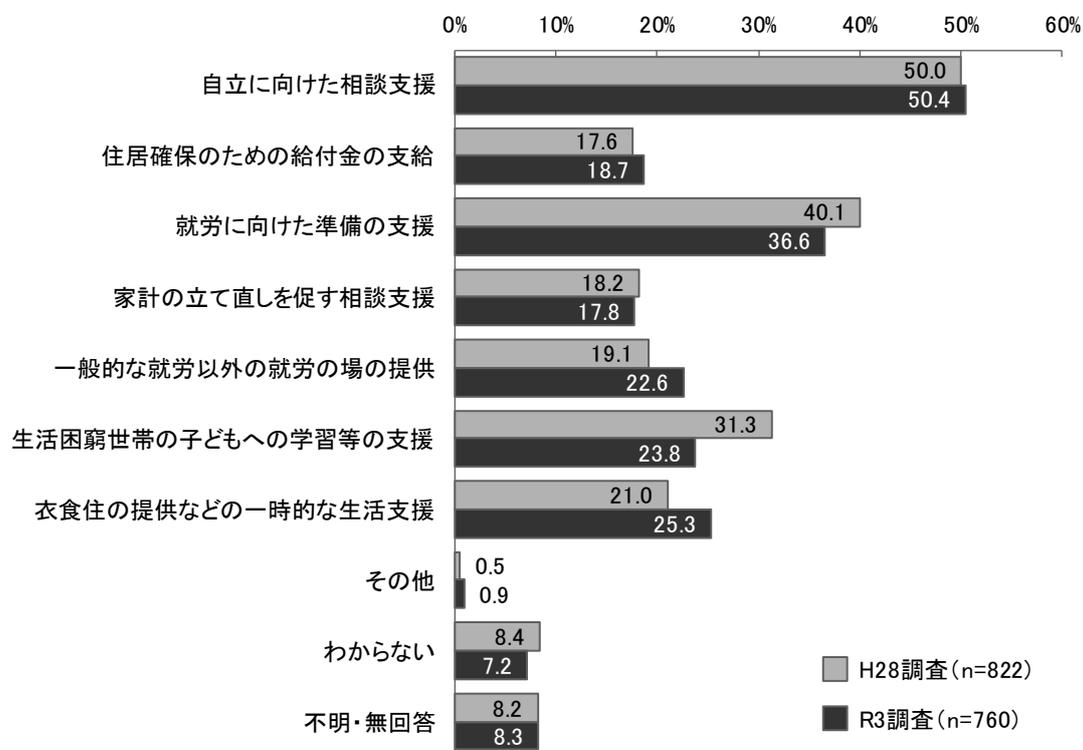
## 8 生活困窮について

問 27 生活困窮者（就労したくてもできない、住居がない等の人）を支援するためどのような施策が重要だと思いますか。（複数回答）

生活困窮者の支援のために重要だと思う施策は、R3 調査で「自立に向けた相談支援」が 50.4%と最も高く、次いで「就労に向けた準備の支援」が 36.6%となっています。

年齢区分別では、30 歳代で「住居確保のための給付金の支給」が 29.5%と、他の年代と比べて高くなっています。

居住地区別では、笠置町で「衣食住の提供などの一時的な生活支援」が 48.0%と高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

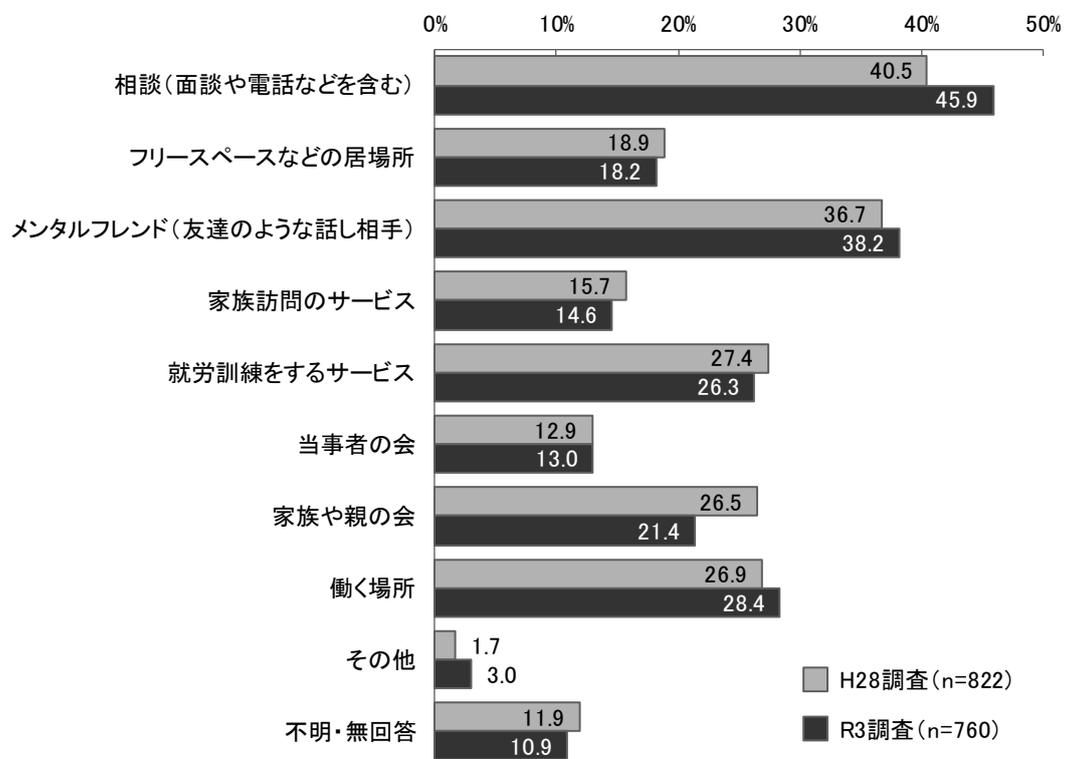
区分	n=	自立に向けた相談支援	住居確保のための給付金の支給	就労に向けた準備の支援	家計の立て直しを促す相談支援	一般的な就労以外の就労の場の提供	生活困窮世帯の子どもへの学習等の支援	衣食住の提供などの一時的な生活支援	その他	わからない	不明・無回答
【年齢区分別】											
10歳代・20歳代	44	59.1	13.6	38.6	11.4	18.2	31.8	18.2	0.0	15.9	0.0
30歳代	61	47.5	29.5	45.9	18.0	19.7	31.1	27.9	3.3	4.9	6.6
40歳代	93	57.0	16.1	49.5	20.4	24.7	30.1	17.2	0.0	6.5	4.3
50歳代	119	53.8	21.8	36.1	14.3	26.1	25.2	21.0	0.8	4.2	5.0
60歳代	179	50.8	16.2	38.5	21.8	27.9	25.1	28.5	0.0	6.1	6.1
70歳以上	214	46.7	18.2	27.1	17.8	19.6	17.3	26.6	1.4	9.8	14.0
【居住地区別】											
大井町	180	50.0	14.4	38.3	17.2	25.0	26.7	24.4	2.2	6.7	6.7
長島町	140	54.3	17.9	48.6	17.9	23.6	26.4	20.0	0.0	5.0	6.4
東野	26	46.2	15.4	42.3	26.9	19.2	26.9	19.2	0.0	11.5	11.5
三郷町	44	59.1	20.5	34.1	18.2	9.1	22.7	29.5	0.0	2.3	6.8
武並町	43	58.1	18.6	25.6	20.9	23.3	23.3	32.6	0.0	4.7	7.0
笠置町	25	48.0	20.0	44.0	12.0	16.0	28.0	48.0	0.0	16.0	4.0
中野方町	23	52.2	17.4	47.8	4.3	8.7	8.7	21.7	0.0	0.0	21.7
飯地町	7	57.1	14.3	28.6	0.0	14.3	14.3	28.6	0.0	0.0	42.9
岩村町	70	47.1	21.4	34.3	22.9	30.0	30.0	21.4	0.0	10.0	4.3
山岡町	66	47.0	19.7	25.8	18.2	28.8	12.1	30.3	0.0	10.6	10.6
明智町	76	46.1	27.6	30.3	19.7	25.0	22.4	25.0	2.6	6.6	7.9
串原	14	42.9	28.6	0.0	28.6	35.7	14.3	14.3	7.1	21.4	7.1
上矢作町	31	51.6	12.9	41.9	12.9	12.9	25.8	35.5	0.0	3.2	9.7

問 28 ひきこもり当事者に対して、行政に取り組んでほしいことは何ですか。(複数回答)

ひきこもり当事者に対して行政に取り組んでほしいことは、R3 調査で「相談（面談や電話などを含む）」が 45.9%と最も高く、次いで「メンタルフレンド（友達のような話し相手）」が 38.2%となっています。

年齢区分別では、50 歳代以上で「相談（面談や電話などを含む）」が 5 割前後、30 歳代で「メンタルフレンド（友達のような話し相手）」「就労訓練をするサービス」がそれぞれ 5 割前後と、他の年代と比べて高くなっています。

居住地区別では、笠置町で「相談（面談や電話などを含む）」が 64.0%と、他の居住地区と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

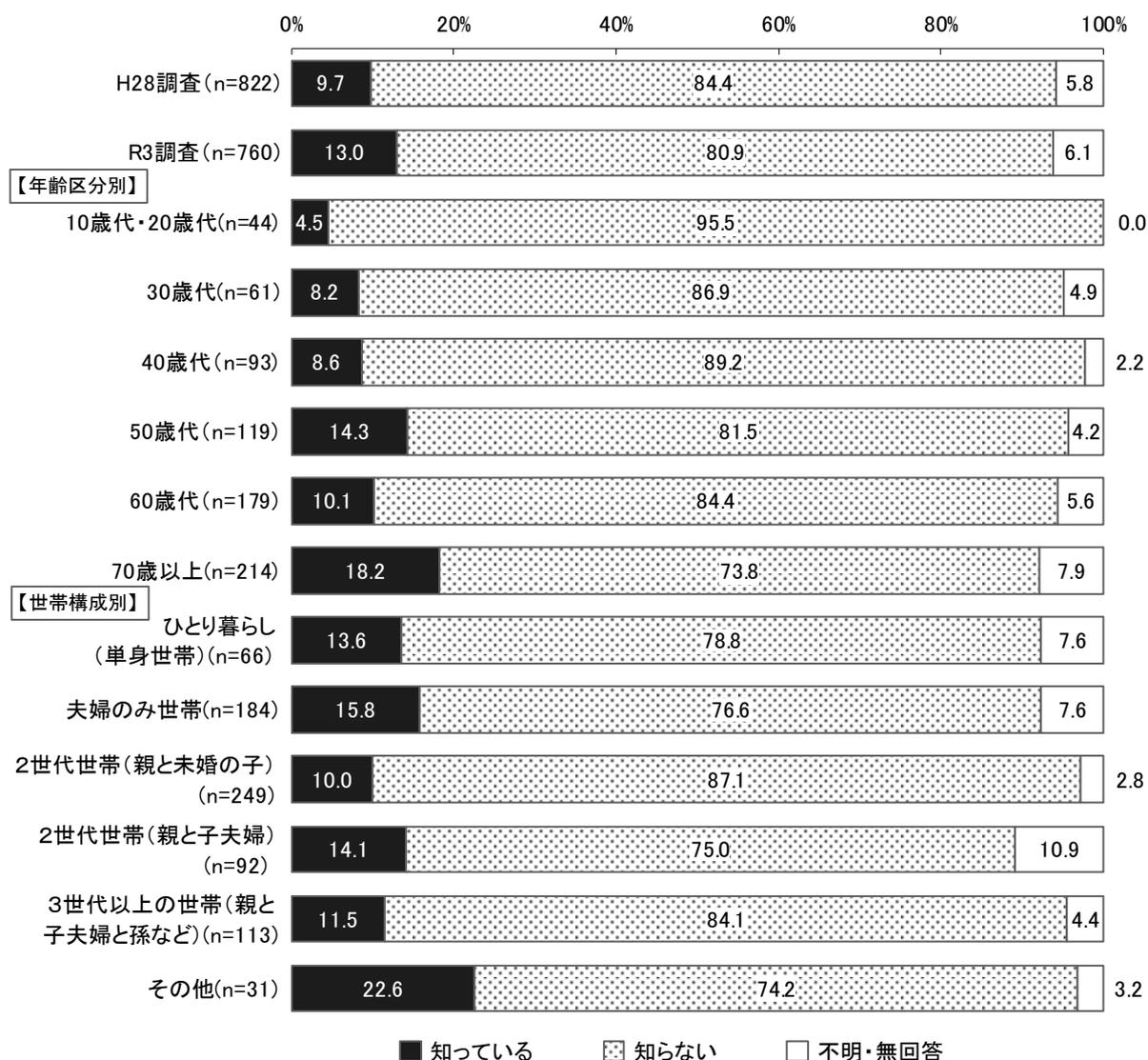
区分	n=	相談(面談や電話などを含む)	フリースペースなどの居場所	メンタルフレンド(友達のような話し相手)	家族訪問のサービス	就労訓練をするサービス	当事者の会	家族や親の会	働く場所	その他	不明・無回答
【年齢区分別】											
10歳代・20歳代	44	38.6	20.5	34.1	4.5	20.5	6.8	11.4	43.2	6.8	0.0
30歳代	61	37.7	24.6	52.5	8.2	45.9	14.8	18.0	37.7	4.9	8.2
40歳代	93	36.6	25.8	41.9	11.8	33.3	18.3	18.3	35.5	0.0	5.4
50歳代	119	46.2	17.6	34.5	15.1	31.1	13.4	30.3	30.3	2.5	6.7
60歳代	179	51.4	16.2	40.8	14.0	23.5	14.0	26.3	22.9	5.0	7.8
70歳以上	214	50.9	14.5	33.2	21.0	19.2	13.1	18.2	24.8	2.3	19.6
【居住地区別】											
大井町	180	42.8	22.8	35.0	13.3	27.8	16.1	17.2	30.0	3.3	11.1
長島町	140	49.3	20.7	38.6	9.3	28.6	11.4	27.9	34.3	3.6	7.9
東野	26	42.3	11.5	42.3	30.8	26.9	11.5	19.2	15.4	7.7	7.7
三郷町	44	54.5	13.6	45.5	18.2	22.7	20.5	34.1	29.5	0.0	6.8
武並町	43	44.2	14.0	44.2	11.6	30.2	9.3	18.6	25.6	2.3	9.3
笠置町	25	64.0	12.0	32.0	16.0	40.0	4.0	28.0	20.0	0.0	4.0
中野方町	23	43.5	4.3	26.1	30.4	17.4	21.7	17.4	21.7	4.3	17.4
飯地町	7	0.0	14.3	14.3	28.6	0.0	28.6	28.6	14.3	0.0	42.9
岩村町	70	52.9	14.3	45.7	18.6	34.3	5.7	11.4	27.1	1.4	11.4
山岡町	66	45.5	10.6	39.4	16.7	19.7	12.1	22.7	28.8	4.5	10.6
明智町	76	40.8	25.0	32.9	11.8	25.0	17.1	21.1	30.3	3.9	13.2
串原	14	28.6	7.1	42.9	14.3	21.4	0.0	14.3	14.3	7.1	28.6
上矢作町	31	48.4	25.8	38.7	12.9	9.7	16.1	32.3	29.0	0.0	6.5

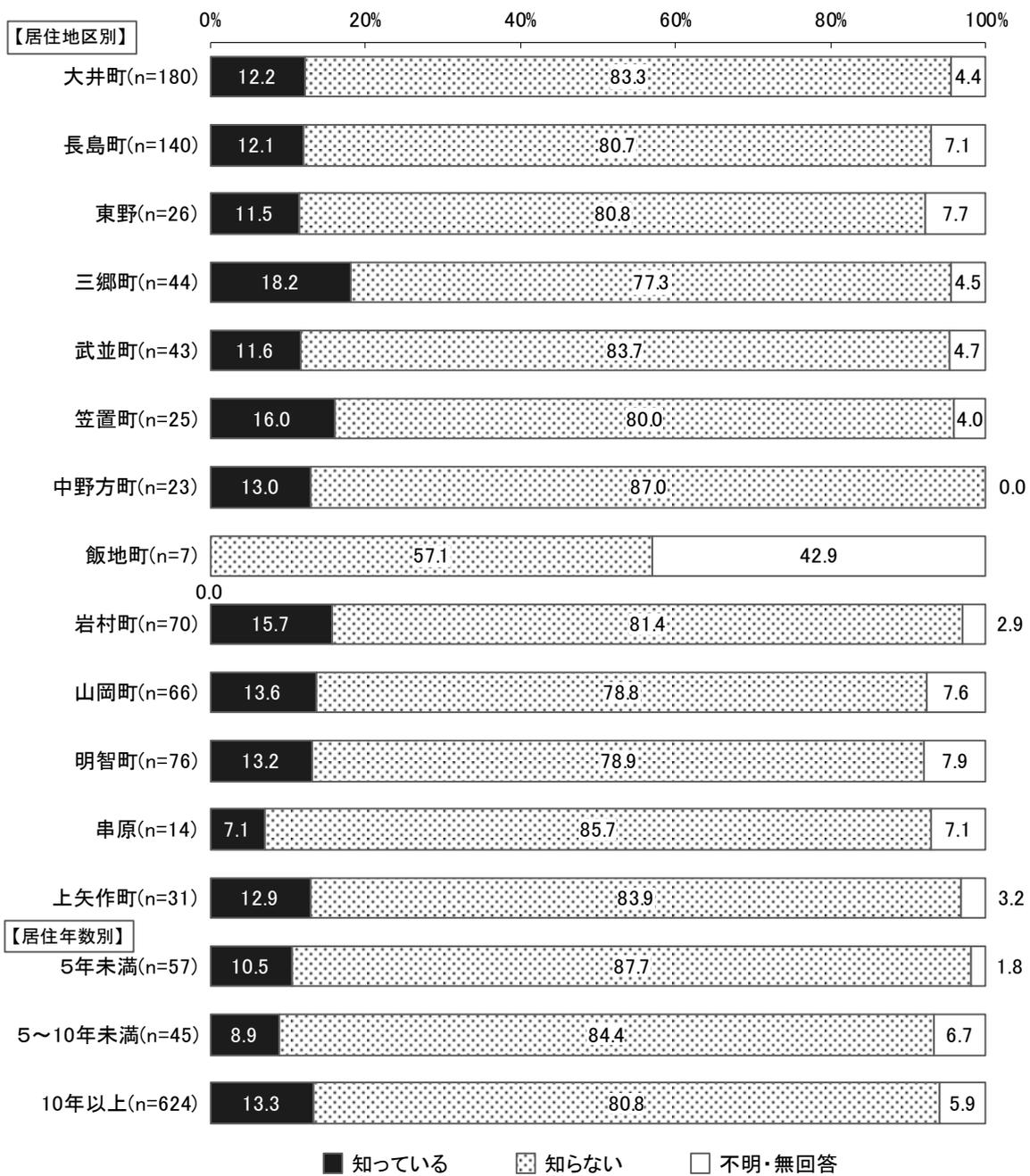
## 問 29 あなたは、生活困窮者自立相談支援の窓口を知っていますか。(単数回答)

生活困窮者自立相談窓口を知っているかは、R3 調査で「知っている」が 13.0%、「知らない」が 80.9%となっています。

年齢区分別では、70 歳以上で「知っている」が最も高いものの 18.2%にとどまっており、他の年代では 1 割程度となっています。

居住地区別では、三郷町で「知っている」が最も高いものの、18.2%にとどまっています。





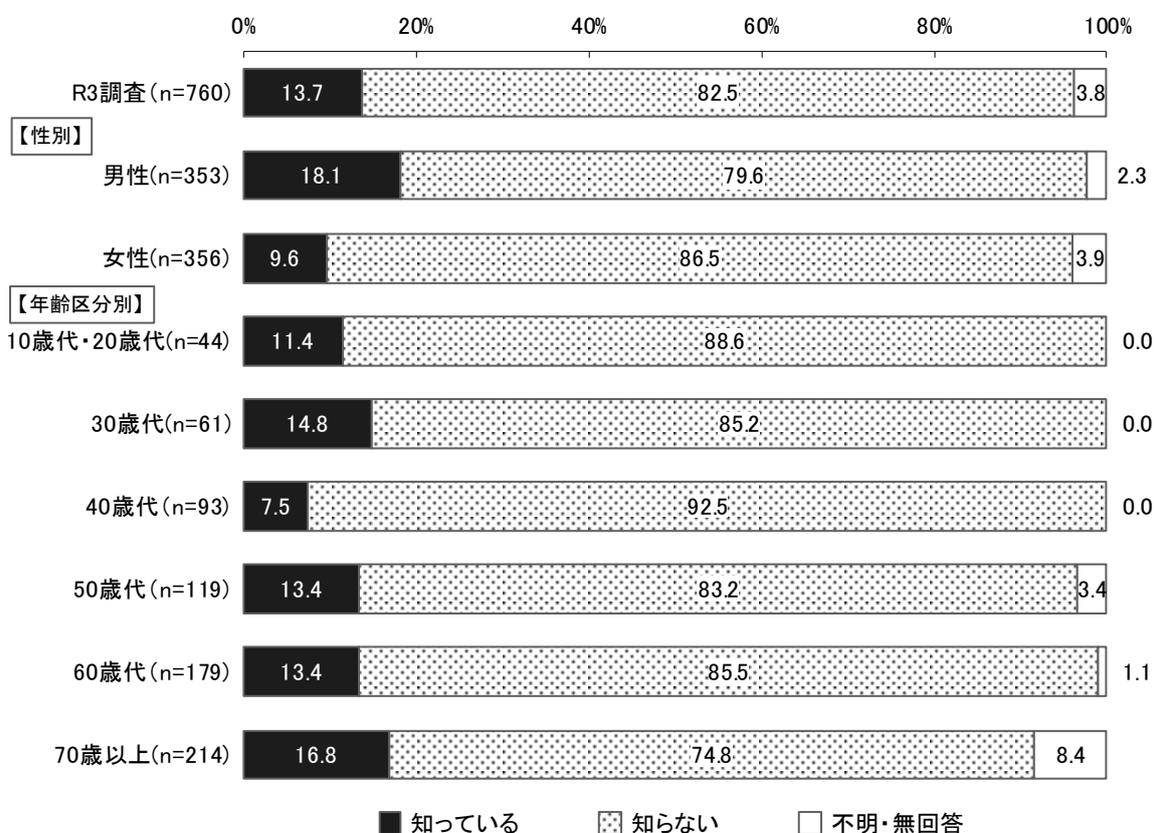
## 9 再犯防止について

### 問 30 あなたは、再犯防止推進法について知っていますか。(単数回答)

再犯防止推進法を知っているかは、「知っている」が 13.7%、「知らない」が 82.5%となっています。

性別では、男性で「知っている」が 18.1%と、女性と比べて 8.5 ポイント高くなっています。

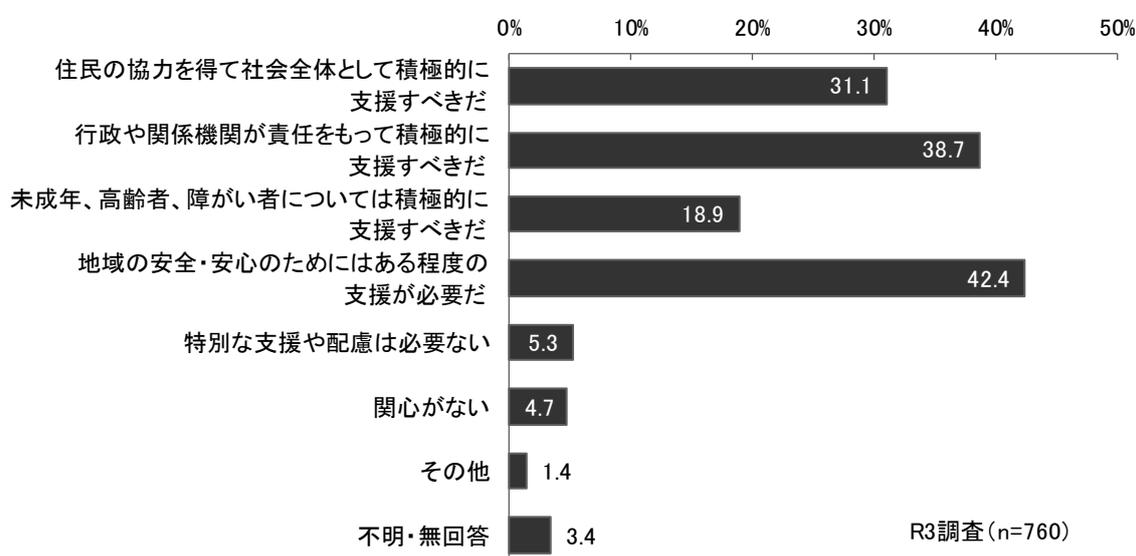
年齢区分別では、70 歳以上で「知っている」が最も高いものの 16.8%にとどまっており、他の年代では 1 割程度となっています。



問 31 刑務所や少年院を出た人が立ち直り、地域の一員として生活できるように支援することについて、あなたの考えに特に近いものを選んでください。(複数回答)

刑務所や少年院を出た人が立ち直り、地域の一員として生活できるように支援することについての考えは、「地域の安全・安心のためにはある程度の支援が必要だ」が 42.4%と最も高く、次いで「行政や関係機関が責任をもって積極的に支援すべきだ」が 38.7%となっています。

年齢区分別では、10 歳代・20 歳代で「住民の協力を得て社会全体として積極的に支援すべきだ」が、30 歳代～60 歳代で「地域の安全・安心のためにはある程度の支援が必要だ」が、70 歳以上で「行政や関係機関が責任をもって積極的に支援すべきだ」が、それぞれ最も高くなっています。なお、「関心がない」について、若年層で割合が高い傾向があります。



■クロス集計

(単位: %)

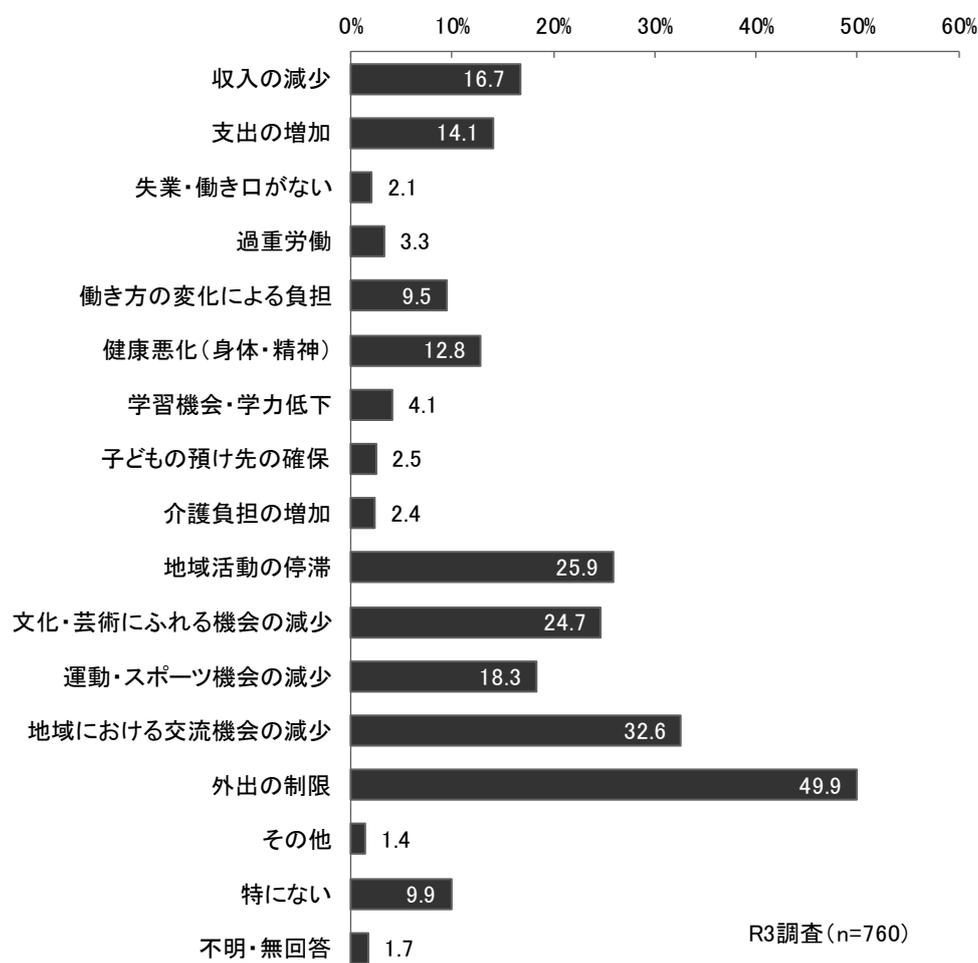
区分	n=	住民の協力を得て社会全体として積極的に支援すべきだ	住民の協力を得て社会全体として積極的に支援すべきだ	行政や関係機関が責任をもって積極的に支援すべきだ	未成年、高齢者、障がい者については積極的に支援すべきだ	地域の安全・安心のためにはある程度の支援が必要だ	特別な支援や配慮は必要ない	関心がない	その他	不明・無回答
【年齢区分別】										
10 歳代・20 歳代	44	40.9	20.5	13.6	34.1	9.1	11.4	6.8	0.0	
30 歳代	61	29.5	34.4	19.7	41.0	4.9	11.5	4.9	0.0	
40 歳代	93	26.9	32.3	18.3	44.1	3.2	7.5	0.0	1.1	
50 歳代	119	23.5	33.6	19.3	45.4	5.9	5.0	0.0	3.4	
60 歳代	179	33.0	41.9	14.5	48.6	6.1	3.9	0.0	3.4	
70 歳以上	214	35.0	46.3	22.9	37.9	5.6	1.9	1.4	6.1	

## 10 新型コロナウイルス感染症について

### 問 32 コロナ禍で、あなたが困っていることはどのようなことですか。(複数回答)

コロナ禍で困っていることは、「外出の制限」が 49.9%と最も高く、次いで「地域における交流機会の減少」が 32.6%となっています。

年齢区分別では、40 歳代で「運動・スポーツ機会の減少」が 36.6%と、他の年代と比べて高くなっています。なお、「外出の制限」は若年層に、「地域における交流機会の減少」は高齢者層に、それぞれ割合が高い傾向があります。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	収入の減少	支出の増加	失業・働き口がない	過重労働	働き方の変化による負担	健康悪化(身体・精神)	学習機会・学力低下	子どもの預け先の確保	介護負担の増加	地域活動の停滞	文化・芸術にふれる機会の減少
----	----	-------	-------	-----------	------	-------------	-------------	-----------	------------	---------	---------	----------------

【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	18.2	22.7	2.3	6.8	15.9	6.8	4.5	6.8	2.3	9.1	29.5
30歳代	61	27.9	18.0	3.3	8.2	13.1	9.8	8.2	14.8	0.0	13.1	24.6
40歳代	93	20.4	19.4	0.0	7.5	12.9	15.1	11.8	4.3	2.2	16.1	18.3
50歳代	119	18.5	20.2	4.2	7.6	14.3	13.4	3.4	0.8	1.7	23.5	20.2
60歳代	179	14.5	11.7	1.1	0.0	9.5	14.5	1.7	0.6	5.0	32.4	29.6
70歳以上	214	11.2	7.5	1.9	0.0	3.7	12.6	2.3	0.5	1.9	33.2	27.1

区分	n=	少運動・スポーツ機会の減少	地域における交流機会の減少	外出の制限	その他	特になし	不明・無回答
----	----	---------------	---------------	-------	-----	------	--------

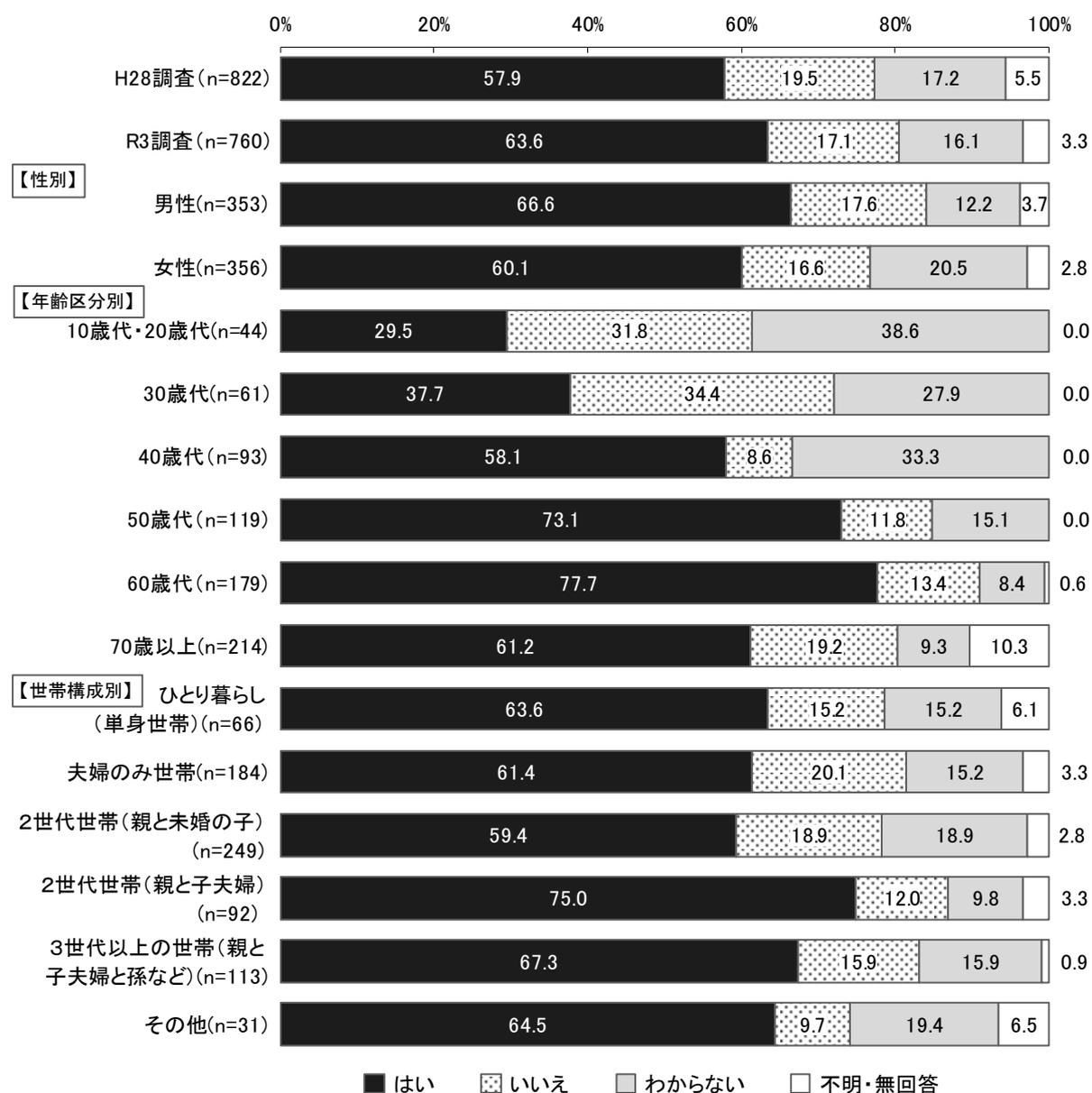
【年齢区分別】							
10歳代・20歳代	44	29.5	9.1	68.2	0.0	0.0	0.0
30歳代	61	19.7	23.0	63.9	1.6	3.3	0.0
40歳代	93	36.6	20.4	51.6	2.2	11.8	2.2
50歳代	119	15.1	25.2	57.1	2.5	10.1	0.0
60歳代	179	16.2	42.5	46.4	1.1	10.1	0.6
70歳以上	214	12.6	43.0	43.9	1.4	12.6	3.7

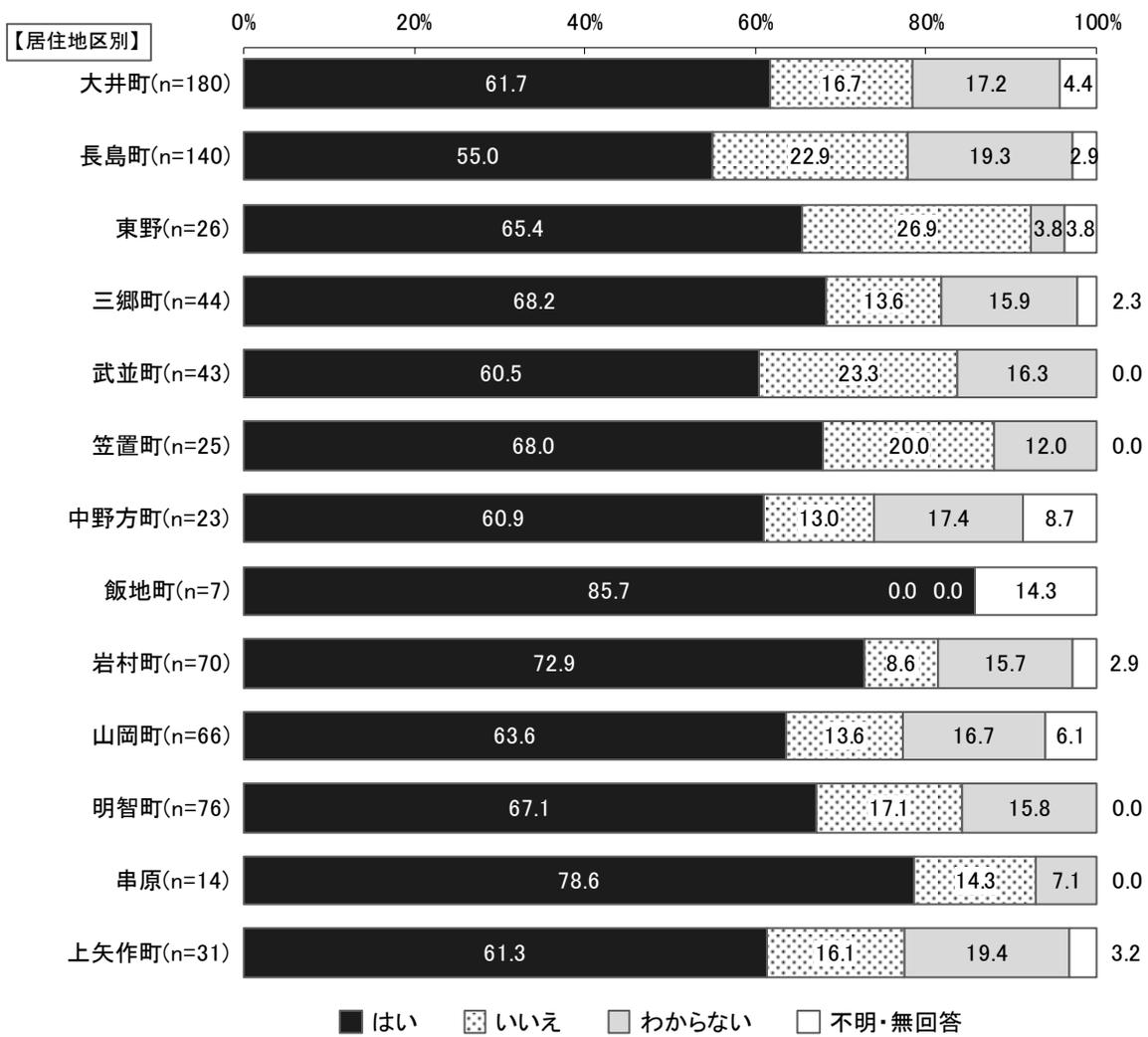
# 11 高齢者の就労について

## 問 33 あなたは、60歳を過ぎてからも働き続けたいと思いますか。(単数回答)

60歳を過ぎてからも働き続けたいと思うかは、R3調査で「はい」が63.6%、「いいえ」が17.1%、「わからない」が16.1%となっています。経年比較すると、「はい」が高くなっています。

年齢区分別では、60歳代まで年代が上がるにつれて「はい」が高くなっています。  
世帯構成別では、ひとり暮らし(単身世帯)で「はい」が63.6%となっています。  
居住地区別では、串原及び岩村町で「はい」が7割を超えて高くなっています。





### 問 33-1 働きたい理由は何ですか。(複数回答)

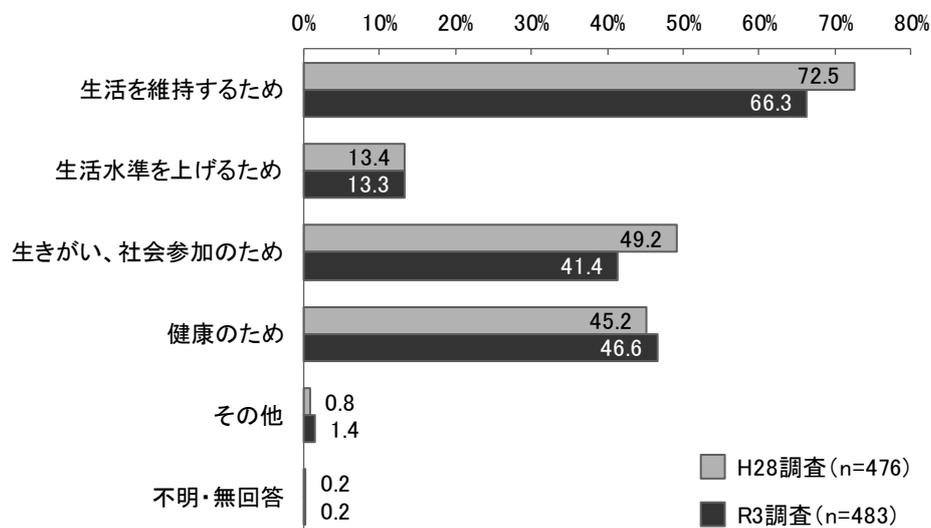
\*問 33で「1 はい」と答えた方のみへの質問

働きたい理由は、R3 調査で「生活を維持するため」が 66.3%と最も高く、次いで「健康のため」が 46.6%となっています。

性別では、女性で「生きがい、社会参加のため」が 49.1%と、男性と比べて 14.2 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、30 歳代で「生きがい、社会参加のため」が 56.5%、40 歳代で「生活を維持するため」が 90.7%と、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

居住地区別では、山岡町及び上矢作町で「生きがい、社会参加のため」が 50.0%以上と、他の居住地区と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	生活を維持するため	生活水準を上げるため	生きがい、社会参加のため	健康のため	その他	不明・無回答
<b>【性別】</b>							
男性	235	70.2	15.7	34.9	49.4	1.3	0.0
女性	214	63.1	10.7	49.1	43.9	1.9	0.5
<b>【年齢区分別】</b>							
10歳代・20歳代	13	76.9	30.8	38.5	61.5	0.0	0.0
30歳代	23	65.2	26.1	56.5	30.4	0.0	0.0
40歳代	54	90.7	11.1	38.9	25.9	0.0	0.0
50歳代	87	78.2	13.8	33.3	40.2	3.4	0.0
60歳代	139	69.8	10.8	44.6	50.4	1.4	0.0
70歳以上	131	42.7	12.2	42.0	61.1	1.5	0.8
<b>【世帯構成別】</b>							
ひとり暮らし(単身世帯)	42	61.9	11.9	31.0	50.0	0.0	0.0
夫婦のみ世帯	113	55.8	6.2	45.1	54.9	2.7	0.0
2世代世帯(親と未婚の子)	148	75.0	17.6	39.9	37.8	2.0	0.0
2世代世帯(親と子夫婦)	69	68.1	8.7	40.6	42.0	0.0	0.0
3世代以上の世帯(親と子夫婦と孫など)	76	64.5	17.1	43.4	51.3	1.3	1.3
その他	20	75.0	30.0	55.0	55.0	0.0	0.0
<b>【居住地区別】</b>							
大井町	111	61.3	15.3	36.9	41.4	2.7	0.0
長島町	77	68.8	23.4	48.1	55.8	2.6	0.0
東野	17	58.8	5.9	41.2	52.9	5.9	0.0
三郷町	30	73.3	10.0	46.7	40.0	0.0	0.0
武並町	26	80.8	15.4	42.3	46.2	0.0	0.0
笠置町	17	52.9	11.8	41.2	58.8	0.0	0.0
中野方町	14	85.7	14.3	28.6	42.9	0.0	0.0
飯地町	6	83.3	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0
岩村町	51	68.6	9.8	35.3	51.0	2.0	0.0
山岡町	42	61.9	7.1	50.0	52.4	0.0	0.0
明智町	51	72.5	9.8	39.2	35.3	0.0	2.0
串原	11	45.5	18.2	36.4	36.4	0.0	0.0
上矢作町	19	57.9	0.0	52.6	47.4	0.0	0.0

## 12 恵那市の地域福祉の評価・検証について

---

問 34 恵那市では地域福祉計画に基づき、様々な取組を行っています。これまでの取組を評価・検証するため、地域福祉に関する取組について満足度と重要度をお答えください。(それぞれ単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

【満足度】	『満足』	…「満足」と「やや満足」の合算
	『不満』	…「やや不満」と「不満」の合算
【重要度】	『重要』	…「重要」と「やや重要」の合算
	『重要ではない』	…「あまり重要ではない」と「重要ではない」の合算

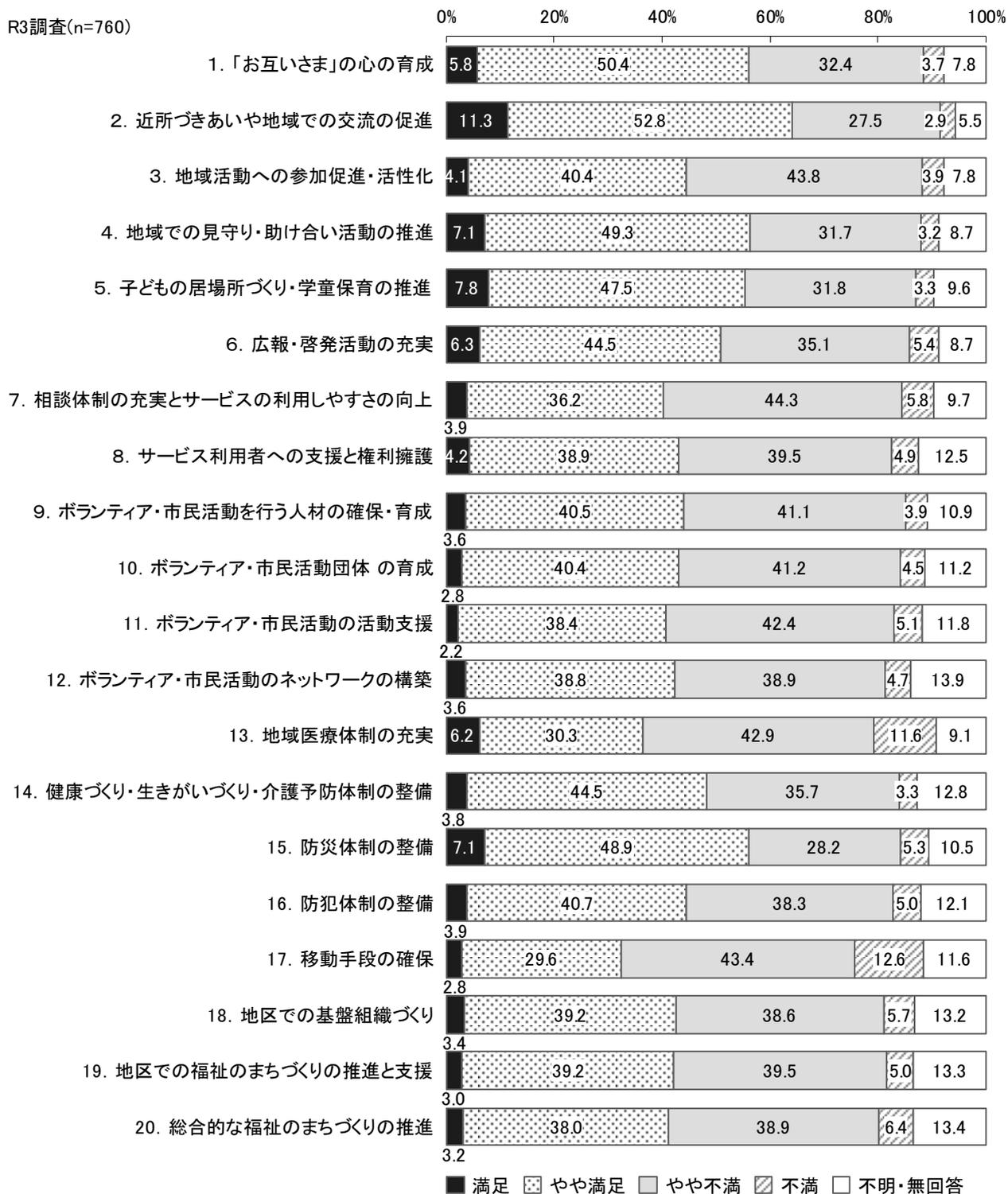
---

地域福祉に関する取組への満足度について、『満足』は「2. 近所づきあいや地域での交流の促進」が64.1%と最も高く、次いで「4. 地域での見守り・助け合い活動の推進」が56.4%となっており、この他4項目について5割を超えています。一方、『不満』は「17. 移動手段の確保」が56.0%と最も高く、次いで「13. 地域医療体制の充実」が54.5%、「7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上」が50.1%となっています。

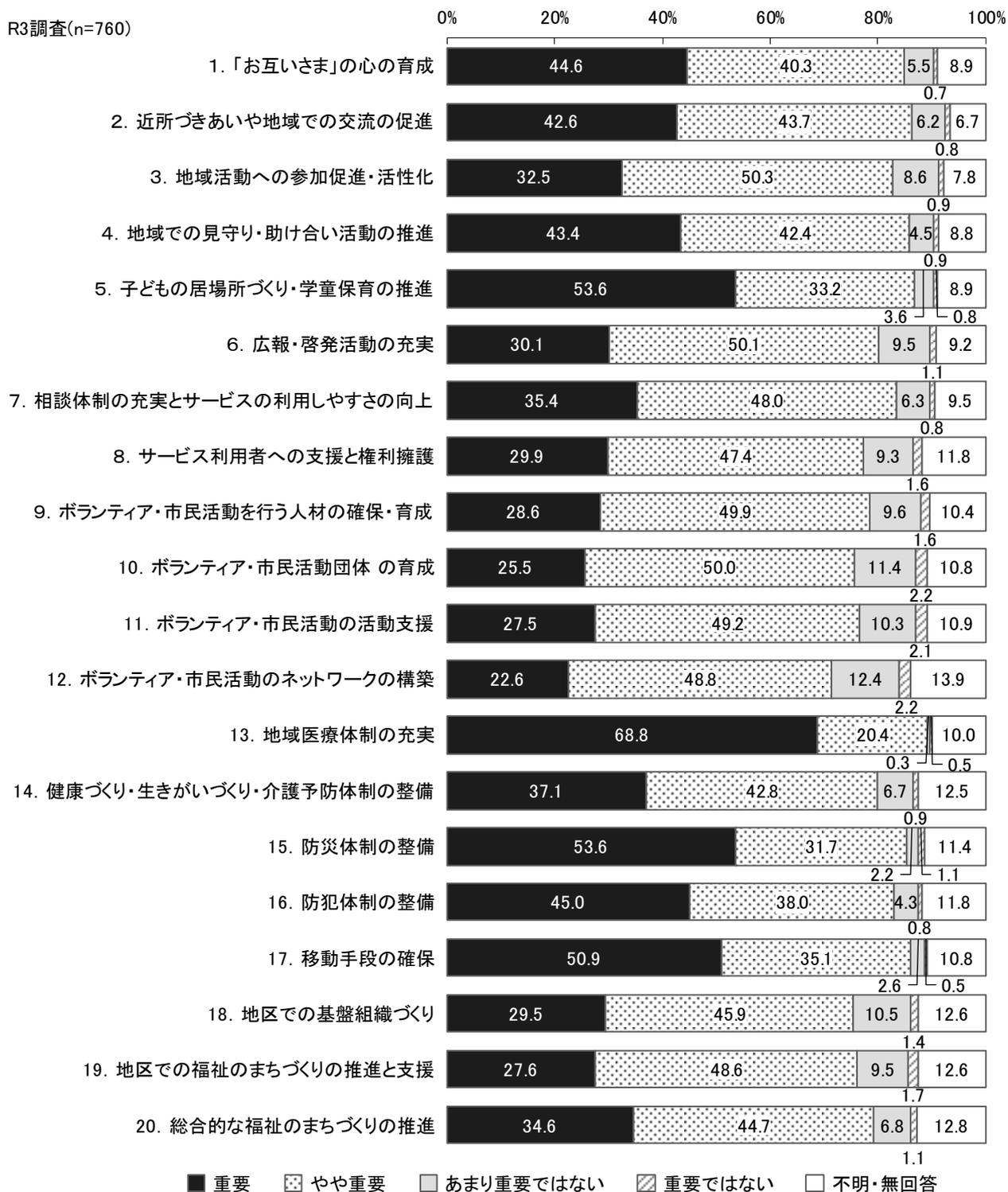
地域福祉に関する取組への重要度について、『重要』は「13. 地域医療体制の充実」が89.2%と最も高く、次いで「5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進」が86.8%となっており、この他9項目について8割を超えています。一方、『重要ではない』は「12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築」が14.6%と最も高くなっています。

---

## 【満足度】



## 【重要度】



### 【ポートフォリオによる分析の考え方】

20項目について、満足度と重要度を下表のような配分で点数化し、その点数の合計値を、「不明・無回答」を除いた各設問の回答総数で割り、満足度・重要度を得点化します。

さらに、各項目の満足度と重要度の得点の関係で分布図を作成し、ポートフォリオ分析により今後の方向性を分析します。

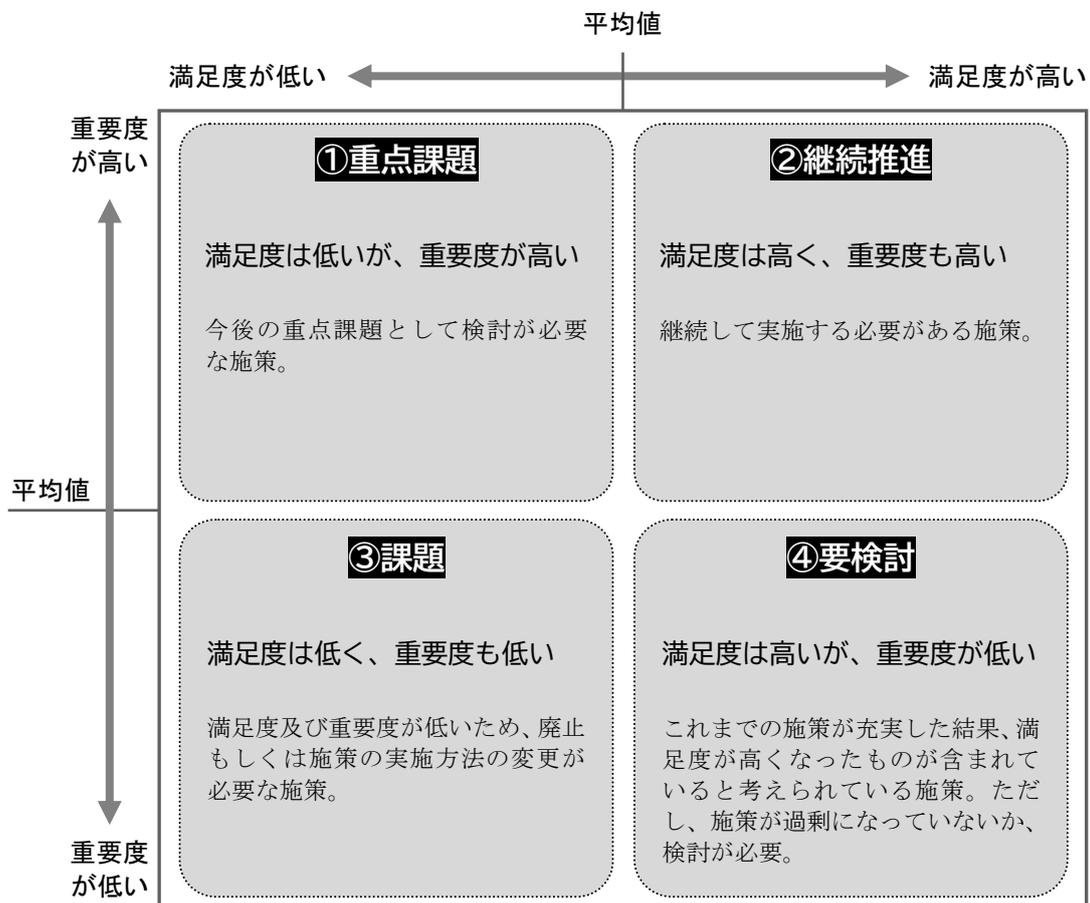
### 【重要度・満足度の得点化の手順】

満足度	得点
満足	2点
やや満足	1点
やや不満	-1点
不満	-2点
不明・無回答	計算対象外

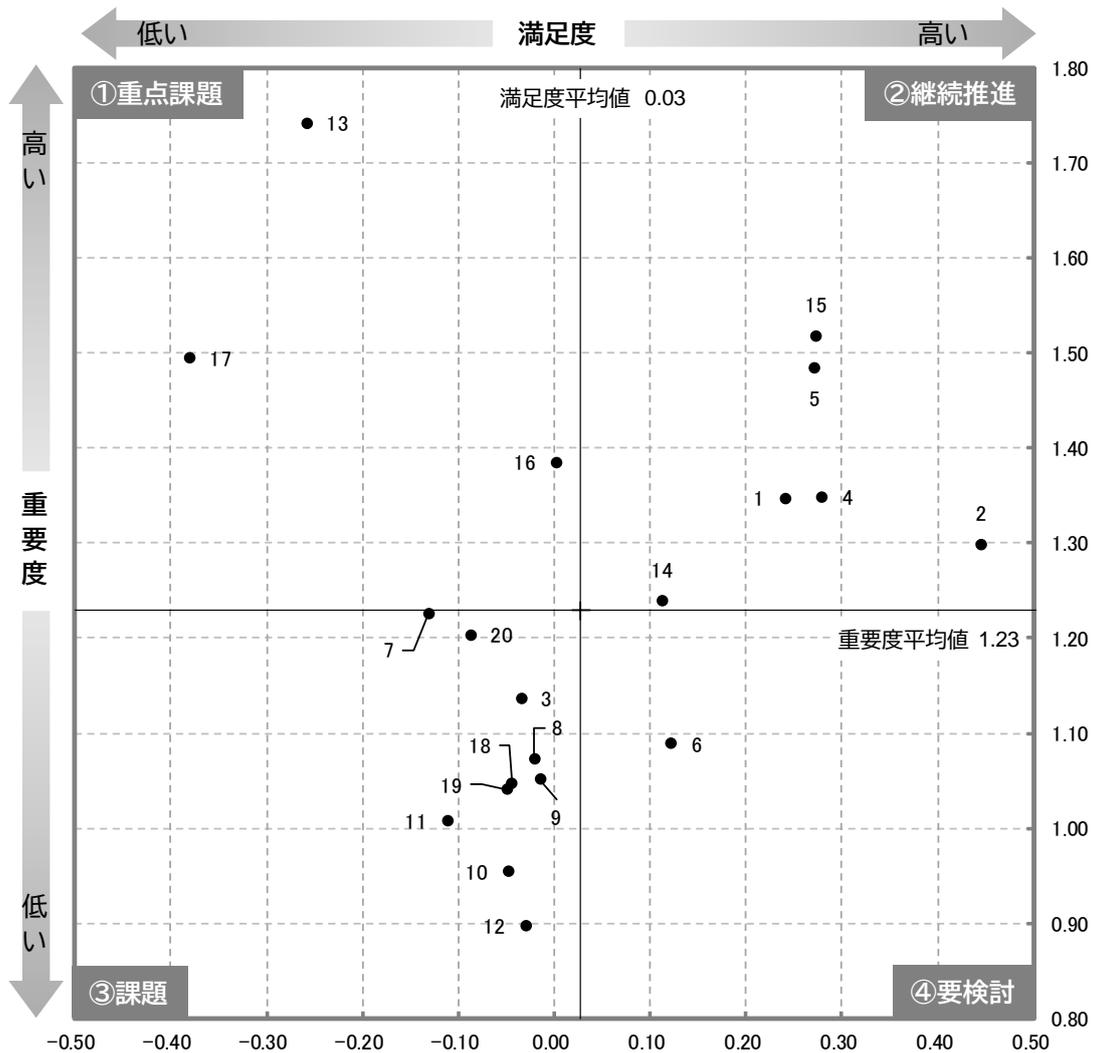
重要度	得点
重要	2点
やや重要	1点
あまり重要ではない	-1点
重要ではない	-2点
不明・無回答	計算対象外

※得点については、小数点以下第3位を四捨五入して表示

ポートフォリオとは、各属性についての満足度と総合満足度への影響度を二次元にプロットした図です。それぞれの選択肢を4段階評価で聞き、X軸に各属性の満足度、Y軸に重要度（期待値）として総合満足度と各満足度の偏相関係数を表しています。なお、図は4象限に分けられ、象限を分ける境界線は、満足度、重要度の各平均値を使用しています。



【全体】

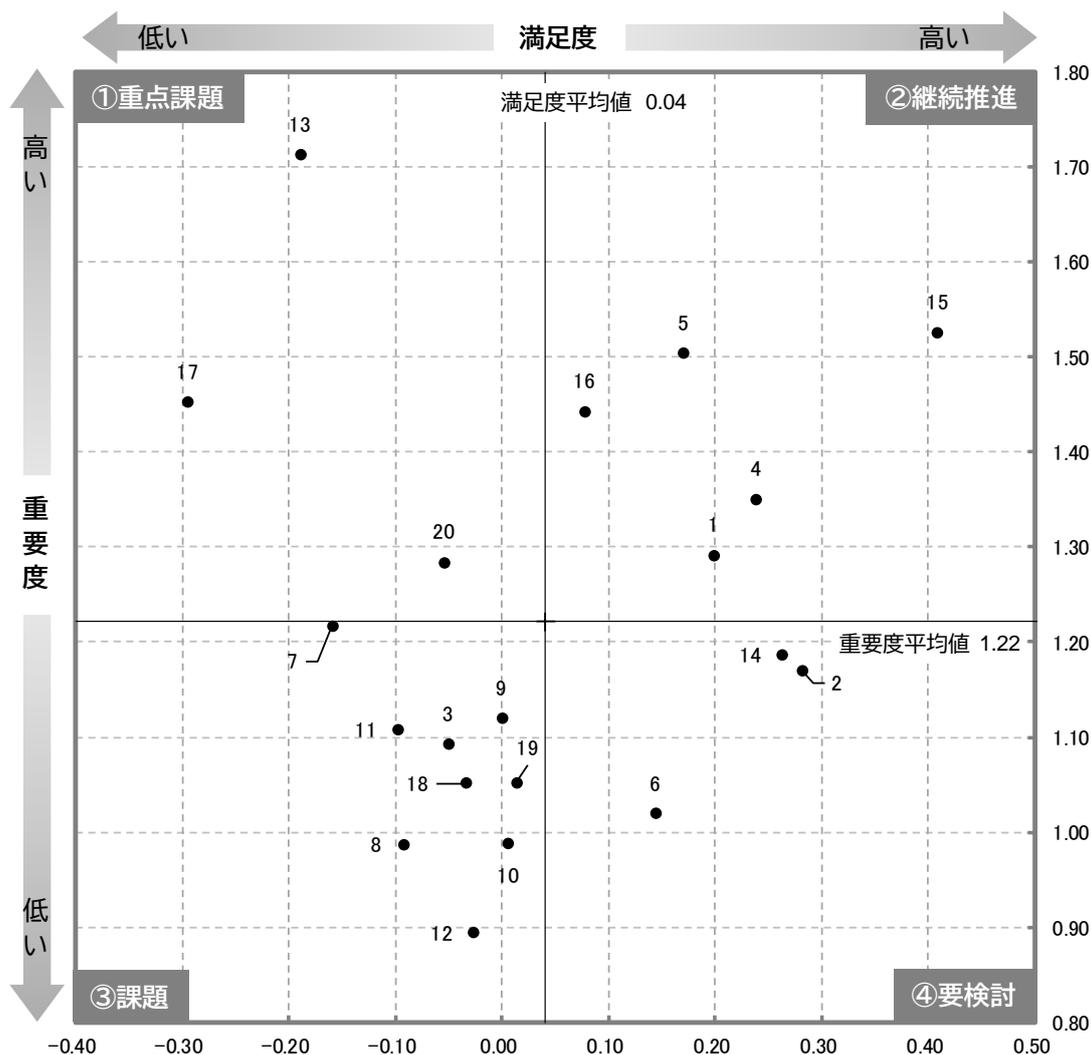


区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	0.24	1.35
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	0.45	1.30
3. 地域活動への参加促進・活性化	-0.03	1.14
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.28	1.35
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.27	1.48
6. 広報・啓発活動の充実	0.12	1.09
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	-0.13	1.23
8. サービス利用者への支援と権利擁護	-0.02	1.07
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	-0.01	1.05
10. ボランティア・市民活動団体の育成	-0.05	0.95
11. ボランティア・市民活動の活動支援	-0.11	1.01
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	-0.03	0.90
13. 地域医療体制の充実	-0.26	1.74
14. 健康づくり・生きがいがづくり・介護予防体制の整備	0.11	1.24
15. 防災体制の整備	0.27	1.52
16. 防犯体制の整備	0.00	1.39
17. 移動手段の確保	-0.38	1.49
18. 地区での基盤組織づくり	-0.04	1.05
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	-0.05	1.04
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	-0.09	1.20
平均値	0.03	1.23

全体の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「13. 地域医療体制の充実」「16. 防犯体制の整備」「17. 移動手段の確保」の3項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進」「15. 防災体制の整備」など6項目となっています。

【居住地区別】 1. 大井町

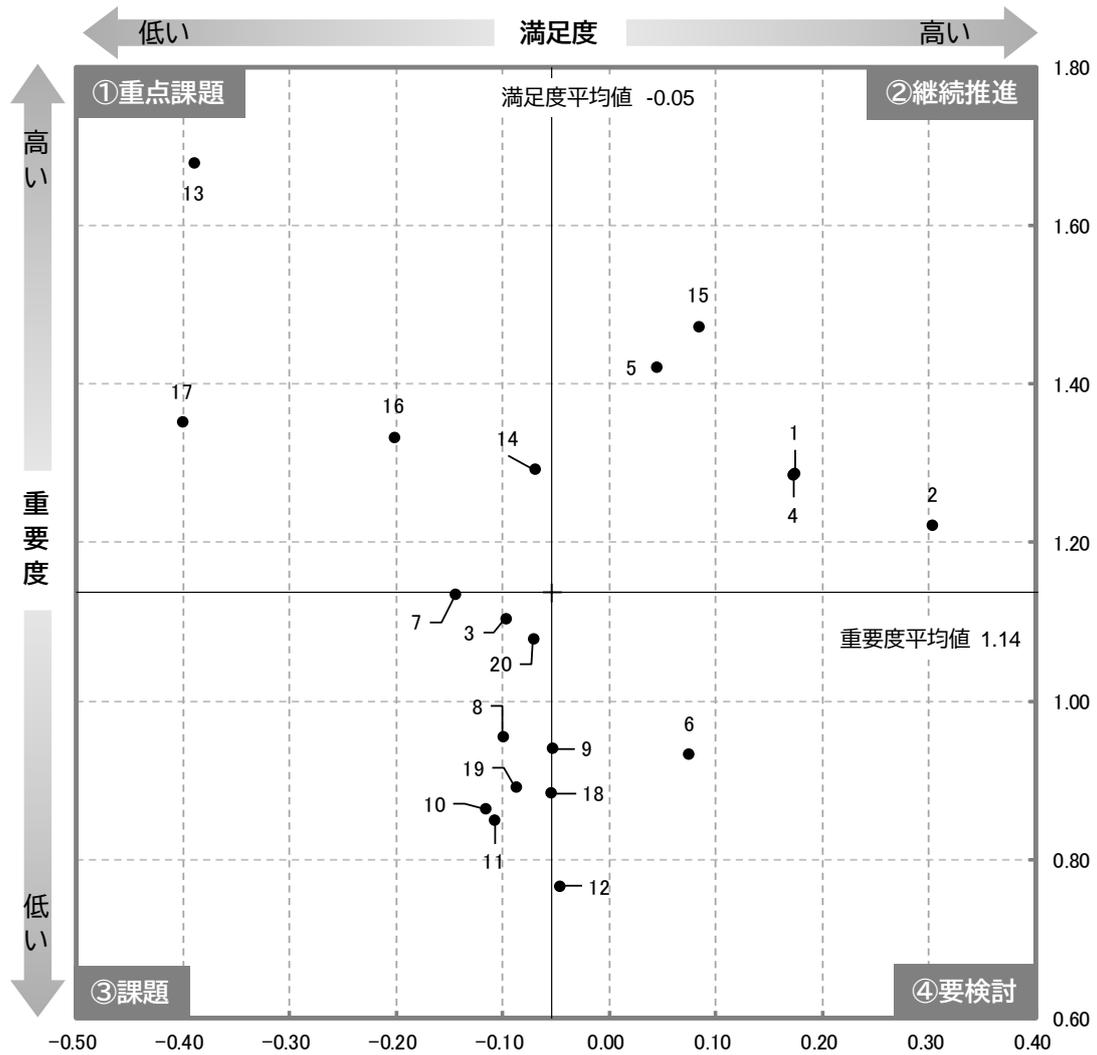


区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	0.20	1.29
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	0.28	1.17
3. 地域活動への参加促進・活性化	-0.05	1.09
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.24	1.35
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.17	1.50
6. 広報・啓発活動の充実	0.14	1.02
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	-0.16	1.22
8. サービス利用者への支援と権利擁護	-0.09	0.99
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	0.00	1.12
10. ボランティア・市民活動団体の育成	0.01	0.99
11. ボランティア・市民活動の活動支援	-0.10	1.11
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	-0.03	0.89
13. 地域医療体制の充実	-0.19	1.71
14. 健康づくり・生きがいづくり・介護予防体制の整備	0.26	1.19
15. 防災体制の整備	0.41	1.53
16. 防犯体制の整備	0.08	1.44
17. 移動手段の確保	-0.29	1.45
18. 地区での基盤組織づくり	-0.03	1.05
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	0.01	1.05
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	-0.05	1.28
平均値	0.04	1.22

大井町の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「13. 地域医療体制の充実」「17. 移動手段の確保」「20. 総合的な福祉のまちづくりの推進」の3項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進」「15. 防災体制の整備」など5項目となっています。

【居住地区別】 2. 長島町

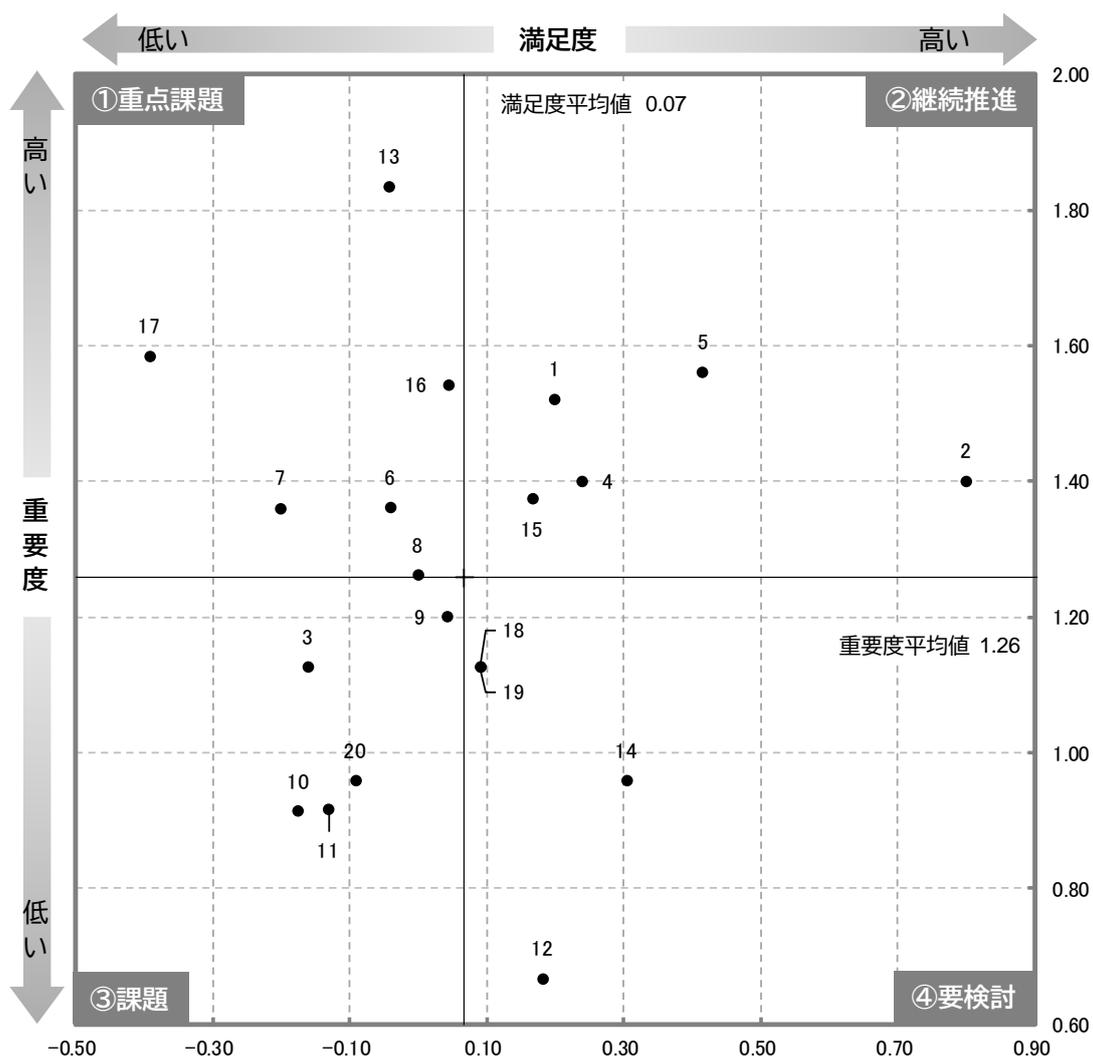


区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	0.17	1.29
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	0.30	1.22
3. 地域活動への参加促進・活性化	-0.10	1.10
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.17	1.29
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.05	1.42
6. 広報・啓発活動の充実	0.08	0.93
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	-0.14	1.14
8. サービス利用者への支援と権利擁護	-0.10	0.95
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	-0.05	0.94
10. ボランティア・市民活動団体の育成	-0.12	0.86
11. ボランティア・市民活動の活動支援	-0.11	0.85
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	-0.05	0.77
13. 地域医療体制の充実	-0.39	1.68
14. 健康づくり・生きがいづくり・介護予防体制の整備	-0.07	1.29
15. 防災体制の整備	0.08	1.47
16. 防犯体制の整備	-0.20	1.33
17. 移動手段の確保	-0.40	1.35
18. 地区での基盤組織づくり	-0.06	0.88
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	-0.09	0.89
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	-0.07	1.08
平均値	-0.05	1.14

長島町の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「13. 地域医療体制の充実」「17. 移動手段の確保」など4項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進」「15. 防災体制の整備」など5項目となっています。

【居住地区別】 3. 東野

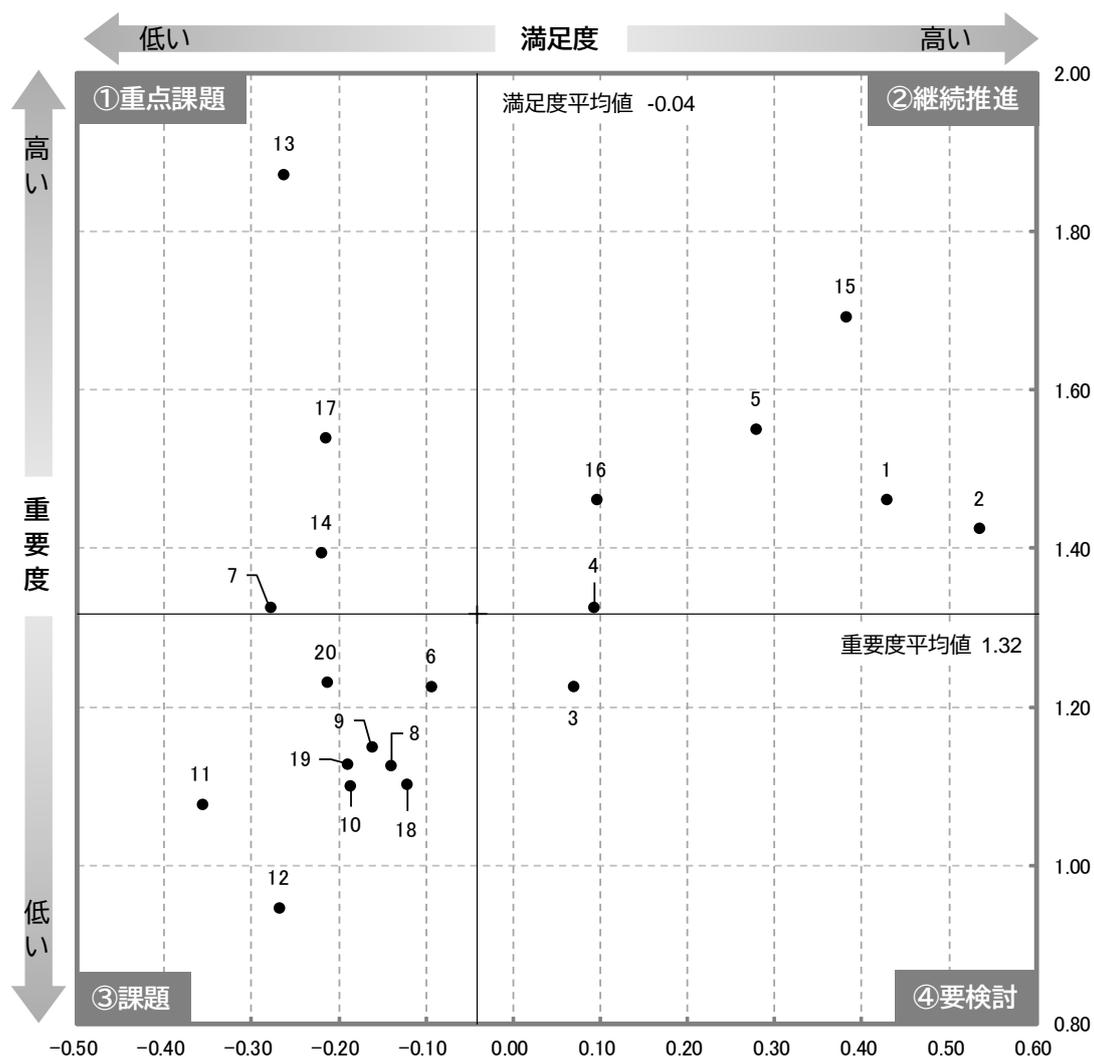


区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	0.20	1.52
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	0.80	1.40
3. 地域活動への参加促進・活性化	-0.16	1.13
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.24	1.40
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.42	1.56
6. 広報・啓発活動の充実	-0.04	1.36
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	-0.20	1.36
8. サービス利用者への支援と権利擁護	0.00	1.26
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	0.04	1.20
10. ボランティア・市民活動団体の育成	-0.17	0.91
11. ボランティア・市民活動の活動支援	-0.13	0.92
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	0.18	0.67
13. 地域医療体制の充実	-0.04	1.83
14. 健康づくり・生きがいがづくり・介護予防体制の整備	0.30	0.96
15. 防災体制の整備	0.17	1.38
16. 防犯体制の整備	0.04	1.54
17. 移動手段の確保	-0.39	1.58
18. 地区での基盤組織づくり	0.09	1.13
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	0.09	1.13
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	-0.09	0.96
平均値	0.07	1.26

東野の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「13. 地域医療体制の充実」「16. 防犯体制の整備」「17. 移動手段の確保」など6項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「1. 「お互いさま」の心の育成」「5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進」など5項目となっています。

【居住地区別】 4. 三郷町

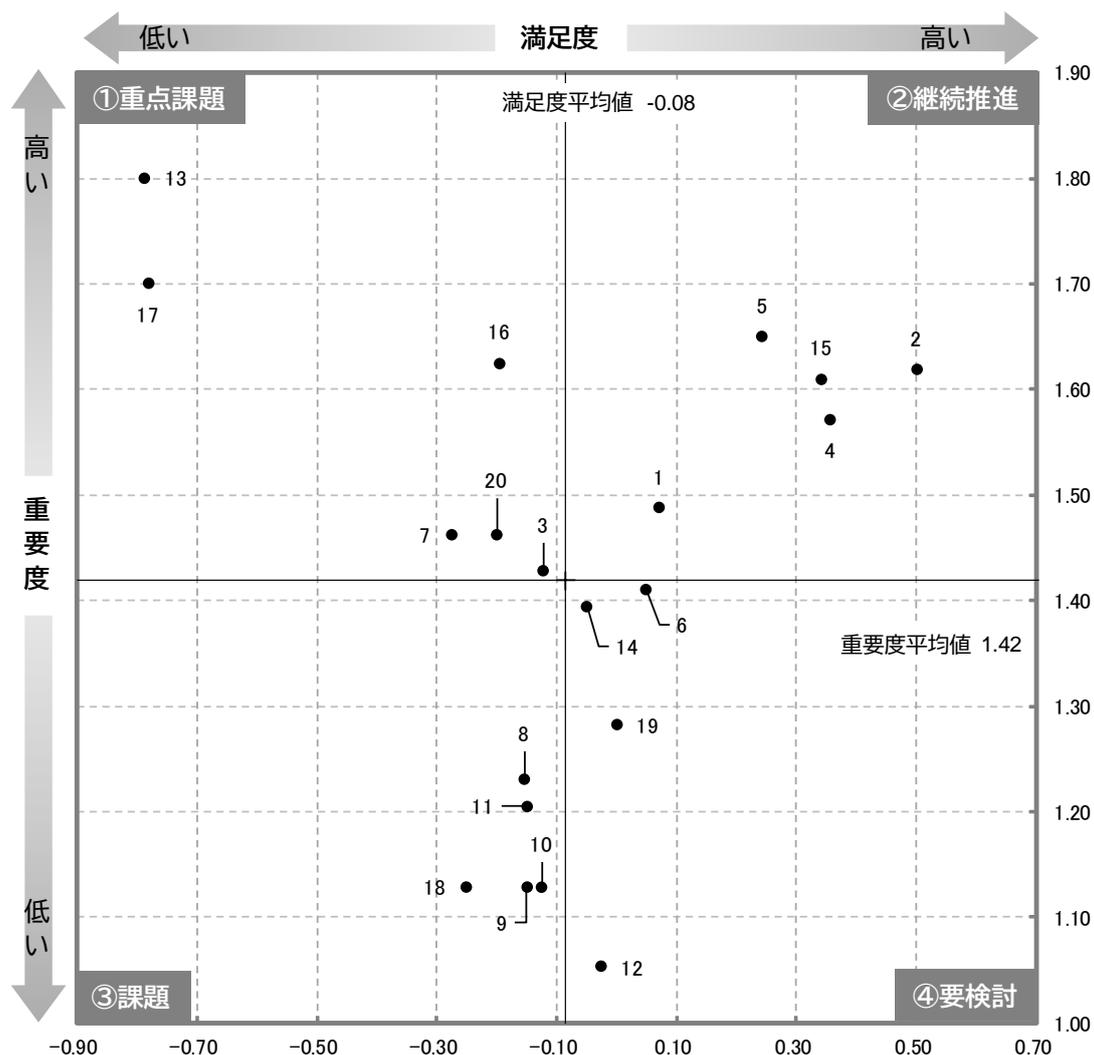


区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	0.43	1.46
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	0.53	1.43
3. 地域活動への参加促進・活性化	0.07	1.23
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.09	1.33
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.28	1.55
6. 広報・啓発活動の充実	-0.09	1.23
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	-0.28	1.33
8. サービス利用者への支援と権利擁護	-0.14	1.13
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	-0.16	1.15
10. ボランティア・市民活動団体の育成	-0.19	1.10
11. ボランティア・市民活動の活動支援	-0.36	1.08
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	-0.27	0.95
13. 地域医療体制の充実	-0.26	1.87
14. 健康づくり・生きがいがづくり・介護予防体制の整備	-0.22	1.39
15. 防災体制の整備	0.38	1.69
16. 防犯体制の整備	0.10	1.46
17. 移動手段の確保	-0.21	1.54
18. 地区での基盤組織づくり	-0.12	1.10
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	-0.19	1.13
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	-0.21	1.23
平均値	-0.04	1.32

三郷町の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「13. 地域医療体制の充実」「17. 移動手段の確保」など4項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進」「15. 防災体制の整備」など6項目となっています。

【居住地区別】 5. 武並町

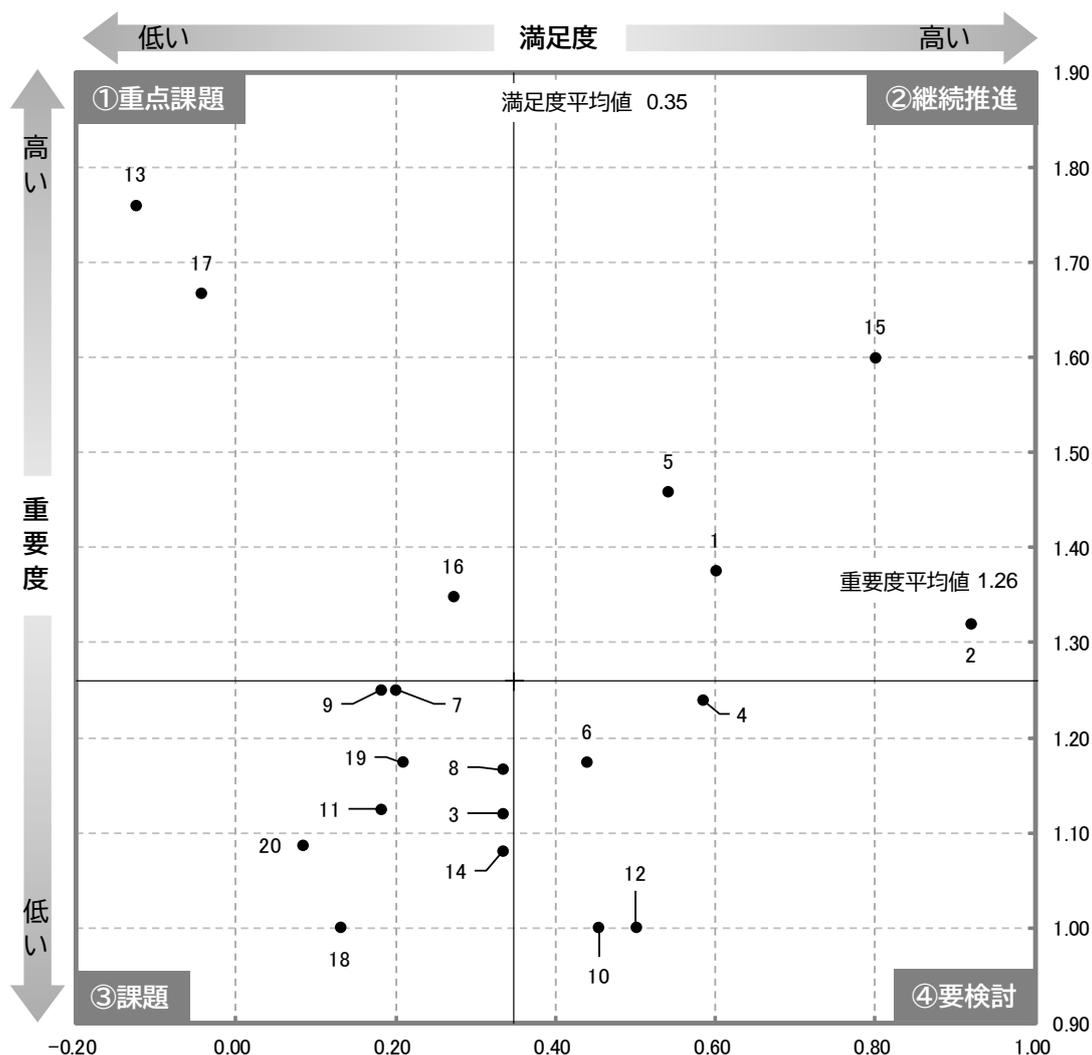


区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	0.07	1.49
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	0.50	1.62
3. 地域活動への参加促進・活性化	-0.12	1.43
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.36	1.57
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.24	1.65
6. 広報・啓発活動の充実	0.05	1.41
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	-0.28	1.46
8. サービス利用者への支援と権利擁護	-0.15	1.23
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	-0.15	1.13
10. ボランティア・市民活動団体の育成	-0.13	1.13
11. ボランティア・市民活動の活動支援	-0.15	1.21
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	-0.03	1.05
13. 地域医療体制の充実	-0.79	1.80
14. 健康づくり・生きがいづくり・介護予防体制の整備	-0.05	1.39
15. 防災体制の整備	0.34	1.61
16. 防犯体制の整備	-0.20	1.63
17. 移動手段の確保	-0.78	1.70
18. 地区での基盤組織づくり	-0.25	1.13
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	0.00	1.28
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	-0.20	1.46
満足度平均値	-0.08	
重要度平均値		1.42

武並町の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「13. 地域医療体制の充実」「17. 移動手段の確保」など6項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「2. 近所づきあいや地域での交流の促進」「5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進」など5項目となっています。

【居住地区別】 6. 笠置町

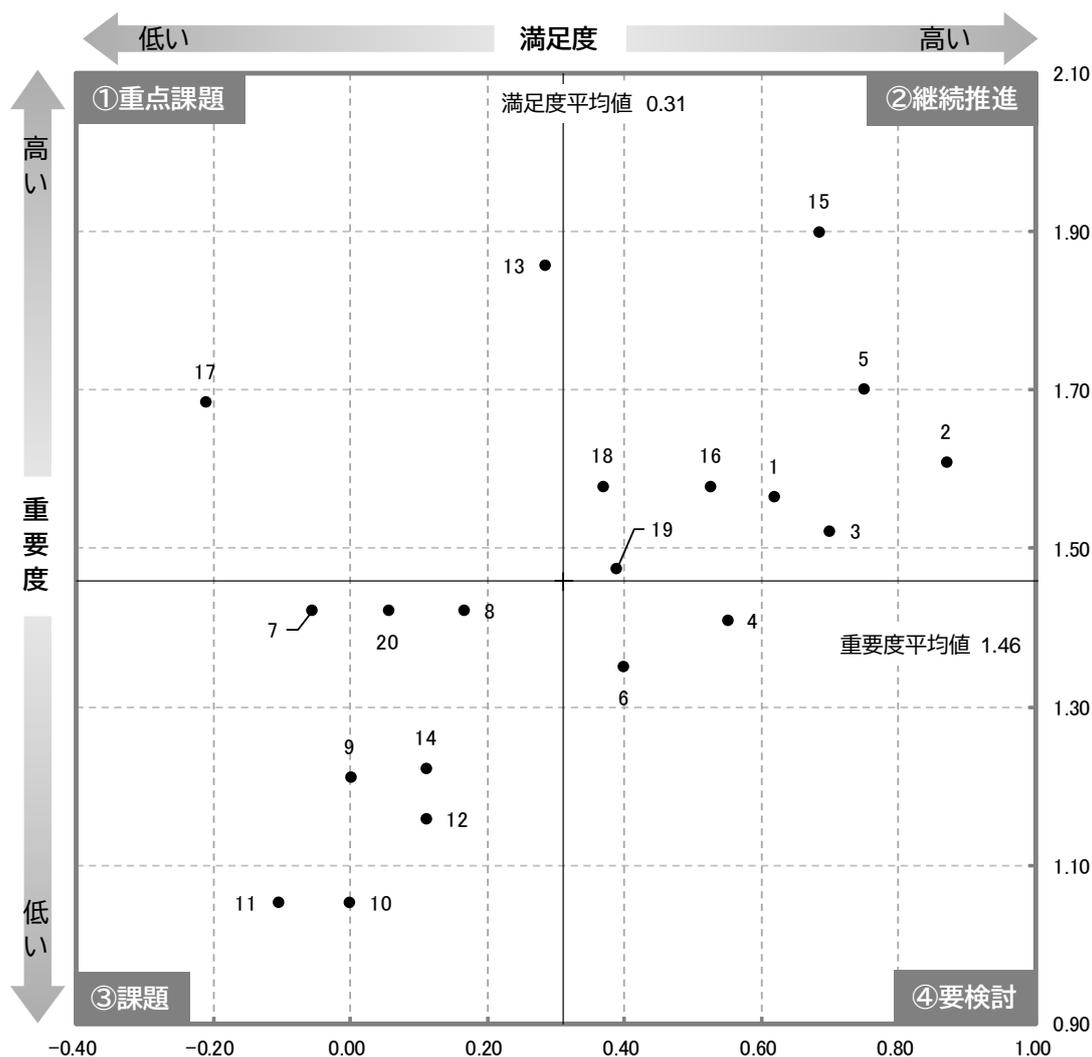


区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	0.60	1.38
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	0.92	1.32
3. 地域活動への参加促進・活性化	0.33	1.12
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.58	1.24
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.54	1.46
6. 広報・啓発活動の充実	0.44	1.17
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	0.20	1.25
8. サービス利用者への支援と権利擁護	0.33	1.17
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	0.18	1.25
10. ボランティア・市民活動団体の育成	0.45	1.00
11. ボランティア・市民活動の活動支援	0.18	1.13
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	0.50	1.00
13. 地域医療体制の充実	-0.13	1.76
14. 健康づくり・生きがいがづくり・介護予防体制の整備	0.33	1.08
15. 防災体制の整備	0.80	1.60
16. 防犯体制の整備	0.27	1.35
17. 移動手段の確保	-0.04	1.67
18. 地区での基盤組織づくり	0.13	1.00
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	0.21	1.17
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	0.08	1.09
平均値	0.35	1.26

笠置町の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「13. 地域医療体制の充実」「16. 防犯体制の整備」「17. 移動手段の確保」の3項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進」「15. 防災体制の整備」など4項目となっています。

【居住地区別】 7. 中野方町

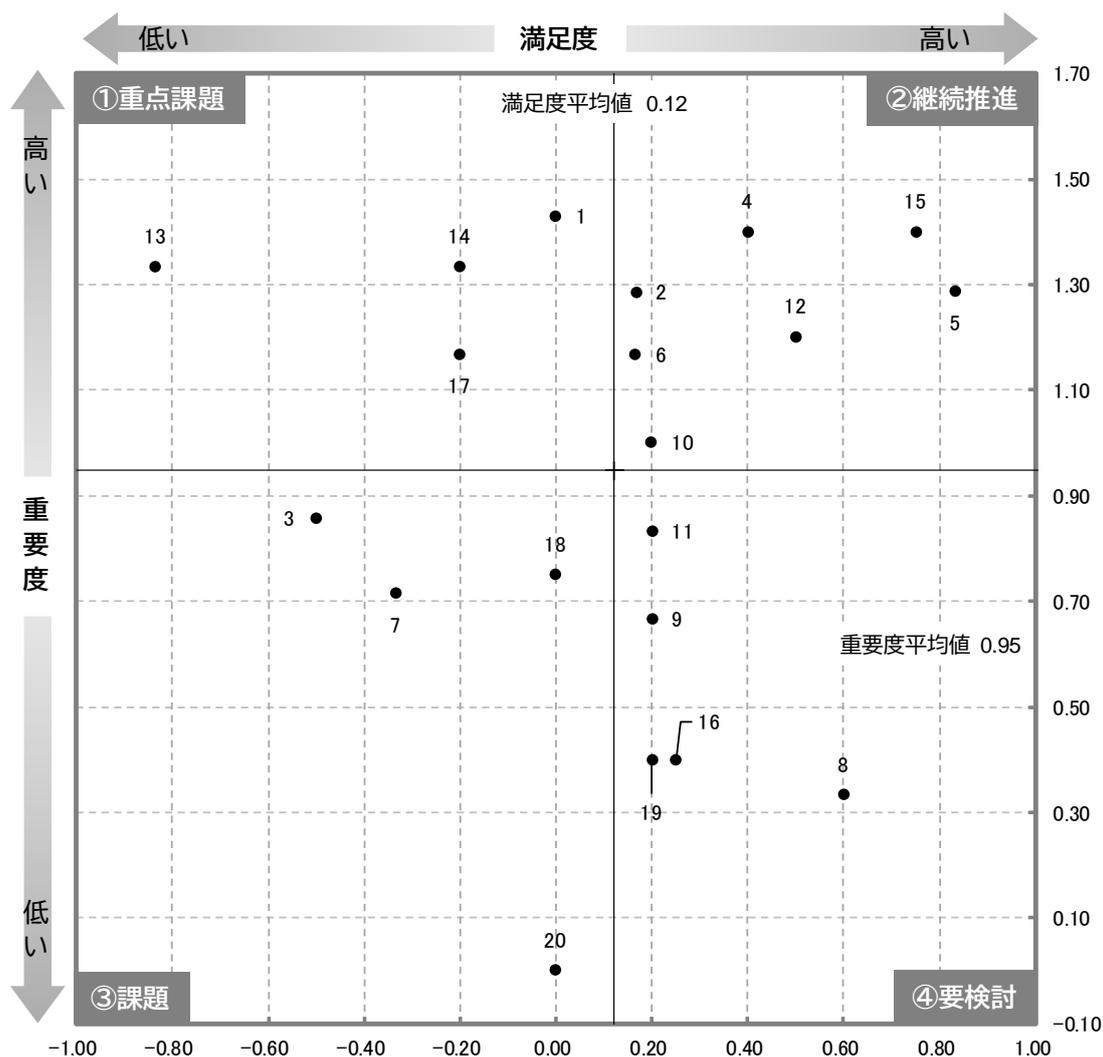


区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	0.62	1.57
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	0.87	1.61
3. 地域活動への参加促進・活性化	0.70	1.52
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.55	1.41
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.75	1.70
6. 広報・啓発活動の充実	0.40	1.35
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	-0.06	1.42
8. サービス利用者への支援と権利擁護	0.17	1.42
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	0.00	1.21
10. ボランティア・市民活動団体の育成	0.00	1.05
11. ボランティア・市民活動の活動支援	-0.11	1.05
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	0.11	1.16
13. 地域医療体制の充実	0.29	1.86
14. 健康づくり・生きがいづくり・介護予防体制の整備	0.11	1.22
15. 防災体制の整備	0.68	1.90
16. 防犯体制の整備	0.53	1.58
17. 移動手段の確保	-0.21	1.68
18. 地区での基盤組織づくり	0.37	1.58
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	0.39	1.47
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	0.06	1.42
平均値	0.31	1.46

中野方町の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「13. 地域医療体制の充実」「17. 移動手段の確保」の2項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進」「15. 防災体制の整備」など8項目となっています。

【居住地区別】 8. 飯地町

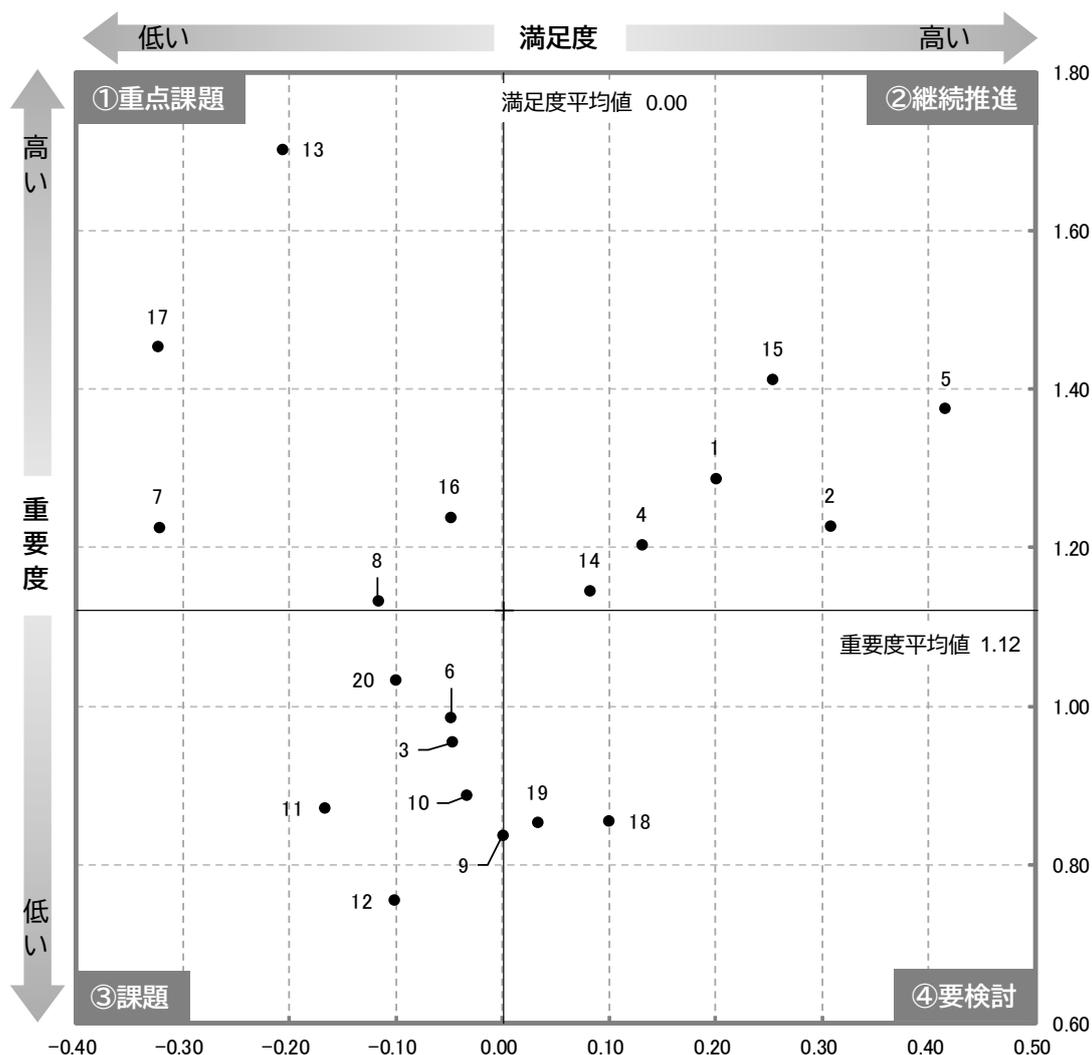


区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	0.00	1.43
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	0.17	1.29
3. 地域活動への参加促進・活性化	-0.50	0.86
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.40	1.40
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.83	1.29
6. 広報・啓発活動の充実	0.17	1.17
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	-0.33	0.71
8. サービス利用者への支援と権利擁護	0.60	0.33
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	0.20	0.67
10. ボランティア・市民活動団体の育成	0.20	1.00
11. ボランティア・市民活動の活動支援	0.20	0.83
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	0.50	1.20
13. 地域医療体制の充実	-0.83	1.33
14. 健康づくり・生きがいがづくり・介護予防体制の整備	-0.20	1.33
15. 防災体制の整備	0.75	1.40
16. 防犯体制の整備	0.25	0.40
17. 移動手段の確保	-0.20	1.17
18. 地区での基盤組織づくり	0.00	0.75
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	0.20	0.40
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	0.00	0.00
満足度平均値	0.12	
重要度平均値		0.95

飯地町の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「13. 地域医療体制の充実」「14. 健康づくり・生きがいがづくり・介護予防体制の整備」など4項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「2. 近所づきあいや地域での交流の促進」「4. 地域での見守り・助け合い活動の推進」など7項目となっています。

【居住地区別】 9. 岩村町

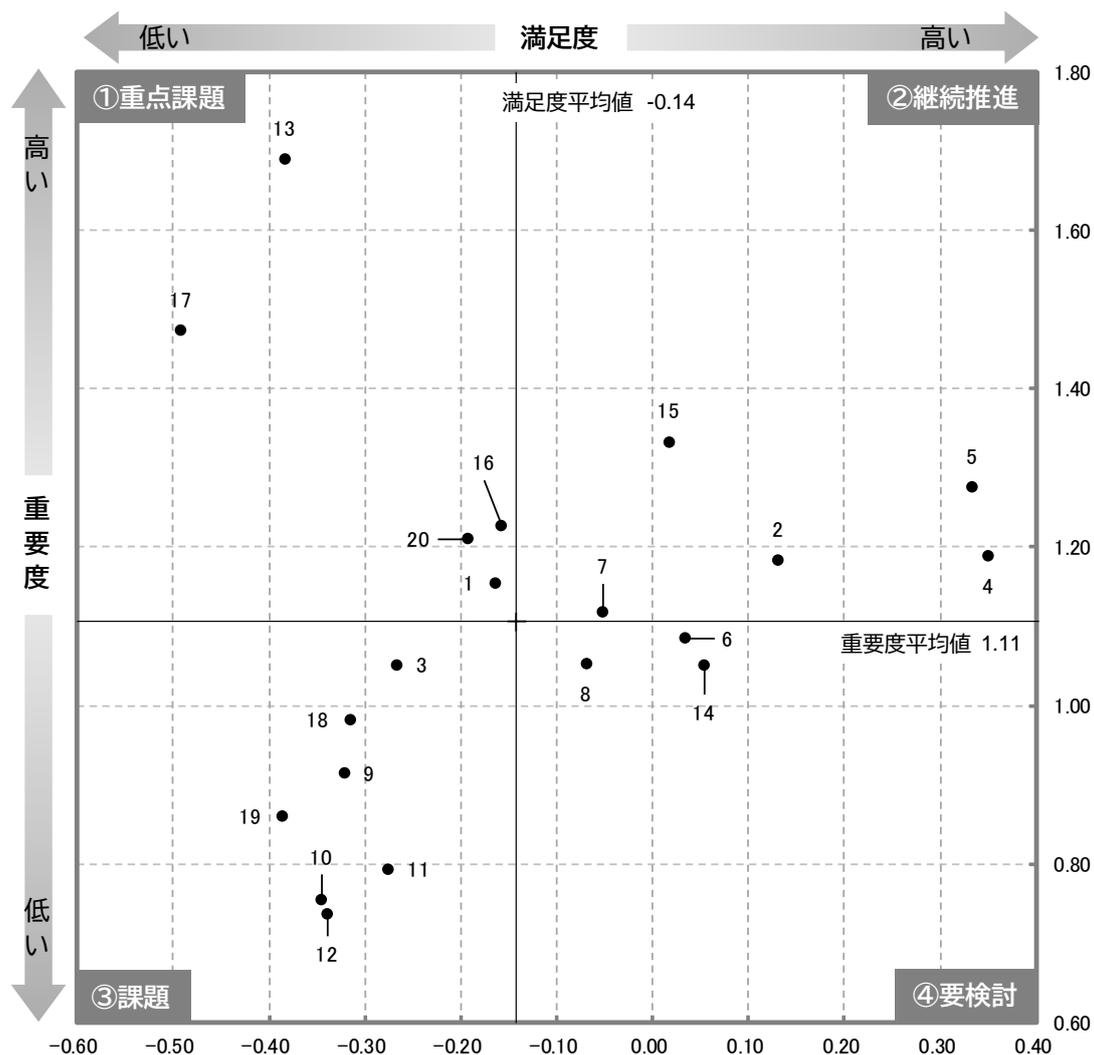


区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	0.20	1.29
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	0.31	1.23
3. 地域活動への参加促進・活性化	-0.05	0.95
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.13	1.20
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.42	1.38
6. 広報・啓発活動の充実	-0.05	0.98
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	-0.32	1.23
8. サービス利用者への支援と権利擁護	-0.12	1.13
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	0.00	0.84
10. ボランティア・市民活動団体の育成	-0.03	0.89
11. ボランティア・市民活動の活動支援	-0.17	0.87
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	-0.10	0.75
13. 地域医療体制の充実	-0.21	1.70
14. 健康づくり・生きがいがづくり・介護予防体制の整備	0.08	1.15
15. 防災体制の整備	0.25	1.41
16. 防犯体制の整備	-0.05	1.24
17. 移動手段の確保	-0.32	1.45
18. 地区での基盤組織づくり	0.10	0.85
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	0.03	0.85
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	-0.10	1.03
平均値	0.00	1.12

岩村町の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「13. 地域医療体制の充実」「17. 移動手段の確保」など5項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「1. 「お互いさま」の心の育成」「15. 防災体制の整備」など6項目となっています。

【居住地区別】10. 山岡町

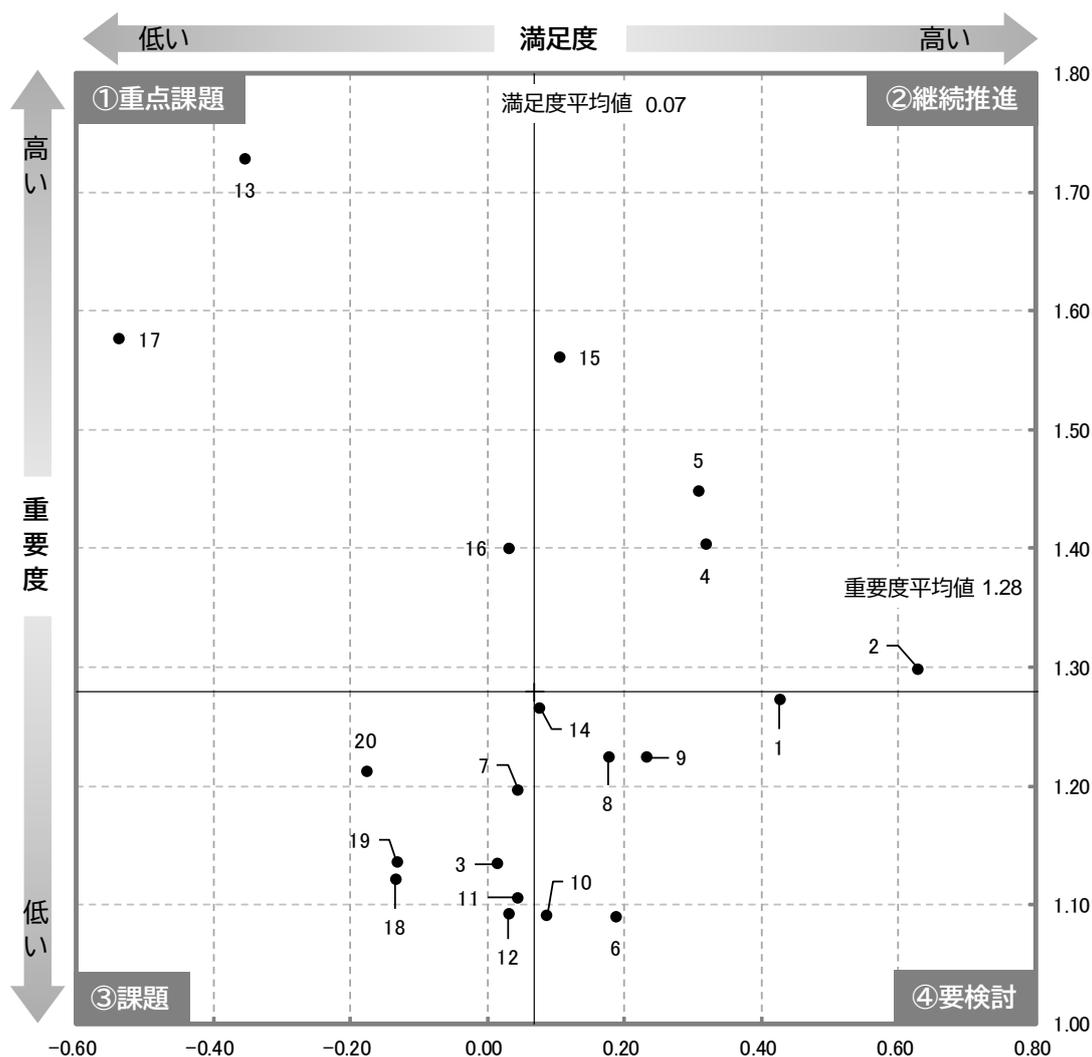


区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	-0.16	1.16
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	0.13	1.18
3. 地域活動への参加促進・活性化	-0.27	1.05
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.35	1.19
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.33	1.28
6. 広報・啓発活動の充実	0.03	1.08
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	-0.05	1.12
8. サービス利用者への支援と権利擁護	-0.07	1.05
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	-0.32	0.91
10. ボランティア・市民活動団体の育成	-0.34	0.75
11. ボランティア・市民活動の活動支援	-0.28	0.79
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	-0.34	0.74
13. 地域医療体制の充実	-0.38	1.69
14. 健康づくり・生きがいづくり・介護予防体制の整備	0.05	1.05
15. 防災体制の整備	0.02	1.33
16. 防犯体制の整備	-0.16	1.23
17. 移動手段の確保	-0.49	1.47
18. 地区での基盤組織づくり	-0.32	0.98
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	-0.39	0.86
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	-0.19	1.21
平均値	-0.14	1.11

山岡町の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「13. 地域医療体制の充実」「17. 移動手段の確保」など5項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「2. 近所づきあいや地域での交流の促進」「15. 防災体制の整備」など5項目となっています。

【居住地区別】11. 明智町

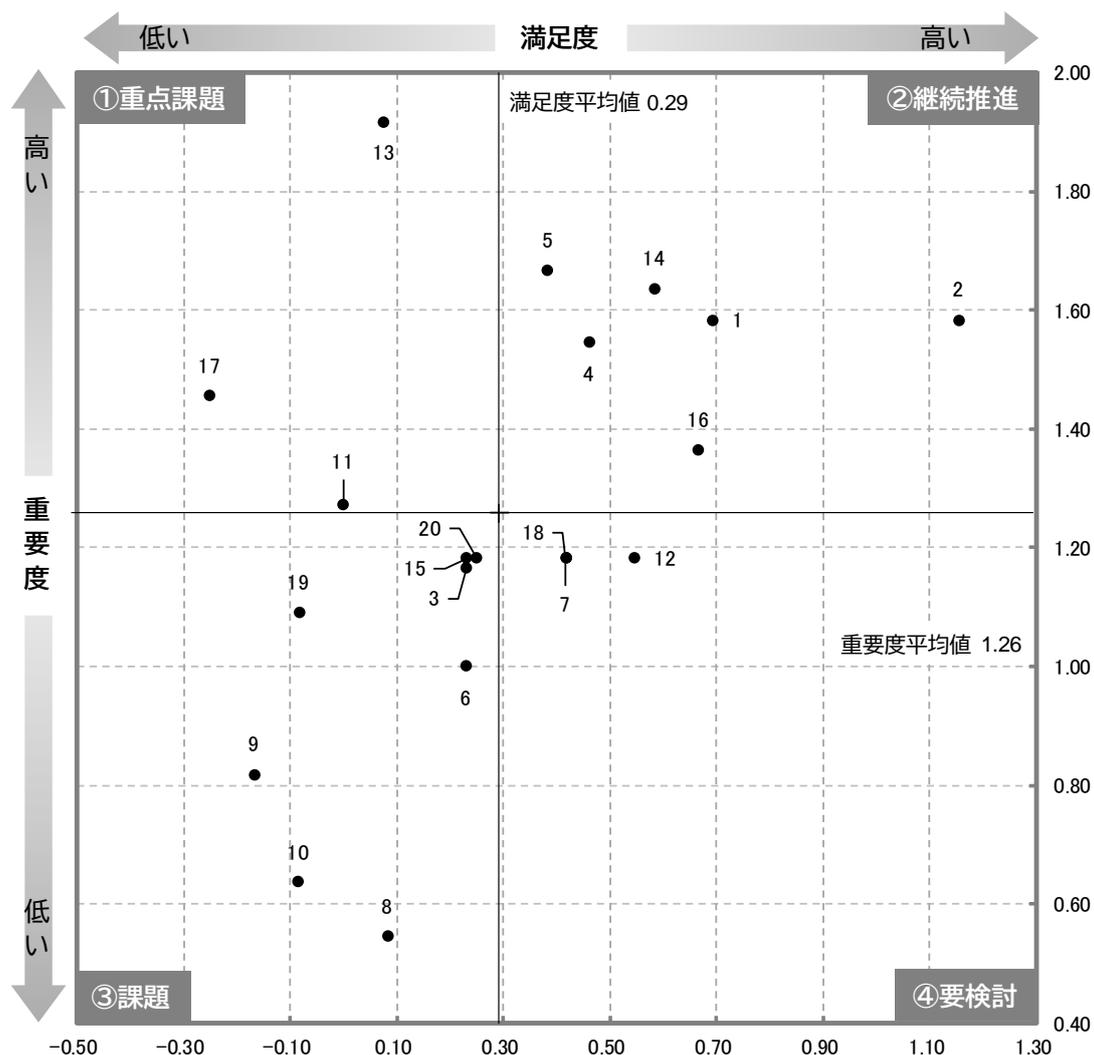


区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	0.43	1.27
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	0.63	1.30
3. 地域活動への参加促進・活性化	0.01	1.13
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.32	1.40
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.31	1.45
6. 広報・啓発活動の充実	0.19	1.09
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	0.04	1.20
8. サービス利用者への支援と権利擁護	0.18	1.22
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	0.23	1.22
10. ボランティア・市民活動団体の育成	0.09	1.09
11. ボランティア・市民活動の活動支援	0.04	1.11
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	0.03	1.09
13. 地域医療体制の充実	-0.35	1.73
14. 健康づくり・生きがいづくり・介護予防体制の整備	0.08	1.27
15. 防災体制の整備	0.10	1.56
16. 防犯体制の整備	0.03	1.40
17. 移動手段の確保	-0.54	1.58
18. 地区での基盤組織づくり	-0.13	1.12
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	-0.13	1.14
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	-0.18	1.21
平均値	0.07	1.28

明智町の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「13. 地域医療体制の充実」「16. 防犯体制の整備」「17. 移動手段の確保」の3項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進」「15. 防災体制の整備」など4項目となっています。

【居住地区別】12. 串原

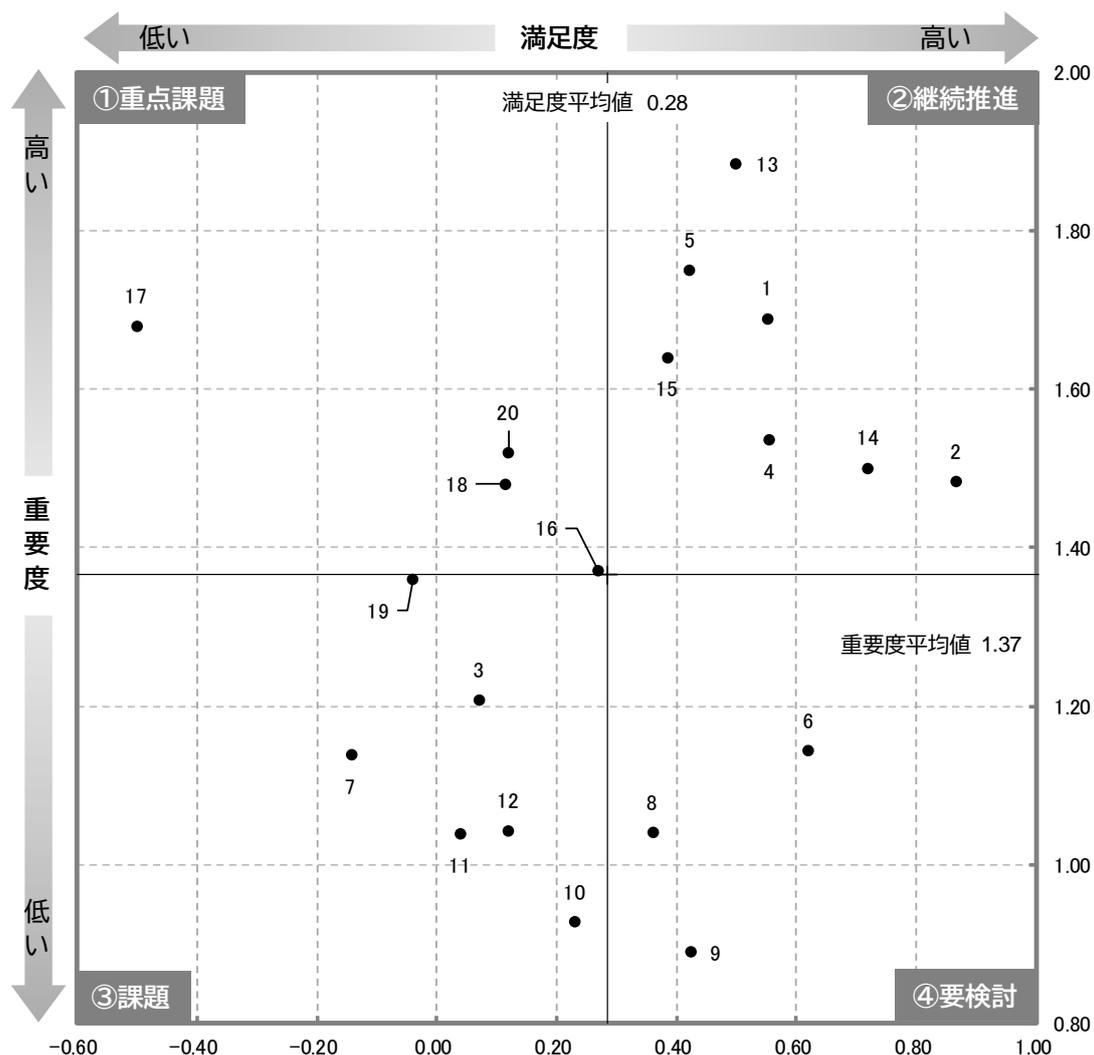


区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	0.69	1.58
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	1.15	1.58
3. 地域活動への参加促進・活性化	0.23	1.17
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.46	1.55
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.38	1.67
6. 広報・啓発活動の充実	0.23	1.00
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	0.42	1.18
8. サービス利用者への支援と権利擁護	0.08	0.55
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	-0.17	0.82
10. ボランティア・市民活動団体の育成	-0.08	0.64
11. ボランティア・市民活動の活動支援	0.00	1.27
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	0.55	1.18
13. 地域医療体制の充実	0.08	1.92
14. 健康づくり・生きがいがづくり・介護予防体制の整備	0.58	1.64
15. 防災体制の整備	0.23	1.18
16. 防犯体制の整備	0.67	1.36
17. 移動手段の確保	-0.25	1.45
18. 地区での基盤組織づくり	0.42	1.18
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	-0.08	1.09
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	0.25	1.18
平均値	0.29	1.26

串原の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「11. ボランティア・市民活動の活動支援」「13. 地域医療体制の充実」「17. 移動手段の確保」の3項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進」「14. 健康づくり・生きがいがづくり・介護予防体制の整備」など6項目となっています。

【居住地区別】13. 上矢作町



区分	満足度	重要度
1. 「お互いさま」の心の育成	0.55	1.69
2. 近所づきあいや地域での交流の促進	0.87	1.48
3. 地域活動への参加促進・活性化	0.07	1.21
4. 地域での見守り・助け合い活動の推進	0.56	1.54
5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進	0.42	1.75
6. 広報・啓発活動の充実	0.62	1.14
7. 相談体制の充実とサービスの利用しやすさの向上	-0.14	1.14
8. サービス利用者への支援と権利擁護	0.36	1.04
9. ボランティア・市民活動を行う人材の確保・育成	0.42	0.89
10. ボランティア・市民活動団体の育成	0.23	0.93
11. ボランティア・市民活動の活動支援	0.04	1.04
12. ボランティア・市民活動のネットワークの構築	0.12	1.04
13. 地域医療体制の充実	0.50	1.88
14. 健康づくり・生きがいづくり・介護予防体制の整備	0.72	1.50
15. 防災体制の整備	0.38	1.64
16. 防犯体制の整備	0.27	1.37
17. 移動手段の確保	-0.50	1.68
18. 地区での基盤組織づくり	0.12	1.48
19. 地区での福祉のまちづくりの推進と支援	-0.04	1.36
20. 総合的な福祉のまちづくりの推進	0.12	1.52
平均値	0.28	1.37

上矢作町の①重点課題（重要度：高、満足度：低）は、「17. 移動手段の確保」「20. 総合的な福祉のまちづくりの推進」など4項目となっています。

また、②継続推進（重要度・満足度：共に高）は、「5. 子どもの居場所づくり・学童保育の推進」「13. 地域医療体制の充実」など7項目となっています。

### Ⅲ 自由意見〔地域福祉〕



あなたが地域の助け合い、福祉のまちづくりに関して思うこと、あるいは今後「こうしたらいい」「こうあったらいい」と思うことがありましたら、どのようなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

## 自由意見

### ■10 歳代

医療と福祉は密接に関わっていると思います。そのため、病院内に市役所の支部や出張サービスなどがあつたら、入院している人や通院している人が福祉についての手続きが必要となった時に、便利だと思いました。例えば、ひとり暮らしの高齢者の方が入院した時に、代わりに様々な手続きをしてくれる家族がいなかったりすると、市役所まで出向くことが大変だと思うからです。

### ■20 歳代

少子高齢化に伴い、高齢者の生活が不自由な地域があるので(食品の買い出しや通院など)、訪問診療、コミュニティバス、ハイヤーを増やすなどしてほしいと思う。

また、介護施設、介護士の人材も不足しているので、介護士の給与の底上げしていただき、働く人材を増やすことをしてほしいと思う。

親が老人になった時、子どもが世話をしなければ生きられない(買い物も遠い、ゴミ出しも遠い、病院も遠い)のは不便だと思う。コミュニティバスやタクシー券、老人の足の健康が維持できるよう運動の補助(インストラクター付きの健康体操の場を設けるなど)など。また、町の活性化によって店を増ふやせば老人も自立できると思う。子どもが親の面倒を見るというより見守りで済むよう、老人の自立を促してほしい。そうしないと都会へ人口が流出して悪循環だと思う。

あくまで自主活動での助け合いが理想。地域、役場などの力がある立場からの強要は人が離れる原因。サービス低下にもつながる場合がある。

### ■30 歳代

実際に市役所に行かなくても、いつでもどこでもハードルなく相談できる方法がほしい。フリーメールなど。自分の問題は何についての問題なのかを判断してくれる、総合的な窓口だと嬉しい。

### いろんな地域の交流会

コロナ禍もあり人の集まりが減り、コロナ対策をした集まりができるとよい。PCR検査が気軽にできるよう市が支援してくれるとか。

子育てを今後していく時で考えると、旧恵那地区、恵南で比較すると公園が恵南地区は少な過ぎる(あっても古く、本当に安全なのかと思う)。恵南地区にも若い人が住みやすくしてほしい。施設の充実を！Uターンしてこれる対策が重要だと思います。高齢者への政策もですが、人口減少を考えると若者への政策に力を入れ、周辺地域との差別化をするとういと思います。

福祉に関する情報は知っている人といない人の差が大きいため、皆が同等に近い福祉サービスを受受できるよう、積極的な情報発信をするのがよいと思う。

### 医療体制の充実、医師の確保を早急に行った方がよい

高齢者が多い地域であるためか、割と高齢者には優しいイメージがある。一方で障がい児やLGBTなどに対する理解や受入れに対しては、消極的なイメージがある。高齢者が集える場所は多くあるが、障がい児を含む子ども達が集まれる場所が少ない。

障がい者の雇用促進をしていただきたいと思います。

## 自由意見

そもそも交通インフラが整備されていないので、高齢者は車が手放せません。免許返納することが死につながることです。高齢者が多いまちなのですからラリーなんてやってる場合ではなく、他にできることがあるのではないのでしょうか。

地域住民を増やす工夫。

困ったとき、すぐ手が差しのべられるような温かいまち（特に小さい子、障がい者、高齢者に手厚いまち）。よい環境づくり（バリアフリーなど）。

ヘルパーさんや看護師さん付きの旅行ツアーの実施。外出の機会を増やすことで、脳の活性化や足腰の衰えの進行を遅らすことができるのではないかと。

ボランティア窓口に支援が必要な人と支援ができる人が登録し、窓口でマッチングさせてボランティアの日時や内容を調整する。ボランティアした人は活動報告をして窓口はトラブル等が無いように管理するといった仕組みはどうか。

障がいを持った子どもを育てている親の交流会や、ひとり親家庭の交流会をぜひ開いてほしい。

### ■40 歳代

お年寄り以外にも病気などで車を運転できない人もいるので、普段気軽に利用できる交通手段が増えてくれるとありがたい。タクシーだと、どうしても金銭的に難しい。

民生委員などなり手不足と聞く。福祉に関わる委員や職員の負担が大き過ぎではないかと心配になります。「お互いさま」でやれるレベルは人それぞれだが、ある程度の人がこれくらいならと思える負担の分量であってほしい。

人の事に興味湧いて仕方がない高齢者と監視してほしい若い子で、地域から出ていってしまう。高齢者に今の若い子の気持ちを少しだけわかってもらうサロンなどを開いてほしい。高齢者を傷つけない程度の。そうでないと、若い子がまったくいなくなり、自治会が終わる。

歩道・自転車道の整備をしてほしい。防災などで屋外の放送を使っているが、大雨のときに放送されても聞こえないので「えーなび」などでよいと思う。ケーブルテレビもあるし…。高齢者には、防災用のラジオとか緊急連絡用のものを準備した方がよいのでは？

既に恵那市では高齢者の人口が増えていて市街地では助け合いボランティア、地域活動に対する負担が大きいと思う。住んでいる若い世代への負担が大きいと、実際ひしひしと感じる。若者が住まなくなる大きな原因。PTA、部活等、以前より親への負担も増えて、これに地域活動、ボランティア、消防団への入団までしていたら正直持ちません。地域任せにしていたら必ず行き詰まります。他人事ではなく、自分事として考えるようにする。

恵那市に住んでよかったと思えるような地域であってほしいし、恵那に住んでみたいなと思えるような地域をもっと広めてほしいなと思う。人口がもっと増えるように活動してほしいなと思っています。

高齢者が自活、自立できるインフラ整備（交通、病院、情報）が重要だと思います。地域同士の助け合いを嫌がる人もいり、できれば自由に生きていけるまちづくりが自分はいいと思う。

もっと市民と交流ができることをしてほしい。時節柄SNSの活用とかでもよい！！

行政が積極的に地域の活動、市民の生活に関わりやすくなるような仕組みをつくり、よりよい暮らしに貢献してほしい。

## 自由意見

観光地の道の駅に行くと必ずといっていいほど手づくりクッキー、ラスク、パンなどがかわいくラッピングされ販売されている。そして味も素朴でびっくりするくらいおいしい。裏のシールを見ると、福祉施設の作業所に勤めている障がいを持つ方々の手によってつくられているのがわかる。私は毎回5～10個まとめて買ってくる。販売(道の駅やその他店舗)または小さな形でも身近に感じるパン屋とかギョーザ、肉まん店とかたこやきとか、専門店を過疎地域でつくったりすることで有名になれば、過疎地でも活性化のひと役にはつながるのかと感じる。そこに地域を巻き込んで、人と人とのつながりを生かしていけるのでは。

気楽に利用できて、自宅まで送って貰えるような老人の足が充実するとよいです。介護している方の気が休められる施策を充実してもらえるとよいと思う。

役職に関係なく自分ができること、得意なことを公表し合い、助けを求めている人とのマッチングで助け合いがベースにあるまちになるといい。

お互いが助け合う世界になればいいと思います

通学に不便を伴う、いわゆる僻地より通う生徒、学生に何らかの経済的、物理的な助けがあるとよいと思います。以前より通学への負担は減っているようですが。実際困った立場になってみなければわからないことが多いですから、こんなことに困っているという話が広報誌等で語れば、それに対して何かしようと思う人がもっと出てくるのではないのでしょうか。

交通の便が悪く、免許証返納後の生活が不安になることが必至であるため、それを解決するためのサービスや医療の充実を早期に実現し、高齢者あるいは独居になっても住み続けたいと思えるまちづくりをしていただきたいです。

### ■50歳代

自分の体調が悪いので、相談にのってもらえるような窓口。自分に合った病院を紹介してもらえる窓口(恵那市に限らず)があるとありがたいです。

私の育った時代は、「日本人は個性がないから個性を大切に」と教育されてきたと思います。けれど、個を優先するあまり、地域などの団体活動が軽視されがちになっているように思えます。個性は大切ですが、個(自分、家族)のみを大切にすることと「他人に無関心になること」は別な気がします。いろいろな個性が集まった集団における個性と、自分のやりたいようにやればよいという自分勝手な個性とを社会全体が履き違えている感じがします。もっと地域社会参加を、全員強制参加なくらいで呼びかけてもよいのでは。いろいろな事情はあるとは思いますが、顔を合わせ、会話し初めて人づきあい、近所づきあいが始まると思うので。人となりがわかると個の範囲が広がって、助け合いの気持ちも生まれる気がします。いくら行政だけが頑張っても、思う結果は出ないと思います。

高齢者が多い地域が増えると思います。そのため今からできる事を進めてほしい。

低所得者でも安心できるまちにしてほしい。特に住宅。ひとり暮らししている中高年者がいること。こちらから市役所へ相談に行くより、どんな人が住んでいるかを調べて、今どんな状況なのかを調べてほしい。

障がい者や高齢者を家庭で介護するのではなく、国等の公共的な機関で暮らして行けるのが当たり前な世の中になってほしい。

## 自由意見

地域の助け合いや福祉のまちづくりは大切な事だと思いますが、そのために組織づくりをして人を集めたり、役をつくったりなどされると、若い人が少ない地域はととても大変ですのでやめてください。

今後の介護・医療はリモート・在宅に、多少なりシフトすると思います。zoomとかネット環境も良くなって福祉も変化してくると思いますので、対応してほしいです。自分の将来の医療・介護はどうなるのかと考えています。今のうちに、将来のためにデジタル教育など必要かと。

特定の人に負担が大きくなるような仕組みを強く望みます。続けるためには、負担感が大きいのは困ります。

地元出身と言うことにこだわらない意識を持つ。外から来た人も自然と溶け込みやすいようなまちづくりを期待したいです。

地域が互助の必要性を理解する策。若い人達も理解してもらうことが必要。

思いやりの心と、温かい見守り、言葉がけ。

高齢になると運転できないので、福祉タクシー、バスなど利用できるようになるとよい。買い物、病院へ行くには車を利用しないといけないです。

地域にひきこもりの方が沢山いると聞いています。そういう方が外で居場所を見つけ、活動できるようになれば地域の働き手が増えて、活性化にもつながると思います。老後の心配は、移動手段の確保と家や田畑周りの草刈りです。有償ボランティアを増やし、その収入で地域で収入が得られ、生活できる若者が増えるといいなと思います。

福祉、子育て、仕事に対しての相談窓口がわからない。困った時にどこに相談すればよいのか皆に解るようにしてほしい。相談時間も役所時間でなく、365日24時体制でやってほしいと思います。福祉に関しては、詳しく直ぐに回答できる人で相談にのってほしいです。

免許返納できない山間部に電気自動車の補助金とかコミュニティバス、食料品の宅配とか

他県から嫁いできて30年くらいになりますが、よそ者には厳しい目を向けられる土地だと思います。新参者だから生まれや住んでいた土地のことを、根掘り葉掘り聞かれました。だからなのか、助け合いにおいても、他の家庭状況を詳しく知りながらも「後々の責任まで持てないから関わりたくない」という心情が感じられます。私自身も「よそ事に首を突っ込むな」と言われたことがあります。また、行政機関を利用したことはありませんが、お役所的な対応をされるのでは相談を持ちかける気になりません。市役所では部署によって面倒くさそうに対応されたり、目が合っても無視されたりといった経験があります。トップが号令をかけても、現場の職員が動かないのでは本末転倒だと思います。

地域の皆さんと何でも相談ができる悩み相談を広めてほしいです。希望を持てるようなまちづくりと、恵那市の皆さんと力を合わせた活動にも力を入れてほしいです。

みんなで何ができるのか、考えたい

自治会内であっても老人夫婦しか知らず、特にその子ども等が市内でない場合、老人が施設に入ったのか引越越えされたのかも知らず、葬儀があっても済んでからしかわからない。生活があるので仕方ないが、若者が地元で生活できる場所でありたい。プライバシーの問題であるが、役所で独居老人情報（生活場所まで）とか、問い合わせればわかるようにできないか？

## 自由意見

地域の助け合いや福祉のまちづくりはそのエリアの住民だけに任せるのではなく、行政が積極的に深く関与参入し、リード・サポートしていく必要があると思う。

恵那市が運営している診療所の先生が、ひとり暮らしの方に冷たい態度をされるそうです。1の方が、のどが痛くて受診のために地域のバスで行ったところ、「何でバスに乗って来た？バスの中が衛生的に良くない。」と追い払われたそうです。ひとり暮らしの方が沢山いる地域で足となるバスを使用して、近くの診療所が頼りなのに…。診療所の先生の移動はないものなのですか？地域の助け合いがうまく行きません。なんとかしていただくと、ありがたいですよ。

### ■60歳代

現在の三郷町は若者、子どもが少なく、高齢者の多い地域です。10年、20年後には増々高齢化率は高くなり、「地域活動」と言っても実際の活動が困難になってくるのではないのでしょうか。自分自身のことを思っても10年、20年先に免許を返し、車に乗らなくなれば毎日の生活が困難になって来るのではと思います。将来の恵那市のためには限りある予算を他の地域から定年後の高齢者ではなく、若い世代が移住して来たいと思えるような地域にするために、重点的に予算を使った方がよいと思います。

福祉は市民すべてが参加活動できることが望まれます。民生委員・福祉委員に任せるのではなく皆が参加することが重要です。

今はコロナの影響でなるべく人と関わらず生活しているので、普通の感覚がわからなくなっています。福祉の心配事は、まちなか相談所の小山さんに相談できます。とても心強く信頼できる方のでよい人に出会えたとうれしく思っています。私もお世話になりたいです。

地域の助け合いなどはプラスアルファのことでそれに頼るのではなく、行政がすべきことを充実するべき

コロナ禍で、地域とのつながりが少なくなっています。早く交流が安心して行え、賑やかになる事を願います。

市内、設置物など必要なところは定期点検をし、早急に回復できる市内であってほしいです。

山岡町は昔ながらの婦人会があるので無くしてほしいと思います。各町で婦人会があつたり無かつたりするのはおかしいので、恵那市として無くしてほしいです。昔よりは活動は少ないですが、結構時間取られて困ります。

### 市報などで情報発信

今は地域の助け合い、福祉を必要としていない人でも自分が必要な時に、こういうサービスがありますよというのを知るパンフレットがあつたらいいです。あるのかも知れませんが。どこへ相談に行けばよいか、地元に住んでいる親が他に住んでいる子どもに見せられるような。

現在私は特に困っていることは無いのですが、数十年後には確実に日常生活が不便になるだろうということは明確です。それでも、できれば人の助けを必要とせずに暮らしたいと思っています。以前、近所の方がちょっとした手助けでお礼の品を持ってこられました。助けることも助けてもらうことも微妙なのです。負担に感じなくてもよいのだと思える雰囲気が必要なのです。

恵那地区の福祉施設や、寝たきりの障がい児をみる施設がほとんどありません。寝たきり障がい児を持つ親は毎日大変です。たくさん施設ができるといいと思うし、医療機関の充実も期待したいです。一刻を争う状況で病院をたらい回しにする状態はゼロにしてほしいです。

## 自由意見

地域のしがらみの排除。

少人数のグループで広範囲に対応することは無理。隣近所の住民が一番頼りになる。どこにつなげればよいかを広報してください。

全国的に過疎化、高齢化が進み、地域のつながりが弱くなっていると感じます。最近ではコロナの影響で町の行事もなくなり、地域はもちろん、隣近所との会話もなくなりました。数年前に転居した家族は自治会にも加入せず、奉仕活動への参加もありません。今後増々人口が減っていく中で助け合わなければいけないのに、悲しい限りです。高齢者が増える中でやはり病院、買い物などでの移動の手段は欠かせません。

また、老々介護もいっそう増えると思います。高齢化社会はすぐそこまで来ています。行政と福祉協議会と地元自治会のさらなる連携が必要になってくると思います。

とにかく助けあって生きていかないといけないので、トラブルを起こさないように自然に接していきたいと思います。

私はボランティアが好きではなく、その言葉も好きではないです。私は定年後もシルバーで働いていますがそれはお金ではなく、社会の中で孤立したくないから、地域の中でのコミュニケーションも大事と考えるからです。また、「ボランティア＝無報酬」ではなく、最低賃金を払うべきです。

少子高齢化が進み、限界集落に近い状態に住んでいます。地区の助け合いも必要だが、30代～50代男性はいるが結婚をしてないので女性（嫁）がひとりもおらず、助けてもらえない。結婚をすれば地区を出て行ってしまい、街に家を建てるといった場合が多い。

高齢になり、自分で運転できなくなって買い物・病院への通院等が一番困ると思っている。こうしたらいいというものが思いつかないが、福祉タクシー等交通手段を充実してもらいたい。

アパートの住民に自治会に参加してもらおう。アパートの高齢者が孤立している。

大きな災害発生の時、自分がどのように行動すべきかととても心配です。

高齢者のみの生活で、周りを見ても若い人が家庭にいる人は少ない。近所で助け合うことが大事である。民生委員や福祉委員に相談したり、アドバイスをもらいたい。

社会福祉協議会では親身に相談にのっていただき、大変力になっていただきました。高齢になるといろいろできなくなることが増えてくると思いますが、医療面でいえば、訪問診療などの医療資源の充実をぜひお願いしたいと思います。

まず、地域の人達がその人達を良く知っているという状況をつくるのが大切だと思う。そこからコミュニティができて、福祉のまちづくりへといくと思う。現状はいろいろあり難しいですね。自分の住んでいる地域も、これからは皆に声をかけていきたいと思いました。

幼児と高齢者が同じ場所で生活できる環境の整備。家の広さ、収入の確保等、三世代が生活できる仕組みづくり。

私は足が悪いため、長い間歩くことができません。手すり・ベンチ等（トイレ）、所々にあるといいないつも思います。

各地区に親子が集える公園がほしいです。

私の地区では、福祉に関して人によって関心の度合いが違います。地区の皆さんが、もう少し福祉に関心を持っていただけるとよいと思います。何かよい方法はないですかね。

## 自由意見

過疎の地域においてはむろん近所の助け合いも大切ですが、高齢化が進む中での助け合いには限界があると思う。やはり日常の生活を推進するためには、買い物ができる店が近くにあることや、ATM等の設備などの問題など多々あります。それが不可能の場合、交通手段の確保が必要です。大型バスは不必要なので、普通車程度の大きさで安く気軽に利用できる公共交通機関が普及してくれればと思います。瑞浪の方はコミュニティバスとして結構利用されているようなので、同じように小回りのきくものがあればと思います。

どんな人も死ぬまで地域で安心して暮らし続けられる社会になってほしい。8050問題での支援、ゴミ出しの支援(高齢医者)、困った時に助け合える地域づくり、困っていることが言える地域づくり、移動販売車の充実。

SNS等を使用して掲示板などを自由に立ち上げるなど、意見を幅広く聞ける環境があったらよいと思う。

細分化→統合。

自分の生活の安定だけを追求する人間なのか？それとも近所(住み慣れた地域)の人々と共感をもって自分より他人への思いやりのある人間なのか？せっかくよい案の活動の場をつくっても、その人の性格・考え方で違ってくる。一番大切なのはリーダーだと思う。導いてくれる人、そしてついていく人、一人ひとりのちょっとした心がけ次第で良くもなるし、間違った方向へも進んでしまう。

学校でも対面が基本であるように、地域でも対面を基本とした生活をやっていきたい。すぐにインターネットやスマホの活用をすすめられるが、災害時には使用可能かわからないため。

今自分も含め家族や近所が元気ですので、身近というよりどうあったらということの危機感なくて。思うのはひとり暮らしや援助を必要とした時、昔のような近所づきあいが見守りにつながるのでは。高齢になった時、自分や家族が車の運転ができなくなった時に、地域に病院やお店等が少ないから生活が大変になるのではないかと心配です。田畑の荒地が増えて行く事も心配です。若い人が住み続けられるようなまちづくりが大切だと思います。

障がいがあり自立できない者が、親が亡くなった後も安心して暮らせる施設等があるとよい。一定の年齢に親が達した頃にそのような施設等に入所(入居)できるように、十分な施設等が設置されているとよい。また、親亡き後の障がい者の財産管理も安心して任せられる制度等が利用できるとよい。

地域で認知症の人の見守りがあるが、家族の理解が不十分に思う。行政の方から家族へ十分な説明、ケアマネへの情報提供、ケア会議の充実をし、相談を受ける。デイの通所など福祉のサービスにつなげることが必要だが、お金がいるからという理由で放っておかず、きめ細かなサービスが必要。皆安心して暮らしていけるまちにしてほしい。

人口減で集落の維持が、共助なくしてできなくなってきた。増々助け合いが大切になってきているが、近所との結びつきは弱くなってきている。そこで思うのは、一番助け合いが必要なのは災害時で、この時に日頃の人間関係が出てしまうと思う。防災の視点で地域づくりを日頃から進めていくのが、大切だと思うようになりました。

### ■70歳以上

希望は多いですが、市予算の無い当市ではしょうがないです。

市がもう少し、地域活動の促進・活性化を行う。

## 自由意見

すべて市や公が地域に丸投げするのではなく、公が率先して中心となって足で動かねば何も進まない。目に見える行動こそ必要。本来の公僕の意味を実行。

外国から来た人の子ども・家族から、世界のことを学べるはず。学校で世界とつながるような教育システムができてくればよいと思います。英語教室へわざわざ出かけなくとも、他民族の言語を自然に理解できたり、理解できるようにしたりできる教育現場が設けられたらよいなと思ったりしました。

社会福祉・相談窓口の充実。場所と人を配置の充実を求めます。家庭事情はなかなか表に出てこないで、相談してもらえればわかるのですが、なかなかその場にはこれないと思うので…。

長続きする支援の人材確保！ひきこもりほか青年への必要な支援は、場を所固定して活動しているのですが多様性の対応は大変難しい。やはり当事者の交流と、支援するフラットのスタッフさんの充実を！頼りにしています。

同じ地区の中にも老夫婦のみの世帯、自分も含めてひとり世帯の方が多くいます。民生委員の方が訪問はしていると思いますが、ゆっくり話を聞く時間はとれないのではと思います。まだ自分で歩ける方は地区の集会所に足を運んでもらい、お茶を飲みながらお話をする機会をつくる「よびかけ人」がいるといいなと、常々思っています。また出かけられない人の情報も知らせていただければ様子をうかがったり、話し相手になれる人もいるように思います。チラシや広報の呼びかけだからだけでなく、手間はかかりますが、協力できそうな方を訪ね、依頼するというかたちはどうでしょうか。まず身近にいる方々との交流の場を希望します。

公共的な空き地、公園とまではいなくても、高速道路の橋の下の空き地の整備とか、自治会とか地区内にそのような公園風なところがあれば、やはり近場となり、そこで立ち話できたりする。これが少ない。

今後増え続ける高齢者社会に対しての、きめ細かいサービスの充実の対策。

助ける方も助けられる側も負担無く、自然にできる社会。

市の職員を減らして市民サービスを困難にしておいて、市民の「努力」で福祉を進めようとするのは無理があります。市（自治体）が、地方自治法に基づいた施策を進めた上で「市民の協力を」というのならわかります。今の市の職員の体制で市民サービスが十分にできるとは思えない。

高齢社会になり、地域の環境整備が行き届かなくなる。移動手段がなくなり、買い物等ができなくなる。お手伝い代行サービス、ボランティアのような。アンケートの設問が多く、後半まで集中できない。

コロナが早くおさまらないことには何もできない。

皆さん自分の事で精一杯。昔のように人のことに対して薄れています。とても難しいアンケートでした。

介護の仕事を長くしていました。入浴がほとんどでしたが、今年の12月でやっと自分の時間ができました。私にできる何かがあれば、74歳で力はなくなりましたが。

ひとり暮らしの方の見回りをしてほしい。いちいち役所に連絡するのが面倒。

地域の人々と子ども食堂を月4回くらい、社会福祉協議会が中心になり、ボランティアで開くといいなと思う。

## 自由意見

過疎地域となるのはもうすぐ。すでにその状態になっているかも…。ひとり暮らし、老夫婦の家庭が増え、数少ない若い人達に負担をかけていくことになります。家を守り、地域を守ることが活性化となり、「お互いさま」で助け合っていけます。助けを求めようとしても、周りは老人ばかり。若い人は留守がちが多く、民生委員の方の役割も大変になってきます。地域の人口を増やすことが大切だと思います。

中野方だけでは、日々の生活用品が調達できません。高齢のため免許は返納したいのですが、バス停留所まで10分から20分歩くこともできません。老人世帯はこれからどうやって生活していけばよいでしょうか。バスを小さくして便を増やすとかしてほしい。町も大井町、長島町の人と比べると、いろいろな点で不公平がある。例えば恵那市高齢者公共交通利用券、タクシー使えば片道しか使えません。僻地には差別が多すぎます。同じ市民なら同じ扱いを受けたいです。あまりに差が多過ぎます。私は差別だと思っています。

日頃、忙しさに紛れて人権ということを考えてこなかったのが、人権について質問されても、はたと考えてしまいました。人権を無視されている人ですら、抗議する心や気持ちを持ち合わせていないかもしれない。悲しいとかつらいとは思っても、不当だと相談することすらできていないかもしれないと思います。ということであれば、学校教育において人権意識を身につけることが一番大切かと思いました。そうした上で、大人達へは新聞、講演会等での教育が必要ですかね。今のように、生活するのに必死で働いている状況ではなかなか参加してもらえないと思いますが…。

「三郷愛の会」の活動は大いに評価できる。地域のために奮闘される姿は尊厳に値する。

後期高齢者です。今一番困っている問題は、あまりにも世の中が早く進み過ぎてついていけないことです。特にひとり暮らしの老人は困っています。まず英語文の略語が多く覚えられません。買い物に行っても必死です。それにスマホもラインがやっとなりで、周りを見ても皆同じ人が多いです。市から配布される広報など75歳以上の老人にもわかりやすく見られるように説明してください。中野方町ですが、キクトークで「ご不幸のお知らせ」を読んでいます。聞き取りにくいし、1回しか読まないのせめて2回読んでほしいです。人に聞くとところによると、人間じゃなくて機械が話しているらしいですね。何事においても年寄り暮らしにくくて内容がわかりづらいです。私達の周りにもひとり暮らしの高齢者ばかりが多くなってきました。現金でしか買い物ができない、メカに弱い人達です。どうかご理解ください。

高齢者、子育て支援に対して、市民のボランティア参加活動に対する意識向上に向けての整備をお願いします。

今まで自己解決で生きてきましたが、何かあった時に窓口がたくさんあり、どこへ行けばいいかわかりません。一本化して、何でも困りごと相談としたらわかりやすいのでは。

高齢になって病院に行けなくなる人のために、通院用の地域システムがあるといいと思います。有料でも良く、早めに通院をして重病にならないために。

今後どなたも高齢化して老人のまちになるから、自分でできる事はする、エチケットを守る、健康維持にそれぞれつとめる努力をする。

高齢化が進んでいるので、誰もが使用できる施設が多くあればいいと思う。子どもが少ないので、大切に育ててもらいたい。若い人の働く場所がもっと近くにあればいいと思います。

## 自由意見

ボランティア活動、福祉活動は、幼児期からその大切さを繰り返し学校、家庭で教育することが大切ではないかと思う。ある年齢に達したらお互いさまの精神で、誰もが福祉に携わる制度をつくり、当たり前の責務として、平等に関わることができたならいいなと思う。

民生委員さん等の動き・活動が住民には全然わからない。ただ名誉職くらいに思える。このアンケート調査は難しすぎると思いました。各個人が真剣に答えなければと思い、責任を感じるような問題が多くて悩みました。

コロナ禍で感染したらと思うと、なかなか集いにも参加できません。しかし3か月も活動を中止していると、仲間の方が軽い認知症になったりで大変な思いをしています。でもコロナ感染は誰にも止められませんので、早くよい薬ができることを祈るばかりです。

### ■年齢無回答

恵那市の地域の助け合い、福祉のまちづくりについて具体的にわかっていません。

生存確認ができる機器。緊急ボタンと無事ボタン。押されなければ3日ほどで確認する。孤独死は問題が多過ぎると思うので。

地区のまちづくり委員会での様子を広報等で知らされるが、一方通行になっているように思われることから、皆の問題になるよう話し合う機会が持てるようになるといいなと思う。

私は歩道を利用することが多いのですが、歩道に木が植えてあったり、デコボコが多く、カートを引くことが大変です。車が少ない時は車道を使っています。利用者が歩きやすい歩道にしてください。

## IV 人権施策に関する調査の結果

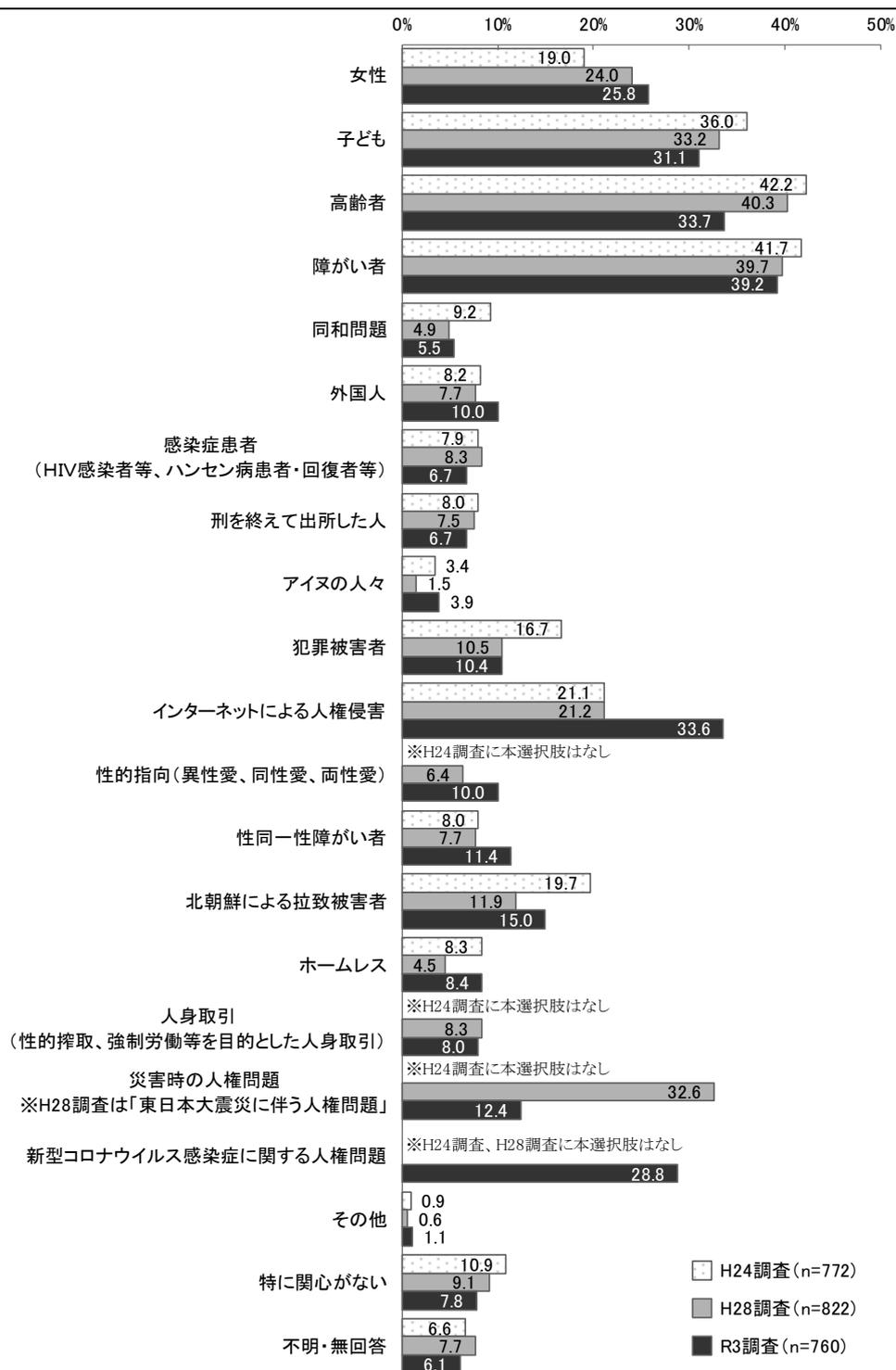
---

### 問 35 人権課題のなかで関心を持っているのはどれですか。(複数回答)

関心を持っている人権課題は、R3 調査で「障がい者」が 39.2%と最も高く、次いで「高齢者」が 33.7%となっています。また、「新型コロナウイルス感染症に関する人権問題」は 28.8%と上位 5 位に入っており、関心の高さがうかがわれます。経年比較すると、「インターネットによる人権侵害」が H24 調査及び H28 調査と比べてそれぞれ約 12 ポイント高くなっています。

性別では、「新型コロナウイルス感染症に関する人権問題」が男性で 27.8%、女性で 30.1%と関心が高い項目となっています。

年齢区分別では、50 歳代及び 60 歳代で「インターネットによる人権侵害」が 4 割前後と、他の年代と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	女性	子ども	高齢者	障がい者	同和問題	外国人	感染症患者(HIV感染者等、 ハンセン病患者・回復者等)	刑を終えて出所した人	アイヌの人々	犯罪被害者	インターネットによる人権侵害
【性別】												
男性	353	20.7	32.6	34.0	39.4	6.8	12.7	6.2	7.1	3.4	12.5	34.0
女性	356	31.7	30.6	32.3	39.6	4.8	8.1	7.3	6.7	4.8	9.0	33.7
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	29.5	47.7	22.7	36.4	4.5	18.2	4.5	9.1	0.0	4.5	20.5
30歳代	61	39.3	45.9	13.1	39.3	3.3	13.1	9.8	14.8	3.3	14.8	34.4
40歳代	93	31.2	49.5	21.5	36.6	0.0	5.4	4.3	5.4	1.1	6.5	26.9
50歳代	119	28.6	23.5	31.1	37.0	5.9	9.2	5.0	2.5	3.4	11.8	42.9
60歳代	179	24.6	28.5	35.8	42.5	8.9	14.5	9.5	6.7	5.6	12.8	39.7
70歳以上	214	19.6	23.4	45.3	40.2	5.6	7.0	5.6	7.0	5.1	10.3	30.4
区分	n=	性的指向(異性愛、同性愛、両性愛)	性同一性障がい者	北朝鮮による拉致被害者	ホームレス	人身取引(性的搾取、強制労働等を目的とした人身取引)	災害時の人権問題	新型コロナウイルス感染症に関する人権問題	その他	特に関心がない	不明・無回答	
【性別】												
男性	353	8.5	7.1	15.9	8.8	8.2	13.0	27.8	1.7	9.6	4.5	
女性	356	12.4	16.0	13.5	7.3	8.4	12.1	30.1	0.3	6.7	6.5	
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	25.0	18.2	4.5	11.4	9.1	9.1	27.3	2.3	6.8	0.0	
30歳代	61	23.0	27.9	9.8	9.8	11.5	13.1	31.1	0.0	8.2	4.9	
40歳代	93	11.8	17.2	4.3	6.5	4.3	15.1	31.2	1.1	7.5	1.1	
50歳代	119	12.6	15.1	6.7	5.0	4.2	12.6	31.9	0.8	8.4	3.4	
60歳代	179	7.3	8.4	16.2	8.4	11.2	10.6	25.7	1.1	10.1	4.5	
70歳以上	214	4.2	3.7	26.2	7.5	8.4	12.6	28.5	0.9	7.0	11.7	

問 36 今までに、自分や自分の家族が人権侵害（暴力、脅迫、強要、プライバシーの侵害、差別待遇など）を受けたと感じたことがありますか。（単数回答）

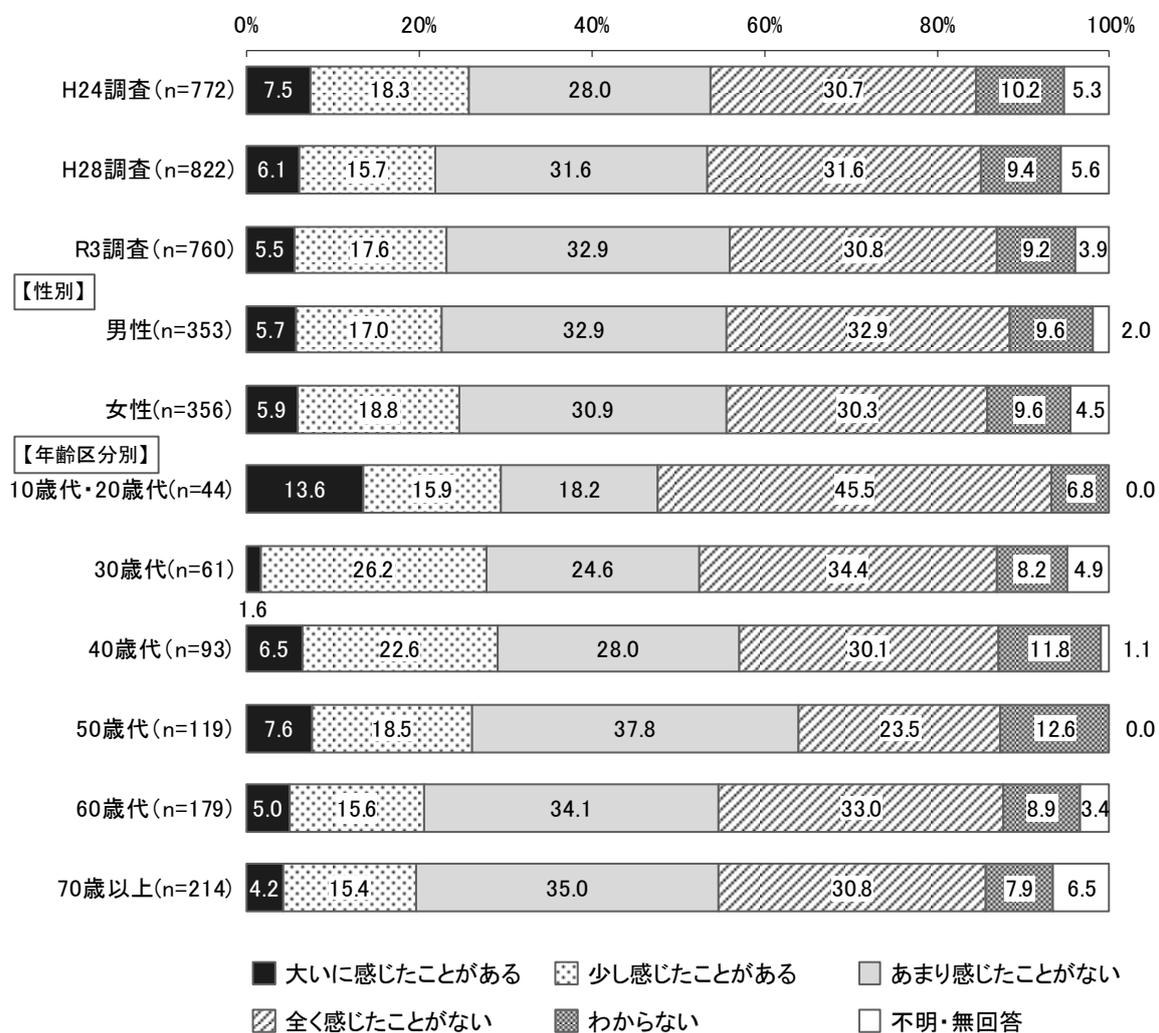
本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『感じたことがある』 … 「大いに感じたことがある」と「少し感じたことがある」の合算  
 『感じたことがない』 … 「あまり感じたことがない」と「全く感じたことがない」の合算

自分や自分の家族が人権侵害を受けたと感じたことがあるかは、R3 調査で『感じたことがある』が 23.1%、『感じたことがない』が 63.7%、「わからない」が 9.2%となっています。

性別では、『感じたことがある』が男性で 22.7%、女性で 24.7%となっています。

年齢区分別では、10 歳代・20 歳代で「大いに感じたことがある」が 13.6%と、他の年代と比べて高くなっています。

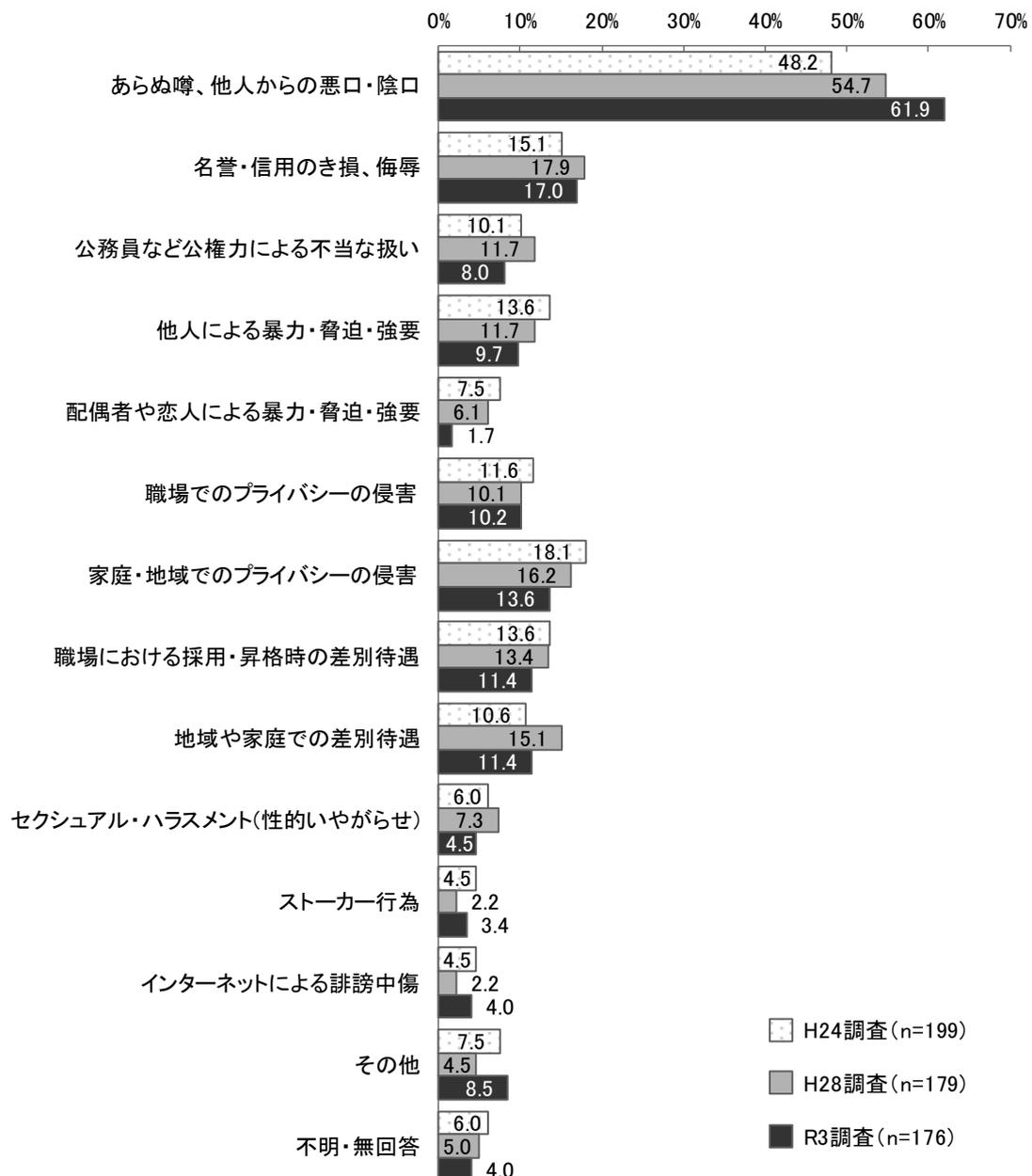


### 問 36-1 それほどのような人権侵害ですか。(複数回答)

\*問 36 で「1 大いに感じたことがある」「2 少し感じたことがある」と答えた方のみへの質問

感じたことがある人権侵害は、R3 調査で「あらぬ噂、他人からの悪口・陰口」が 61.9%と最も高く、次いで「名誉・信用のき損、侮辱」が 17.0%となっています。経年比較すると、「あらぬ噂、他人からの悪口・陰口」は増加傾向となっています。

年齢区分別では、30 歳代で「職場でのプライバシーの侵害」が 41.2%、「職場における採用・昇格時の差別待遇」が 23.5%と、他の年代と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	陰口 あらぬ噂、他人からの悪口・	名誉・信用のき損、侮辱	不当な扱い 公務員など公権力による不	他人による暴力・脅迫・強要	配偶者や恋人による暴力・脅 迫・強要	職場でのプライバシーの侵害	家庭・地域でのプライバシー の侵害	職場における採用・昇格時の 差別待遇	地域や家庭での差別待遇	セクシユアル・ハラスメント(性 的いやがらせ)	ストーカー行為
【性別】												
男性	80	62.5	20.0	11.3	12.5	1.3	11.3	10.0	12.5	10.0	5.0	0.0
女性	88	62.5	15.9	4.5	8.0	2.3	10.2	17.0	9.1	11.4	4.5	6.8
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	13	84.6	30.8	7.7	23.1	0.0	0.0	23.1	0.0	23.1	23.1	0.0
30歳代	17	41.2	5.9	5.9	17.6	0.0	41.2	17.6	23.5	5.9	5.9	11.8
40歳代	27	77.8	7.4	7.4	3.7	3.7	14.8	14.8	7.4	3.7	3.7	0.0
50歳代	31	54.8	19.4	6.5	12.9	3.2	0.0	6.5	16.1	9.7	6.5	3.2
60歳代	37	54.1	16.2	10.8	10.8	2.7	10.8	13.5	8.1	16.2	2.7	2.7
70歳以上	42	69.0	23.8	7.1	4.8	0.0	7.1	14.3	9.5	9.5	0.0	4.8

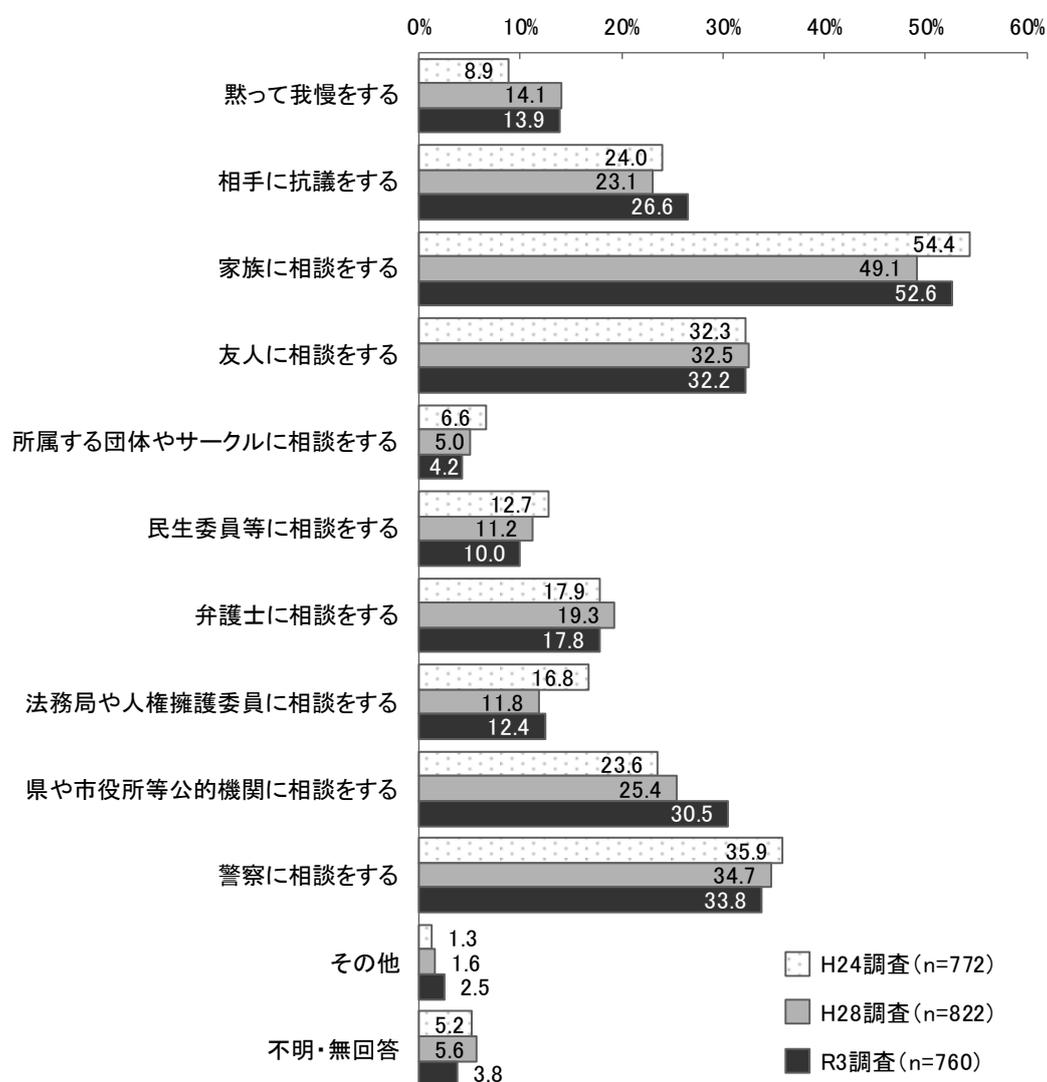
区分	n=	インターネットに よる誹謗中傷	その他	不明・無回答
【性別】				
男性	80	5.0	6.3	6.3
女性	88	3.4	10.2	2.3
【年齢区分別】				
10歳代・20歳代	13	7.7	15.4	0.0
30歳代	17	5.9	17.6	5.9
40歳代	27	7.4	0.0	0.0
50歳代	31	3.2	9.7	9.7
60歳代	37	2.7	8.1	2.7
70歳以上	42	2.4	7.1	4.8

問 38 あなたが、もし人権侵害を受けたとしたら、どのような対応をしますか。(複数回答)

人権侵害を受けた場合の対応は、R3 調査で「家族に相談する」が 52.6%と最も高く、次いで「警察に相談する」が 33.8%となっています。経年比較すると、「県や市役所等公的機関に相談をする」が増加傾向となっています。

性別では、女性で「家族に相談する」「友人に相談をする」が、男性で「相手に抗議をする」「警察に相談をする」が、それぞれと比べて 10 ポイント以上高くなっています。

年齢区分別では、50 歳代以上で「県や市役所等公的機関に相談をする」が約 4 割と高くなっています。なお、10 歳代・20 歳代及び 50 歳代で「黙って我慢をする」が 2 割前後と、他の年代と比べて高くなっています。



■クロス集計

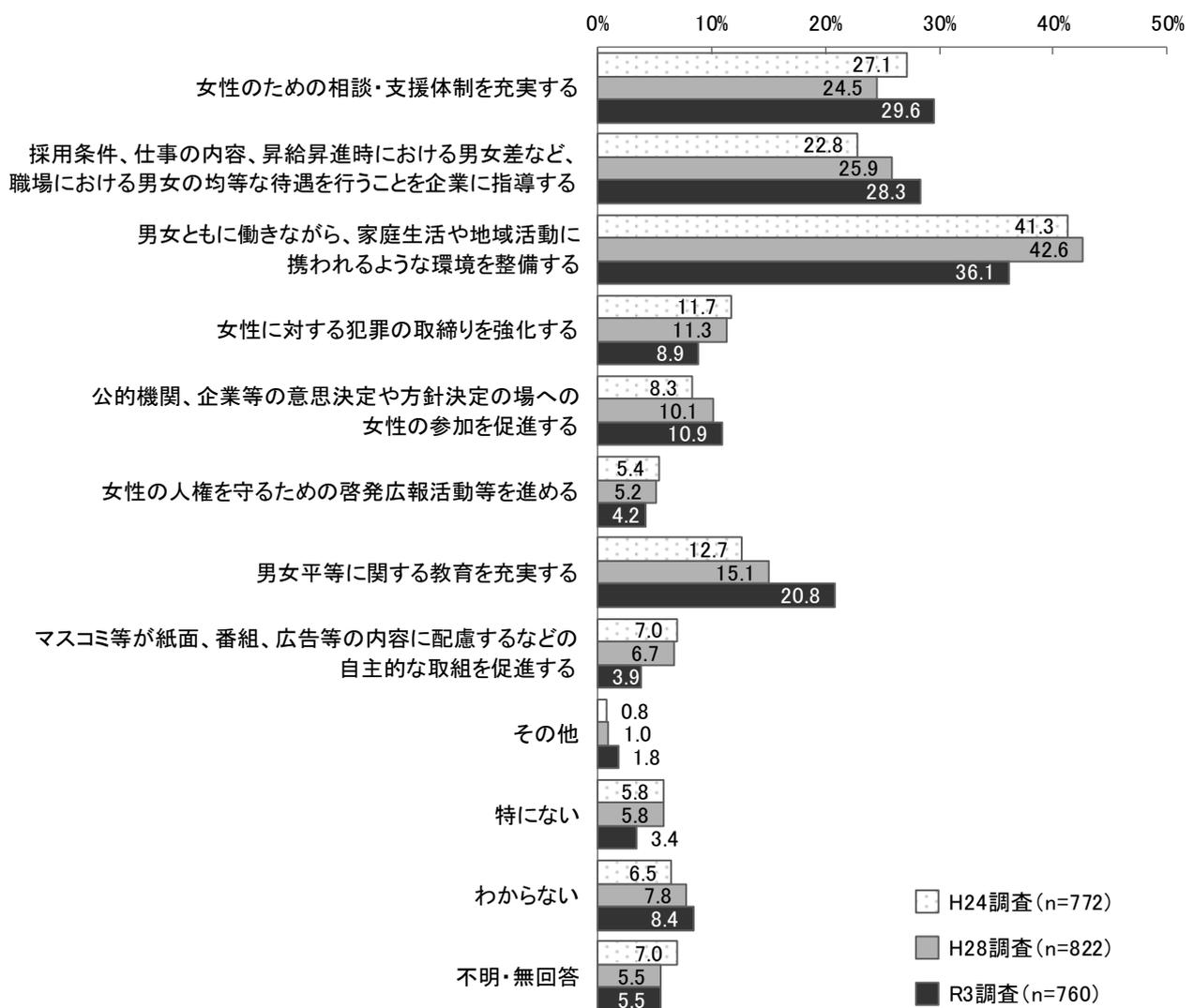
(単位: %)

区分	n=	黙って我慢をする	相手に抗議をする	家族に相談をする	友人に相談をする	所属する団体やサークルに相談をする	民生委員等に相談をする	弁護士に相談をする	法務局や人権擁護委員に相談をする	県や市役所等の機関に相談をする	警察に相談をする	その他	不明・無回答
【性別】													
男性	353	14.2	36.5	43.6	26.3	4.8	11.9	21.8	15.0	32.3	38.8	2.3	2.5
女性	356	13.8	16.6	63.8	39.0	3.9	7.6	14.3	10.4	28.9	28.7	2.8	4.2
【年齢区分別】													
10歳代・20歳代	44	20.5	36.4	61.4	38.6	6.8	0.0	20.5	4.5	15.9	22.7	2.3	0.0
30歳代	61	14.8	23.0	65.6	45.9	3.3	0.0	14.8	4.9	13.1	32.8	3.3	4.9
40歳代	93	12.9	25.8	57.0	38.7	3.2	3.2	20.4	7.5	18.3	30.1	1.1	1.1
50歳代	119	18.5	24.4	54.6	31.9	5.9	3.4	13.4	3.4	35.3	30.3	3.4	1.7
60歳代	179	11.2	31.3	50.8	31.3	3.9	15.1	20.7	19.6	36.9	37.4	3.4	3.4
70歳以上	214	12.6	24.3	48.1	26.2	4.2	16.8	17.3	17.8	37.4	36.4	1.9	6.5

問 39 女性の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

女性の人権を守るために必要だと思うことは、R3 調査で「男女ともに働きながら、家庭生活や地域活動に携われるような環境を整備する」が 36.1%と最も高く、次いで「女性のための相談・支援体制を充実する」が 29.6%となっています。経年比較すると、「採用条件、仕事の内容、昇給昇進時における男女差など、職場における男女の均等な待遇を行うことを企業に指導する」「男女平等に関する教育を充実する」は増加傾向となっています。

年齢区分別では、30 歳代で「採用条件、仕事の内容、昇給昇進時における男女差など、職場における男女の均等な待遇を行うことを企業に指導する」が 41.0%と、他の年代と比べて高くなっています。



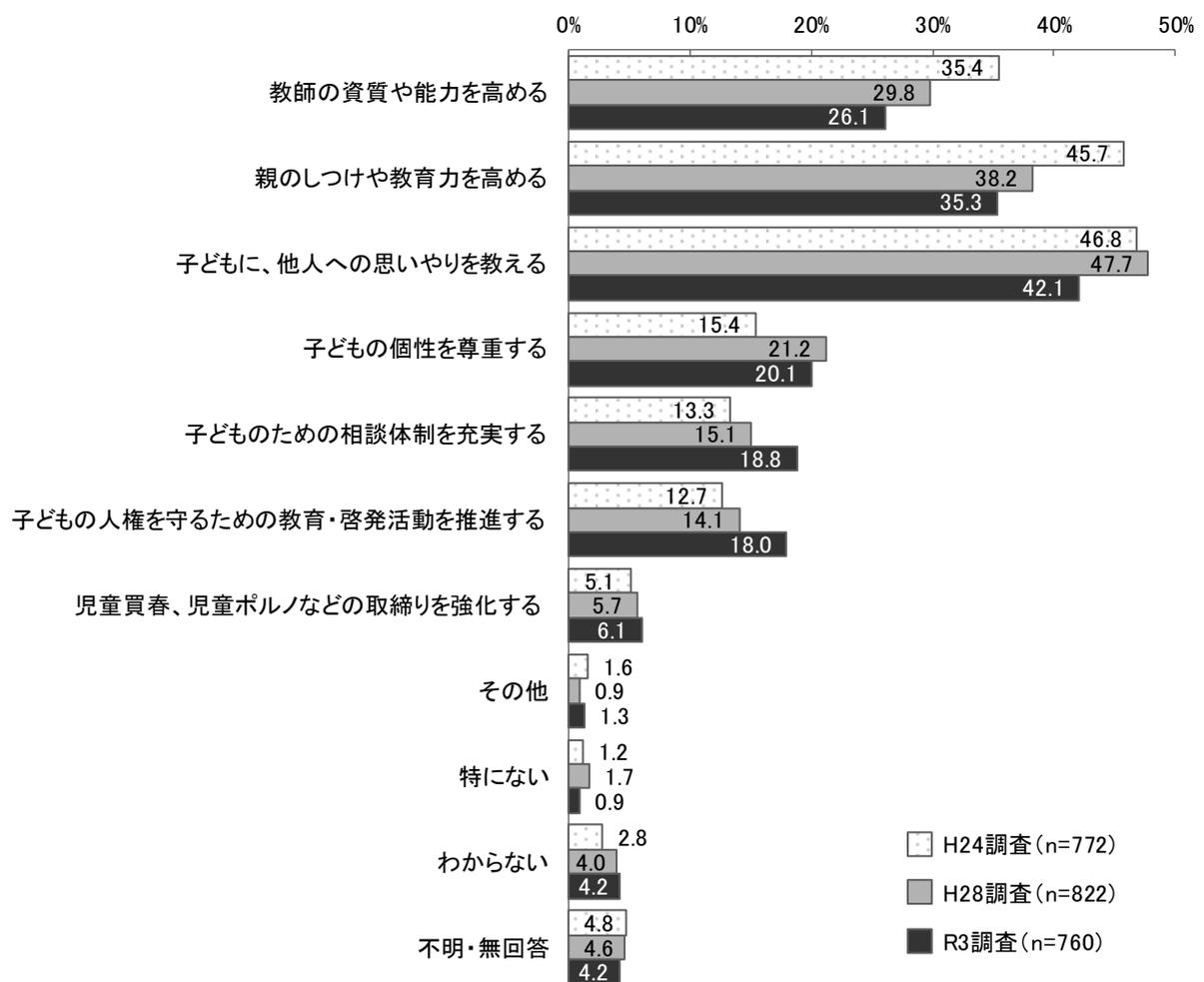
区分	n=	女性のための相談・支援体制を充実する	採用条件、仕事の内容、昇給昇進時における男女差など、職場における男女の均等な待遇を行うことを企業に指導する	男女ともに働きながら、家庭生活や地域活動に携われるような環境を整備する	女性に対する犯罪の取締りを強化する	公的機関、企業等の意思決定や方針決定の場への女性の参加を促進する	女性の人権を守るための啓発広報活動等を進める	男女平等に関する教育を充実する	マスコミ等が紙面、番組、広告等の内容に配慮するなどの自主的な取組を促進する	その他	特にない	わからない	不明・無回答
【性別】													
男性	353	32.9	27.2	33.1	7.9	11.3	4.2	19.5	5.4	1.7	3.4	8.5	5.7
女性	356	27.0	30.1	39.3	9.6	10.7	4.8	22.2	2.5	2.2	3.1	8.1	4.5
【年齢区分別】													
10歳代・20歳代	44	31.8	31.8	43.2	9.1	4.5	2.3	27.3	2.3	4.5	2.3	2.3	0.0
30歳代	61	31.1	41.0	36.1	11.5	8.2	3.3	19.7	3.3	3.3	3.3	4.9	1.6
40歳代	93	31.2	34.4	36.6	12.9	7.5	2.2	19.4	2.2	2.2	1.1	8.6	4.3
50歳代	119	27.7	30.3	32.8	10.1	9.2	9.2	16.8	4.2	2.5	0.8	10.9	5.9
60歳代	179	32.4	24.6	36.3	11.2	13.4	3.4	21.2	3.9	0.6	3.4	8.9	4.5
70歳以上	214	28.5	23.4	36.4	3.7	13.6	4.2	22.9	5.6	1.9	5.1	8.9	7.9

問 40 子どもの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

子どもの人権を守るために必要なことは、R3 調査で「子どもに、他人への思いやりを教える」が 42.1%と最も高く、次いで「親のしつけや教育力を高める」が 35.3%となっています。経年比較すると、「子どものための相談体制を充実する」「子どもの人権を守るための教育・啓発活動を推進する」が増加傾向となっています。

性別では、男性で「親のしつけや教育力を高める」が 43.1%と、女性と比べて 16.4 ポイント、女性で「子どもの個性を尊重する」が 25.6%と、男性と比べて 10.6 ポイント、それぞれ高くなっています。

年齢区分別では、40 歳代以下で「子どもの個性を尊重する」が高くなっています。



■クロス集計

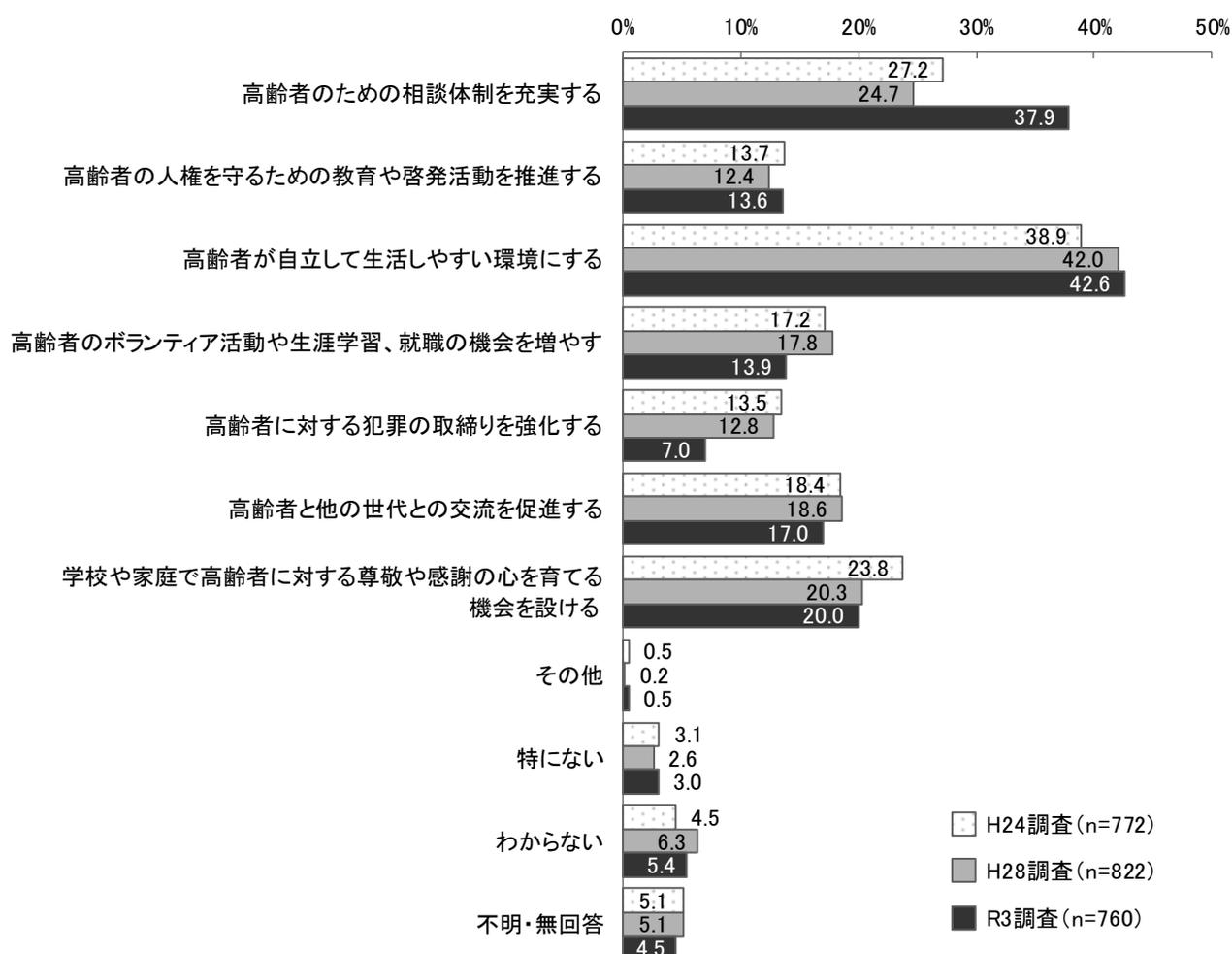
(単位: %)

区分	n=	教師の資質や能力を高める	親のしつけや教育力を高める	子どもに、他人への思いやりを教える	子どもの個性を尊重する	子どものための相談体制を充実する	子どもの人権を守るための教育・啓発活動を推進する	児童買春、児童ポルノなどの取締りを強化する	その他	特になし	わからない	不明・無回答
【性別】												
男性	353	28.3	43.1	41.4	15.0	15.9	17.3	5.7	1.4	0.8	3.7	4.0
女性	356	23.9	26.7	43.3	25.6	21.6	18.8	6.2	1.4	1.1	4.8	3.9
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	34.1	27.3	38.6	40.9	11.4	13.6	4.5	2.3	2.3	0.0	0.0
30歳代	61	21.3	27.9	34.4	32.8	29.5	13.1	9.8	1.6	1.6	3.3	1.6
40歳代	93	24.7	33.3	36.6	26.9	18.3	17.2	10.8	0.0	1.1	2.2	3.2
50歳代	119	15.1	30.3	45.4	20.2	24.4	13.4	4.2	2.5	0.8	7.6	4.2
60歳代	179	29.6	39.7	45.8	14.5	16.2	24.6	3.9	0.6	0.6	4.5	2.8
70歳以上	214	29.9	38.3	42.5	14.0	15.9	17.8	5.1	1.9	0.9	4.7	7.0

問 41 高齢者の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思えますか。(複数回答)

高齢者の人権を守るために必要なことは、R3 調査で「高齢者が自立して生活しやすい環境にする」が 42.6%と最も高く、次いで「高齢者のための相談体制を充実する」が 37.9%となっています。経年比較すると、「高齢者のための相談体制を充実する」が H24 調査及び H28 調査と比べてそれぞれ 10.7 ポイント、13.2 ポイント高くなっています。また、「高齢者が自立して生活しやすい環境にする」が増加傾向となっています。

年齢区分別では、30 歳代及び 40 歳代で「高齢者との世代との交流を促進する」が 2 割強と高くなっています。



■クロス集計

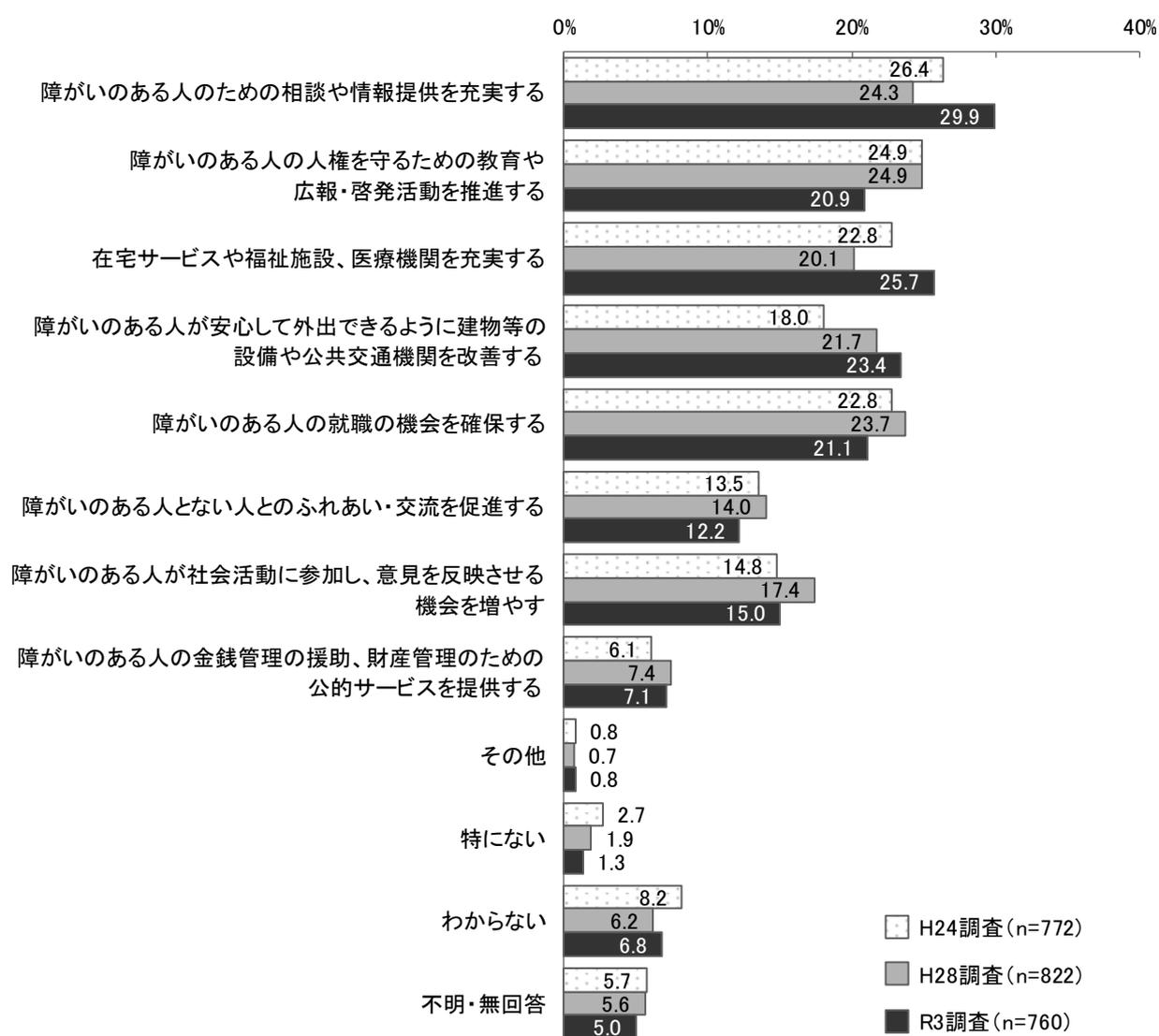
(単位: %)

区分	n=	高齢者のための相談体制を充実する	高齢者の人権を守るための教育や啓発活動を推進する	高齢者が自立して生活しやすい環境にする	高齢者のボランティア活動や生涯学習、就職の機会を増やす	高齢者に対する犯罪の取締りを強化する	高齢者との世代との交流を促進する	学校や家庭で高齢者に対する尊敬や感謝の心を育てる機会を設ける	その他	特になし	わからない	不明・無回答
【性別】												
男性	353	41.1	14.7	38.2	11.9	6.8	16.4	21.8	0.6	4.0	5.7	4.5
女性	356	34.6	12.4	45.2	16.9	7.3	17.1	19.7	0.3	2.2	5.9	3.4
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	34.1	18.2	45.5	22.7	9.1	15.9	9.1	0.0	2.3	6.8	0.0
30歳代	61	37.7	6.6	49.2	14.8	9.8	24.6	9.8	0.0	3.3	6.6	1.6
40歳代	93	43.0	17.2	35.5	10.8	6.5	22.6	14.0	1.1	1.1	5.4	3.2
50歳代	119	40.3	7.6	42.0	14.3	8.4	16.0	22.7	0.8	2.5	6.7	4.2
60歳代	179	38.5	17.3	40.2	13.4	7.8	16.2	22.3	0.0	3.4	5.6	2.8
70歳以上	214	35.0	13.1	44.4	14.0	5.1	12.1	27.6	0.5	4.2	4.7	7.0

問 42 障がいのある人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(複数回答)

障がいのある人の人権を守るために必要なことは、R3 調査で「障がいのある人のための相談や情報提供を充実する」が 29.9%と最も高く、次いで「在宅サービスや福祉施設、医療機関を充実する」が 25.7%となっています。経年比較すると、「障がいのある人が安心して外出できるように建物等の設備や公共交通機関を改善する」が増加傾向となっています。

年齢区分別では、30 歳代で「障がいのある人の就職の機会を確保する」が 37.7%と、他の年代と比べて高くなっています。



■クロス集計

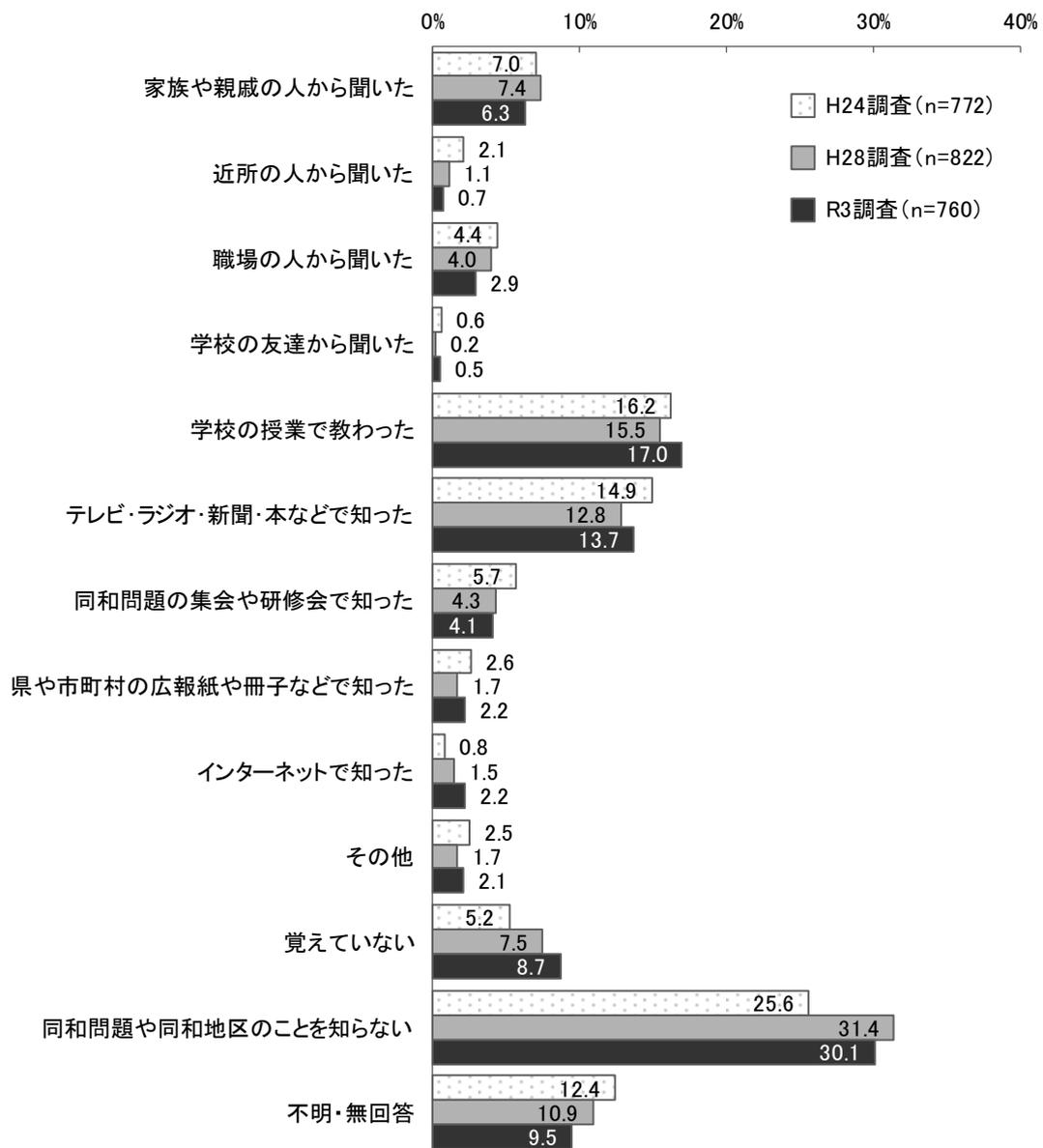
(単位: %)

区分	n=	障がいのある人のための相談や情報提供を充実する	障がいのある人の人権を守るための教育や広報・啓発活動を推進する	在宅サービスや福祉施設、医療機関を充実する	障がいのある人が安心して外出できるように建物等の設備や公共交通機関を改善する	障がいのある人の就職の機会を確保する	障がいのある人となし人とのふれあい・交流を促進する	障がいのある人が社会活動に参加し、意見を反映させる機会を増やす	障がいのある人の金銭管理の援助、財産管理のための公的サービスを提供する	その他	特になし	わからない	不明・無回答
【性別】													
男性	353	34.0	23.8	22.1	24.1	19.5	10.8	13.9	7.1	0.8	1.7	5.7	5.1
女性	356	25.6	18.3	30.1	22.5	22.2	13.8	14.9	6.7	0.8	0.8	8.7	4.5
【年齢区分別】													
10歳代・20歳代	44	36.4	22.7	27.3	29.5	27.3	13.6	9.1	13.6	0.0	2.3	0.0	0.0
30歳代	61	34.4	11.5	23.0	24.6	37.7	9.8	13.1	9.8	0.0	1.6	6.6	1.6
40歳代	93	29.0	20.4	20.4	21.5	19.4	15.1	17.2	6.5	1.1	0.0	8.6	3.2
50歳代	119	28.6	19.3	27.7	17.6	22.7	13.4	12.6	5.9	1.7	1.7	8.4	4.2
60歳代	179	31.8	22.9	30.2	23.5	17.9	13.4	16.2	5.6	1.1	0.6	6.1	2.8
70歳以上	214	27.6	22.4	25.7	25.7	15.9	10.3	14.5	6.5	0.5	1.9	7.9	9.8

問 43 同和問題や同和地区について知っていますか。知っている方の知ったきっかけは何ですか。(単数回答)

同和問題や同和地区について知ったきっかけは、R3 調査で「同和問題や同和地区のことを知らない」が 30.1%と最も高く、次いで「学校の授業で教わった」が 17.0%となっています。

年齢区分別では、30 歳代～50 歳代で「学校の授業で教わった」が高い一方で、10 歳代・20 歳代では「同和問題や同和地区のことを知らない」が 61.4%と他の年代と比べても高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	家族や親戚の人から聞いた	近所の人から聞いた	職場の人から聞いた	学校の友達から聞いた	学校の授業で教わった	テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った	同和問題の集会や研修会で知った	県や市町村の広報紙や冊子などで知った	インターネットで知った	その他	覚えていない
【性別】												
男性	353	6.5	0.3	4.2	0.8	15.9	13.6	6.5	1.4	2.5	2.3	8.8
女性	356	5.9	0.6	1.7	0.3	19.7	13.5	2.0	2.5	2.2	1.4	8.4
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	4.5	0.0	0.0	0.0	11.4	2.3	0.0	0.0	0.0	2.3	13.6
30歳代	61	4.9	0.0	1.6	1.6	36.1	3.3	0.0	0.0	8.2	0.0	6.6
40歳代	93	10.8	0.0	5.4	0.0	24.7	5.4	1.1	1.1	3.2	0.0	10.8
50歳代	119	1.7	0.0	2.5	0.0	25.2	12.6	0.8	0.8	1.7	1.7	8.4
60歳代	179	9.5	0.6	3.4	1.1	15.1	13.4	6.7	2.8	2.2	2.8	9.5
70歳以上	214	4.7	0.9	2.8	0.5	8.4	22.4	7.5	2.8	1.4	2.8	6.1

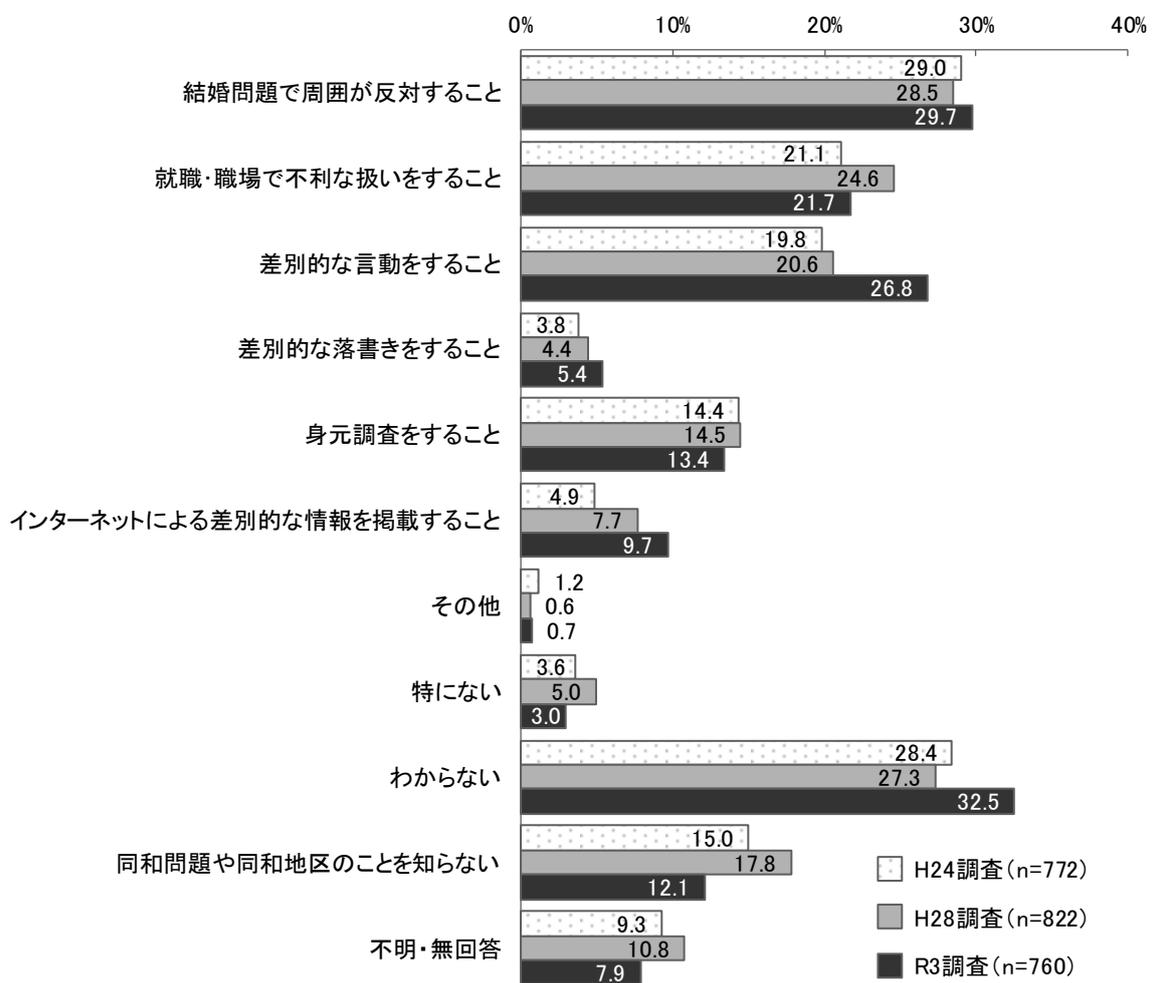
区分	n=	同和問題や同和地区のことを知らない	不明・無回答
【性別】			
男性	353	28.6	8.5
女性	356	32.6	9.3
【年齢区分別】			
10歳代・20歳代	44	61.4	4.5
30歳代	61	34.4	3.3
40歳代	93	33.3	4.3
50歳代	119	36.1	8.4
60歳代	179	24.0	8.9
70歳以上	214	26.2	13.6

問 44 同和問題について、どのような問題が実際に起きていると思いますか。(複数回答)

同和問題についてどのような問題が実際に起きていると思うかは、R3 調査で「わからない」(32.5%)を除いて「結婚問題で周囲が反対すること」が29.7%と最も高く、次いで「差別的な言動をすること」が26.8%となっています。経年比較すると、「差別的な言動をすること」が増加傾向となっています。

性別では、男性で「差別的な言動をすること」が32.3%と、女性と比べて10.4ポイント高くなっています。

年齢区分別では、30歳代及び60歳代で「結婚問題で周囲が反対すること」がそれぞれ約36%と、他の年代と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

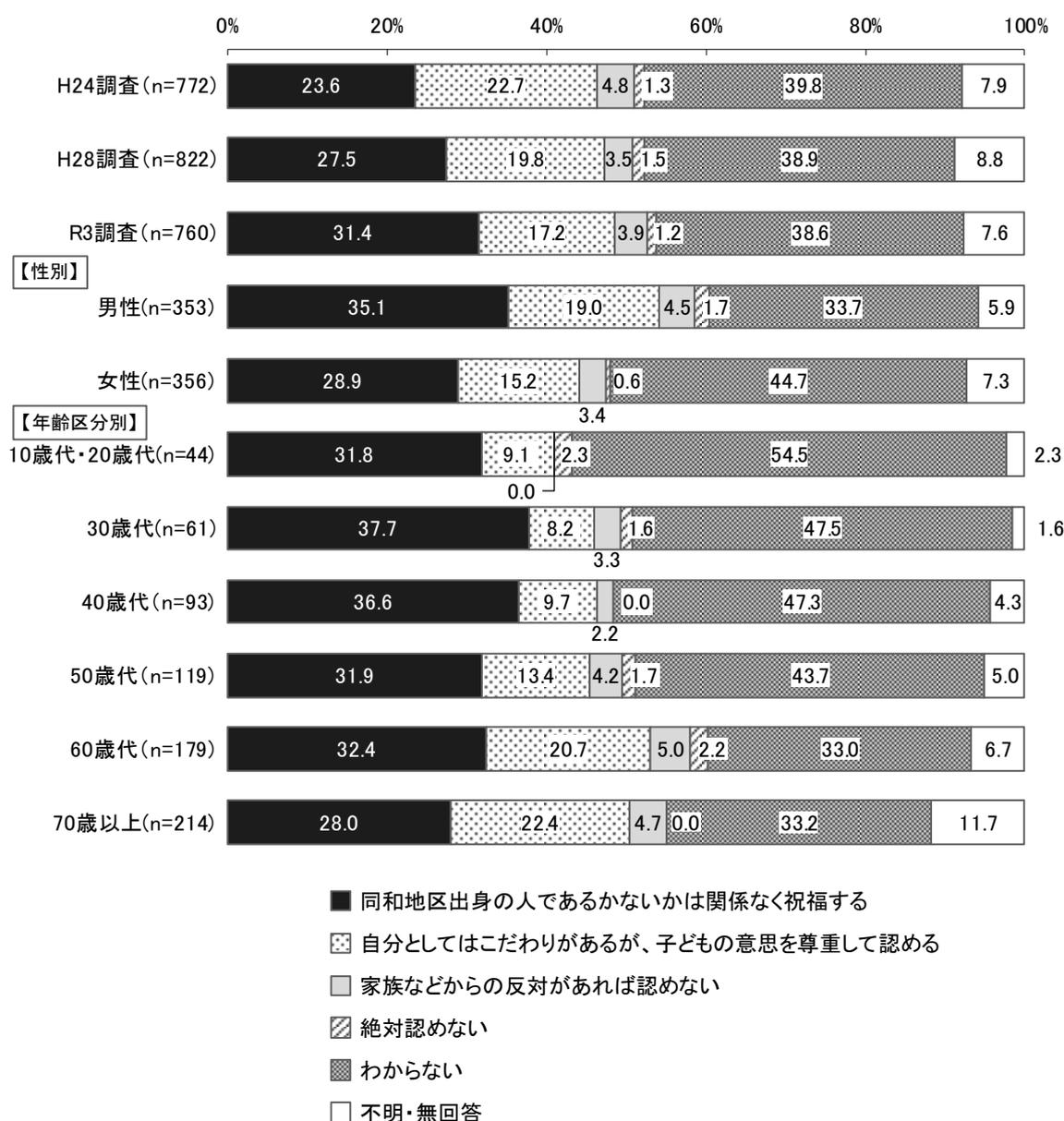
区分	n=	結婚問題で周囲が反対すること	就職・職場で不利な扱いをすること	差別的な言動をすること	差別的な落書きをすること	身元調査をすること	インターネットによる差別的な情報を掲載すること	その他	特にない	わからない	同和問題や同和地区のことを知らない	不明・無回答
【性別】												
男性	353	30.3	23.8	32.3	7.4	14.4	9.9	0.8	4.8	29.2	11.3	7.1
女性	356	30.3	19.9	21.9	3.9	12.6	9.6	0.6	1.4	35.4	14.3	6.7
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	6.8	9.1	20.5	4.5	9.1	6.8	0.0	4.5	43.2	29.5	0.0
30歳代	61	36.1	29.5	31.1	8.2	14.8	16.4	0.0	1.6	32.8	9.8	1.6
40歳代	93	33.3	20.4	29.0	4.3	14.0	9.7	0.0	1.1	38.7	11.8	3.2
50歳代	119	27.7	18.5	26.1	5.0	10.9	9.2	0.8	3.4	37.8	13.4	5.9
60歳代	179	36.3	22.9	26.8	6.7	14.5	12.3	1.7	2.8	30.2	11.2	6.1
70歳以上	214	26.6	23.4	26.6	4.2	14.0	6.5	0.5	4.2	27.1	11.7	13.1

問 45 あなたの子どもが（子どもがいない方はいると仮定してお答えください）、同和地区出身の人との結婚を希望したらどうしますか。あなたの考えに最も近いものは何ですか。（単数回答）

自身の子どもが同和地区出身の人と結婚を希望したときの考えは、R3 調査で「わからない」が 38.6%と最も高く、次いで「同和地区出身の人であるかないかは関係なく祝福する」が 31.4%となっています。経年比較すると、「同和地区出身の人であるかないかは関係なく祝福する」が増加傾向となっています。

性別では、「同和地区出身の人であるかないかは関係なく祝福する」が男性で 35.1%、女性で 28.9%となっています。

年齢区分別では、30 歳代及び 40 歳代で「同和地区出身の人であるかないかは関係なく祝福する」がそれぞれ約 4 割となっています。



問 46 同和問題についてどのように考えますか。あなたの考えに最も近いものは何ですか。(単数回答)

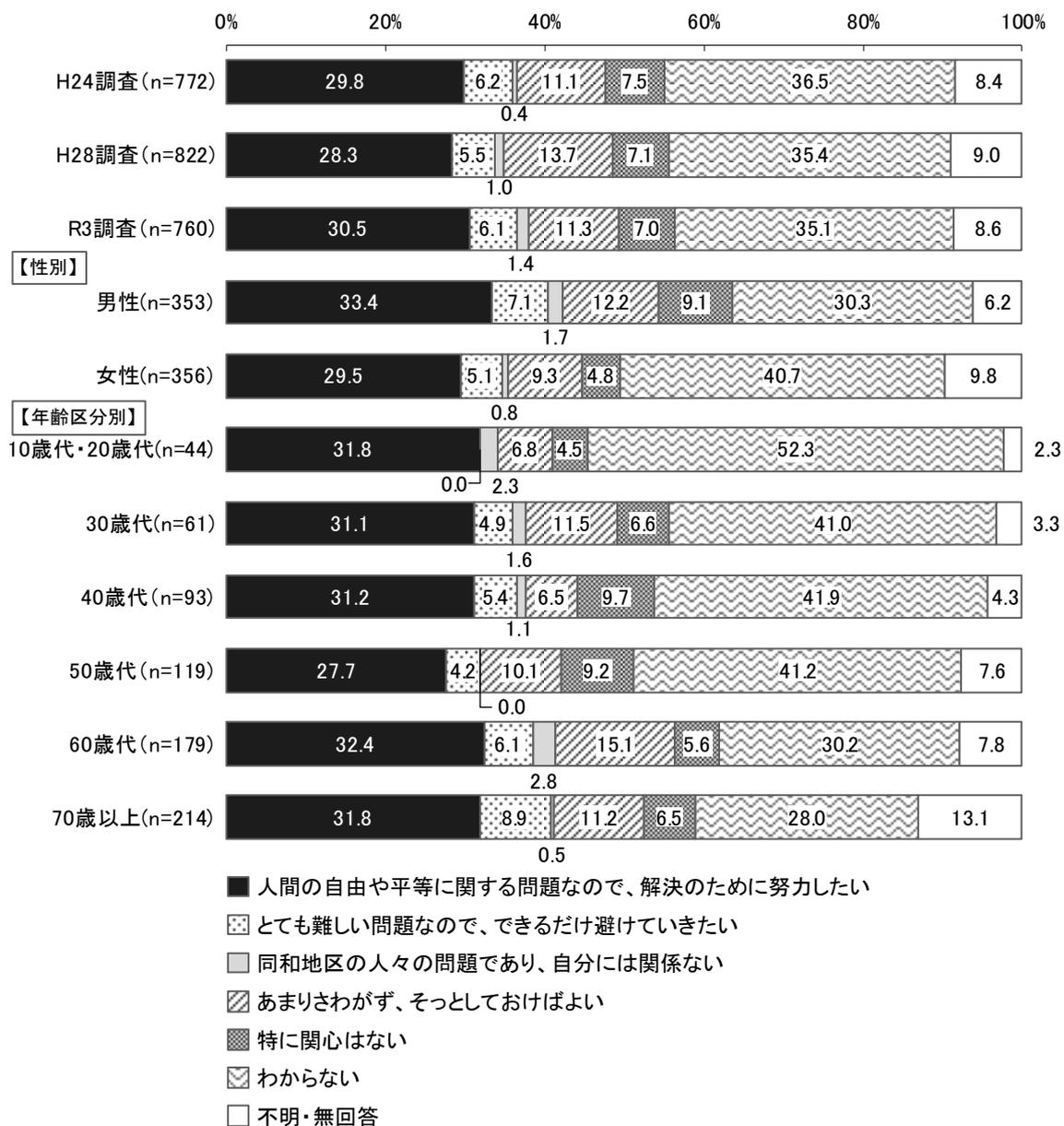
本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『避けたい・無関心』 … 「とても難しい問題なので、できるだけ避けていきたい」「同和地区の人々の問題であり、自分には関係ない」「あまりさわがず、そっとしておけばよい」「特に関心はない」の合算

同和問題をどのように考えるかは、R3 調査で「わからない」が 35.1%と最も高く、次いで「人間の自由や平等に関する問題なので、解決のために努力したい」が 30.5%となっています。なお、『避けたい・無関心』は 25.8%となっています。

性別では、『避けたい・無関心』が男性で 30.1%と、女性と比べて 10.1 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、50 歳代で「人間の自由や平等に関する問題なので、解決のために努力したい」が 27.7%と、他の年代と比べて低くなっています。また、『避けたい・無関心』は 10 歳代・20 歳代で最も低く、60 歳代以上で高くなっています。

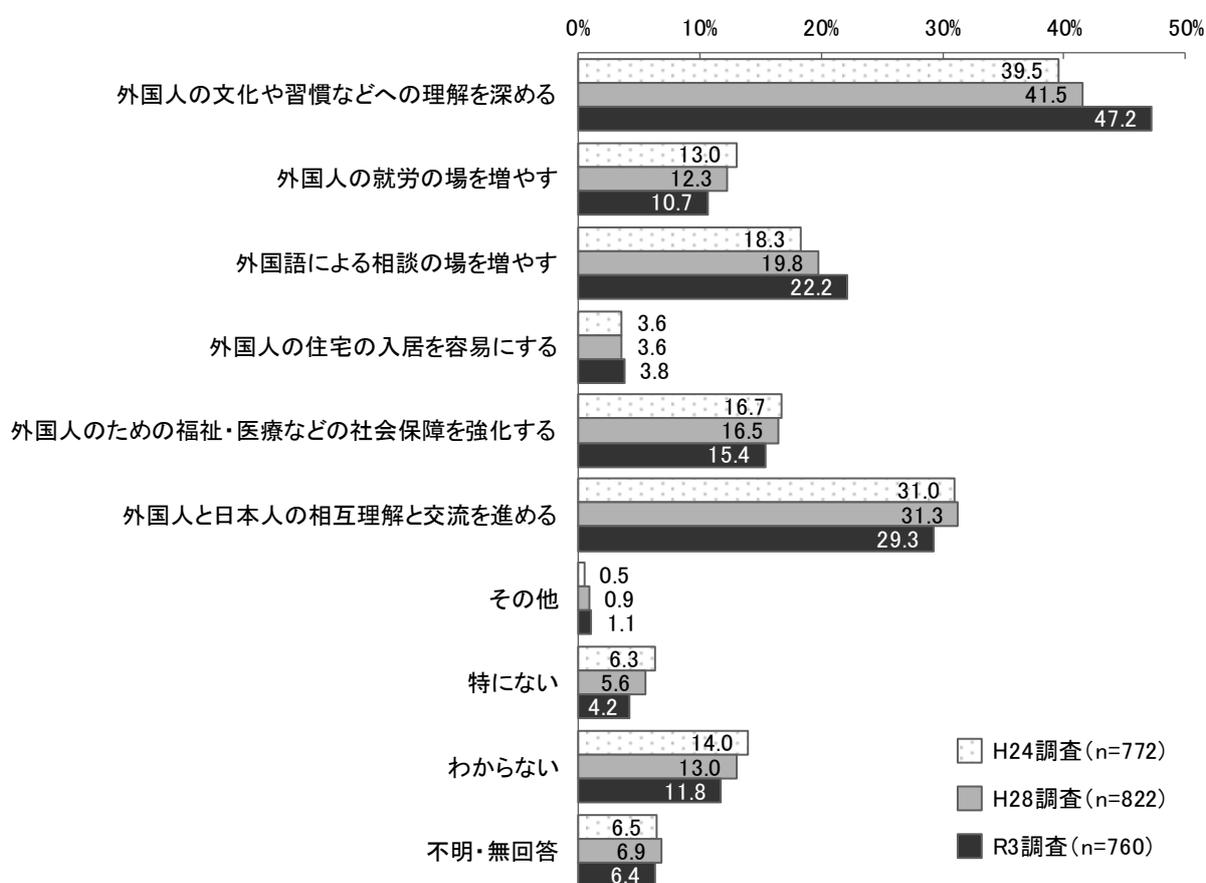


問 47 外国人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

外国人の人権を守るために必要なことは、R3 調査で「外国人の文化や習慣などへの理解を深める」が 47.2%と最も高く、次いで「外国人と日本人の相互理解と交流を進める」が 29.3%となっています。経年比較すると、「外国人の文化や習慣などへの理解を深める」「外国語による相談の場を増やす」が増加傾向となっています。

性別では、女性で「外国語による相談の場を増やす」が 27.0%と、男性と比べて 9.4 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、30 歳代及び 60 歳代以上で「外国人と日本人の相互理解と交流を進める」が 3 割を超えて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

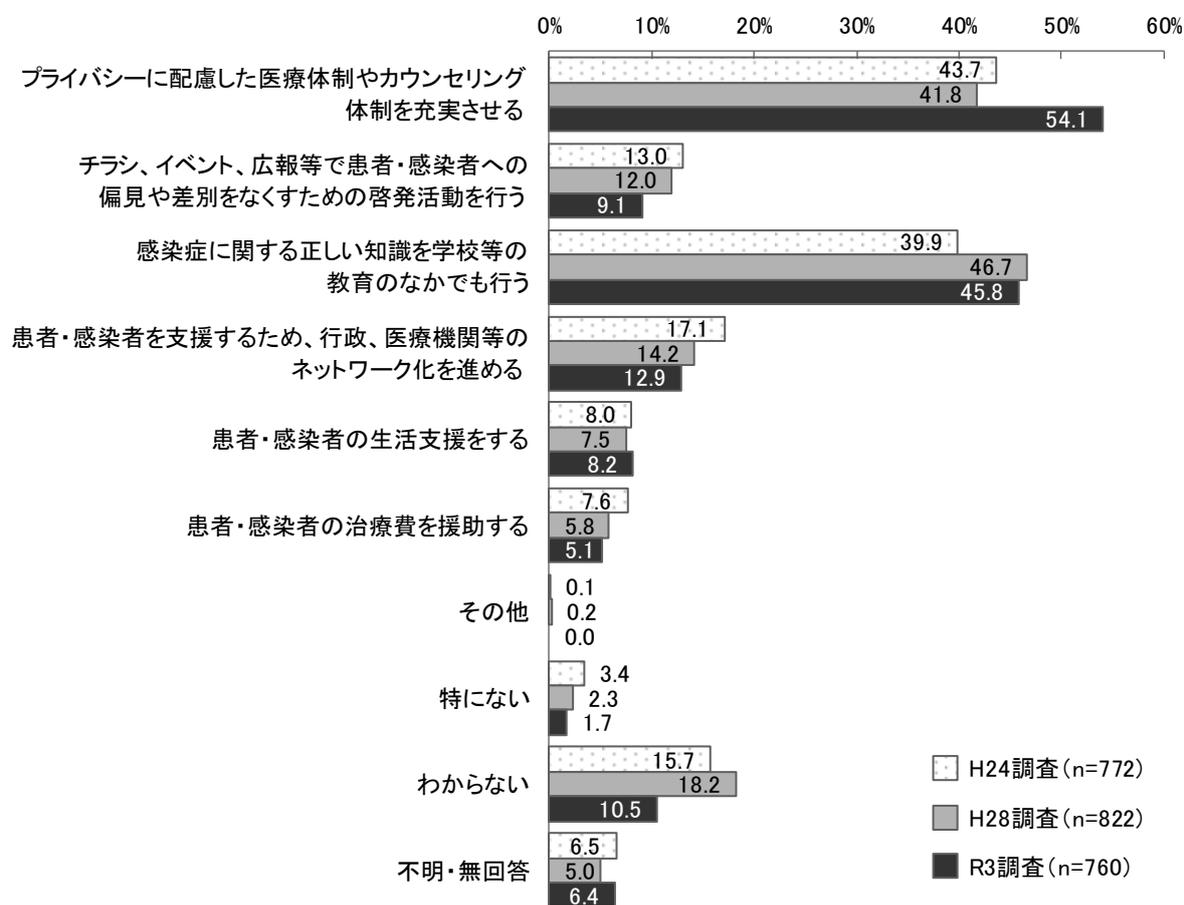
区分	n=	外国人の文化や習慣などへの理解を深める	外国人の就労の場を増やす	外国語による相談の場を増やす	外国人の住宅の入居を容易にする	外国人のための福祉・医療などの社会保障を強化する	外国人と日本人の相互理解と交流を進める	その他	特にない	わからない	不明・無回答
【性別】											
男性	353	50.1	12.5	17.6	5.7	17.6	31.4	1.1	5.1	9.9	4.8
女性	356	45.5	9.0	27.0	2.2	14.6	26.7	1.1	3.1	13.5	7.3
【年齢区分別】											
10歳代・20歳代	44	56.8	22.7	25.0	4.5	6.8	29.5	0.0	4.5	11.4	0.0
30歳代	61	42.6	14.8	23.0	8.2	11.5	36.1	4.9	4.9	8.2	3.3
40歳代	93	57.0	7.5	29.0	4.3	7.5	24.7	0.0	5.4	15.1	1.1
50歳代	119	44.5	10.1	22.7	2.5	16.0	21.8	0.0	6.7	12.6	6.7
60歳代	179	52.0	7.8	25.1	3.4	15.1	32.4	0.6	1.7	12.8	4.5
70歳以上	214	42.5	11.2	16.4	3.3	22.4	32.2	1.4	3.3	10.7	11.2

問 48 感染症患者（H I V感染者等、ハンセン病患者・回復者等）の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

感染症患者の人権を守るために必要なことは、R3 調査で「プライバシーに配慮した医療体制やカウンセリング体制を充実させる」が 54.1%と最も高く、次いで「感染症に関する正しい知識を学校等の教育のなかでも行う」が 45.8%となっています。経年比較すると、「プライバシーに配慮した医療体制やカウンセリング体制を充実させる」が H24 調査及び H28 調査と比べてそれぞれ 10.4 ポイント、12.3 ポイント高くなっています。

性別では、女性で「感染症に関する正しい知識を学校等の教育のなかでも行う」が 51.4%と、男性と比べて 8.6 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、30 歳代で「感染症に関する正しい知識を学校等の教育のなかでも行う」が 63.9%と、他の年代と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

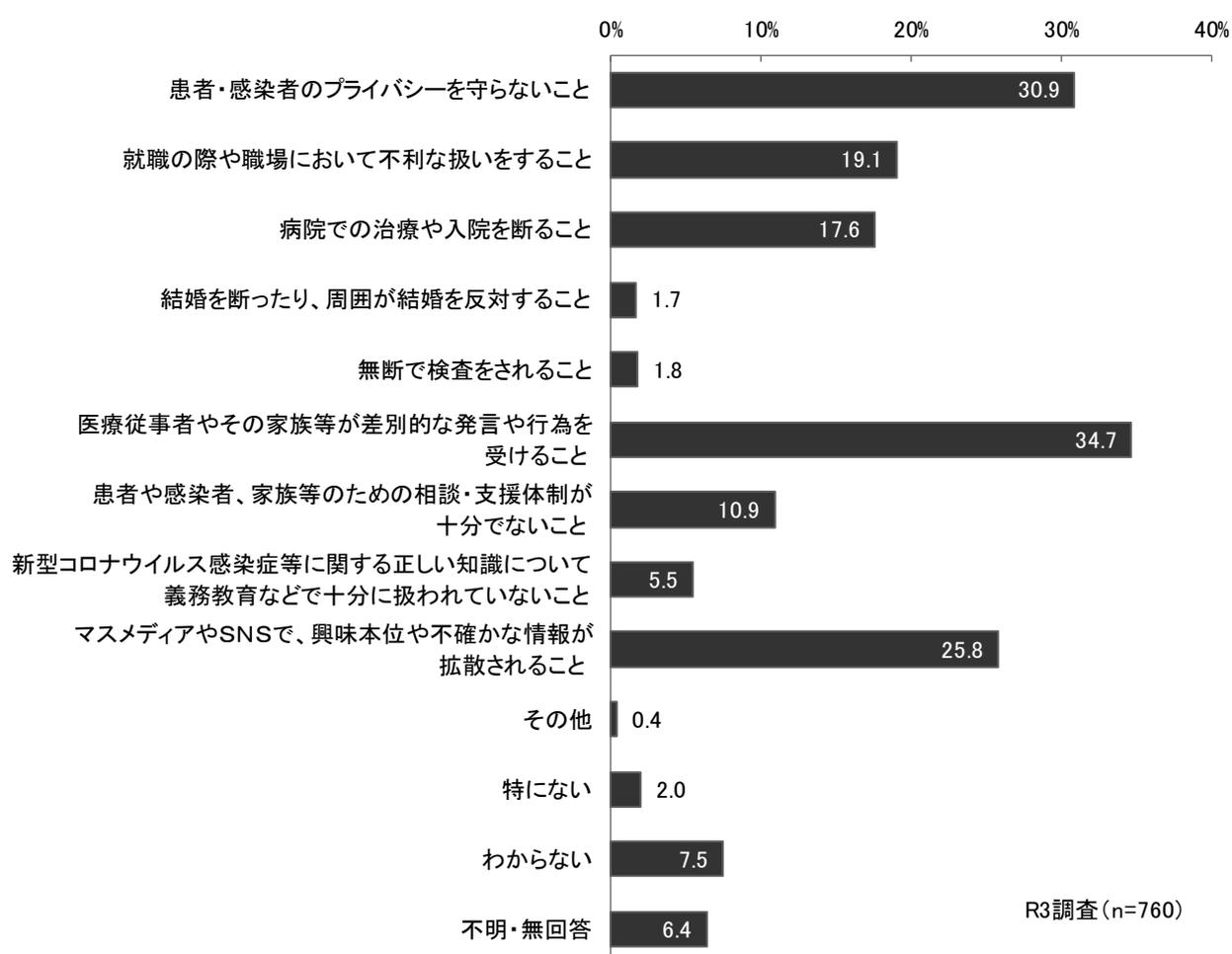
区分	n=	プライバシーに配慮した医療体制やカウンセリング体制を充実させる	チャット、イベント、広報等で患者・感染者への偏見や差別をなくするための啓発活動を行う	感染症に関する正しい知識を学校等の教育のなかでも行う	患者・感染者を支援するため、行政、医療機関等のネットワーク化を進める	患者・感染者の生活支援をする	患者・感染者の治療費を援助する	その他	特になし	わからない	不明・無回答
【性別】											
男性	353	55.2	11.3	42.8	12.5	4.8	4.8	0.0	2.8	11.9	5.1
女性	356	53.7	6.5	51.4	13.2	11.0	4.8	0.0	0.8	8.7	7.3
【年齢区分別】											
10歳代・20歳代	44	59.1	6.8	45.5	6.8	13.6	4.5	0.0	2.3	20.5	0.0
30歳代	61	59.0	1.6	63.9	6.6	8.2	6.6	0.0	0.0	6.6	3.3
40歳代	93	64.5	3.2	49.5	11.8	7.5	6.5	0.0	1.1	9.7	1.1
50歳代	119	52.9	8.4	46.2	16.0	3.4	3.4	0.0	1.7	10.9	6.7
60歳代	179	51.4	12.8	47.5	12.8	7.8	5.6	0.0	2.2	10.1	5.6
70歳以上	214	50.9	10.7	41.1	14.5	8.9	3.7	0.0	2.3	10.7	10.7

問 49 新型コロナウイルス感染症等の患者等について、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(複数回答)

新型コロナウイルス感染症等の患者等について、特に人権上問題があると思われることは、「医療従事者やその家族等が差別的な発言や行為を受けること」が34.7%と最も高く、次いで「患者・感染者のプライバシーを守らないこと」が30.9%となっています。

性別では、女性で「医療従事者やその家族等が差別的な発言や行為を受けること」が39.6%と、男性と比べて8.4ポイント高くなっています。

年齢区分別では、10歳代・20歳代及び40歳代で「患者・感染者のプライバシーを守らないこと」が4割前後と高くなっています。また、60歳代以下で「マスメディアやSNSで、興味本位や不確かな情報が拡散されること」が3割前となっています。



■クロス集計

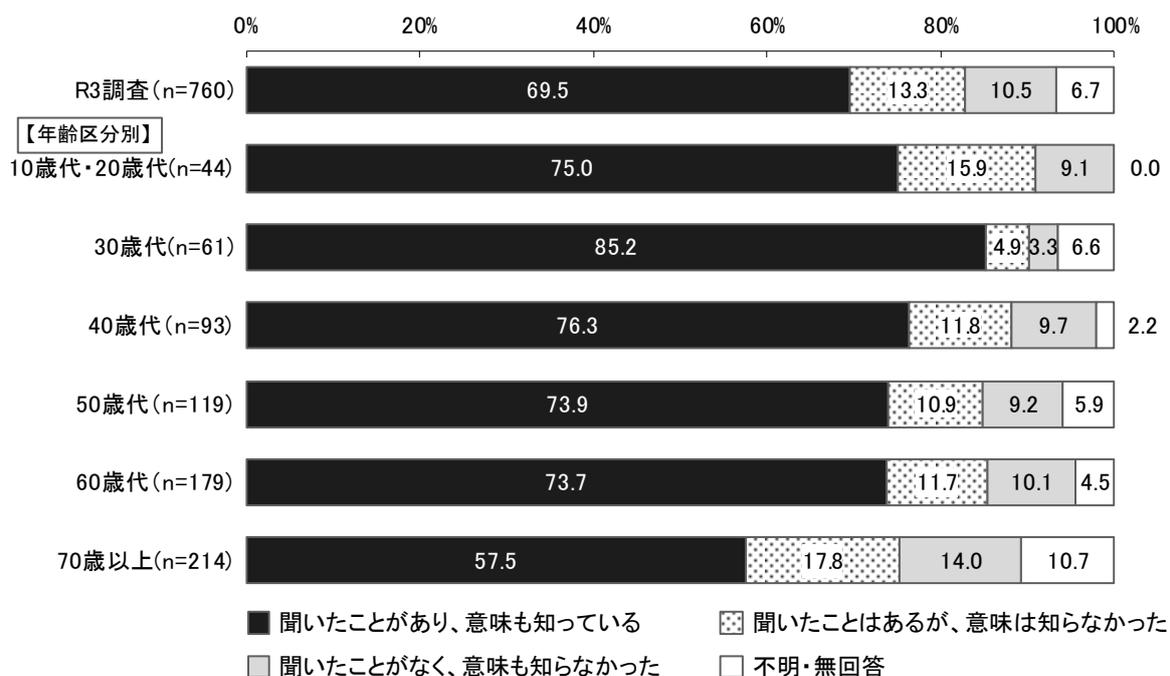
(単位: %)

区分	n=	患者・感染者のプライバシーを守らないこと	就職の際や職場において不利な扱いをすること	病院での治療や入院を断ること	結婚を断ったり、周囲が結婚を反対すること	無断で検査をされること	医療従事者やその家族等が差別的な発言や行為を受けること	患者や感染者、家族等のための相談・支援体制が十分でないこと	新型コロナウイルス感染症等に関する正しい知識について義務教育などで十分に扱われていないこと	マスメディアやSNSで、興味本位や不確かな情報が拡散されること	その他	特になし	
		【性別】											
男性	353	30.6	19.8	19.8	2.3	1.7	31.2	11.0	7.4	24.1	0.3	2.8	
女性	356	30.3	19.1	15.7	1.4	1.1	39.6	10.4	3.9	27.5	0.6	1.1	
【年齢区分別】													
10歳代・20歳代	44	43.2	40.9	13.6	6.8	0.0	20.5	4.5	6.8	31.8	0.0	2.3	
30歳代	61	34.4	27.9	14.8	3.3	0.0	36.1	8.2	4.9	26.2	1.6	0.0	
40歳代	93	39.8	30.1	10.8	1.1	2.2	28.0	8.6	6.5	28.0	1.1	2.2	
50歳代	119	28.6	22.7	14.3	1.7	2.5	37.8	12.6	3.4	30.3	0.8	2.5	
60歳代	179	25.7	12.8	24.6	1.7	1.1	44.1	7.3	5.0	27.4	0.0	1.1	
70歳以上	214	27.6	11.7	17.8	0.9	1.9	34.1	15.4	7.0	18.7	0.0	2.3	
区分	n=	わからない	不明・無回答										
【性別】													
男性	353	7.1	5.1										
女性	356	7.9	7.3										
【年齢区分別】													
10歳代・20歳代	44	6.8	0.0										
30歳代	61	4.9	4.9										
40歳代	93	4.3	1.1										
50歳代	119	5.0	5.9										
60歳代	179	8.9	4.5										
70歳以上	214	10.3	11.7										

## 問 50 あなたはLGBT等について知っていますか。(単数回答)

LGBT等について知っているかは、「聞いたことがあり、意味も知っている」が 69.5%、「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」が 13.3%、「聞いたことがなく、意味も知らなかった」が 10.5%となっています。

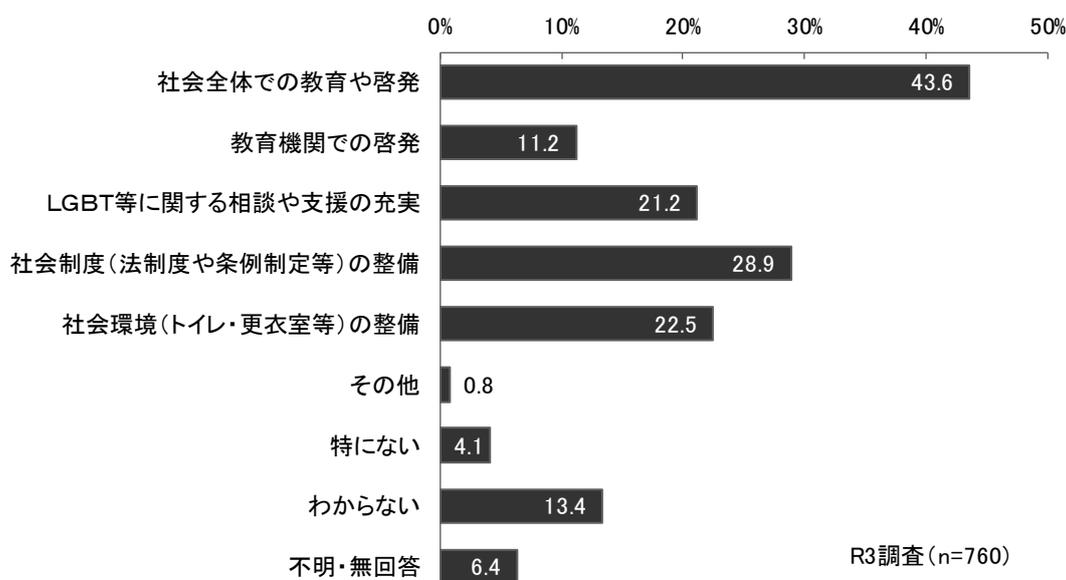
年齢区分別では、「聞いたことがあり、意味も知っている」が 30 歳代で 85.2%と最も高く、70 歳以上を除いた他の年代で7割強となっています。



問 51 LGBT等に関する人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

LGBT等に関する人権を守るために必要なことは、「社会全体での教育や啓発」が43.6%と最も高く、次いで「社会制度（法制度や条例制定等）の整備」が28.9%となっています。

年齢区分別では、10歳代・20歳代で「社会全体での教育や啓発」が、30歳代で「社会環境（トイレ・更衣室等）の整備」が、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。



■クロス集計

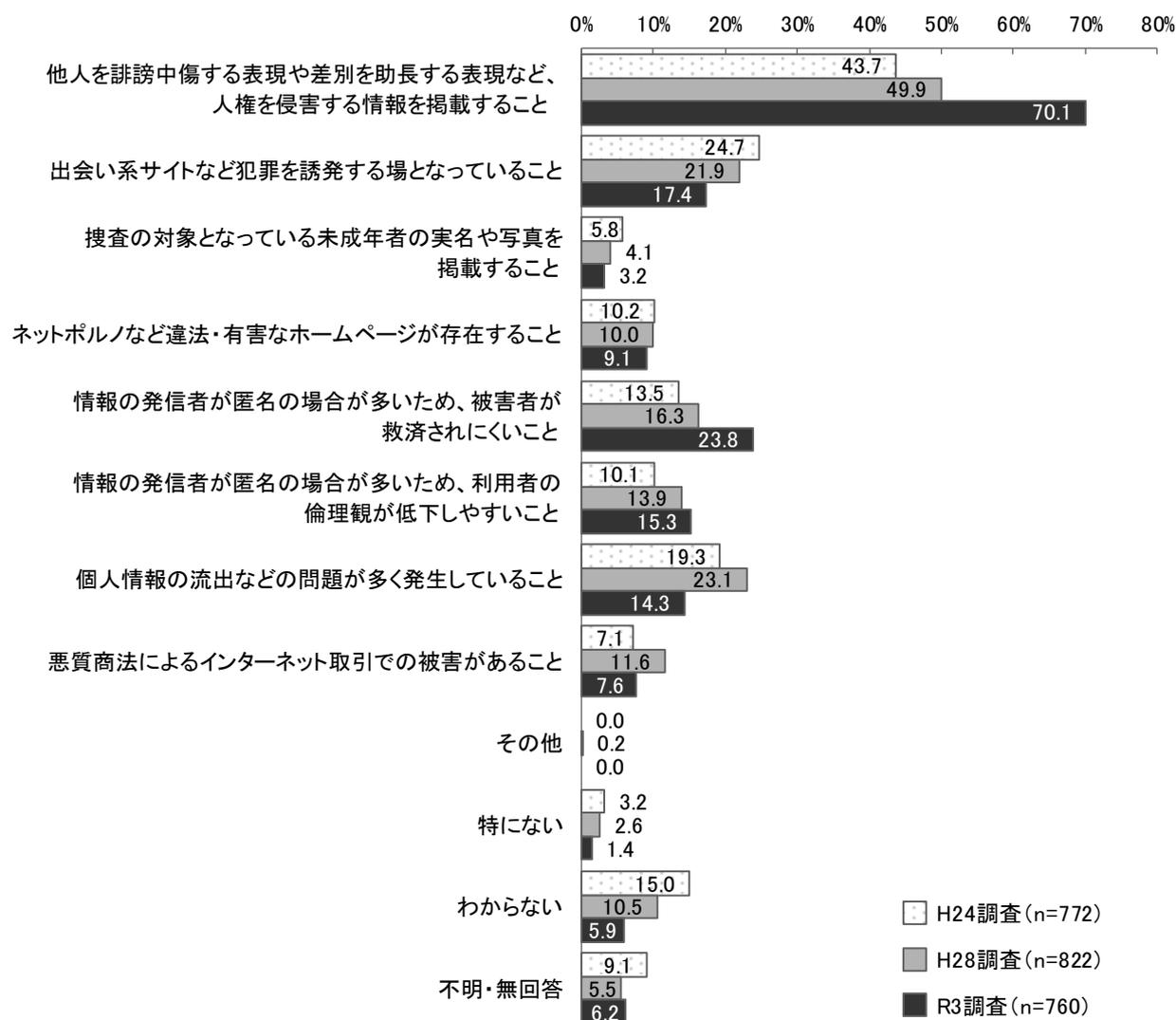
(単位: %)

区分	n=	社会全体での教育や啓発	教育機関での啓発	LGBT等に関する相談や支援の充実	社会制度(法制度や条例制定等)の整備	社会環境(トイレ・更衣室等)の整備	その他	特にない	わからない	不明・無回答
【年齢区分別】										
10歳代・20歳代	44	56.8	18.2	22.7	29.5	22.7	2.3	0.0	9.1	0.0
30歳代	61	49.2	14.8	19.7	21.3	34.4	3.3	1.6	8.2	4.9
40歳代	93	43.0	19.4	23.7	26.9	23.7	0.0	3.2	12.9	1.1
50歳代	119	39.5	6.7	24.4	31.1	21.8	0.0	2.5	12.6	8.4
60歳代	179	48.0	7.3	19.0	37.4	21.8	1.7	4.5	12.8	4.5
70歳以上	214	36.9	10.7	20.6	24.8	19.6	0.0	7.0	17.8	10.3

問 52 インターネットに関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(複数回答)

インターネットに関して人権上問題があると思うことは、R3 調査で「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現など、人権を侵害する情報を掲載すること」が 70.1%と最も高く、次いで「情報の発信者が匿名の場合が多いため、被害者が救済されにくいこと」が 23.8%となっています。経年比較すると、「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現など、人権を侵害する情報を掲載すること」が H24 調査及び H28 調査と比べてそれぞれ 26.4 ポイント、20.2 ポイント高くなっています。この他、「情報の発信者が匿名の場合が多いため、被害者が救済されにくいこと」「情報の発信者が匿名の場合が多いため、利用者の倫理観が低下しやすいこと」についても増加傾向となっています。

年齢区分別では、10 歳代・20 歳代及び 30 歳代で「個人情報の流出などの問題が多く発生していること」が 2 割強、40 歳代及び 50 歳代で「情報の発信者が匿名の場合が多いため、被害者が救済されにくいこと」が 3 割強と、他の年代と比べて高くなっています。



■クロス集計

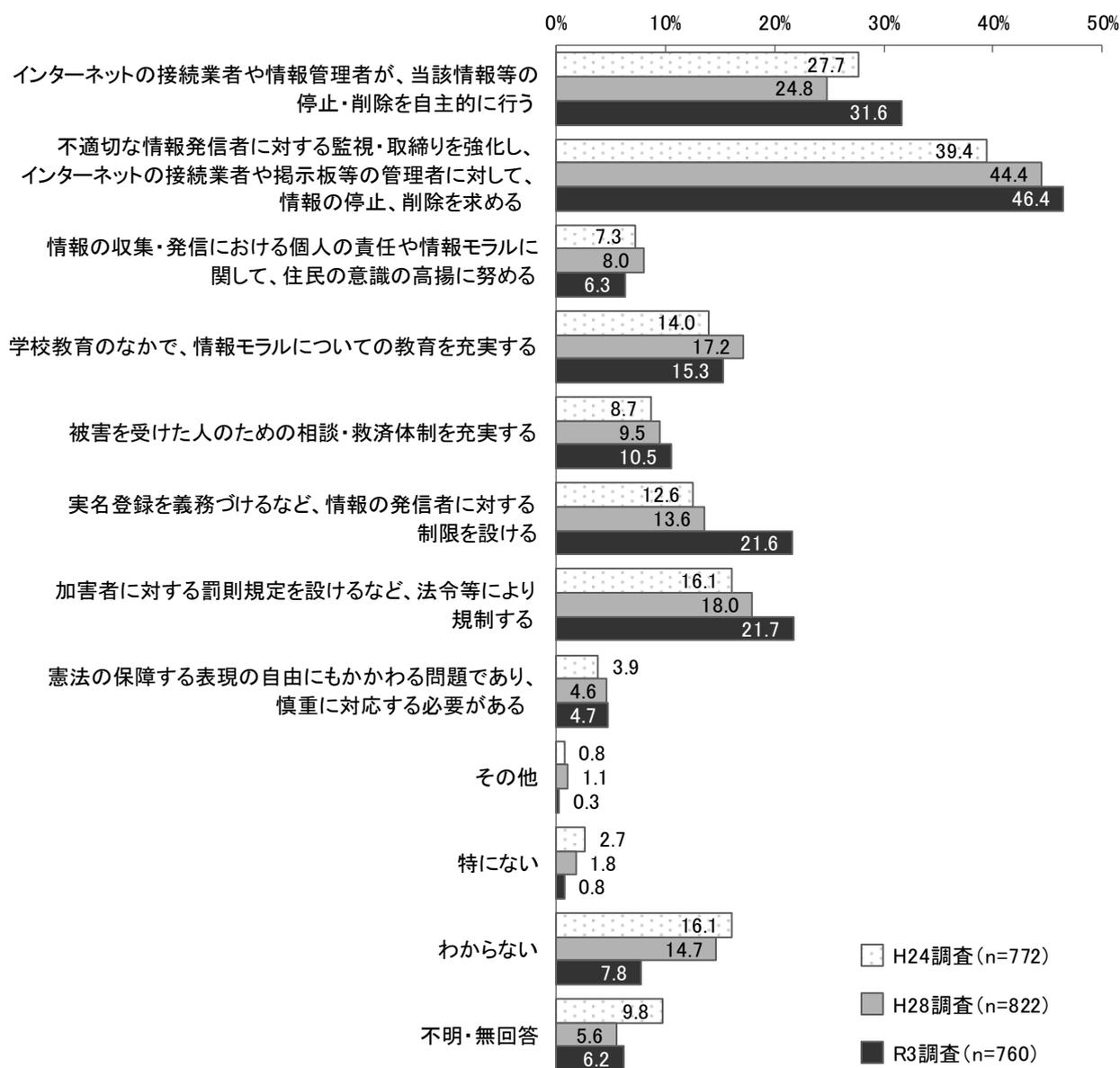
(単位: %)

区分	n=	他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現など、人権を侵害する情報を掲載すること	出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること	捜査の対象となっている未成年者の実名や写真を掲載すること	ネットポルノなど違法・有害なホームページが存在すること	情報の発信者が匿名の場合が多いため、被害者が救済されにくいこと	情報の発信者が匿名の場合が多いため、利用者の倫理観が低下しやすいこと	個人情報の流出などの問題が多く発生していること	悪質商法によるインターネット取引での被害があること	その他	特になし	わからない	不明・無回答
【年齢区分別】													
10歳代・20歳代	44	68.2	11.4	2.3	11.4	13.6	13.6	20.5	13.6	0.0	2.3	9.1	2.3
30歳代	61	72.1	14.8	3.3	9.8	26.2	13.1	26.2	1.6	0.0	0.0	3.3	4.9
40歳代	93	68.8	22.6	3.2	8.6	31.2	20.4	10.8	7.5	0.0	1.1	3.2	1.1
50歳代	119	75.6	13.4	3.4	6.7	34.5	14.3	10.9	5.9	0.0	0.8	5.9	5.0
60歳代	179	78.8	12.8	3.4	10.6	21.8	17.3	16.2	9.5	0.0	0.6	4.5	4.5
70歳以上	214	63.6	23.4	2.3	8.9	18.7	13.1	10.7	7.9	0.0	2.8	8.9	9.8

問 53 インターネットを使った人権侵害を防ぐためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

インターネットを使った人権侵害を防ぐために必要なことは、R3 調査で「不適切な情報発信者に対する監視・取締りを強化し、インターネットの接続業者や掲示板等の管理者に対して、情報の停止、削除を求める」が 46.4%と最も高く、次いで「インターネットの接続業者や情報管理者が、当該情報等の停止・削除を自主的に行う」が 31.6%となっています。経年比較すると、「不適切な情報発信者に対する監視・取締りを強化し、インターネットの接続業者や掲示板等の管理者に対して、情報の停止、削除を求める」「被害を受けた人のための相談・救済体制を充実する」「実名登録を義務づけるなど、情報の発信者に対する制限を設ける」「加害者に対する罰則規定を設けるなど、法令等により規制する」が増加傾向となっています。

年齢区分別では、10 歳代・20 歳代で「学校教育のなかで、情報モラルについての教育を充実する」が 38.6%、30 歳代及び 50 歳代以上で「不適切な情報発信者に対する監視・取締りを強化し、インターネットの接続業者や掲示板等の管理者に対して、情報の停止、削除を求める」が 4 割を超えてそれぞれ高くなっています。

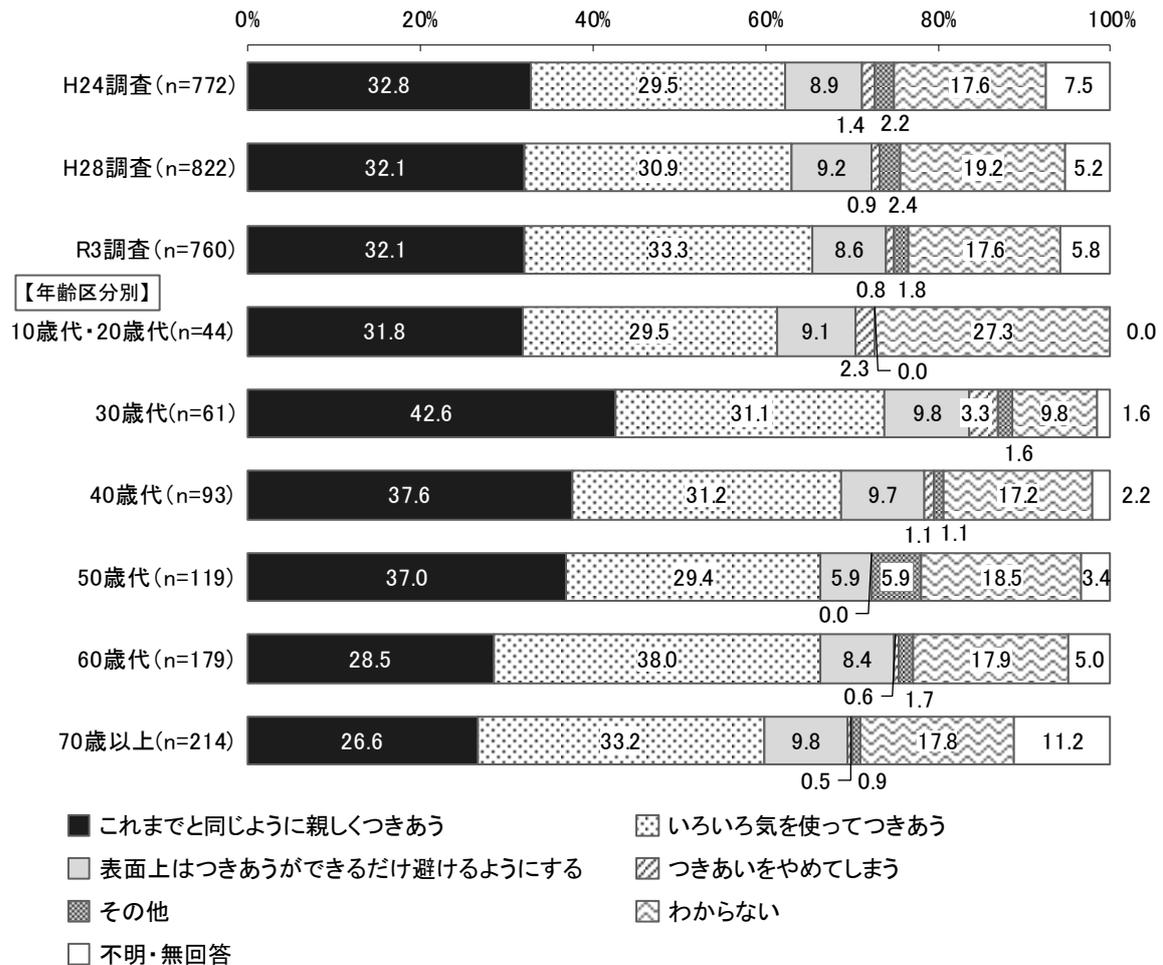


区分	n=	インターネットの接続業者や情報管理者が、当該情報等の停止・削除を自主的に行う	不適切な情報発信者に対する監視・取締りを強化し、インターネットの接続業者や掲示板等の管理者に対して、情報の停止、削除を求める	情報の収集・発信における個人の責任や情報モラルに関して、住民の意識の高揚に努める	学校教育のなかで、情報モラルについての教育を充実する	被害を受けた人のための相談・救済体制を充実する	実名登録を義務づけるなど、情報の発信者に対する制限を設ける	加害者に対する罰則規定を設けるなど、法令等により規制する	憲法の保障する表現の自由にもかかわる問題であり、慎重に対応する必要がある	その他	特になし	わからない	不明・無回答
		27.3	29.5	15.9	38.6	11.4	6.8	27.3	11.4	0.0	2.3	9.1	2.3
【年齢区分別】													
10歳代・20歳代	44	27.3	29.5	15.9	38.6	11.4	6.8	27.3	11.4	0.0	2.3	9.1	2.3
30歳代	61	26.2	45.9	4.9	26.2	9.8	18.0	29.5	8.2	0.0	0.0	3.3	4.9
40歳代	93	39.8	37.6	12.9	20.4	3.2	24.7	26.9	5.4	1.1	0.0	4.3	1.1
50歳代	119	32.8	47.9	3.4	12.6	12.6	25.2	25.2	2.5	0.0	1.7	6.7	5.0
60歳代	179	36.9	50.8	9.5	11.7	9.5	23.5	16.2	3.9	0.6	0.0	7.8	3.9
70歳以上	214	26.2	49.1	2.3	11.2	11.2	20.1	21.5	3.7	0.0	1.4	11.2	9.8

問 54 親しくしている職場の人や近所の人、刑を終えて出所した人であるとわかったとき、あなたはどうしますか。(単数回答)

知り合いが刑期を終えた出所者だとわかったときどうするかは、R3 調査で「いろいろ気を使ってつきあう」が 33.3%と最も高く、次いで「これまでと同じように親しくつきあう」が 32.1%となっています。

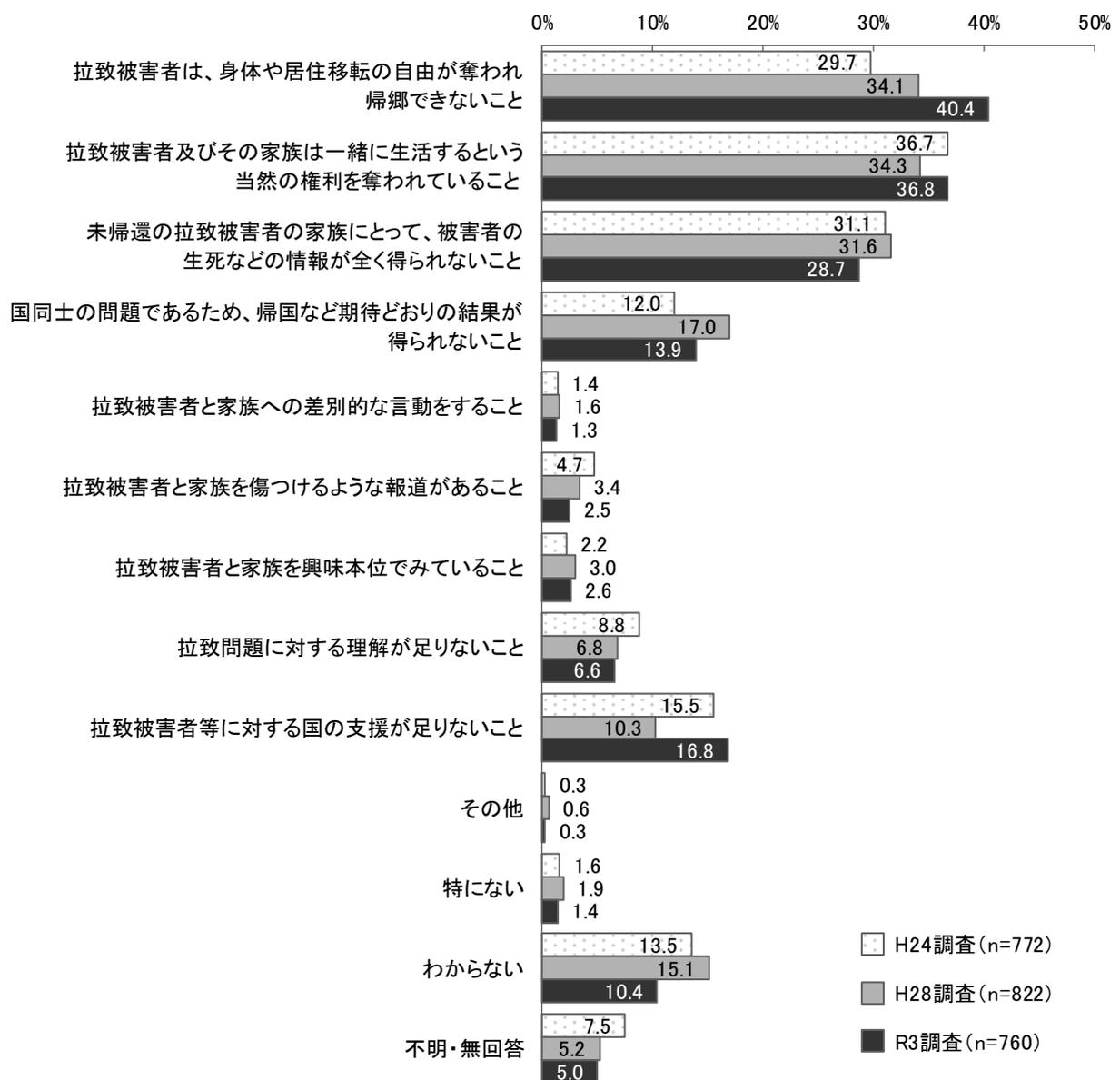
年齢区分別では、30 歳代～50 歳代で「これまでと同じように親しくつきあう」が 4 割前後となっています。



問 55 北朝鮮当局によって拉致された被害者等に関し、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(複数回答)

拉致被害者等に関し特に人権上問題があると思うことは、R3 調査で「拉致被害者は、身体や居住移転の自由が奪われ帰郷できないこと」が 40.4%と最も高く、次いで「拉致被害者及びその家族と一緒に生活するという当然の権利を奪われていること」が 36.8%となっています。経年比較すると、「拉致被害者は、身体や居住移転の自由が奪われ帰郷できないこと」が増加傾向となっています。

年齢区分別では、30 歳代及び 40 歳代で「拉致被害者は、身体や居住移転の自由が奪われ帰郷できないこと」が 5 割前後、40 歳代以上で「拉致被害者及びその家族と一緒に生活するという当然の権利を奪われていること」が 4 割前後と、それぞれ高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

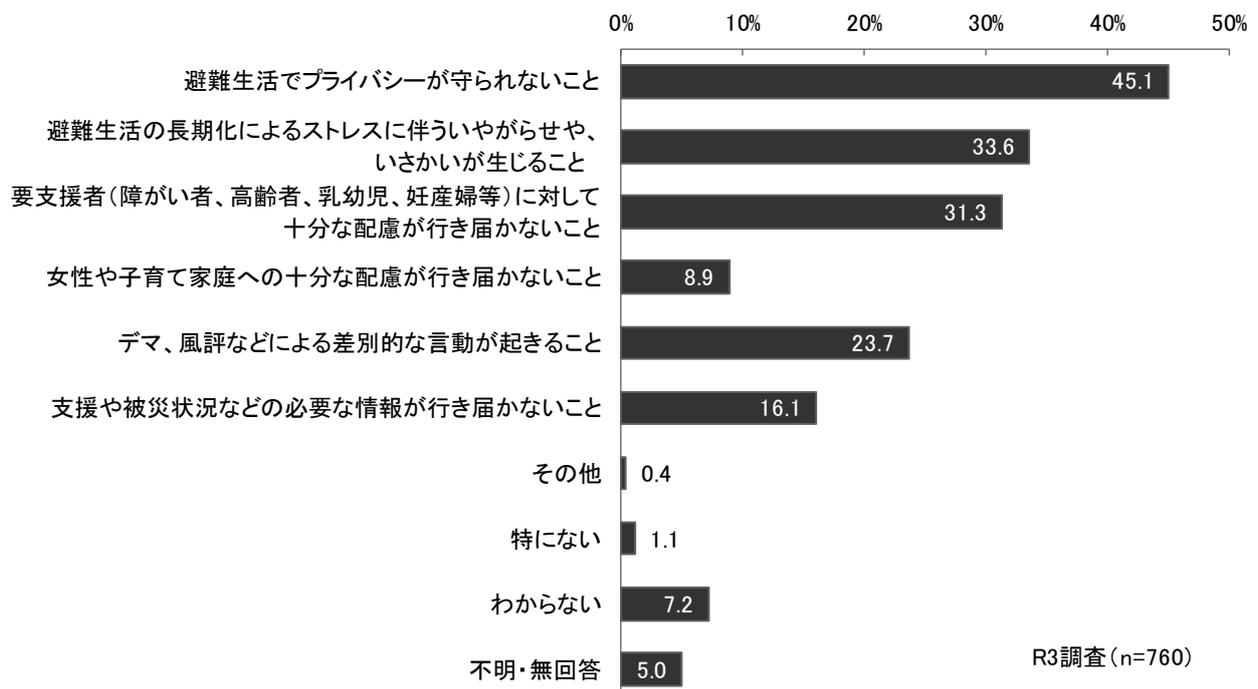
区分	n=	拉致被害者は、身体や居住移転の自由が奪われ帰郷できないこと	拉致被害者及びその家族は一緒に生活するという当然の権利を奪われていること	未帰還の拉致被害者の家族にとって、被害者の生死などの情報が全く得られないこと	国同士の問題であるため、帰国など期待どおりの結果が得られないこと	拉致被害者と家族への差別的な言動をすること	拉致被害者と家族を傷つけるような報道があること	拉致被害者と家族を興味本位でみていること	拉致問題に対する理解が足りないこと	拉致被害者等に対する国の支援が足りないこと	その他	特にない
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	38.6	22.7	11.4	13.6	6.8	13.6	4.5	4.5	2.3	0.0	2.3
30歳代	61	52.5	27.9	31.1	8.2	3.3	0.0	0.0	9.8	16.4	0.0	1.6
40歳代	93	45.2	37.6	28.0	12.9	1.1	1.1	5.4	8.6	17.2	0.0	1.1
50歳代	119	39.5	36.1	22.7	13.4	0.8	1.7	4.2	10.1	12.6	0.0	0.8
60歳代	179	43.0	44.1	30.2	15.6	0.6	3.9	2.2	4.5	14.0	0.6	1.7
70歳以上	214	32.7	36.4	34.6	14.5	0.9	1.4	1.9	4.7	24.8	0.5	1.4

区分	n=	わからない	不明・無回答
【年齢区分別】			
10歳代・20歳代	44	31.8	0.0
30歳代	61	11.5	1.6
40歳代	93	10.8	2.2
50歳代	119	14.3	3.4
60歳代	179	6.7	4.5
70歳以上	214	7.9	8.9

問 56 東日本大震災、熊本地震などの大規模災害が起きた場合、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(複数回答)

大規模災害が起きた場合、特に人権上問題があると思われることは、「避難生活でプライバシーが守られないこと」が45.1%と最も高く、次いで「避難生活の長期化によるストレスに伴ういやがらせや、いさかいが生じること」が33.6%となっています。

年齢区分別では、10歳代・20歳代で「支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと」が27.3%、30歳代で「避難生活でプライバシーが守られないこと」が54.1%、40歳代で「避難生活の長期化によるストレスに伴ういやがらせや、いさかいが生じること」が45.2%と、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。



■クロス集計

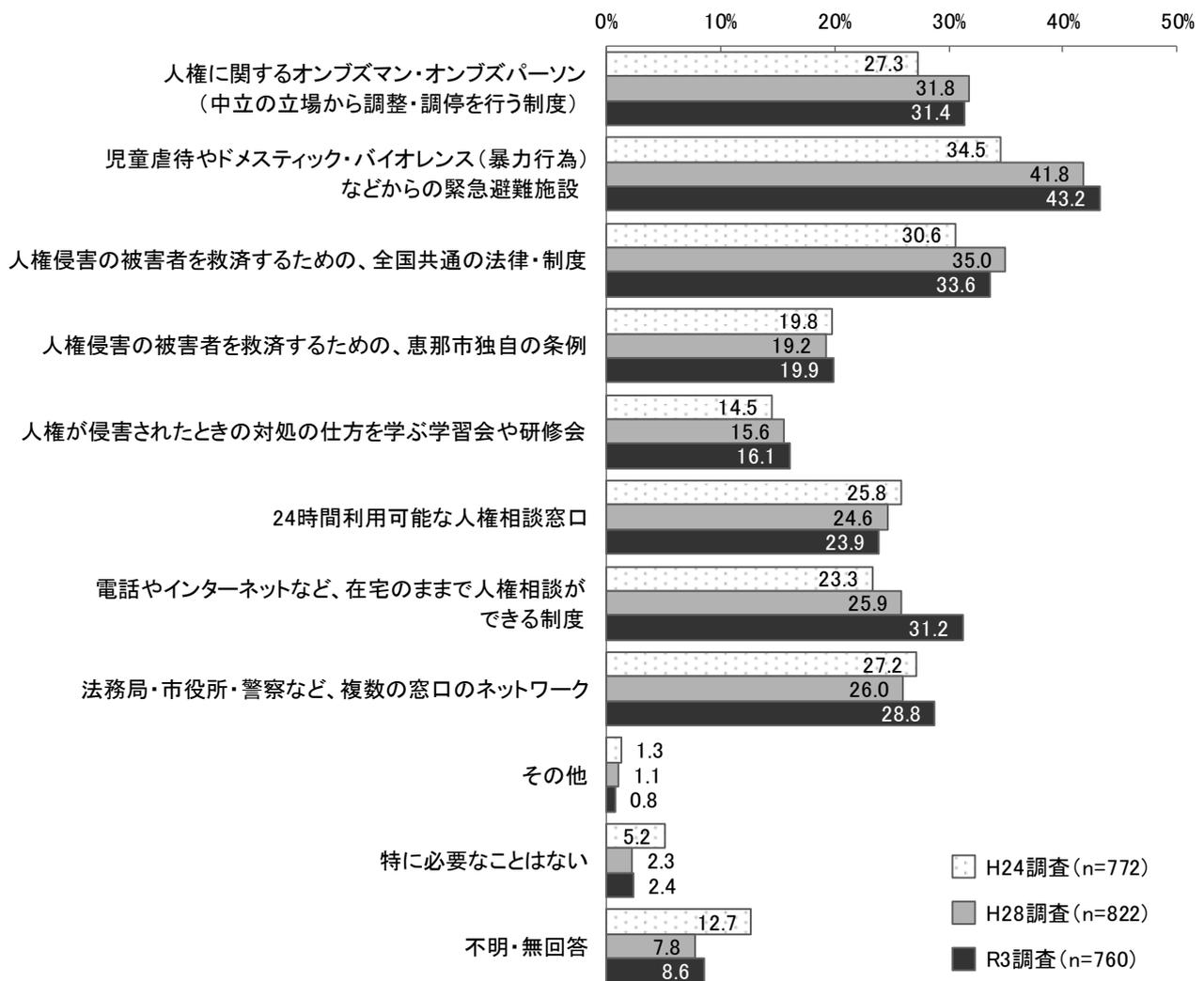
(単位: %)

区分	n=	避難生活でプライバシーが守られないこと	避難生活の長期化によるストレスに伴ういやがらせや、いさかいが生じること	要支援者(障がい者、高齢者、乳幼児、妊産婦等)に対して十分な配慮が行き届かないこと	女性や子育て家庭への十分な配慮が行き届かないこと	デマ、風評などによる差別的な言動が起きること	支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと	その他	特にない	わからない	不明・無回答
【性別】											
男性	353	44.8	35.4	29.5	7.1	21.8	17.0	0.8	2.0	7.6	4.2
女性	356	45.8	32.9	32.0	11.2	25.6	16.3	0.0	0.0	6.7	4.8
【年齢区分別】											
10歳代・20歳代	44	36.4	38.6	27.3	11.4	34.1	27.3	0.0	2.3	4.5	0.0
30歳代	61	54.1	31.1	26.2	16.4	27.9	13.1	0.0	0.0	4.9	1.6
40歳代	93	38.7	45.2	23.7	17.2	22.6	14.0	0.0	2.2	4.3	2.2
50歳代	119	44.5	37.0	21.8	7.6	31.1	18.5	0.8	0.8	7.6	2.5
60歳代	179	47.5	32.4	36.3	6.1	26.3	13.4	1.1	0.6	6.7	5.0
70歳以上	214	44.9	30.4	36.4	5.1	13.6	18.2	0.0	0.9	10.7	8.4

問 57 人権侵害に対する相談や救済に関する制度について、あなたが必要だと思うものは何ですか。(複数回答)

人権侵害への救済等に関して必要と思う制度は、R3 調査で「児童虐待やドメスティック・バイオレンス（暴力行為）などからの緊急避難施設」が 43.2%と最も高く、次いで「人権侵害の被害者を救済するための、全国共通の法律・制度」が 33.6%となっています。経年比較すると、「児童虐待やドメスティック・バイオレンス（暴力行為）などからの緊急避難施設」「人権が侵害されたときの対処の仕方を学ぶ学習会や研修会」「電話やインターネットなど、在宅のままで人権相談ができる制度」が増加傾向となっています。

年齢区分別では、30 歳代で「人権が侵害されたときの対処の仕方を学ぶ学習会や研修会」が 26.2%と、他の年代と比べて高くなっています。なお、30 歳代以上で「人権侵害の被害者を救済するための、恵那市独自の条例」が 2 割前後となっています。



■クロス集計

(単位: %)

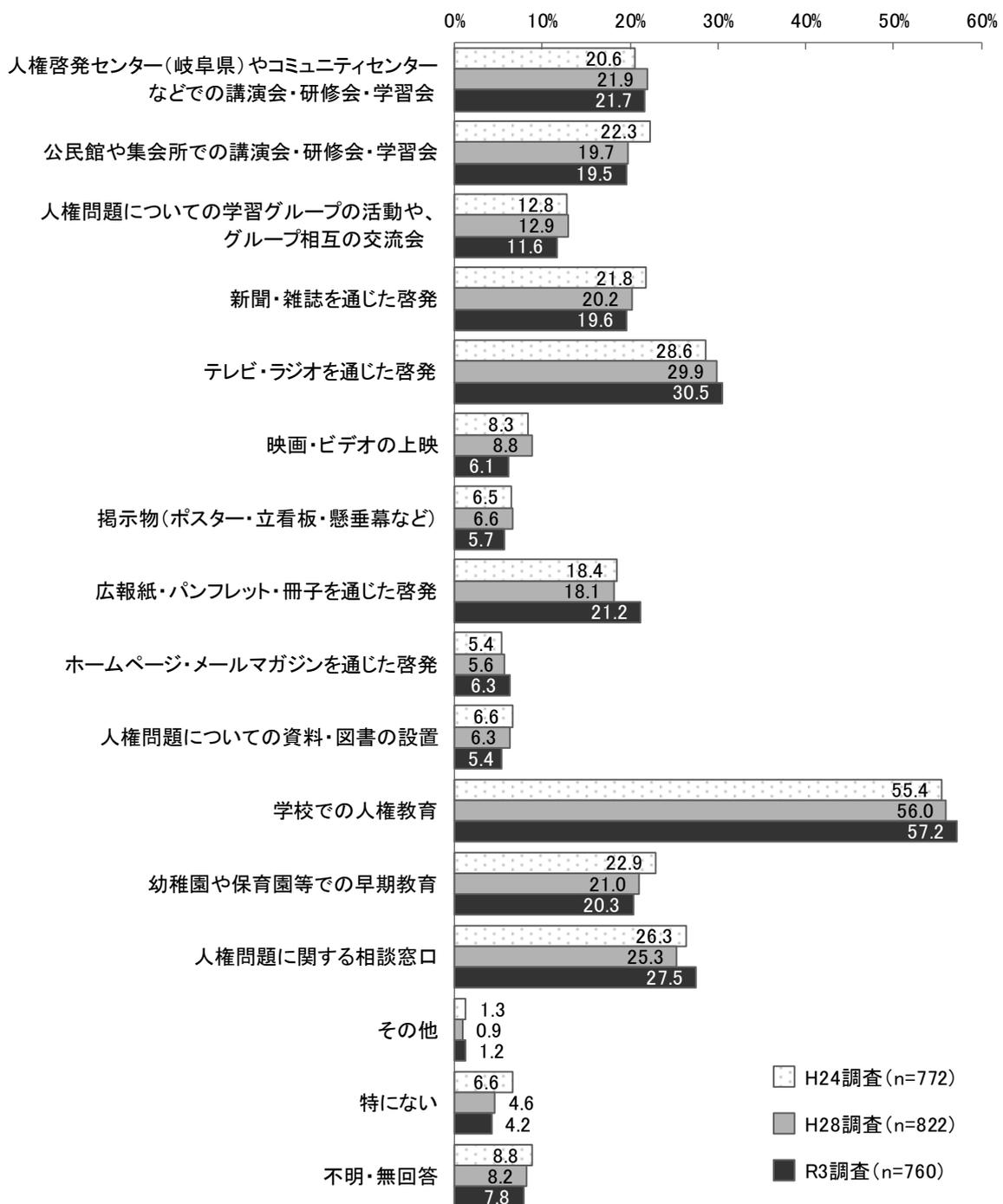
区分	n=	人権に関するオンブズマン・オンブズパーソン (中立の立場から調整・調停を行う制度)	児童虐待やドメスティック・バイオレンス(暴力 行為)などからの緊急避難施設	人権侵害の被害者を救済するための、全国共 通の法律・制度	人権侵害の被害者を救済するための、恵那市 独自の条例	人権侵害の被害者を救済するための、恵那市 学習会や研修会	24時間利用可能な人権相談窓口	電話やインターネットなど、在宅のままでも 人権相談ができる制度	法務局・市役所・警察など、複数の窓口のネッ トワーク	その他	特に必要なことはない	不明・無回答
【性別】												
男性	353	33.4	40.5	38.2	18.4	17.0	22.9	29.2	30.6	0.6	3.4	5.9
女性	356	30.3	46.1	31.2	19.9	16.6	24.7	33.4	28.1	1.1	1.7	9.0
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	31.8	45.5	34.1	9.1	15.9	25.0	25.0	34.1	0.0	2.3	0.0
30歳代	61	36.1	50.8	34.4	21.3	26.2	21.3	39.3	31.1	3.3	1.6	3.3
40歳代	93	37.6	43.0	35.5	18.3	12.9	21.5	29.0	28.0	0.0	1.1	2.2
50歳代	119	31.9	45.4	42.9	19.3	12.6	25.2	30.3	25.2	1.7	0.8	6.7
60歳代	179	34.6	38.0	38.0	17.3	19.6	30.7	32.4	31.8	1.1	3.9	7.3
70歳以上	214	26.2	42.1	27.6	22.9	15.4	19.6	31.3	27.6	0.0	3.3	14.0

問 58 人権問題についての理解を深めるにあたって、どのようなことを実施するのが効果的・役立つと思いますか。(複数回答)

人権問題についての理解を深めるために効果的・役立つと思うことは、R3 調査で「学校での人権教育」が 57.2%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオを通じた啓発」が 30.5%となっています。経年比較すると、「テレビ・ラジオを通じた啓発」「ホームページ・メールマガジンを通じた啓発」「学校での人権教育」が増加傾向となっています。

性別では、男性で「人権啓発センター（岐阜県）やコミュニティセンターなどでの講演会・研修会・学習会」が 26.6%と、女性と比べて 8.6 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、30 歳代で「幼稚園や保育園等での早期教育」が 36.1%と、他の年代と比べて高くなっています。



■クロス集計

(単位: %)

区分	n=	人権啓発センター(岐阜県)やコミュニティセンターなどでの講演会・研修会・学習会	公民館や集会所での講演会・研修会・学習会	人権問題についての学習グループの活動や、グループ相互の交流会	新聞・雑誌を通じた啓発	テレビ・ラジオを通じた啓発	映画・ビデオの上映	掲示物(ポスター・立看板・懸垂幕など)	広報紙・パンフレット・冊子を通じた啓発	ホームページ・メールマガジンを通じた啓発	人権問題についての資料・図書の設置	学校での人権教育
【性別】												
男性	353	26.6	21.8	13.6	21.2	31.2	5.7	5.9	23.5	7.4	5.1	54.1
女性	356	18.0	17.4	9.8	17.4	30.9	7.0	5.6	19.1	5.9	5.6	60.4
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	27.3	9.1	11.4	9.1	22.7	9.1	6.8	13.6	6.8	11.4	63.6
30歳代	61	26.2	18.0	9.8	19.7	29.5	6.6	11.5	18.0	9.8	11.5	62.3
40歳代	93	22.6	15.1	11.8	26.9	28.0	7.5	7.5	14.0	6.5	3.2	64.5
50歳代	119	19.3	16.0	5.0	17.6	31.9	6.7	5.9	26.9	8.4	3.4	56.3
60歳代	179	19.0	22.3	11.7	19.6	31.3	5.0	4.5	25.7	7.8	5.0	57.5
70歳以上	214	23.8	23.4	15.0	18.7	33.2	5.1	3.7	21.0	3.7	5.1	51.9
区分	n=	幼稚園や保育園等での早期教育	人権問題に関する相談窓口	その他	特になし	不明・無回答						
【性別】												
男性	353	20.1	25.5	2.0	4.8	6.2						
女性	356	21.3	29.2	0.6	4.2	8.7						
【年齢区分別】												
10歳代・20歳代	44	20.5	20.5	2.3	2.3	0.0						
30歳代	61	36.1	24.6	1.6	4.9	4.9						
40歳代	93	21.5	24.7	1.1	5.4	2.2						
50歳代	119	22.7	28.6	0.8	4.2	5.9						
60歳代	179	21.8	30.7	1.7	6.1	6.7						
70歳以上	214	14.0	28.0	0.9	3.3	13.6						



## V 自由意見〔人權施策〕



人権問題や今後の人権教育・啓発に関する恵那市の人権施策について、ご意見・ご提案があれば、ご自由にお書きください。

#### 自由意見

##### ■20 歳代

役所（特に今回のアンケートをつくった人）は知見を広める勉強をしましょう。内容が甘いと感じ、このようなことをアンケートする地域というだけで不安を感じました。まずは主観的意見を見直すこと、そして人権問題の把握をどのように役立てていくのかを説明できるようになると、アンケートの回答内容の質が良くなるのではないのでしょうか。

##### ■30 歳代

意見という程でもないですが、今回のアンケートの性別を回答する欄で、自認する性でお答えください、この文が(LGBT等)トランスジェンダーの方に配慮された書き方でよいなと思いました。ただ、中にはXジェンダー(中性、両性、無性、不定性といった意味合い)の方もみえると思うので、「男、女」だけではなく、「その他」や「回答しない」も追加されるといいかなとも思いました。

---

いじめ、ハラスメントの対策を行う

---

表現は自由、考えも自由。人それぞれ他者と解り合うためには話し合うしかない。解り合えないなら悪口は言わずにお互いをそっとしておくのがよいと思う。

---

新しい価値観や多様性のある生き方に対して肯定的な考えに幼少期からふれ、様々な人達とかかわれる機会を平等に提供できるのがよいと思う。

---

小学校からでも性教育がもっと必要だと思う。子どもはこれから大人になり成長していく。その中で自分を守るすべを、そして相手を理解し尊重する人であってほしいと思うので、もっと踏み込んだセクシャリティーな教育をしてほしい。性に関して恥ずかしいという気持ちを少しも持たないような環境ができるといい。人として当たり前のこととして考えられるような教育をしてほしい。

---

インターネットやSNSでの人権侵害が日に日に深刻になっている。18歳以下はグループLINEをつくれなくするようにする、保護者間でもグループLINEの禁止をしてオンライン上での規制や罰則の強化を、優先順位を上げて行ってほしい。オンライン上での誹謗中傷については、サイバー警察によってスピード感を上げて削除するようにしてほしい。表現の自由と言うのなら実名で責任を持って書き込むべきだと思うので、匿名やペンネームなどでの悪質な書き込みやコメントは削除してよいと思う。自殺者や苦しむ人が減るとよいと思う。

---

その日の生活にも困る人達がいる現実なので、貧富の格差を是正する取り組みが必要と思われます。今回のアンケートで、恵那市が人権問題について真剣に考えていることが伝わりました。自分が人権についてマジョリティ側にいるとピンとこないことも多いと思うので、社会全体で啓蒙活動は続けていくべきだと思います。これはここ数年で解決する問題ではなく、何十年もかけて続けていくべき問題だと思います。

---

これは日本全体でもいえることですが、もっと若い議員が増えないといけません。古い価値観の議員の方たちが大多数では、あらゆる人権や福祉問題について説いても、真に理解してくれるかどうか期待ができません。そのため、現に日本は女性進出に関して世界の中で低いレベルのままなのだと思います。ある程度、議員の定年は必要なのではないかと思います。

---

これからも自分も人権や福祉について考え、行動をしたいと思います。そして恵那市を応援します。

## 自由意見

すみません。あまりわかりません。

LGBTの皆様に向けてパートナー制度ができるといいなと思っています。

男性の家事・子育て推進も進んではいますが、それでもまだ女性が担う比率が多いため、男性も家事・子育てを当たり前にするようになる社会を望みます。30代以上の世代は意識が薄いと思うので啓蒙が必要だと思います。

また人権とは関係ないかもしれませんが、日本人の給料が低すぎていろいろ余裕がないような気がします。給料が上がってみんなの暮らしが豊かになれば、そこでようやく隣人愛や人権にも目が向けられるようになると思います。今は日本全体が貧しく、みんなが足の引っ張り合いになっているような気がして、生きていくのが苦しいです。

### ■40 歳代

何をやっているのか、いまいちよくわからない

人権教育・啓発は、教える側にも研修など積極的に行い、新しい権利に敏感であってほしい。こども園・小中高校で、子どもの人権に配慮した教育が行われることで、子どもたちは他人の人権に配慮することを学びます。今までの教育の枠ではなく、先を見ていただきたい。

幼、小、中とそれぞれに合った人権教育を始めて行った方がよい。人権問題は、行政がしっかりと行うべき。

子ども達のケンケや冷たい言葉には、大人の考え方や普段の関わり方が出ているような気もする。大人の中のいじめがなくなれば子どもはいじめを知らないで育つのでは…と思うけど、自分の立場を守るために頑張る大人社会では難しいだろうな。

人権問題については学校教育において学習させていくことが大事だと思います。子どもから学習させていくことは、大人になってからも続くと考えます。

数年前、娘の学校の校長がことあるごとく「うちの学校は不登校児がゼロです！すごいですね」と保護者に向けて嬉しそうに話していたことが忘れられない。私はとても驚いて、そんなことを自慢のように言うなんてどうかしてるとも感じた。そんなに不登校児がゼロということがすごいのか！今の教育現場において行きづらい、生き苦しさを感じてしんどくて悩んでいる子はいっぱいいて、親だって辛い。学校にそのような子がまったくいないなんて考えられない。「そういう子がどんな形でもつながっていけるよう支援できる体制が整っています！」と胸を張って言ってくれるような学校のリーダー(校長)が増えるといいなと思う。本当に心底子どもの気持ちに寄り添ってくれる、そういうリーダーを希望します。職種だけでなっていくのなら、間違っています。

障がい者も同じ学校で勉強するとか、学校の制服を男女で決めないとか、分けなくてもなんとでもなるものを、人をいろいろで分けないことができれば、何かができる人優位ではなく、すべて個性で認められるのかな？年配の方も若い人を認めて頼るようにしたら、もう少しケンカにならずに済むだろうけど。いろんな人が一緒に楽しめる日常があったら、枠に縛られない友達が増えると思う。

### ■50 歳代

福祉も人権も小さな頃、子どもの頃からいろいろな人がいると言う事を感じられる社会をつくってほしい。子どもの頃から自然と受け入れて行かなければ、何を言ってもわからないと思う。

わが子は中学生の時にいじめにあい、学校に行けなくなりました 教師からも、いじめた生徒側からも、きちんとした謝罪もありませんでした 人権教育の充実を求めます

## 自由意見

相手の立場を自分に置き換えて考えてみることの大切さ。

自分を主張するあまり他人への思いやりが足りないことが、人権侵害の根本だと思います。確かに昔に比べ集団性が薄らいだ分、集団での村八分のような事は少ないとは思いますが。けれど他人への思いやりが足りないのか、報道を見ている個人でのハラスメントが増えたように思います。自分の言動で相手がどう受け取りどう思うのかという事や、自分優先で他人の人権を侵害していいものではないという事などを、子どものうちから学ぶ機会がもっと多いとよいと思います。

道徳が必須になったのもわかる気がします。大人へは講演会や親子で学ぶ機会、ただ聴くだけでなくテーマを持った実体験的なものがあるといいかなと思います（心無い言葉言う人、言われる人の役になって行う体験型のような講演会）。

現在は過去と違って人権問題、パワハラ、モラハラ、セクハラなど重視されていますが、今の中高年などは教育があまりされてないため、会社で教育されない場合、わかってない人が多くいると思います（時代について行けない人）。教育したほうがよいと思います。

人権について、今現在も職場内でパワハラが続いてる中、悩んでいる方々がいます。その問題に関して人権問題としてやってほしいですね。私の会社も、パワハラ問題について月に一回は教育勉強会を行い、解決案の相談をしています。今はコロナの関係で、会社を辞めなければならない人々もいます。また、若い方々も何かの悩みで誤る原因もありますから、ぜひとも人権施策に協力をお願いします。

人権問題や施策に目を向ける気持ちの余裕が、生活の中にありません。私自身も広報にはほとんど目を通していません。活字で訴えるよりは、インターネットやポスター（字ではなく絵）を活用する方が、多くの方が目にするのではないかと思います。

学校で人権教育をするなら先生は忙しいので、市職員または関係機関の人が出向いて行ってください。学校に丸投げはやめてください。

人権問題については、成人してからの啓発に努めるよりも、早期の教育を徹底し、子どもの頃から正しい知識を学ばせる必要があると思う（テレビ・ラジオ・ポスター・広報紙などでの啓発ではなかなか浸透しないと思う）。

性急にやるべき事とは思わない。何でもそうだが、こうと思ったら、一歩引いて大勢を見てからことにかかるべきだ。

### ■60歳代

問題が起きた時にしか必要性を感じないのが現状のため、問題が起きた時にどう動くかの手段がわかるシステム（なるべく手軽に）をつくるべき（事前に勉強のシステムは難しいのでは？）。

人権教育が大事。

問題だらけの世の中で不安な事、不公平な事、苦しい事があって、辛い思いをしている人が沢山いるかもしれません。それがイジメだったり差別等、しかし私達の人権は憲法において守られています。憲法は日常の中では「絵にかいた餅」のようなものなのではないでしょうか。そのような認識は変えるべきです。日本国憲法で保障されている基本的人権の内容を幼児教育、学校教育で学ぶ事によりイジメ、差別などの無いよい社会を目指して行く事ができたらと思います。相手の立場になれる心、苦しみ、悲しみを理解し思いやりを持てる心を育てられたら幸いです。安心して暮らせるようになるよい将来がくることを願っています。

## 自由意見

人と人のつながりを地域で子どもの頃から身につけ、人の命など大切な事を培って行ける世の中になってほしいです。

地域のしがらみの排除。

恵那市の人権施策を知らない。無料の法律相談（30分）を利用したことはあるが、経緯を弁護士に話すだけで時間がかかってしまい、返答がもらえなかった事がある。なので、無料法律相談時間を過ぎたら有料でもかまわない。相談窓口を増やす。

人権問題は大切です。しかし地域活動にまったく関心が無く、美化作業にほとんど出ない人がいます。確かに一家で一人が出ればよいのですが、何かしらできる仕事もあるはず。人権教育とは、感心のある人が参加すればよい事なのではないでしょうか。問題からずれているかも知れませんが。

人権問題はわからないけど、一人ひとり自信を持って頑張って生きていかないといけないと思います。自分に自信を持つことです。よろしく。

国の施策に準じてで。

自分自身が立場にないためわかりづらい。設問にも答えづらい

恵那市の人権問題がよくわからずすみません。勉強不足も甚だしく、申し訳ありません。

人権問題等はまず教育からと考えます。学校教育で障害者も一緒に教育する事で、小さい時から教室に障害者がいるのが当たり前になり、子ども達も思いやりのある心が育つように思う。大人になってから障害者の存在が急に現れるのではなく、社会にそういう人達がいるのが当たり前で、それぞれが個性として多様性を認め合う事が大切だと思います。

人権問題についていろいろあり過ぎてそれに対応すると大変だと思いますが、やはり小さい時こども園や小学校の頃から少しずつ教えてあげることがよいのかと。もちろん家庭での教育も大事だと思います。人権問題を理解するのは難しいですが、それが大切だと思います。

どんな差別があるか知らせることも大切だと思う。どんなことが差別にあたるか、広報などで知らせるとよいと思う。

広報恵那でコロナ感染予防と「誹謗中傷をしないまち」として言い続けること。

余程のことがない限り人間の意識改革は難しいので、当面は今までの施策でやっていくしかないと思う。

昔は遠い親戚より近くの他人とっていたけど、今は自分主義になってしまい、残念です。

恵那市が特に進んでいるとも他市より遅れているとも思わないが、スーパーなどでよく見かけるようになった外国人について。他文化圏の人々と共に住みよい社会をつくる先手を打ってやらないと、大きなトラブルを生むことにならないか心配。

## ■70歳以上

たくさんあった質問の中に、女性の人権はあったけど男性の人権の文言が一つも無かったことの不思議。同和やアイヌの団体が、今や補助金獲得の利権団体になっていることの根本的な解決が必要でしょう。

この世に生を受けた人間がその人生を終えるまで、強制的道徳志向であってはならない。また、生命が自然に終わらなければ人権とは言えない。統治国家であることが前提である。込み入った社会となった今、人権教育はかなり難しいのでは。ストレス社会であるので、重要な事と思える。

## 自由意見

講演会が少ないような気がします。知らないだけかもしれませんが、ケーブルTVの利用でいろんな話を聞き、現状を知る事が大切だと思います。とにかく皆の耳に入れる事です。

戦時中に育った人が「あの朝鮮人」という言い方をする社会の空気をそのまま体内にしみ込ませている。その中で、韓流ブームなどでだいぶ意識的には変わってきていると思う。しかし、された方の韓国人からしてみれば身にしみて憎む心が宿っていると思われる。世界にはもっと想像もできない程の人権侵害があり、私達はその全部を知ることはできないが、身近なところから見直していきたいと思う。どこかに自分の中にも偏見の心があるとわかっている…。

長い間生きてきた中で、自分には関係ないと見過ごしてきた事がいかに多かったかと今更ながら思います。例えば同和問題。耳にしたことはあっても身近にある事ではないので、どのような差別を受けているのか、今現在でもそうなの？と知らないことばかりで、アンケートにはわからないに丸を付けた自分が恥ずかしい。人類みな平等とはいえ、目に見えないところでの偏見は多くあり、そんな言葉を聞いても、その人の考え方だからと頷いてしまう自分がいます。そして個人情報だからと包み隠す時代、皆が無関心になったら恐ろしいです。姿、名前、声のない過度の誹謗中傷は、人の心を傷つけるだけ。便利なスマホも凶器となる、こんな時代だからこそ、人とのつながり、会話がとても大事だと思います。人権に関する問題が起きた時は公表し、考える機会をつくってほしい。ことが起きてからではなく、起きる前に。

家庭、幼小中高、早い時期からの人権教育の推進・充実。検証を計画的に取り組む。

「人権のまち恵那市」として全国に知られるよう前面に出して行く。

人権・福祉は日本国憲法の各条項を生かすことによって、かなりの部分が進むと思います。公務員（議員）は憲法を守る義務があるのに、憲法に基づいた施策が行われていないことが多い。まずは恵那市の公務員が憲法をしっかり身につけて、憲法を生かした取り組みをすれば様々な答えが出て来ると思います。

市、地域の事実、実情を見つめた施策を一つ一つ実施して行くこと。

何かできることがあれば協力したい。

当岩村地区に3か所くらい開設していただきたい。それで地区が一つになるかも。

「ひきこもり」や「暴力」等は、他人に知られず進んでいる場合が多い。よその事情に立ち入ることは勇気のいることである。その情報をいかに知るか、工夫が必要と思う。

人権施策について市民の意識向上の前には行政(市職員、公職、市議会等)の指導的立場及び行政を行う立場の人達への教育、理解が必要と思います。市議会の中でも質問に対する嫌がらせ等、人権侵害に当たるような妨害が過去にあったと聞いてます。

長い間主人と2人暮らしで、別れてから1人で何とか健康を保って子ども達にやっかいにならないように毎日頑張っています。80歳近くなり、自分の健康を保つのがやっつです。子ども達はそれぞれ家庭を持ち幸せにやっています。よい子ばかりで私は幸せと思い、一日一日を大切に頑張っています。

### ■年齢無回答

アンケートの数が多すぎます。まずは10問くらいから。あとは適当になってしまいます。

障害者になると、田舎では白い目で見られるのが悲しい。

## 自由意見

新しい制度や窓口ができて、なかなか情報が入ってこない。できるかぎりの手段を用いて、情報を発信してほしい。広報に載せたから、ホームページに載せたからでは、なかなか周知できない。いろんな手段で何回も発信してほしい。

私は恵那市の人権施策について具体的にわかりません。

障がいや、目に見える病気、見えない病気、人目が気になってる患者さんはたくさんいると思います。学校教育も数学などは秀でた子にさせ、医学を学んでほしいと思います。医師不足の解消にもつながると思います。形にこだわり過ぎない人間が増えてくれることを願います。薬や診察に消えていくお金を稼ぐために生まれたのでしょうか？平等ってなんですか？病気は自分でなるものですが？

---

---

恵那市地域福祉・人権に関する  
アンケート調査

【調査結果報告書】

発行 : 恵那市  
編集 : 恵那市 市民福祉部 社会福祉課  
住所 : 〒509-7292  
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1  
TEL 0573-26-2111 (代表)  
FAX 0573-25-7294  
発行年月 : 令和4年3月

---

---

